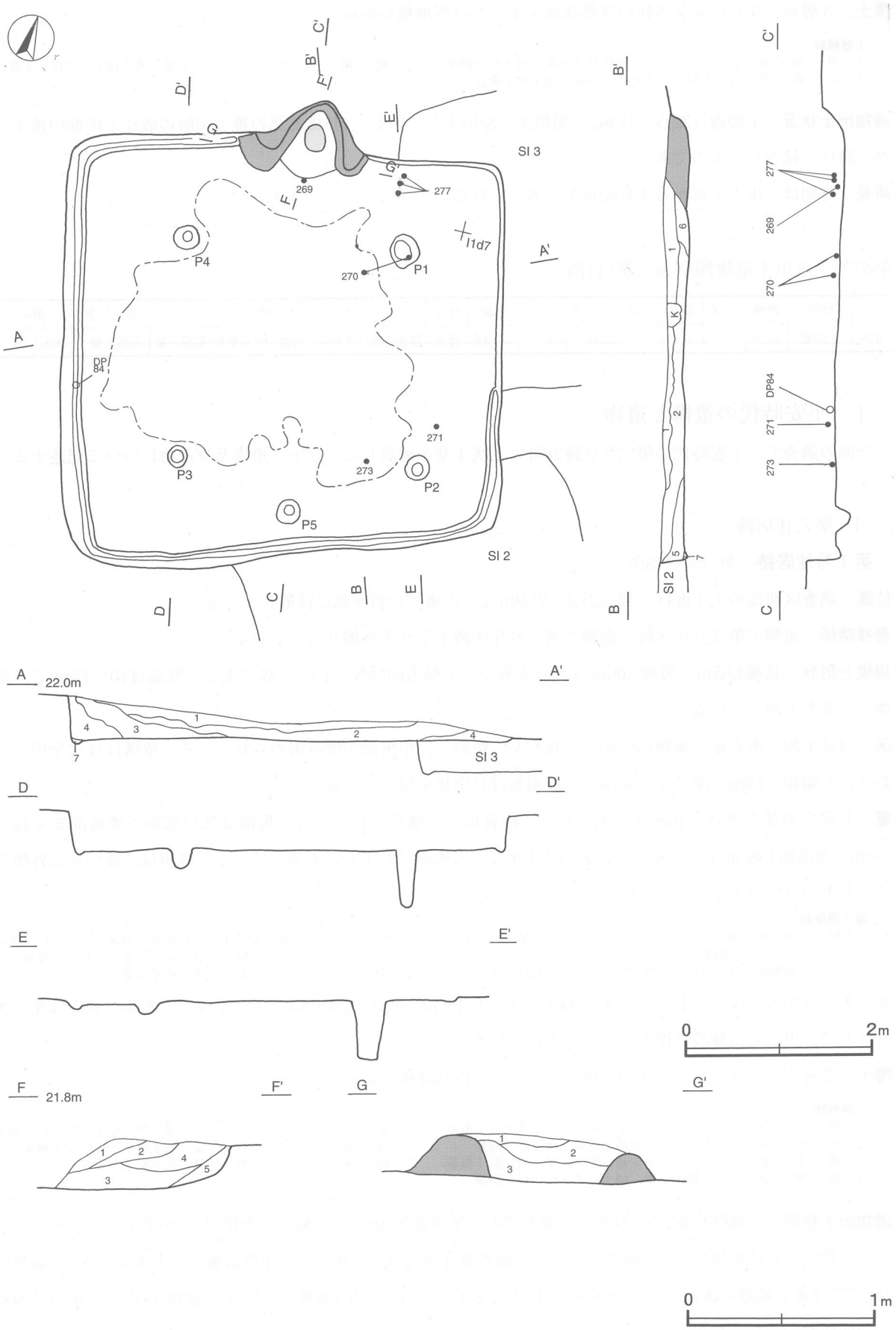
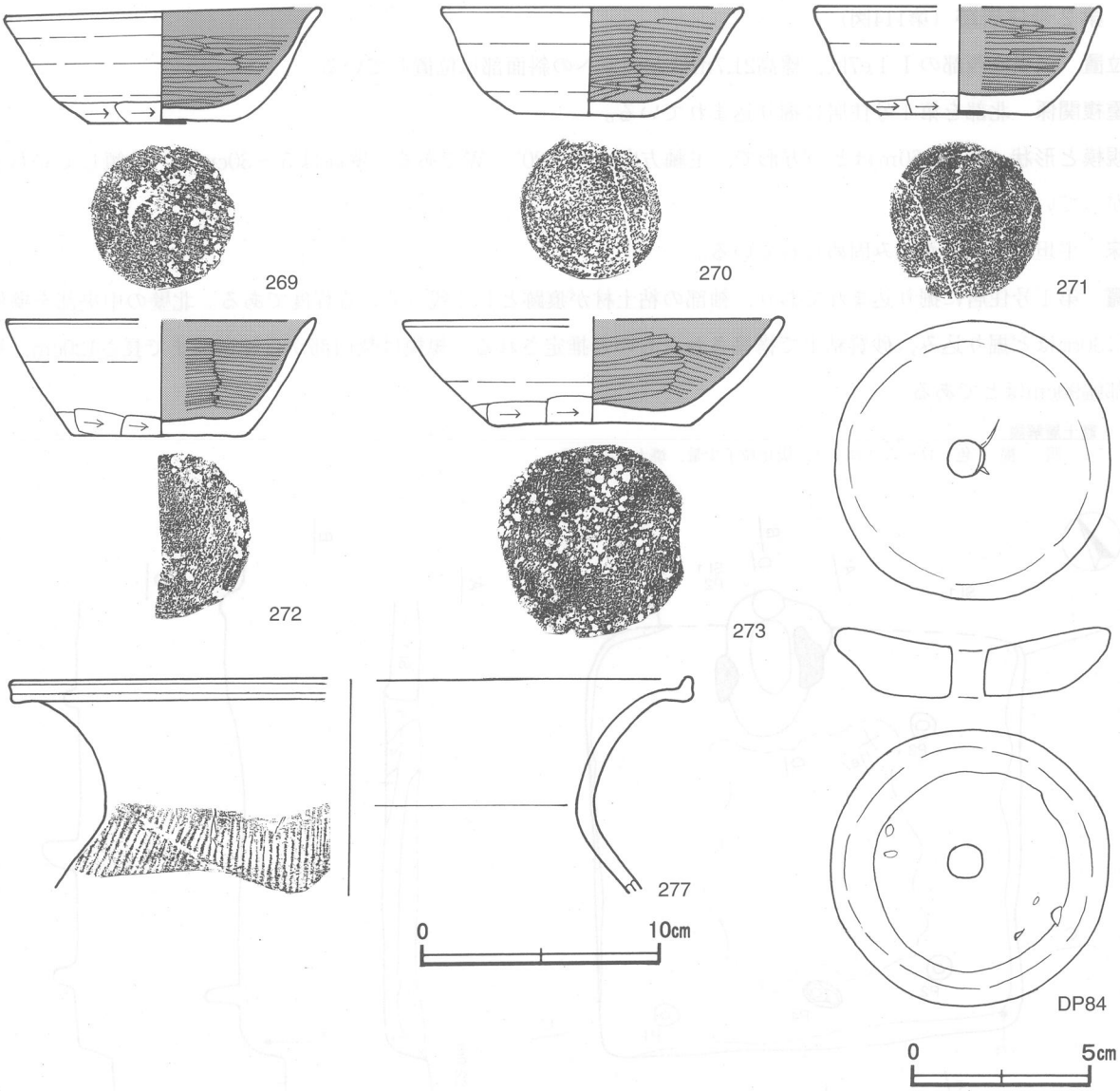


第112図　第１号住居跡実測図



第113図　第１号住居跡出土遺物実測図

第１号住居跡出土遺物観察表（第113図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
269	土師器	坏	13.2	4.8	6.0	長石・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	竈	95%　PL37 内面黒色処理
270	土師器	坏	12.5	4.5	5.9	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	東壁床面	90%　PL37 内面黒色処理
271	土師器	坏	[11.6]	4.5	6.2	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	東壁下層	60% 内面黒色処理
272	土師器	坏	[12.8]	4.8	7.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	覆土中層	45% 内面黒色処理
273	土師器	坏	[15.6]	4.5	8.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部二方向のヘラ削り	中央部下層	50% 内面黒色処理
277	須恵器	甕	[28.2]	(8.9)	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口辺部ロクロナデ，体部外面縦位の平行叩き	竈右袖床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP84	紡錘車	7.7	7.7	1.8	115.1	土製（須恵質）	孔径1.0，外面ヘラ削り，胎土緻密	西壁床面	PL43

第２号住居跡（第114図）

位置　調査区西部のＩ１e7区，標高21.7mほどの東への斜面部に位置している。

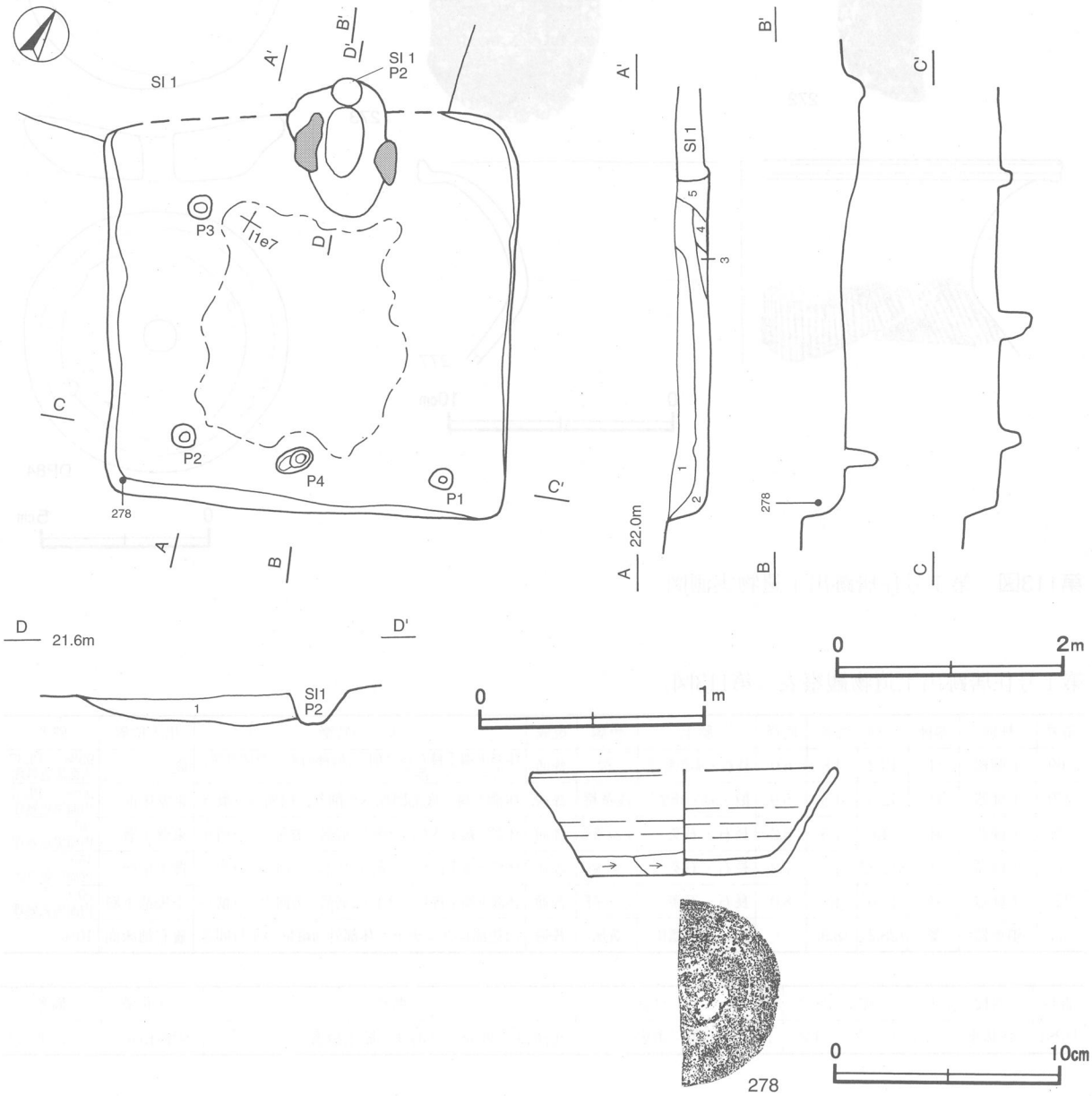
重複関係　北部を第１号住居に掘り込まれている。

規模と形状　軸長3.60mほどの方形で，主軸方向はＮ－20°－Ｗである。壁高は５～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で中央部が踏み固められている。

竈　第１号住居に掘り込まれており，袖部の粘土材が痕跡として残っている程度である。北壁の中央部を壁外に30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されたものと推定される。規模は焚口部から煙道部まで長さ120cm，袖部幅90cmほどである。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量



第114図　第２号住居跡・出土遺物実測図

ピット　4か所。深さはＰ１が15cm，Ｐ２・Ｐ３が21cmほどであり，主柱穴と考えられる。Ｐ３に対応するピットは確認できなかった。また，Ｐ４は深さ34cmで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　灰　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片48点（甕類），須恵器片７点（坏類６，蓋１）が出土している。いずれも細片で図示できたものは南西コーナー付近の覆土下層から出土した278だけである。

所見　第１号住居に掘り込まれていることや出土土器から９世紀前葉には廃絶していたと考えられる。

第２号住居跡出土遺物観察表（第114図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
278	須恵器	坏	[13.4]	4.6	[8.2]	長石・石英	灰オリーブ	良好	体部下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り	南西コーナー下層	50%

第３号住居跡（第115・116図）

位置　調査区西部のＩ１d7区，標高21.2～21.4mほどの東への斜面部に位置している。

重複関係　西部を第１号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.30m，短軸3.10mほどの方形で，主軸方向はＮ－20°－Ｗである。壁高は15～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝はほぼ全周しており，上幅10～15cm，深さ３～５cmで，断面形はＵ字状を呈している。

竈　北壁中央部やや東寄りを壁外に30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は焚口部から煙道部まで長さ110cm，袖部幅114cmほどである。焚口の掘り込みは検出できなかった。袖部は，床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変硬化している。煙道は，緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗　赤　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　暗　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
5　灰　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　暗　赤　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

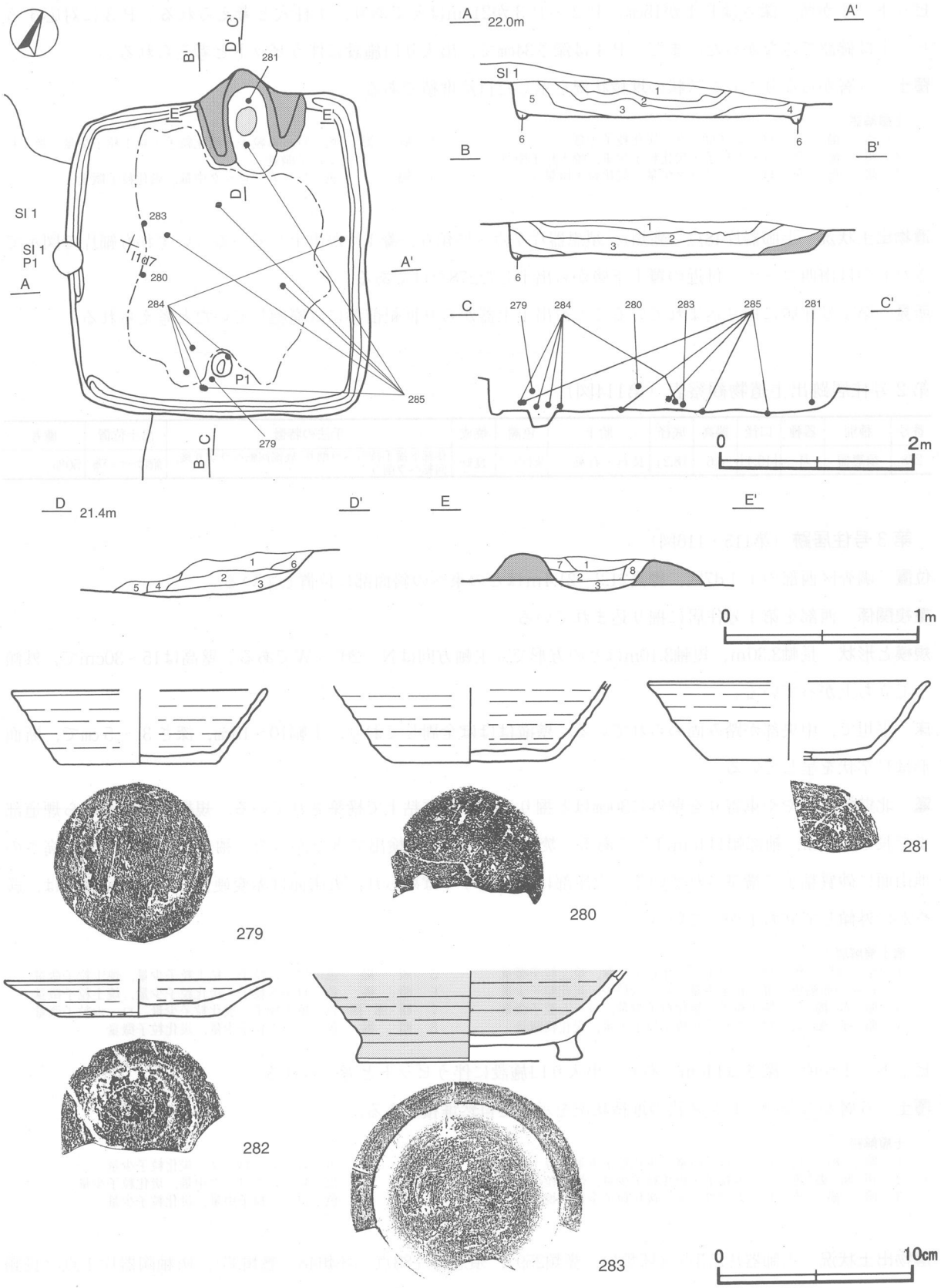
ピット　1か所。深さは14cmであり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　6層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

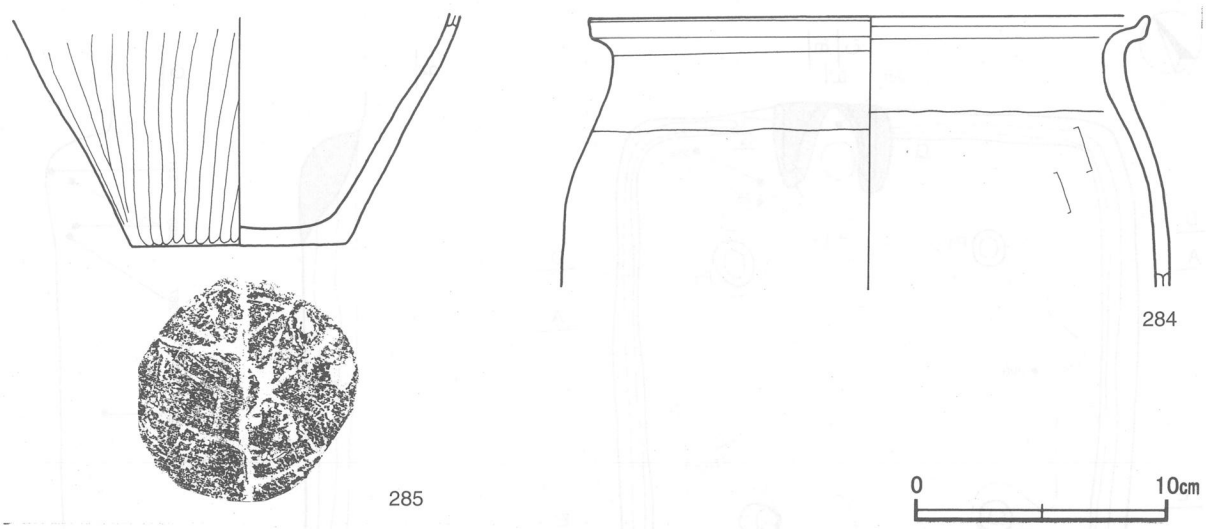
土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　極　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片273点（坏類14，甕類259），須恵器片83点（坏類48，甕類35），灰釉陶器片１点（長頸瓶）が出土している。281は竈覆土下層，283は中央部の覆土下層，279は中央部南壁寄りの覆土中層，280は中央部西壁寄りの覆土中層，282は覆土中層からそれぞれ出土している。284・285は中央部の床面から下層にかけて散在して出土しており，本跡廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。



第115図　第３号住居跡・出土遺物実測図



第116図　第３号住居跡出土遺物実測図

第３号住居跡出土遺物観察表（第115・116図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
279	須恵器	坏	[13.1]	3.8	8.1	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	南壁中層	60%
280	須恵器	坏	－	(4.1)	8.0	長石・石英・雲母	灰	普通	底部一方向のヘラ削り	西壁中層	50%
281	須恵器	坏	[14.4]	4.0	[8.2]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り	竈	30%
282	須恵器	皿	[13.6]	1.9	8.2	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	50%
283	灰釉陶器	長頸瓶	－	(4.5)	11.4	緻密	灰オリーブ	良好	ロクロ整形,底部回転ヘラ切り後,高台貼り付け	中央部下層	60%　PL37
284	土師器	甕	21.9	(10.8)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部横ナデ	中央部下層	20%
285	土師器	甕	－	(9.0)	8.6	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面下位ヘラ磨き，底部木葉痕	中央部床面	30%

第４号住居跡（第117・118図）

位置　調査区西部のＩ１c6区，標高21.0～21.8mほどの東への斜面部に位置している。

規模と形状　長軸4.40m，短軸4.10mほどの方形で，主軸方向はＮ－25°－Ｗである。壁高は20～57cmで，外傾して立ち上がっている。

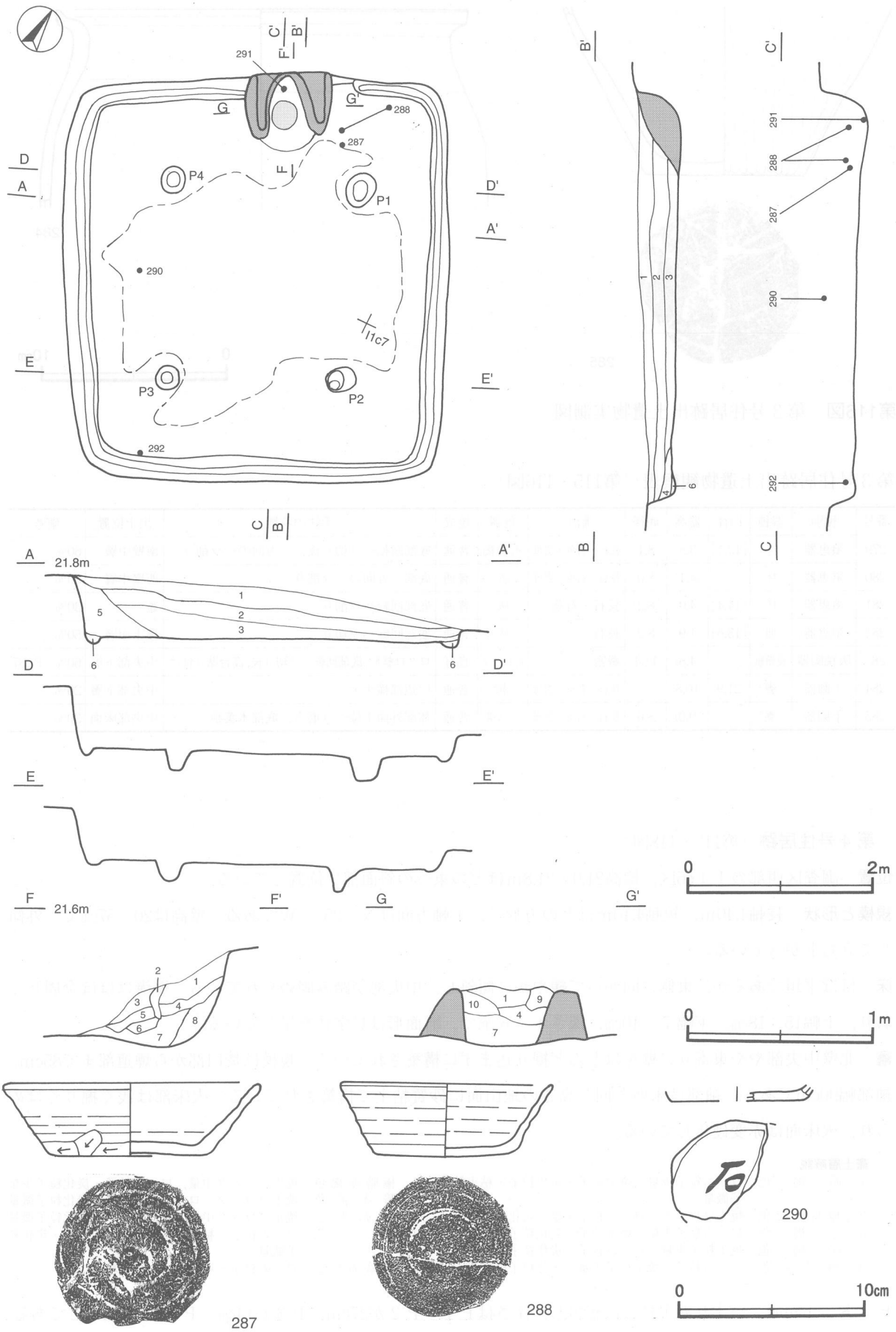
床　ほぼ平坦であるが，東側に向かって緩やかに傾斜し，中央部が踏み固められている。壁溝はほぼ全周しており，上幅15～18cm，下幅７～10cm，深さ４～６cmで，断面形はＵ字状を呈している。

竈　北壁中央部やや東寄りに壁をほとんど掘り込まずに構築されている。規模は焚口部から煙道部まで85cm，袖部幅90cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変硬化している。

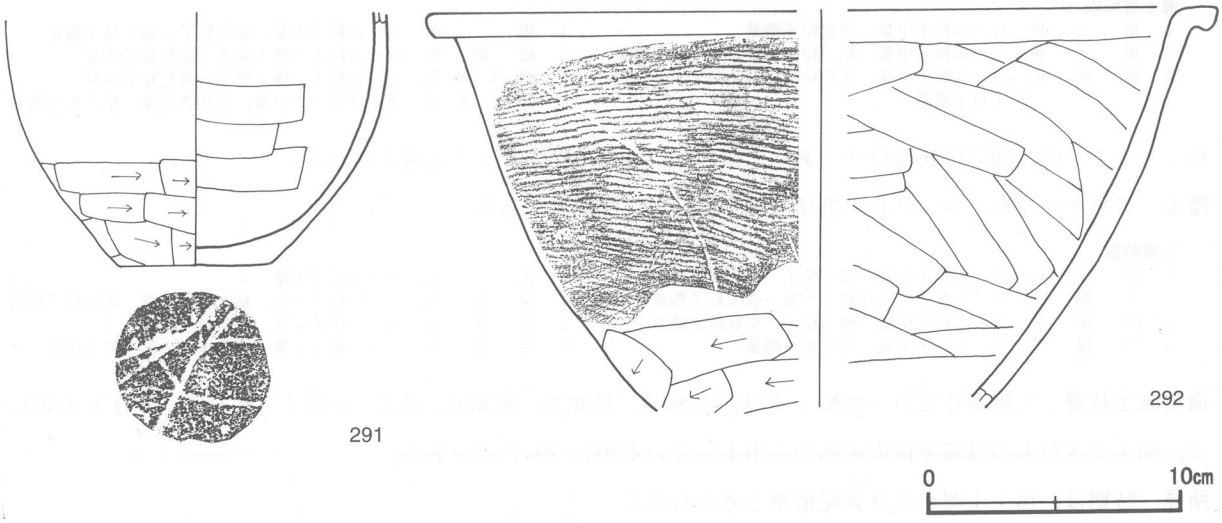
竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　極暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　４か所。いずれも主柱穴に相当し，深さはＰ１・Ｐ２が27cm，Ｐ３が14cm，Ｐ４が21cmほどである。



第117図　第４号住居跡・出土遺物実測図



第118図　第４号住居跡出土遺物実測図

覆土　６層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片345点（甕類），須恵器片120点（坏類84，甕類34，蓋２）が出土している。291は竈覆土下層，287・288は竈右側の覆土下層，292は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。290は中央部の覆土上層から出土しており，混入である。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。

第４号住居跡出土遺物観察表（第117・118図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
287	須恵器	坏	13.6	3.8	8.3	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部ヘラ切り後，多方向のヘラ削り	竈右側下層	80%
288	須恵器	坏	11.4	3.9	7.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り	竈右側下層	70%
290	須恵器	坏	－	(0.8)	[7.2]	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	西壁上層	10% 墨書「石」ヵ
291	土師器	甕	－	(9.9)	5.9	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ，底部木葉痕	竈	60%
292	須恵器	鉢	[31.5]	(15.9)	－	長石・石英	灰	普通	口辺部ロクロナデ，体部外面横位の平行叩き，内面ヘラナデ	南壁下層	50%

第６号住居跡（第119図）

位置　調査区西部のＨ１i5区，標高20.2～20.8mほどの北東への斜面部に位置している。

規模と形状　長軸3.00m，短軸2.85mほどの方形で，主軸方向はＮ－135°－Ｗである。壁高は25～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部は踏み固められている。

竈　南西壁中央部やや南寄りを壁外に30cmほど掘り込んで付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cmであるが，袖部は遺存していない。焚口の掘り込みは明確でないが，火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，火床面は被熱により赤変硬化している。煙道は，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	褐	色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
2	褐	色	ローム粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
3	暗褐	色	ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
4	褐	色	ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
5	暗褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6	暗赤褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7	暗赤褐	色	焼土ブロック中量，炭化物少量，粘土粒子微量

ピット　1か所。深さは16cmほどであり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

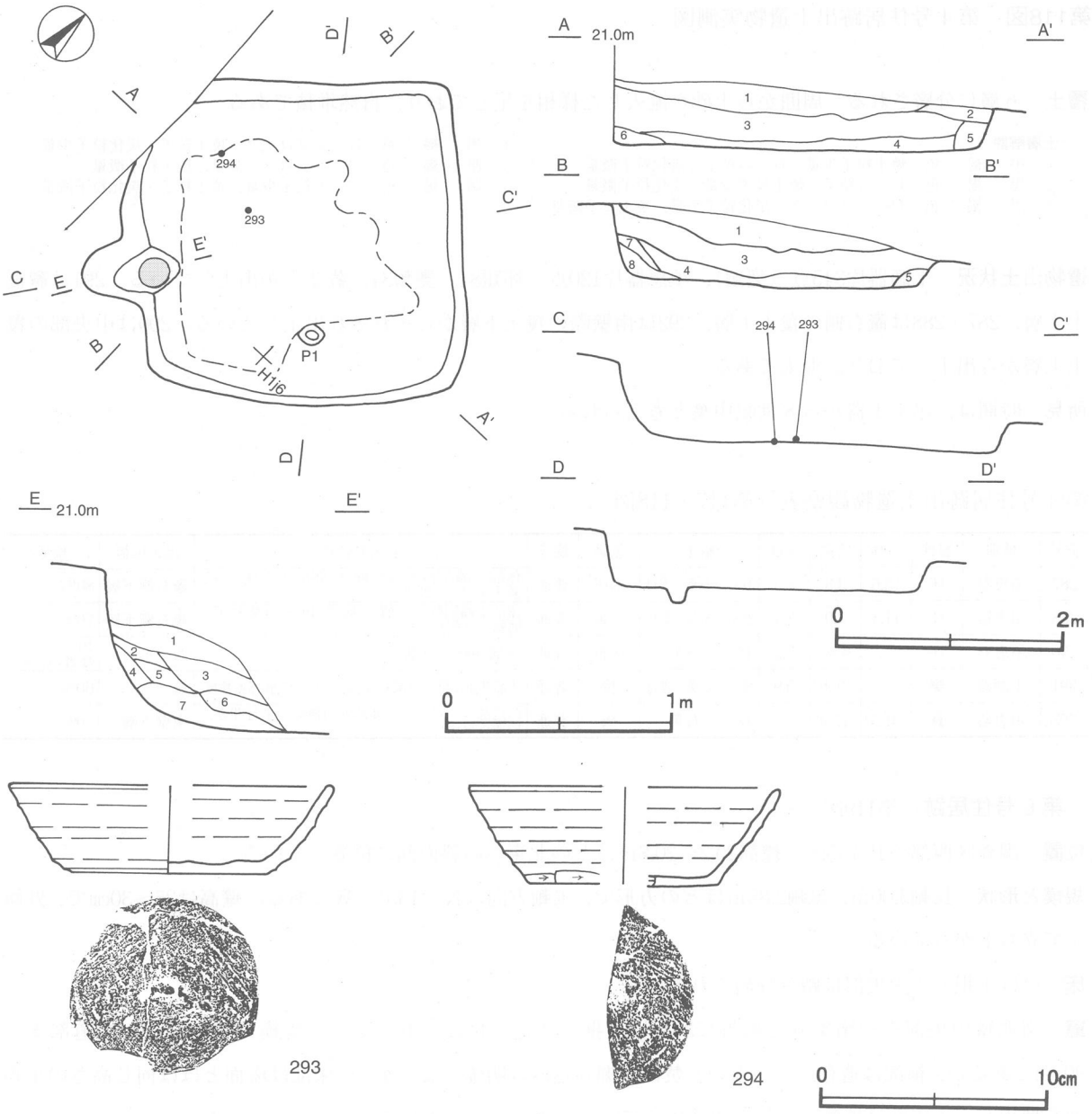
覆土　8層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	暗褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐	色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3	暗褐	色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐	色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
5	褐	色	ローム粒子中量
6	暗褐	色	ローム粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
7	暗褐	色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
8	暗褐	色	ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片12点（甕類），須恵器片80点（坏類28，甕類51，蓋1）が出土している。いずれも細片で，図示できたものは竈手前の床面から出土している293・294だけである。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第119図　第6号住居跡・出土遺物実測図

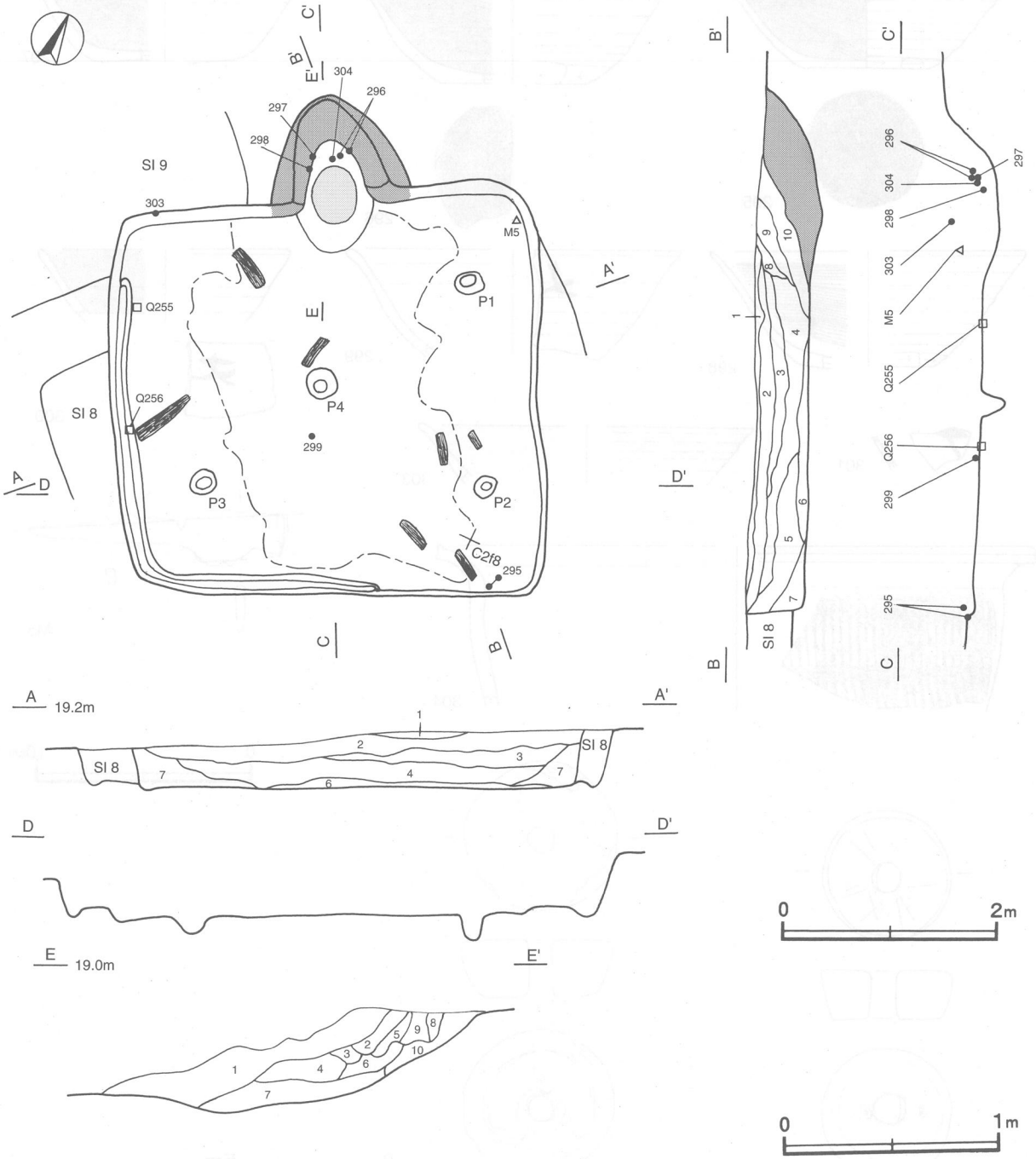
第６号住居跡出土遺物観察表（第119図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
293	須恵器	坏	[14.2]	3.9	8.2	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後，二方向のヘラ削り	中央部床面	60%
294	須恵器	坏	[13.6]	4.2	[8.1]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	中央部床面	20%

第７号住居跡（第120・121図）

位置　調査区北西部のＧ２e7区，標高19.0mほどの台地北端部に位置している。

重複関係　北側で第９号住居跡，南側で第８号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる。

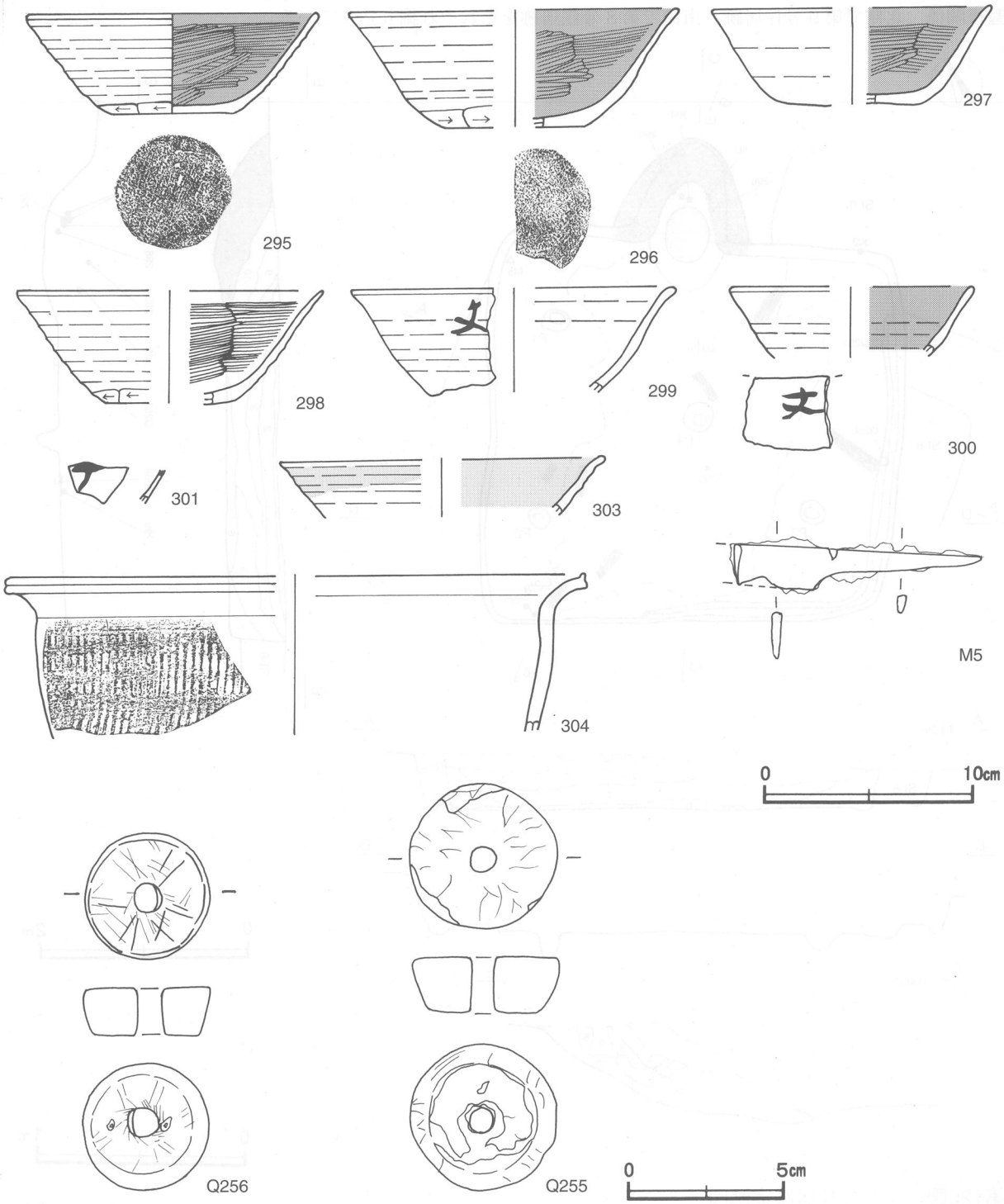


第120図　第７号住居跡実測図

規模と形状　長軸4.00m，短軸3.85mほどの方形で，主軸方向はN－30°－Wである。壁高は35～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は西壁及び南壁で確認され，上幅10～8㎝，深さ4～6㎝で，断面形はU字状を呈している。また，床面から炭化材が出土しており，焼失住居である。

竈　北壁中央部を壁外に90㎝ほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで長さ147cmで袖部は遺存していない。火床部は，浅い皿状に掘りくぼめており，火床面はわずかに赤変している。煙道は，緩やかに外傾して立ち上がっている。



第121図　第7号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，ローム粒子微量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
5　赤　褐　色　焼土粒子多量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量
7　極 暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
9　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
10　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

ピット　4か所。深さはＰ１・Ｐ３が15cm，Ｐ２が23cmであり，主柱穴と考えられる。Ｐ４は深さ24cmであるが，性格は不明である。

覆土　10層からなり，下層にロームブロックや炭化物を多く含む，人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子微量
4　極 暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
5　極 暗 褐 色　焼土ブロック・炭化物中量，ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
7　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片710点（坏類168，甕類542），須恵器片99点（坏類72，甕類27），灰釉陶器片１点（高台付椀）が出土している。底部片から推定される個体数は，土師器坏10点，土師器甕12点，須恵器坏９点，須恵器甕２点である。296～298･304は竈覆土中層，295は南壁際の床面，299は中央部の床面から出土している。303は北壁際の覆土上層から出土しており混入である。また，Q255・Q256は西壁際の床面，Ｍ５は北東コーナー際の覆土中層から出土している。

所見　本跡は，床面から炭化物が多く出土していることから焼失住居であり，時期は，出土土器から９世紀後葉と考えられる。

第７号住居跡出土遺物観察表（第121図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
295	土師器	坏	14.0	4.8	5.6	長石･石英･赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	南壁床面	90%　PL37 内面黒色処理
296	土師器	坏	[15.8]	5.6	[6.6]	長石･石英･赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	竈	30% 内面黒色処理
297	土師器	坏	[13.2]	4.6	[6.1]	長石･石英･赤色粒子	橙	普通	体部外面・底部摩耗調整不明	竈	30% 内面黒色処理
298	土師器	坏	[14.7]	5.4	[5.8]	長石・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	竈	30%
299	土師器	坏	[14.4]	(5.1)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロ整形	中央部床面	20% 墨書「丈」カ
300	土師器	坏	[11.4]	(3.4)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロ整形，体部内面ヘラ磨き	覆土上層	10%墨書「丈」カ 内面黒色処理
301	土師器	坏	－	(1.6)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロ整形	覆土上層	５% 墨書「丈」カ
303	灰釉陶器	高台付椀	[14.4]	(2.8)	－	緻密	灰白	良好	ロクロ整形，施釉	北壁上層	10%
304	須恵器	甕	[27.4]	(7.7)	－	長石・石英	橙	普通	口辺部ロクロナデ，体部外面縦位の平行叩き	竈	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q255	紡錘車	4.6	4.7	1.8	55.7	粘板岩	孔径0.8，無紋，円錐台形	西壁床面	PL43
Q256	紡錘車	4.1	4.0	1.5	44.3	蛇紋岩	孔径1.0，側面・下面に擦痕，円錐台形	西壁床面	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｍ５	刀子	(11.8)	2.0	0.5	(21.9)	鉄	刃先部欠損	北東コーナー中層	PL46

第８号住居跡（第122図）

位置　調査区北西部のＧ２f7区，標高19.0mほどの台地北端部に位置している。

重複関係　北側の大部分を第７号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.80m，短軸4.60mほどの方形で，主軸方向はＮ－45°－Ｗである。壁高は30～50cmで，外傾して立ち上がっている。

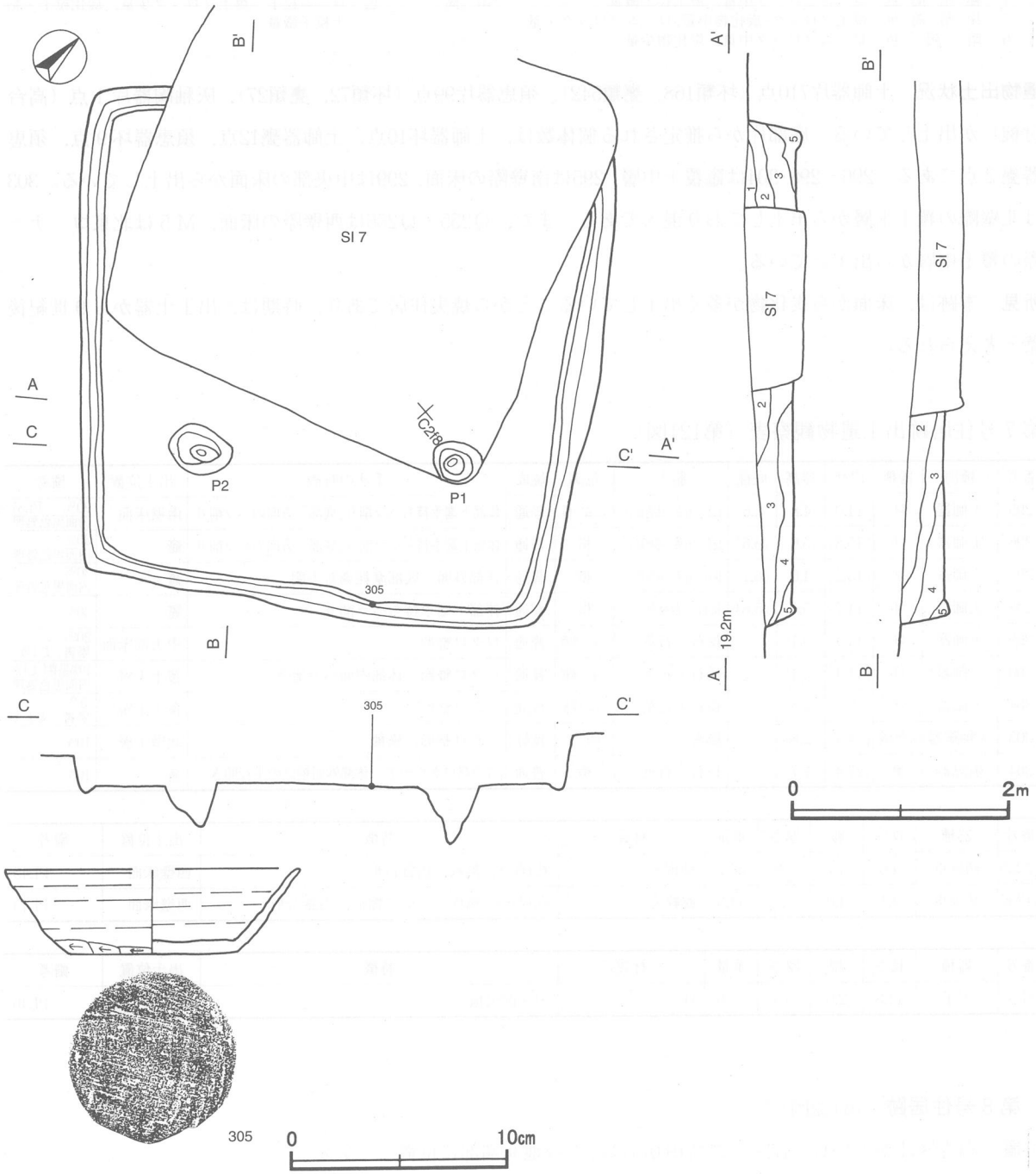
床　ほぼ平坦である。ややしまりはあるものの硬化した部分は見られない。壁下に壁溝が検出され，上幅12～20cm，深さ５～８cmで，断面形はＵ字状を呈している。

ピット　２か所。深さはＰ１が52cm，Ｐ２が40cmであり，主柱穴と考えられる。

覆土　５層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量



第122図　第８号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片128点（坏類13，甕類115），須恵器片11点（坏類８，甕類２，蓋１）が出土している。ほとんどが細片で，図示できたものは南壁際の床面から出土した305だけである。

所見　第７号住居に掘り込まれていることと出土土器から，８世紀後葉と考えられる。

第８号住居跡出土遺物観察表（第122図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
305	須恵器	坏	[12.6]	3.9	7.8	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	南壁床面	70%

第９号住居跡（第123図）

位置　調査区北西部のＧ２e6区，標高21.8mほどの台地北端部に位置している。

重複関係　南側の一部を第７号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.70m，短軸3.30mほどの長方形で，主軸方向はＮ－45°－Ｅである。壁高は50cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝はほぼ全周しており，上幅10～15cm，深さ４cmで，断面形はＵ字状を呈している。

竈　２か所。竈１は北東壁中央部を壁外に40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は焚口部から煙道部まで長さ108cm，袖部幅90cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変硬化している。煙道は，外傾して立ち上がっている。竈２は北西壁中央部を壁外に40cmほど掘り込んで構築されている。天井部と袖部は認められない。第１～４層はしまりのある土層で，第５層は火床面と考えられる。竈１が完存し，竈２は煙道部しか残存していないことから，竈２から竈１へ作り替えたと考えられる。

竈１土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物少量
7　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量
9　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

竈２土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子微量

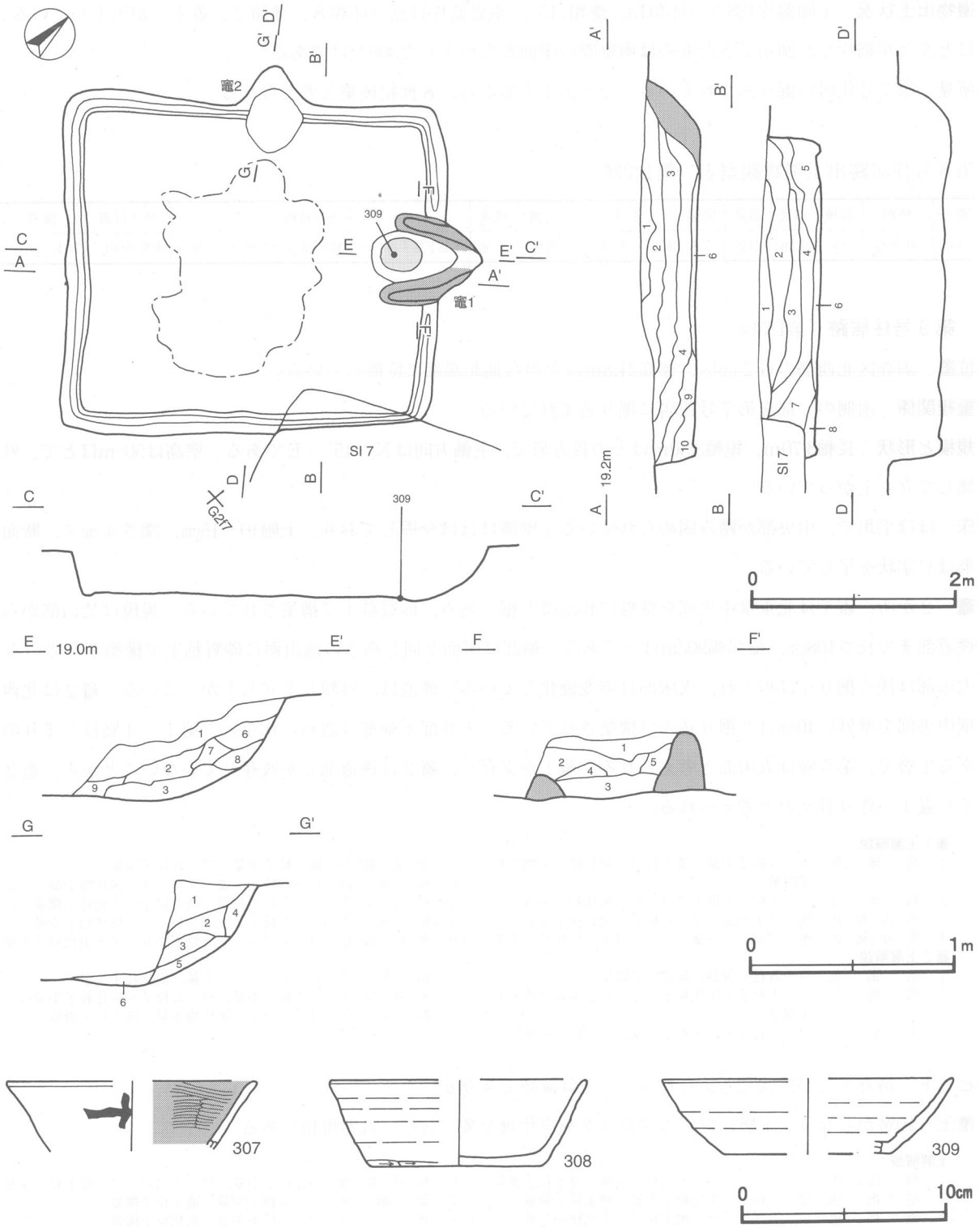
ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

覆土　10層からなり，下層にロームブロックや炭化物を多く含む，人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
5　褐　　色　ロームブロック・炭化物少量
6　極暗褐色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
10　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片191点（坏類18，甕類173），須恵器片46点（坏類41，甕類５）が出土している。309は竈火床部，307は覆土下層からそれぞれ出土している。また，308は覆土上層から出土しており，混入である。

所見　第７号住居に掘り込まれていることと出土土器から時期は，９世紀前葉と考えられる。



第123図　第９号住居跡・出土遺物実測図

第９号住居跡出土遺物観察表（第123図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
307	土師器	坏	[12.1]	(3.4)	－	長石・石英	橙	普通	ロクロ整形，体部内面ヘラ磨き	覆土下層	10% 墨書［□］内面黒色処理
308	須恵器	坏	[12.4]	4.2	[8.2]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部二方向のヘラ削り	覆土中層	30%
309	須恵器	坏	[14.2]	3.7	[8.1]	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形	竈手前床面	20%

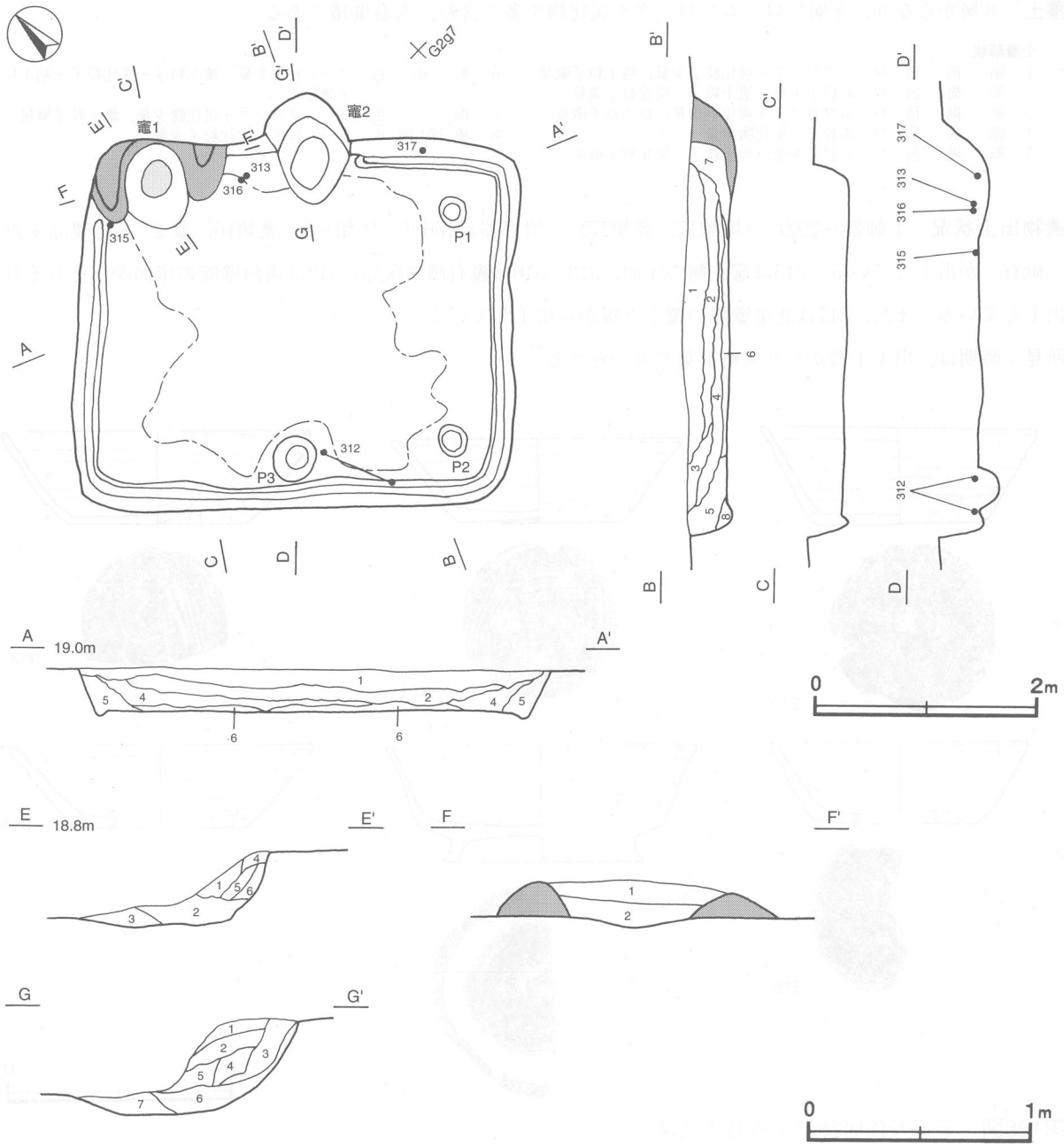
第10号住居跡（第124・125図）

位置　調査区北西部のＧ２g6区，標高18.8mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.90m，短軸3.30mほどの長方形で，主軸方向はＮ－45°－Ｅである。壁高は30～35cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は全周し，上幅12～18cm，深さ４～６cmで，断面形はＵ字状を呈している。

竈　２か所。竈１は北コーナーに位置し，壁をほとんど掘り込まずに構築されている。規模は焚口部から煙道部まで80cm，袖部幅130cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。焚口の掘り込みは明確でないが，火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，火床面は被熱により赤変している。煙道は，外傾して立ち上がっている。竈２は北東壁の中央部を壁外に40cmほど掘り込んで構築されている。天井



第124図　第10号住居跡実測図

部と袖部は認められない。第１～５層はしまりのある土層で，第６層は火床面と考えられる。竈１が完存し，竈２は煙道部しか残存していないことから，竈２から竈１へ作り替えたと考えられる。

竈１土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物少量，粘土粒子微量
3	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
6	暗赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

竈２土層解説

1	にぶい黄褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	極暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
5	極暗褐色	ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子微量
6	極暗赤褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物少量
7	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ10cmほどであるが，対応するピットは確認できず，主柱穴は明確ではない。Ｐ３は深さ20cmほどで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

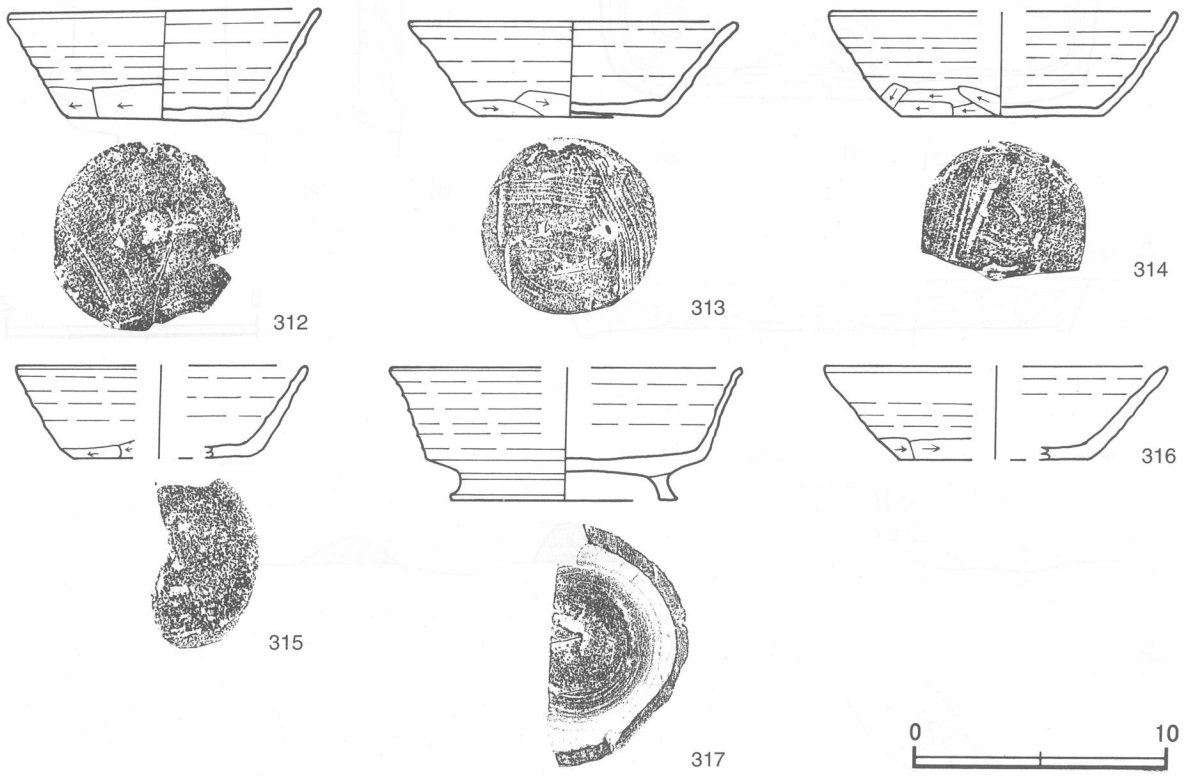
覆土　８層からなり，下層にロームブロックや炭化物を多く含む，人為堆積である。

土層解説

1	暗　褐　色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗　褐　色	ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
4	暗　褐　色	ローム粒子・炭化物少量
5	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7	褐　　色	ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
8	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片292点（坏類17，甕類275），須恵器片166点（坏類148，甕類16，蓋２），石製品１点（砥石）が出土している。315は竈左側の床面，313・316は竈右側の床面，312は南西壁際の床面からそれぞれ出土している。また，317は北東壁際の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。



第125図　第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表（第125図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
312	須恵器	坏	12.2	4.4	7.8	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	南西壁床面	80%
313	須恵器	坏	13.0	3.8	7.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，多方向のヘラ削り	竈右側床面	70%
314	須恵器	坏	[13.6]	4.2	7.8	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部二方向のヘラ削り	覆土中層	30%
315	須恵器	坏	[11.5]	3.7	[7.0]	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	竈左側床面	20%
316	須恵器	坏	[13.6]	3.8	[7.6]	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	竈右側床面	20%
317	須恵器	高台付坏	[13.8]	5.3	[8.8]	長石・石英	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ，底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	北東壁下層	40%

第11号住居跡（第126・127図）

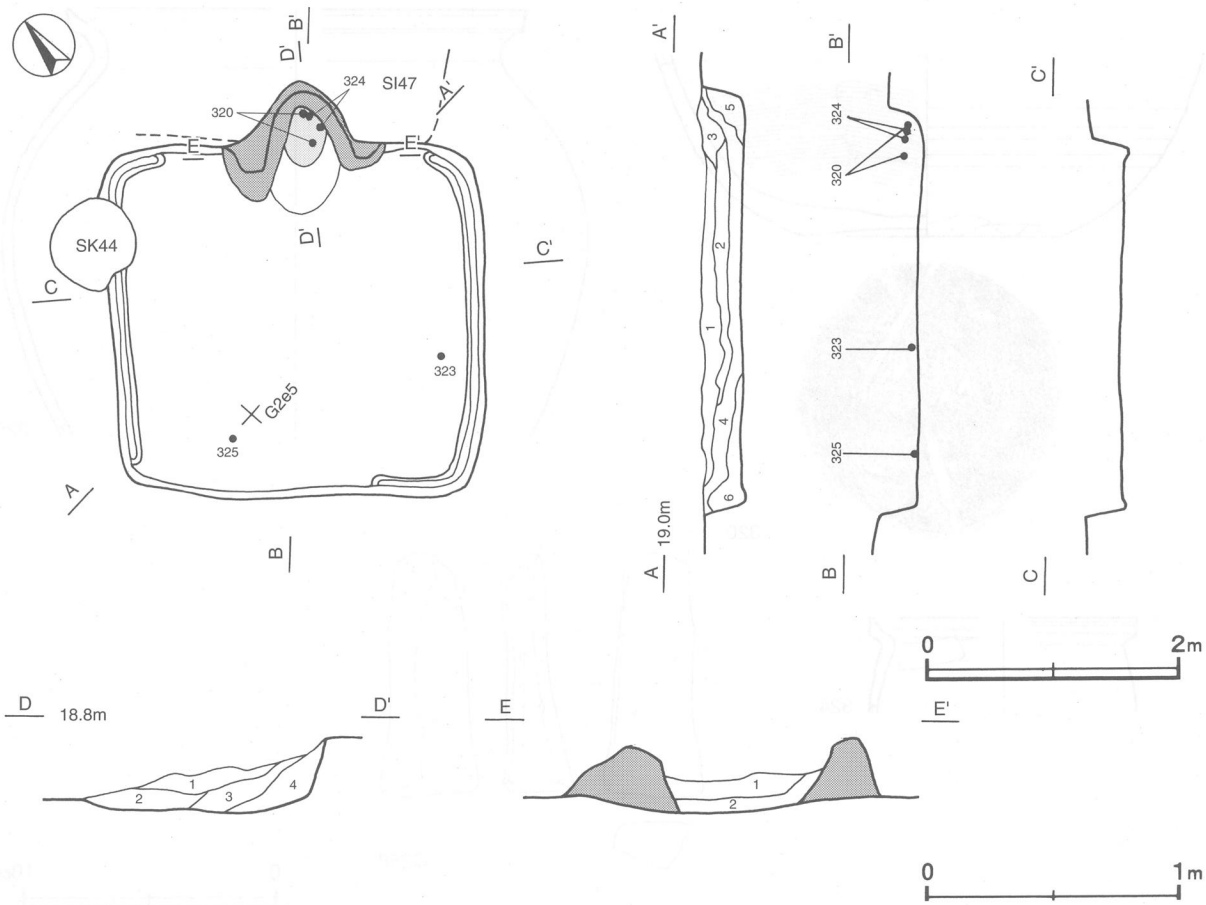
位置　調査区西部のＧ２e5区，標高18.8mほどの台地北端部に位置している。

重複関係　北西壁の一部を第44号土坑に掘り込まれ，第47号住居跡の南西部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.00m，短軸2.85mほどの方形で，主軸方向はＮ－50°－Ｅである。壁高は15～28cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。ややしまりはあるものの硬化した部分は見られない。南東壁及び北西壁に壁溝が確認され，上幅10～14cm，深さ４cmで，断面形はＵ字状を呈している。

竈　北東壁中央部を壁外に50cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は焚口部から煙道部まで長さ105cm，袖部幅129cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変している。煙道は，外傾して立ち上がっている。



第126図　第11号住居跡実測図

竈土層解説

1　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量
4　赤　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

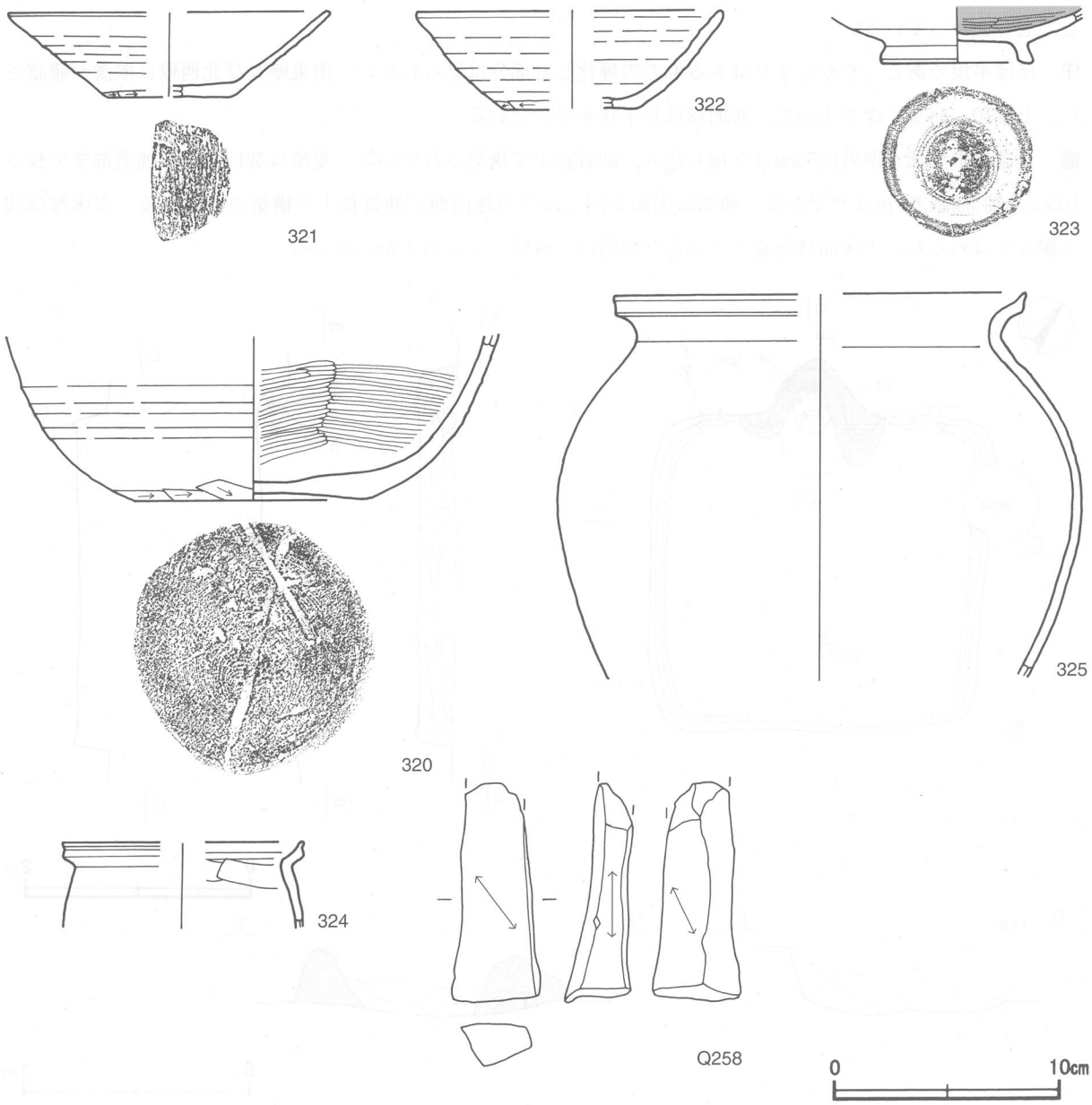
覆土　6層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　極 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片189点（坏類80，甕類109），須恵器片27点（坏類17，甕類10），石製品1点（砥石）が出土している。320・324は竈覆土中層，323は南東壁寄りの床面，325は南西壁寄りの床面からそれぞれ出土している。また，321・322・Q258は覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第127図　第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
320	土師器	坏	－	(7.3)	10.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部回転糸切り後ヘラ削り	竈	60%
321	須恵器	坏	[14.0]	3.8	[5.6]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部一方向のヘラ削り	覆土下層	40%
322	須恵器	坏	[13.4]	4.4	[5.6]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	30%
323	土師器	高台付皿	－	(2.4)	6.8	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	ロクロ整形，体部内面ヘラ磨き，底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	南東壁床面	60% 内面黒色処理
324	土師器	甕	[10.6]	(3.8)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部横ナデ，内面ヘラナデ	竈	10%
325	土師器	甕	[18.0]	(17.0)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面摩耗調整不明	南西壁床面	10%

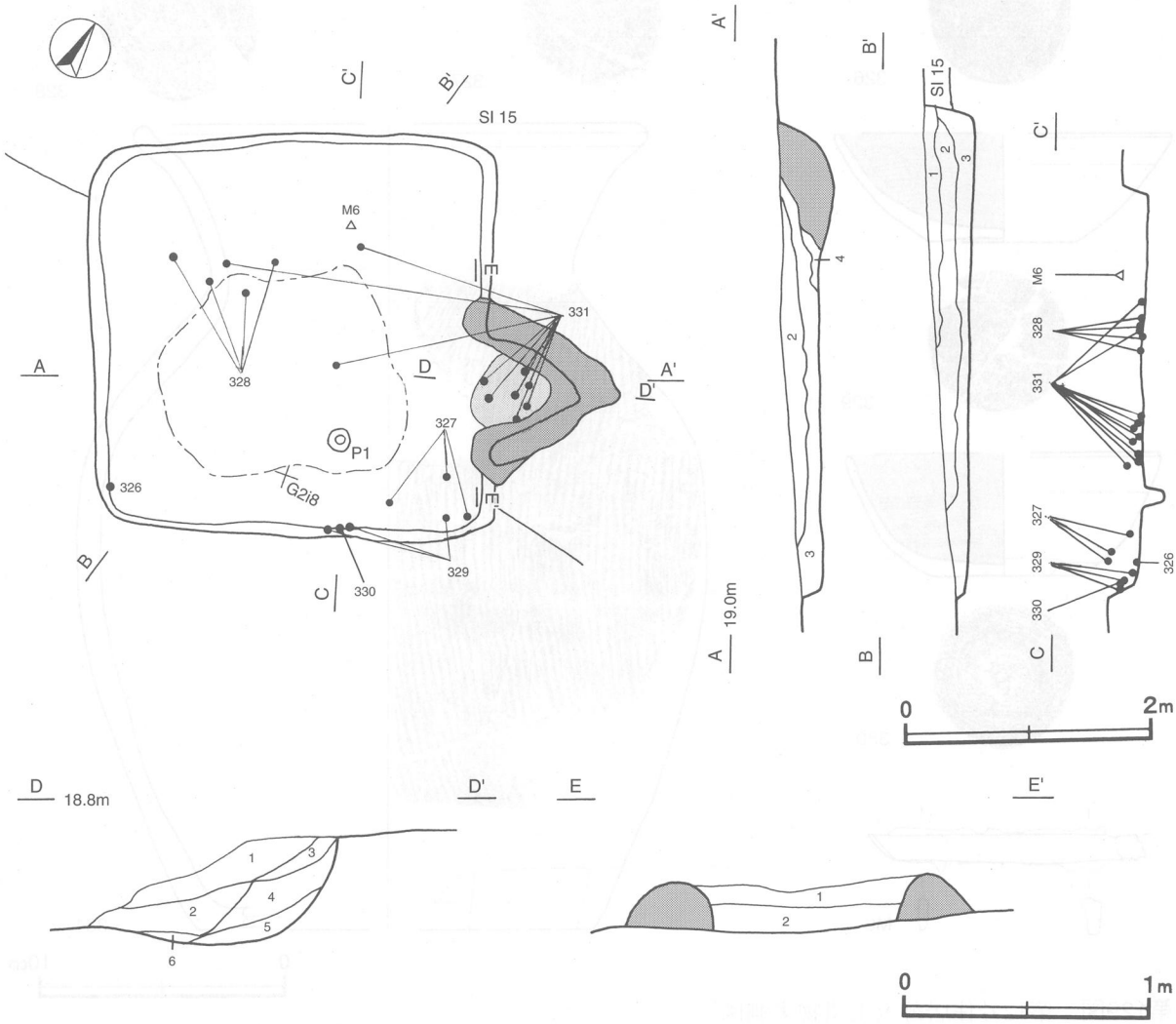
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q258	砥石	(9.6)	3.9	3.0	(78.7)	凝灰岩	断面台形，砥面３面	覆土下層	PL42

第12号住居跡（第128・129図）

位置　調査区西部のＧ２i7区，標高18.5～18.7mほどの西への斜面部に位置している。

重複関係　第15号住居跡の南部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.40m，短軸3.30mほどの方形で，主軸方向はＮ－70°－Ｅである。壁高は15～40cmで，外傾して立ち上がっている。



第128図　第12号住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　東壁中央部やや南寄りを壁外に60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は焚口部から煙道部まで長さ120cm，袖部幅156cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変している。煙道は，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

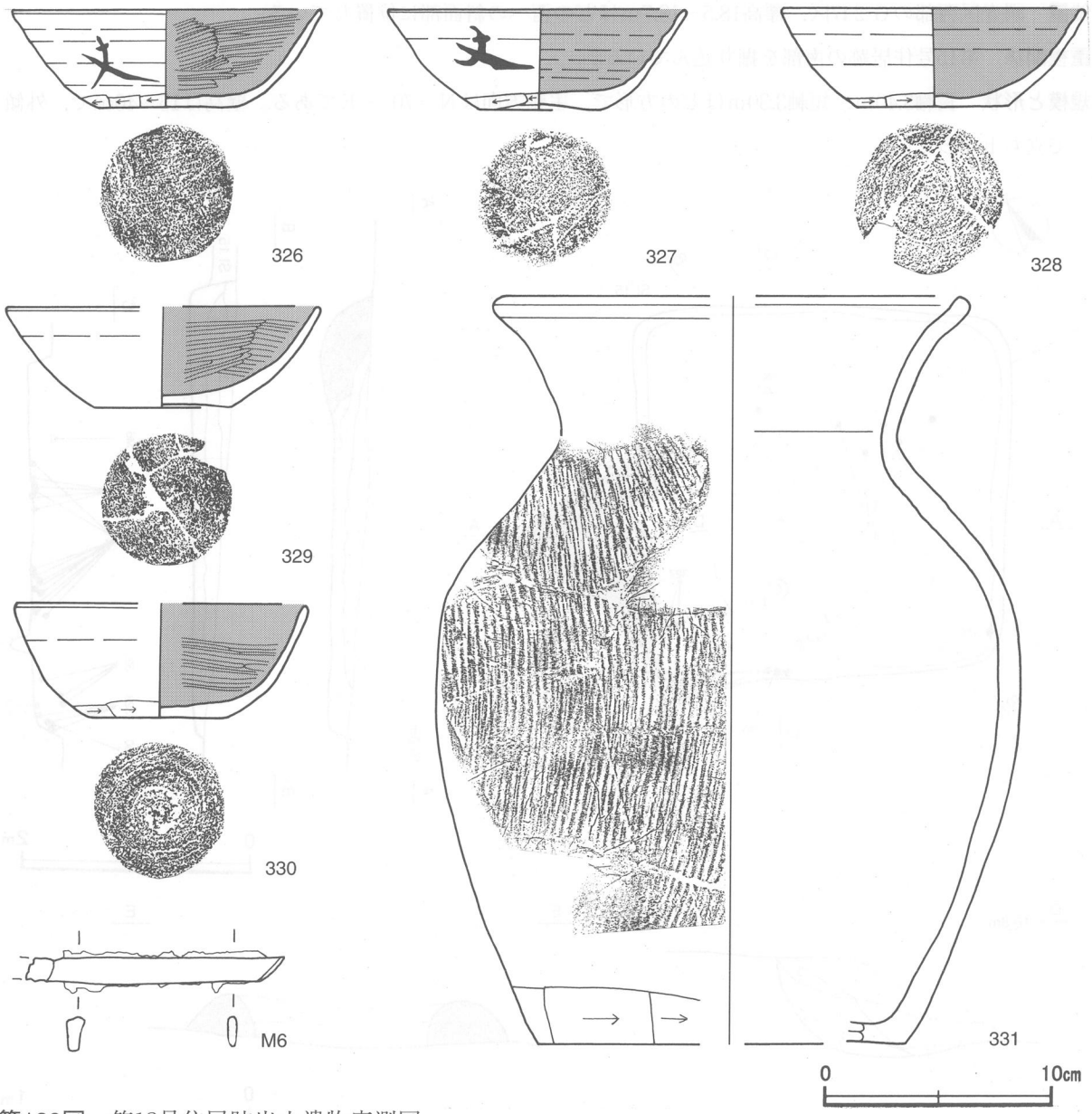
1　黒　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
3　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子少量
5　赤　褐　色　焼土ブロック多量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量

ピット　1か所。深さは20cmほどであるが性格は不明である。

覆土　4層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量



第129図　第12号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片636点（坏類114，甕類522），須恵器片254点（坏類127，甕類126，蓋１），鉄製品１点（刀子）が出土している。底部片から推定される個体数は，土師器坏12点，土師器甕４点，須恵器坏10点，須恵器甕３点である。331は，竈から中央部の床面に散在して出土しており，本跡廃絶時に投棄したものと考えられる。327･329は南東コーナー部から南壁に沿った範囲で覆土下層から床面にかけて出土している。326は南西コーナー部の床面，328は中央部の床面，330は南壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉と考えられる。

第12号住居跡出土遺物観察表（第129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
326	土師器	坏	13.5	4.3	5.7	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り，内面黒色処理	南西コーナー床面	90%　PL38 墨書「丈」
327	土師器	坏	13.0	4.4	5.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り，内面黒色処理	南壁床面	90%　PL38 墨書「丈」
328	土師器	坏	13.0	4.3	6.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，二方向のヘラ削り	中央部床面	70% 内面黒色処理
329	土師器	坏	[13.6]	4.4	5.8	長石・石英	橙	普通	ロクロ整形，内面ヘラ磨き	南壁床面	60% 内面黒色処理
330	土師器	坏	[12.6]	5.0	5.8	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り	南壁床面	50% 内面黒色処理
331	須恵器	甕	[20.0]	33.0	[16.0]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面縦位の平行叩き，下端ヘラ削り	竈	40%　PL39

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M６	刀子	(11.2)	1.2	0.8	(32.4)	鉄	刃先部欠損	中央部上層	PL46

第13号住居跡（第130・131図）

位置　調査区東部のＧ２e4区，標高18.3～18.5mほどの台地北端部に位置している。

規模と形状　長軸4.30m，短軸3.90mほどの長方形で，主軸方向はＮ－60°－Ｗである。壁高は25～38cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。ややしまりはあるものの硬化した部分は見られない。

竈　２か所。竈１は西壁中央部やや南寄りを壁外に40cmほど掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで84cm，袖部はほとんど遺存していない。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変している。煙道は，外傾して立ち上がっている。竈２は竈１の南側に位置し，西壁中央部を壁外に70cmほど掘り込んで構築され，天井部と袖部は認められない。第１層はしまりのある土層で，第２層は火床面と考えられる。竈１が完存し，竈２は煙道部しか残存していないことから，竈２から竈１へ作り替えたと考えられる。

竈１土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量
3　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
5　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
6　極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック少量

竈２土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量

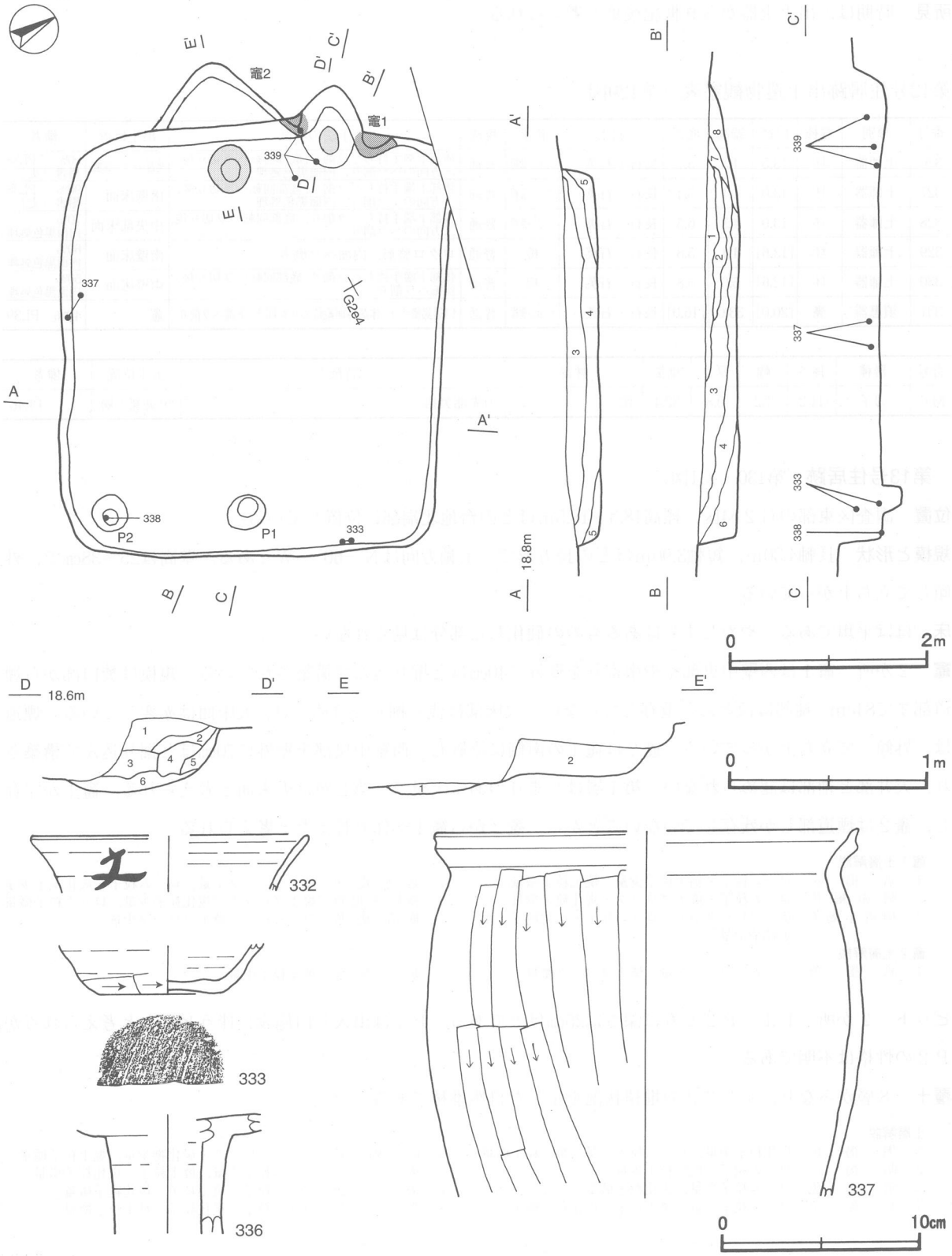
ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２ともに深さは25cmほどである。Ｐ１は出入り口施設に伴うピットと考えられるが，Ｐ２の性格は不明である。

覆土　８層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

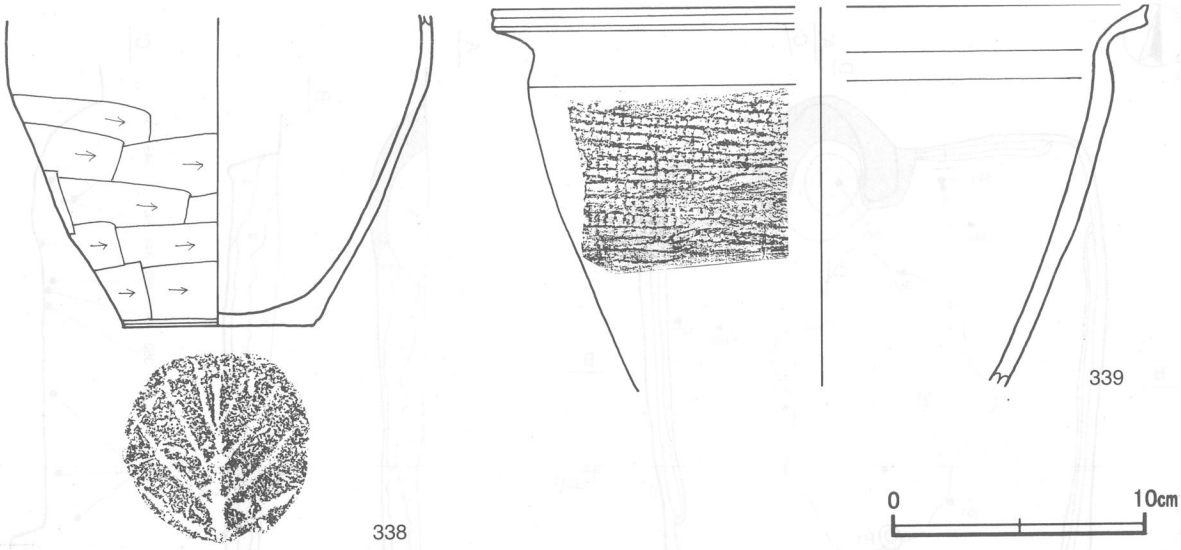
土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
6　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片567点（坏類30，甕類537），須恵器片52点（坏類33，甕類19）が出土している。底部片から推定される個体数は，土師器坏２点，土師器甕５点，須恵器坏８点，須恵器甕８点である。339は竈覆土中層及び竈手前の床面から出土している。337は南西壁際の床面，338はＰ２覆土上層，333は南東壁際の覆土中層，332は覆土下層からそれぞれ出土している。また，336は覆土上層から出土しており，混入である。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。



第130図　第13号住居跡・出土遺物実測図



第131図　第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表（第130・131図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
332	土師器	坏	[13.8]	(3.9)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロ整形	覆土下層	10% 墨書「丈」カ
333	須恵器	坏	－	(2.5)	[6.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	南東壁中層	40%
336	須恵器	高盤	－	(6.0)	－	長石・石英	灰	普通	脚部内・外面ロクロナデ	覆土上層	10%
337	土師器	甕	[21.2]	(18.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り	南西壁床面	20%
338	土師器	甕	－	(12.3)	7.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下位ヘラ削り，底部木葉痕	P2覆土上層	20%
339	須恵器	甕	[26.0]	(15.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面格子目の叩き	竈	20%

第14号住居跡（第132・133図）

位置　調査区西部のＧ２i0区，標高19.1～19.4ｍほどの南西への斜面部に位置している。

規模と形状　長軸3.70ｍ，短軸3.60ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－10°－Ｅである。壁高は25～45cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。東壁と西壁の一部に壁溝が確認でき，上幅12～16cm，深さ５cmで，断面形はＵ字状を呈している。

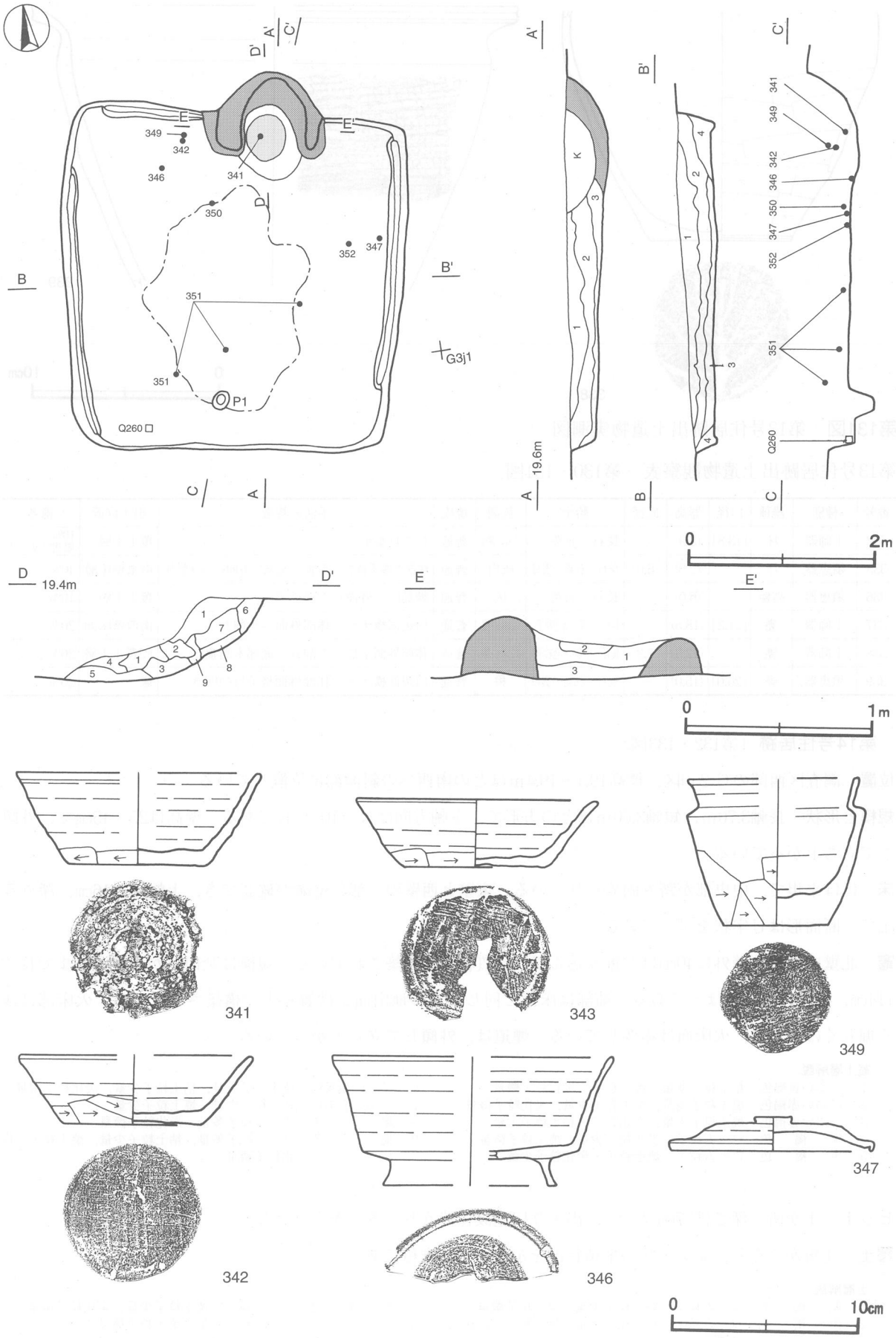
竈　北壁中央部を壁外に40cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は焚口部から煙道部まで長さ114cm，袖部幅135cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変している。煙道は，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
7　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
8　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子多量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

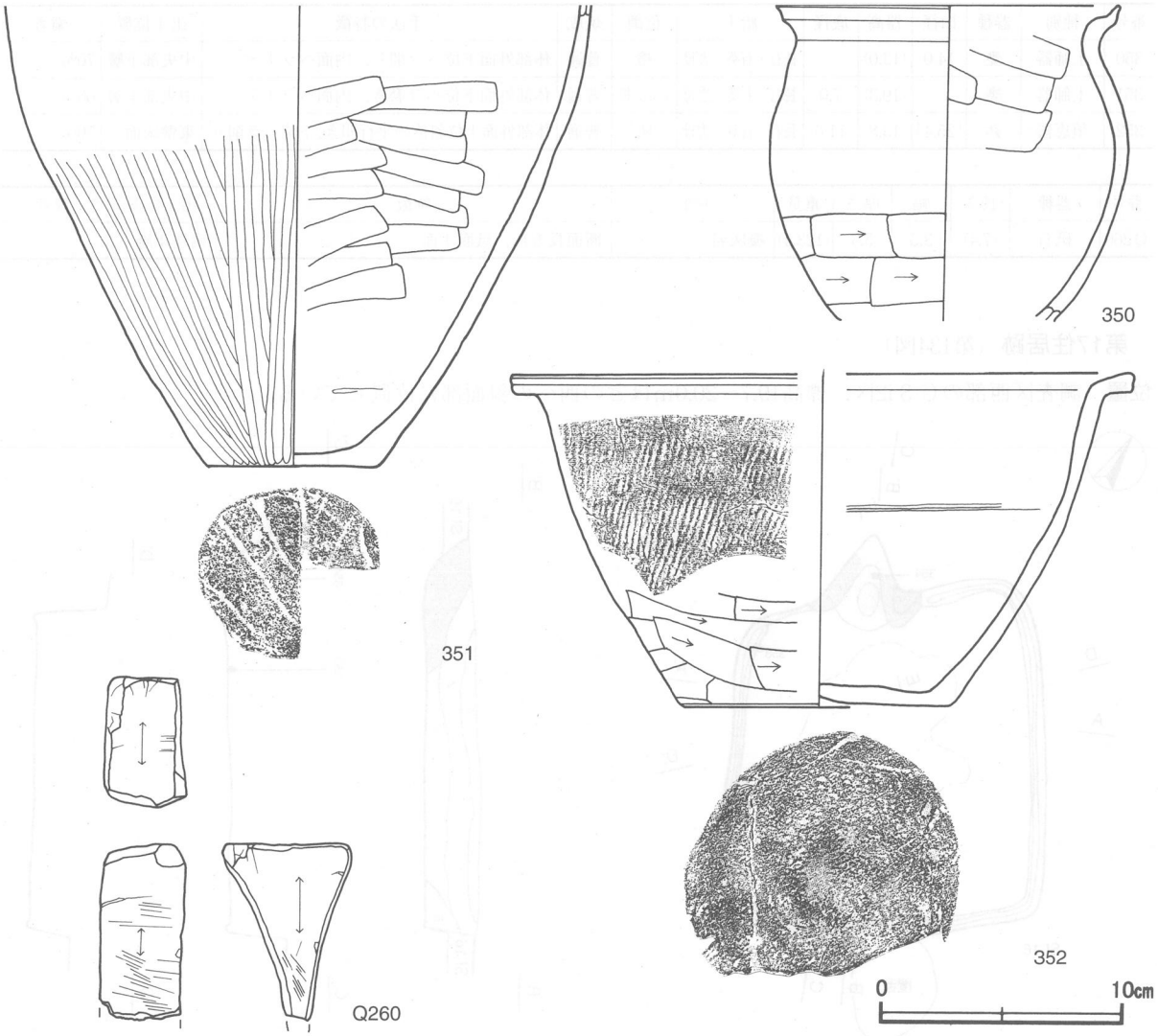
ピット　１か所。深さは27cmほどで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　４層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量



第132図　第14号住居跡・出土遺物実測図



第133図　第14号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片513点（坏類35，甕類478），須恵器片97点（坏類88，甕類７，蓋２）が出土している。底部片から推定される個体数は，土師器坏２点，土師器甕６点，須恵器坏６点，須恵器甕２点である。341は竈覆土下層，346・350は中央部の床面，347・352は東壁寄りの床面，342・349は竈左側の覆土中層からそれぞれ出土している。351は南壁寄りの覆土上層から下層にかけて出土しており，本跡の埋没過程で混入したものと考えられる。また，343は覆土中層，Q260は南壁寄りの覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。

第14号住居跡出土遺物観察表（第132・133図）

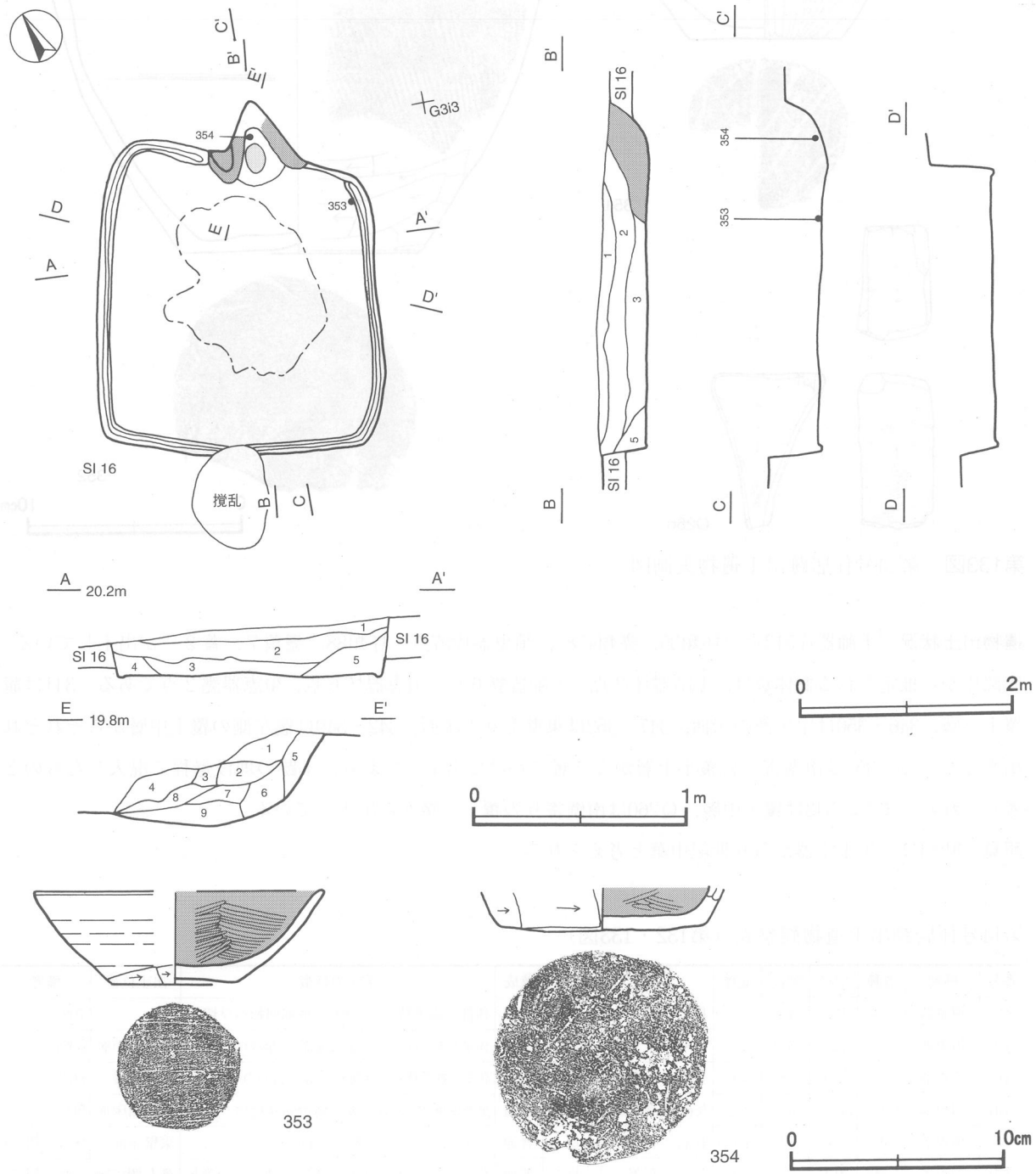
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
341	須恵器	坏	[12.9]	4.9	7.4	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り	竈	70%
342	須恵器	坏	[12.3]	3.7	7.3	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	竈左側中層	60%
343	須恵器	坏	12.6	3.9	7.6	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部二方向のヘラ削り	覆土中層	80%
346	須恵器	高台付坏	[15.0]	6.9	[9.2]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	竈左側床面	50%
347	須恵器	蓋	－	(1.8)	10.9	長石・石英	灰	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り	東壁床面	90%　PL39
349	須恵器	短頸壺	[9.1]	7.9	5.6	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	竈左側中層	70%　PL41

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
350	土師器	甕	14.0	(13.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ	中央部下層	70%
351	土師器	甕	－	(19.3)	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下位ヘラ磨き，内面ヘラナデ	中央部上層	60%
352	須恵器	鉢	[25.4]	13.8	11.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面上位斜位の平行叩き，下位ヘラ削り	東壁床面	70%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q260	砥石	(7.4)	3.5	5.3	(123.4)	凝灰岩	断面長方形，砥面４面	南壁下層	

第17住居跡（第134図）

位置　調査区西部のＧ３i2区，標高19.7～20.0ｍほどの西への斜面部に位置している。



第134図　第17号住居跡・出土遺物実測図

重複関係　第16号住居跡の南東部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸2.80m，短軸2.70mほどの方形で，主軸方向はN－10°－Eである。壁高は22～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝はほぼ全周し，上幅10～12cm，深さ4cmで，断面形はU字状を呈している。

竈　北壁中央部を壁外に40cmほど掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで長さ78cmほどであり，袖部は左袖の一部を残してほとんど遺存していない。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変している。煙道は，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
9　褐　　色　粘土粒子中量，ローム粒子・炭化物少量

ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

覆土　5層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片271点（坏類118，甕類153），須恵器片70点（坏類25，甕類44，蓋1）が出土している。ほとんどが細片で，図示できたのは東壁際の床面から出土した353と，竈覆土下層から出土した354だけである。

所見　時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第17号住居跡出土遺物観察表（第134図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
353	土師器	坏	[13.8]	4.3	5.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き，底部一方向のヘラ削り	北東コーナー床面	70% 内面黒色処理
354	土師器	坏	－	(2.1)	9.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	竈	20% 内面黒色処理

第18号住居跡（第135図）

位置　調査区西部のG2f0区，標高19.3mほどの平坦な台地上に位置している。

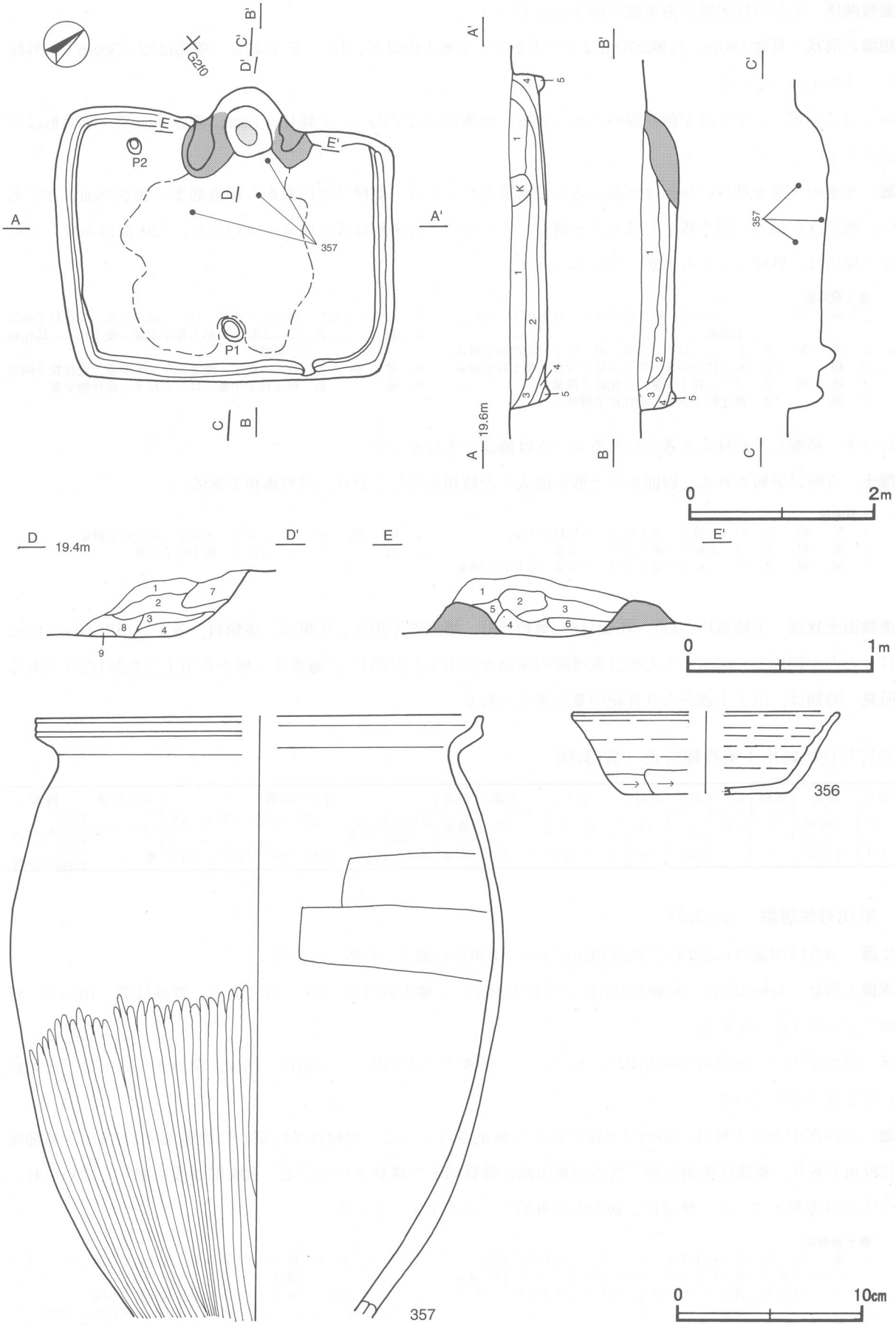
規模と形状　長軸3.60m，短軸2.90mほどの長方形で，主軸方向はN－50°－Wである。壁高は35～40cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝はほぼ全周し，上幅12～16cm，深さ4～6cmで，断面形はU字状を呈している。

竈　北西壁中央部を壁外に40cmほど掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで75cm，袖部幅138cmであり，袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変している。煙道は，緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　灰　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量



第135図　第18号住居跡・出土遺物実測図

ピット　2か所。深さはＰ１が20cm，Ｐ２が15cmほどである。Ｐ１は出入り口施設に伴うピットと考えられるがＰ２の性格は不明である。

覆土　5層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片99点（甕類），須恵器片16点（坏類）が出土している。ほとんどが細片で図示できたのは，竈手前の覆土上層から下層にかけて出土した357と，覆土下層から出土した356だけである。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表（第135図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
356	須恵器	坏	[14.2]	4.4	[8.6]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り,底部一方向のヘラ削り	覆土下層	50%
357	土師器	甕	[24.0]	(32.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下位ヘラ磨き，内面ヘラナデ	中央部上層～下層	40%

第19号住居跡（第136・137図）

位置　調査区西部のＧ３f1区，標高19.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸4.40m，短軸4.20mほどの方形で，主軸方向はＮ－40°－Ｅである。壁高は35～45cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は東コーナーを除いてほぼ全周し，上幅12～16cm，深さ４～６cmで，断面形はＵ字状を呈している。

竈　北東壁中央部やや東寄りを壁外に25cmほど掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで123cm，袖部幅144cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変している。煙道は，緩やかに外傾して立ち上がっている。

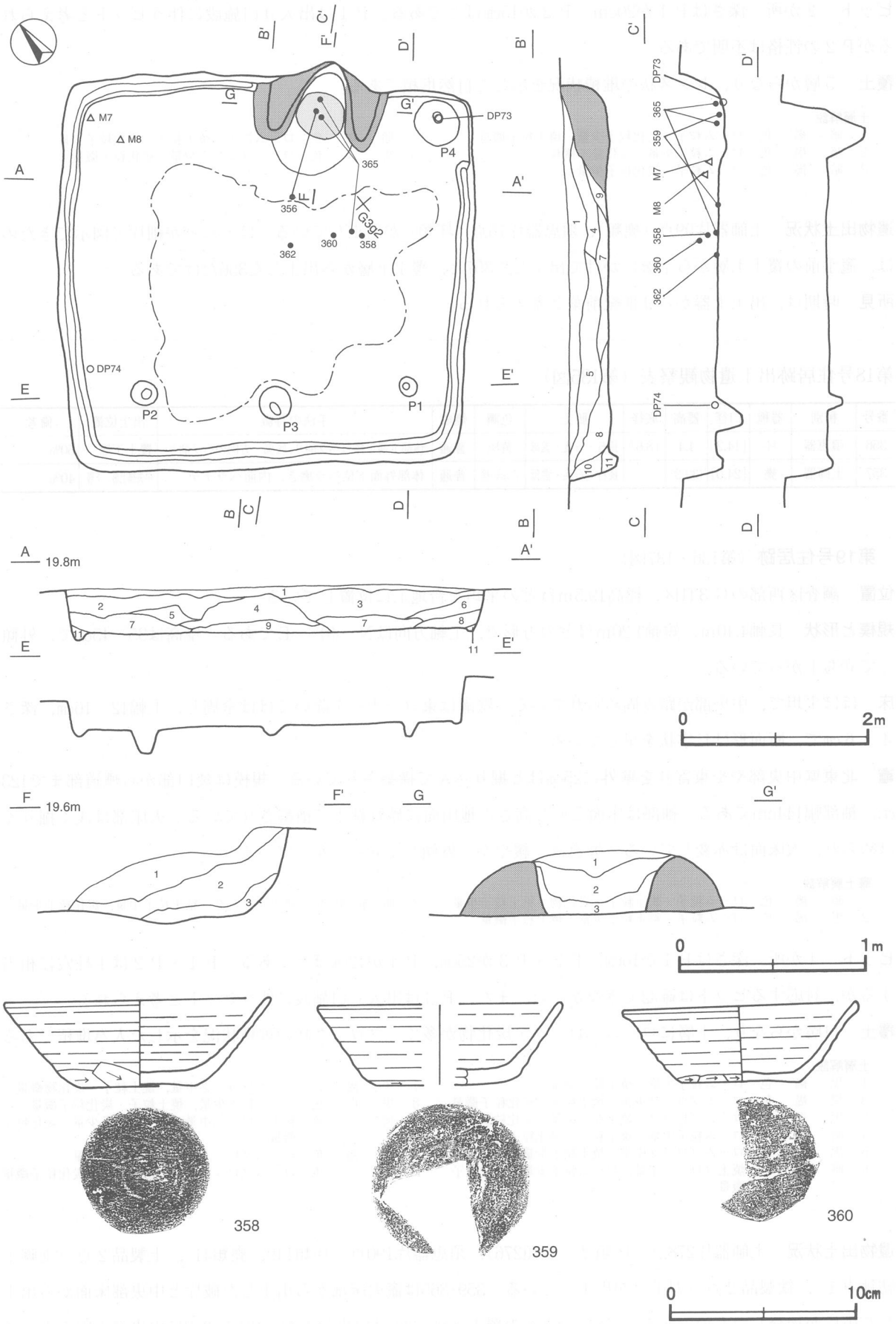
竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　赤　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子中量，炭化粒子少量

ピット　4か所。深さはＰ１が16cm，Ｐ２・Ｐ３が25cm，Ｐ４が42cmほどである。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴に相当するが，対応するピットは確認できなかった。また，Ｐ３は出入り口施設に伴うピットと考えられる。

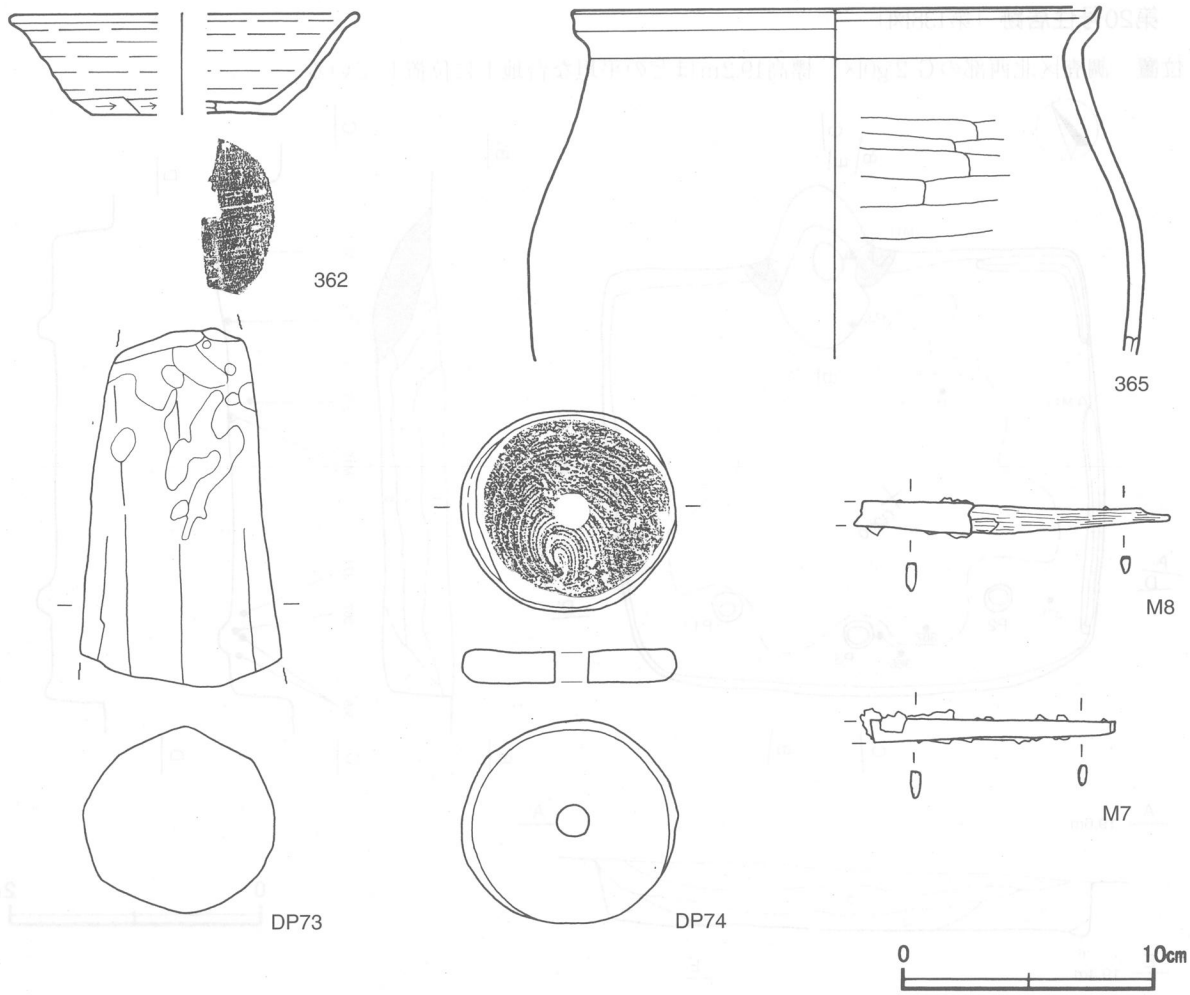
覆土　11層からなり，下層にロームブロック・炭化物が多く，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
6　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
11　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片278点（坏類２，甕類276），須恵器片190点（坏類149，甕類41），土製品２点（支脚１，紡錘車１），鉄製品２点（刀子）が出土している。359･365は竈火床部から出土した破片と中央部床面から出土した破片が接合したものである。358は中央部の覆土下層，360は中央部の覆土中層，362は中央部の床面からそれぞれ出土している。DP73はＰ４覆土上層から出土しており，竈に残された下位の割れ口に一致した。



第136図　第19号住居跡・出土遺物実測図



第137図　第19号住居跡出土遺物実測図

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。

第19号住居跡出土遺物観察表（第136・137図）

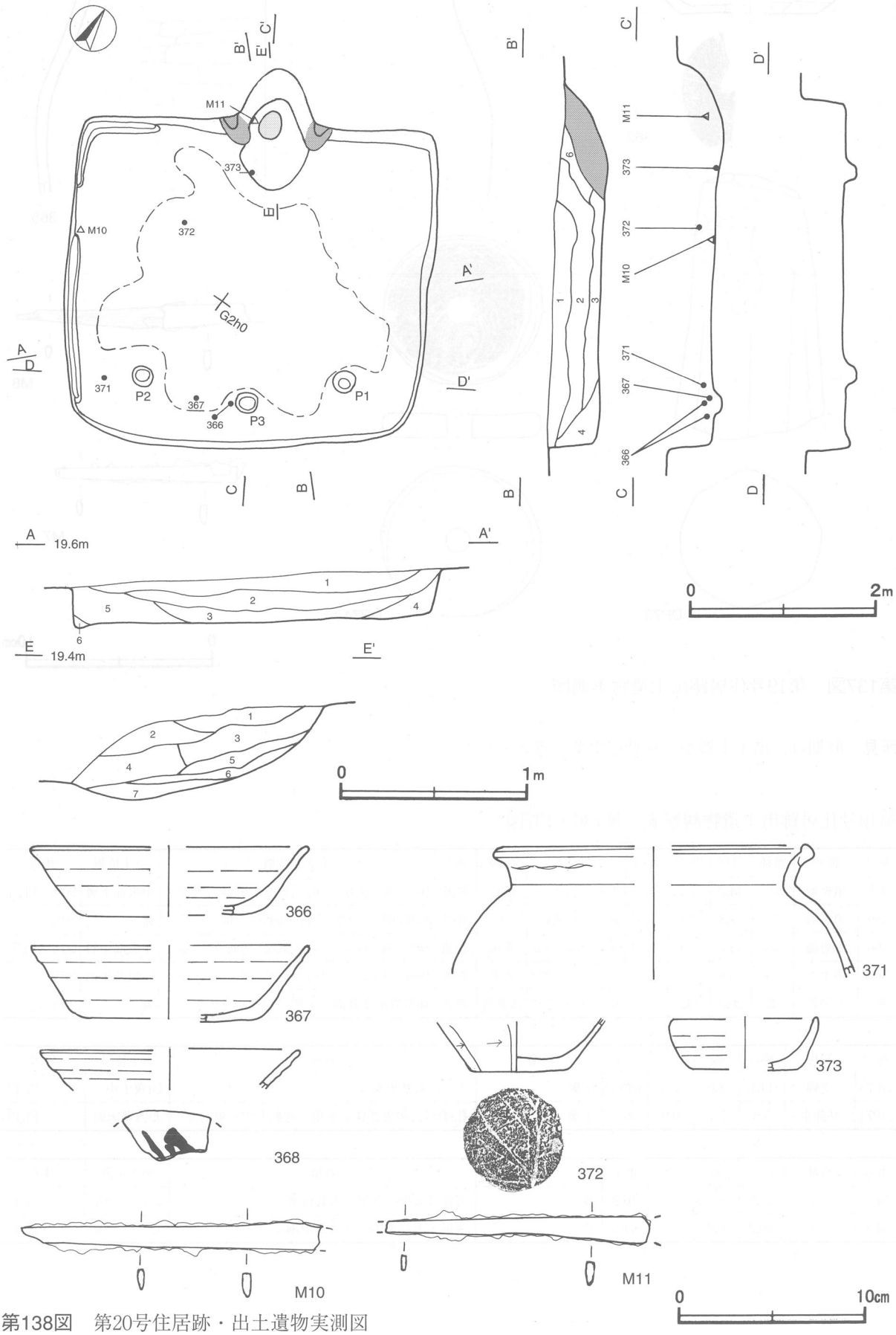
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
358	須恵器	坏	14.2	4.3	6.2	長石・石英	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	中央部下層	90%　PL37
359	須恵器	坏	[12.8]	4.3	[7.0]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り	竈	70%
360	須恵器	坏	12.4	4.3	[6.4]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	中央部中層	60%　PL37
362	須恵器	坏	[13.6]	4.0	[7.4]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	中央部床面	20%
365	土師器	甕	20.8	(13.9)	－	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	体部外面摩耗調整不明，内面ヘラナデ	竈	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP73	支脚	(14.4)	8.0	7.5	(649.7)	土製	ナデ，被熱痕有り	P4覆土中	PL42
DP74	紡錘車	5.3	5.7	0.9	38.7	土製	孔径0.7，須恵器坏を転用，回転糸切り痕有り	北西壁床面	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M７	刀子	(12.5)	1.3	0.4	(16.9)	鉄	刃先部欠損，茎部に木質付着	北コーナー下層	PL46
M８	刀子	(10.2)	0.9	0.3	(11.3)	鉄	茎尻・刃部欠損，茎尻側が細る	北コーナー下層	PL46

第20号住居跡（第138図）

位置　調査区北西部のＧ２g0区，標高19.2mほどの平坦な台地上に位置している。



第138図　第20号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状　長軸3.80m，短軸3.60mほどの方形で，主軸方向はN－30°－Wである。壁高は45～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，西側に向かって緩やかに傾斜し，中央部が踏み固められている。壁溝は西コーナー及び南西壁の一部で確認され，上幅８～10cm，深さ４cmで，断面形はU字状を呈している。

竈　北壁の中央部を壁外に60cmほど掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで長さ130cmほどであり，袖部はほとんど遺存していないが，壁側面に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変している。煙道は，緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子・粘土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量，粘土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・炭化物・粘土粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
6　暗　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化物中量，粘土粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

ピット　３か所。深さはいずれも15cmほどである。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴と考えられるが対応するピットは確認できなかった。また，Ｐ３は出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　６層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片497点（坏類19，甕類478），須恵器片224点（坏類145，甕類69，蓋10）が出土している。底部片から推定される個体数は，土師器甕５点，須恵器坏７点，須恵器甕６点，須恵器蓋１点である。373は竈手前の床面，367は中央部の床面，M10は南西壁の床面，M11は竈覆土中層からそれぞれ出土している。また，366は南東壁の覆土下層，368は覆土中層，371は南コーナー付近の覆土下層，372は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。

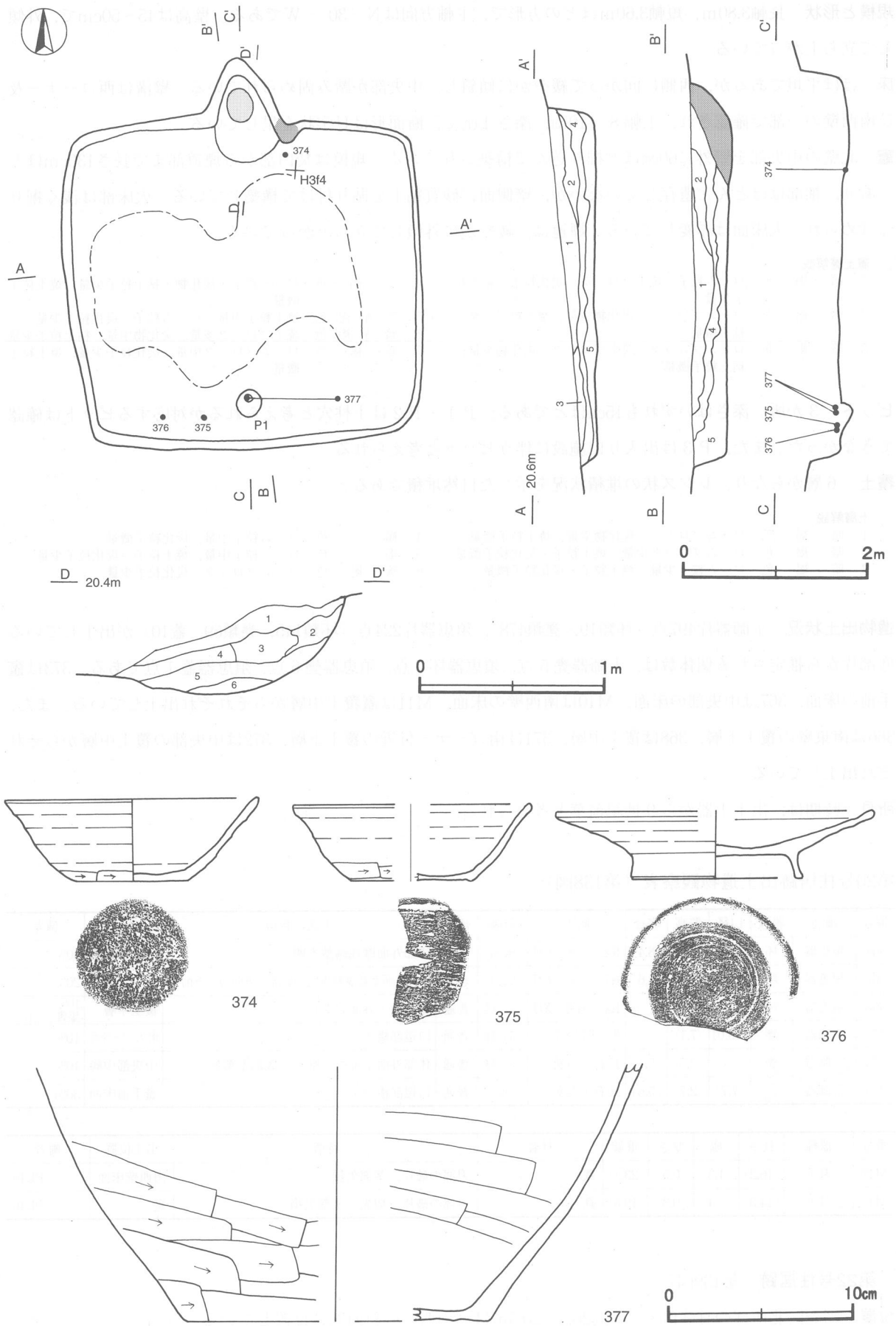
第20号住居跡出土遺物観察表（第138図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
366	須恵器	坏	[14.8]	3.7	[8.4]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面摩耗調整不明	南東壁下層	30%
367	須恵器	坏	[14.8]	4.0	[8.6]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面摩耗調整不明，底部一方向のヘラ削り	中央部床面	20%
368	須恵器	坏	[13.6]	(2.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中層	10% 墨書「□」
371	土師器	甕	[16.0]	(7.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ	南コーナー床面	10%
372	土師器	甕	－	(2.7)	5.1	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部外面下位ヘラ削り，底部木葉痕	中央部中層	10%
373	土師器	ミニチュア土器	[7.7]	2.7	[5.6]	長石・石英	褐	普通	口辺部横ナデ	竈手前床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M10	刀子	(16.2)	1.3	0.5	(23.1)	鉄	刃部の破片，茎部欠損	南西壁床面	PL46
M11	刀子	(14.3)	1.4	0.3	(19.8)	鉄	刃部の破片，切先・茎部欠損	竈	PL46

第22号住居跡（第139図）

位置　調査区北西部のＨ３f3区，標高20.2～20.5mほどの西への斜面部に位置している。



第139図　第22号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状　長軸3.80m，短軸3.60mどの方形で，主軸方向はN－10°－Wである。壁高は20～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，西側に向かって緩やかに傾斜し，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に60cmほど掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで長さ110cmほどであり，袖部はほとんど遺存していないが，壁側面に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変している。煙道は，緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量
2　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　灰　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子中量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量

ピット　1か所。P1は深さ11cmほどで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片503点（坏類28，甕類475），須恵器片231点（坏類147，甕類76，蓋8）が出土している。底部片から推定される個体数は，土師器坏3点，土師器甕8点，須恵器坏4点，須恵器甕5点である。374は竈手前の床面，375～377は南壁付近の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第22号住居跡出土遺物観察表（第139図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
374	須恵器	坏	13.6	4.4	5.9	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	竈手前床面	85%　PL37
375	須恵器	坏	[12.8]	4.1	[6.4]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	南壁床面	30%
376	須恵器	高台付皿	[16.8]	3.7	9.1	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	南壁床面	50%
377	須恵器	鉢	－	(13.8)	[16.3]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ	南壁床面	40%

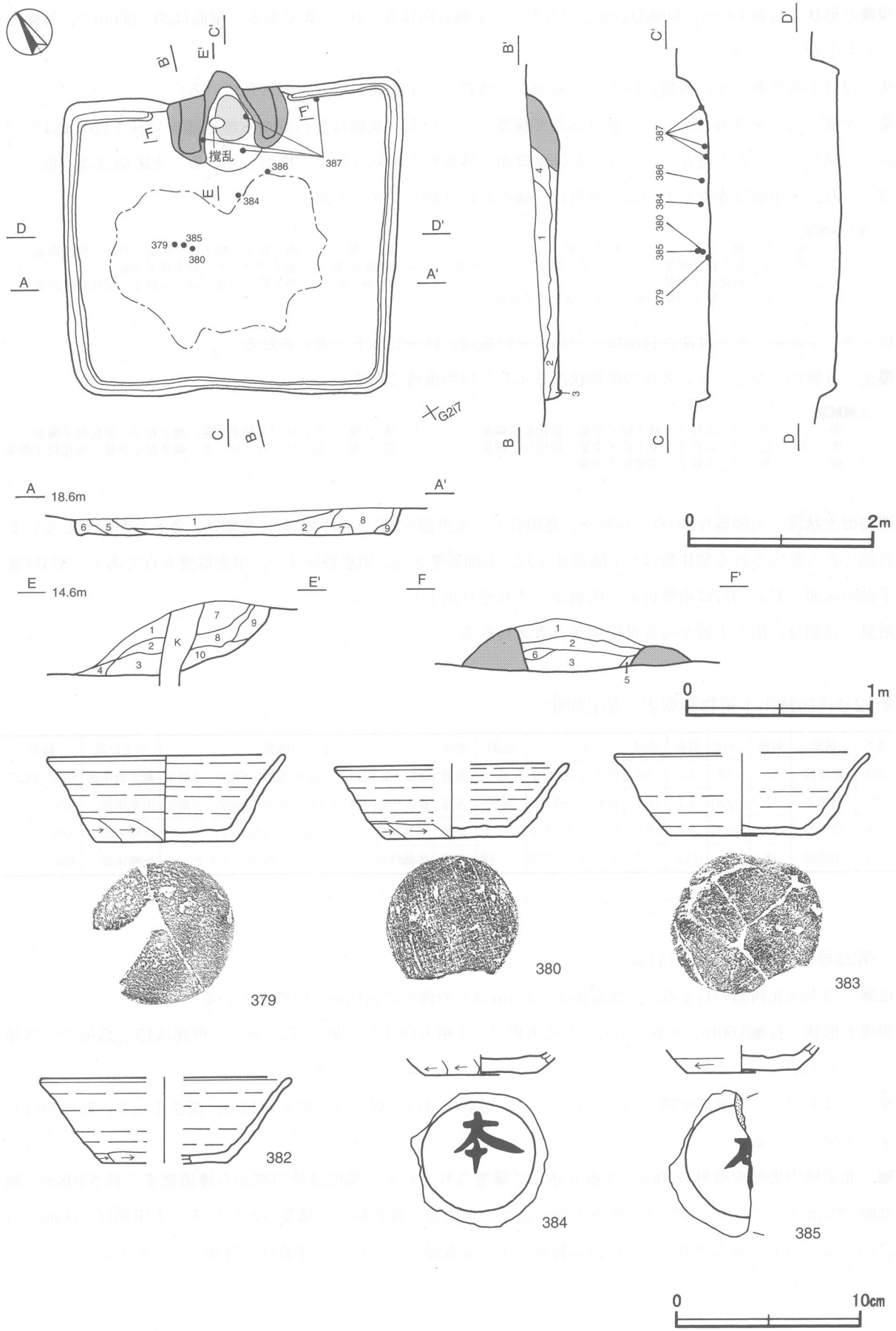
第23号住居跡（第140・141図）

位置　調査区北西部のG2i6区，標高18.3～18.5mほどの西への斜面部に位置している。

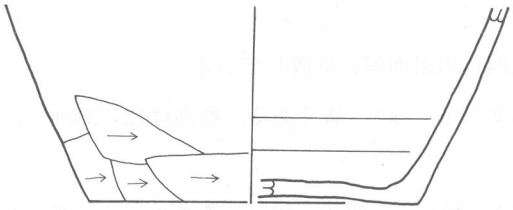
規模と形状　長軸3.60m，短軸3.30mほどの方形で，主軸方向はN－30°－Eである。壁高は15～25cmで，外傾して立ち上がっている。

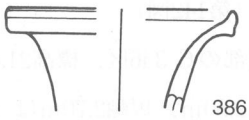
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝はほぼ全周し，上幅8～14cm，深さ4cmで，断面形はU字状を呈している。

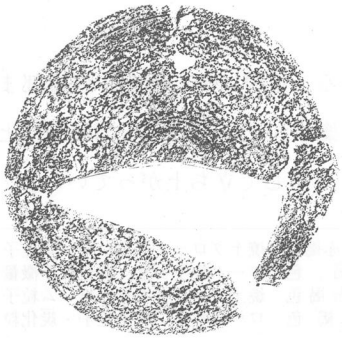
竈　北東壁中央部を壁外に20cmほど掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで長さ108cm，袖部幅129cmほどである。袖部は，床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，火床面は被熱により赤変硬化している。煙道は，外傾して立ち上がっている。

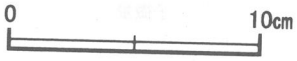


第140図　第23号住居跡・出土遺物実測図









第141図　第23号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，粘土粒子少量
7　にぶい黄褐色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量
9　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
10　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量

ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

覆土　9層からなり，下層にロームブロック・炭化物が多く，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
9　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片253点（坏類11，甕類242），須恵器片254点（坏類217，甕類28，瓶1，蓋8）が出土している。382・383は竈の覆土中，387は竈及び竈右側の床面から出土している。379は中央部の床面，380・384・386は中央部の覆土下層，385は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第23号住居跡出土遺物観察表（第140・141図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
379	須恵器	坏	12.8	4.6	7.4	長石・石英	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	中央部床面	70%
380	須恵器	坏	[12.4]	3.9	7.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部二方向のヘラ削り	中央部下層	60%
382	須恵器	坏	[13.4]	4.6	[7.5]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	竈覆土	40%
383	須恵器	坏	[13.6]	4.4	7.5	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	中央部下層	40%
384	須恵器	坏	—	(1.1)	6.0	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	中央部下層	10% 墨書「本」
385	須恵器	坏	—	(1.4)	[6.0]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	中央部中層	10% 墨書「本」
386	須恵器	長頸瓶	[9.0]	(4.1)	—	長石・石英	灰黄	良好	体部内・外面ロクロナデ	中央部下層	10%
387	須恵器	甕	—	(7.8)	[13.1]	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ	竈	10%

第24号住居跡（第142図）

位置　調査区北西部のＧ３i6区，標高21.6～21.8mほどの北西への斜面部に位置している。

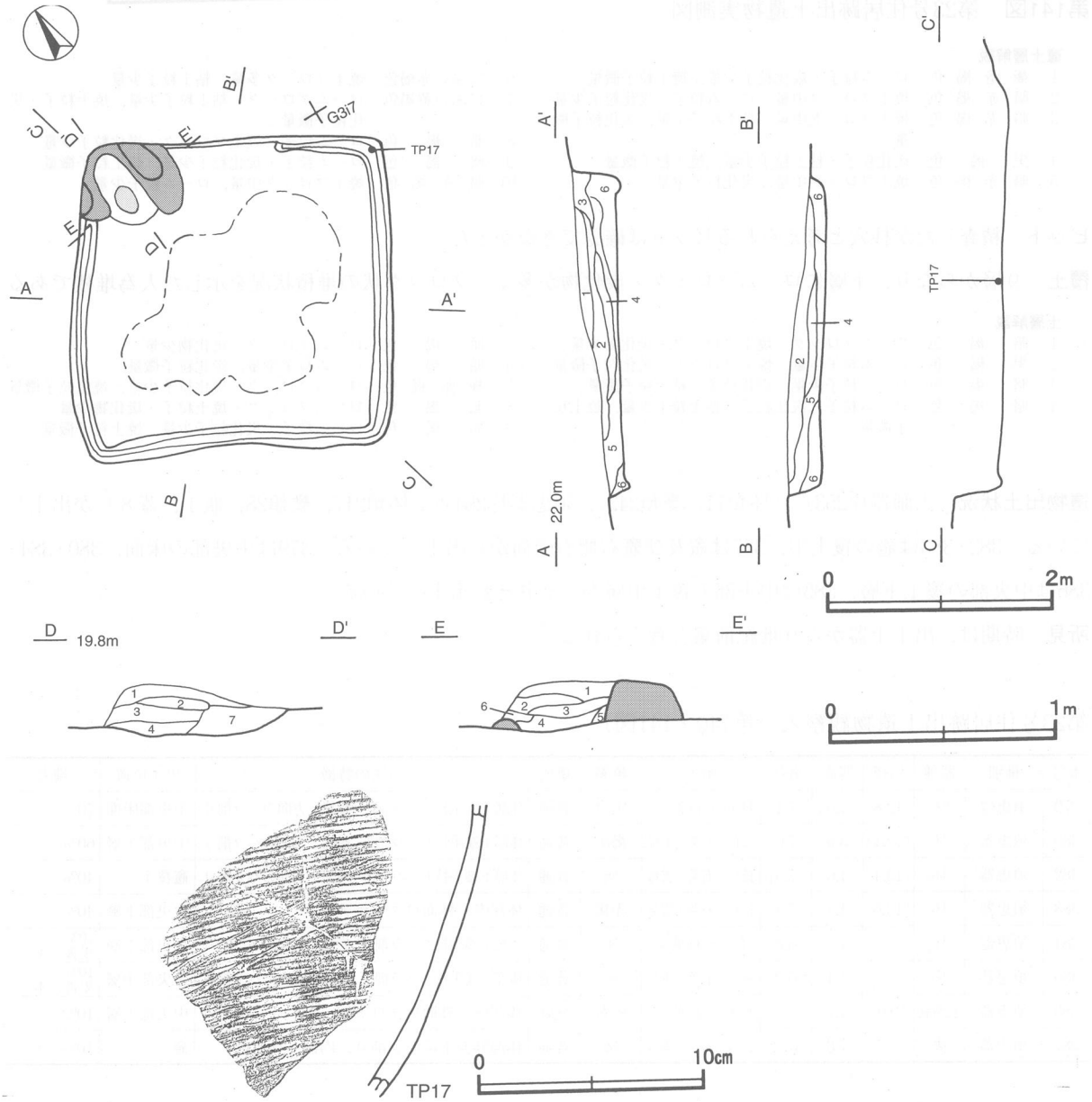
規模と形状　長軸2.80m，短軸2.70mほどの方形で，主軸方向はＮ－60°－Ｗである。壁高は12～35cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝はほぼ全周し，上幅10～12cm，深さ４cmで，断面形はＵ字状を呈している。

竈　北コーナーに位置し，壁をほとんど掘り込まずに構築されている。規模は焚口部から煙道部まで84cm，袖部幅96cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，火床面は被熱により赤変している。煙道は，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量



第142図　第24号住居跡・出土遺物実測図

ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

覆土　6層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片36点（甕類），須恵器片15点（坏類2，甕類13）が出土している。ほとんどが細片で図示できたのはTP17だけである。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第24号住居跡出土遺物観察表（第142図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP17	須恵器	甕	－	(13.0)	－	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面横位の平行叩き	東コーナー床面	

第25号住居跡（第143図）

位置　調査区西部のＧ３h0区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　一辺3.40mほどの方形で，主軸方向はＮ－40°－Ｗである。壁高は45cmほどで，外傾して立ち上がっている。南コーナーは撹乱のため確認できなかった。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は北コーナーを除いてほぼ全周し，上幅10～14cm，深さ4～6cmで，断面形はＵ字状を呈している。

竈　北西壁の中央部を壁外に35cmほど掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで105cm，袖部幅115cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は被熱により赤変している。煙道は，緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　にぶい赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子少量
9　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

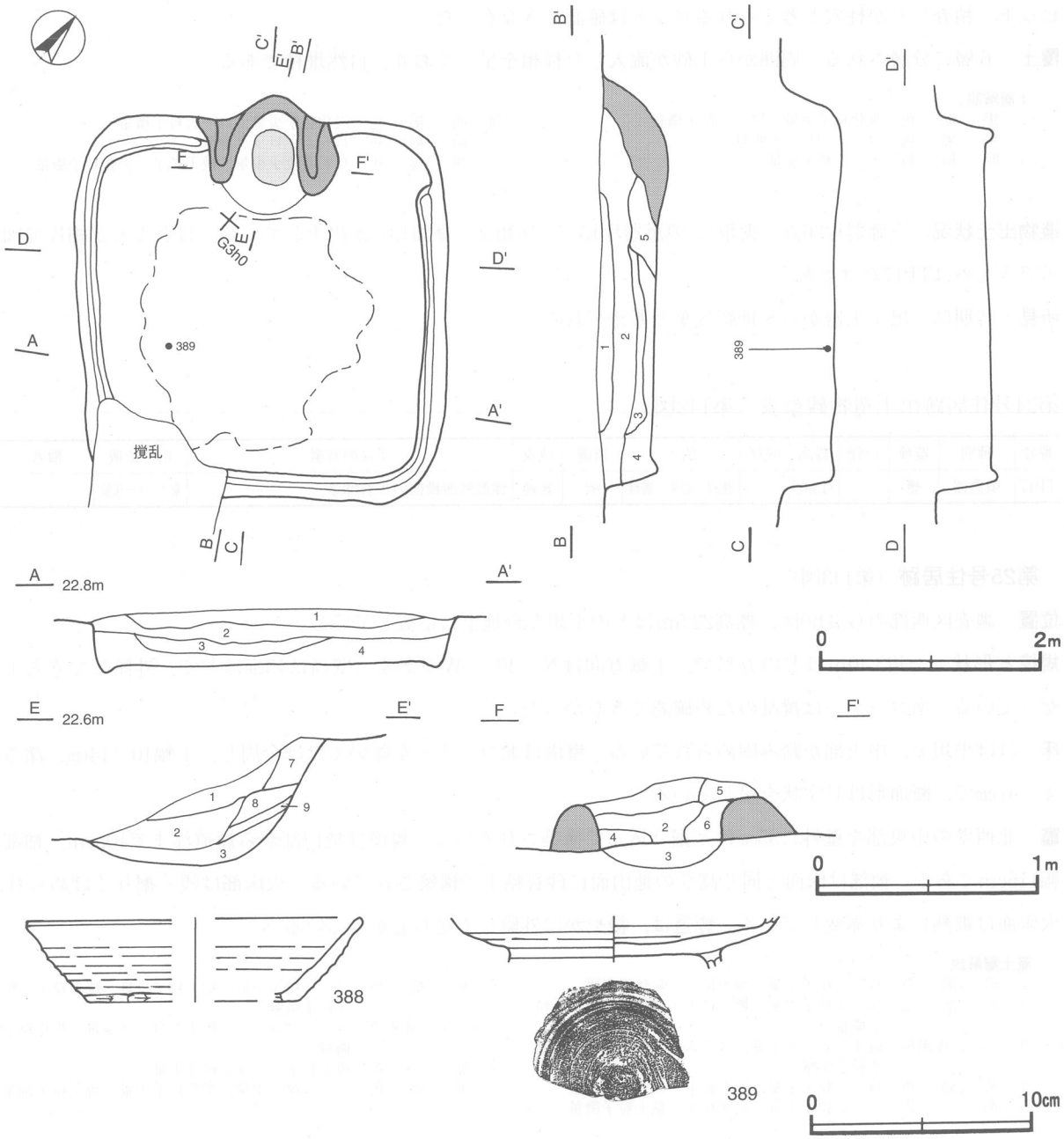
ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

覆土　5層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片89点（甕類），須恵器片124点（坏類89，甕類35）が出土している。表面が摩耗している土器が多く，ほとんどが細片である。図示できたのは，竈の覆土から出土した388と中央部の床面から出土した389だけである。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第143図　第25号住居跡・出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表（第143図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
388	須恵器	坏	[14.8]	3.7	[9.0]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	竈覆土中	10%
389	須恵器	盤	—	(2.3)	—	長石・石英	灰オリーブ	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	中央部床面	10%

第26号住居跡（第144・145図）

位置　調査区西部のＧ４h1区，標高22.9mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.90m，短軸3.60mほどの方形で，主軸方向はＮ－15°－Ｅである。壁高は30～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に35cmほど掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで105cm，袖部幅138cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。焚口の掘り込みは明確でないが，火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，火床面は被熱によって赤変硬化している。煙道は，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　1か所。P 1は深さ29cmで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

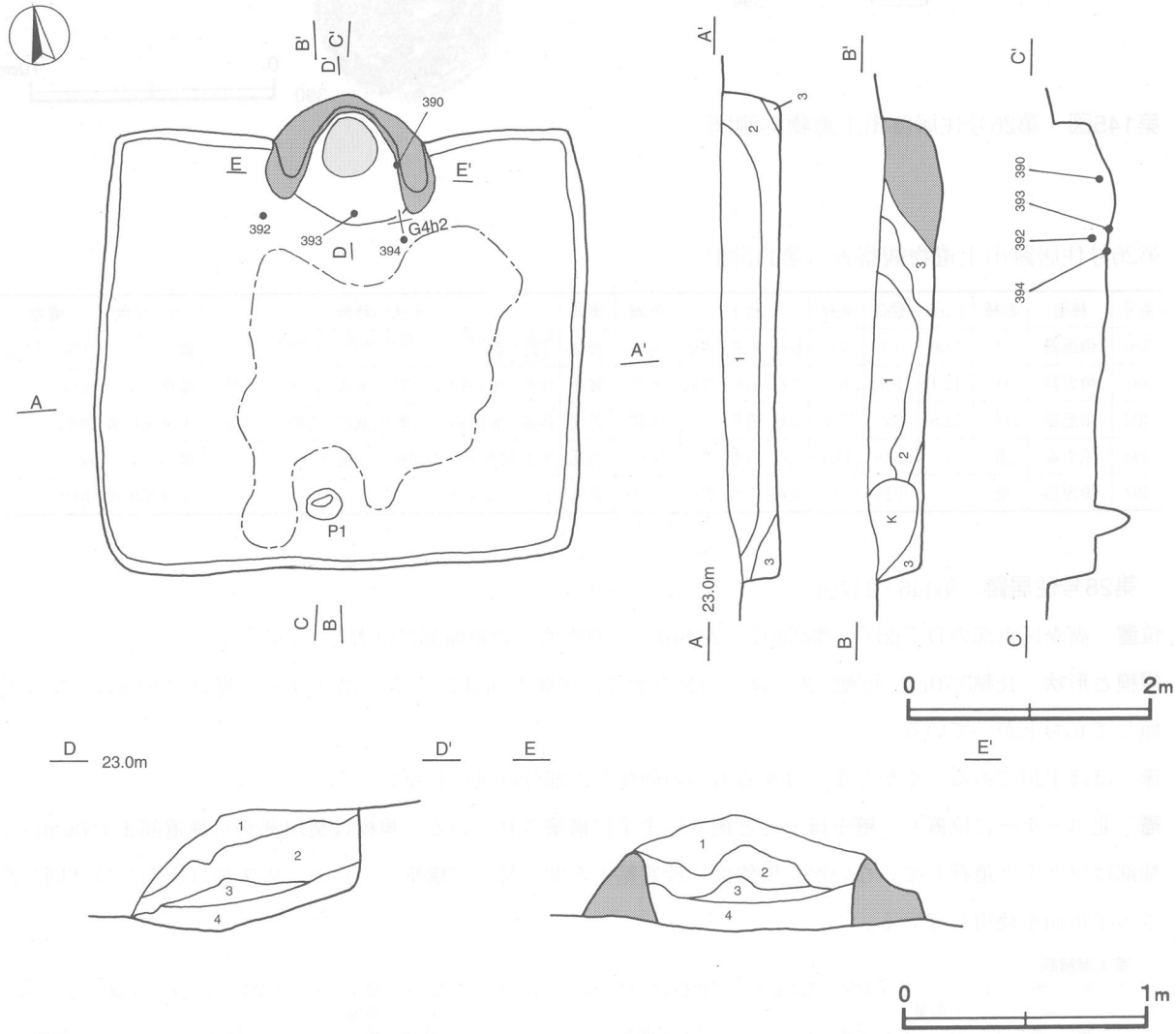
覆土　3層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

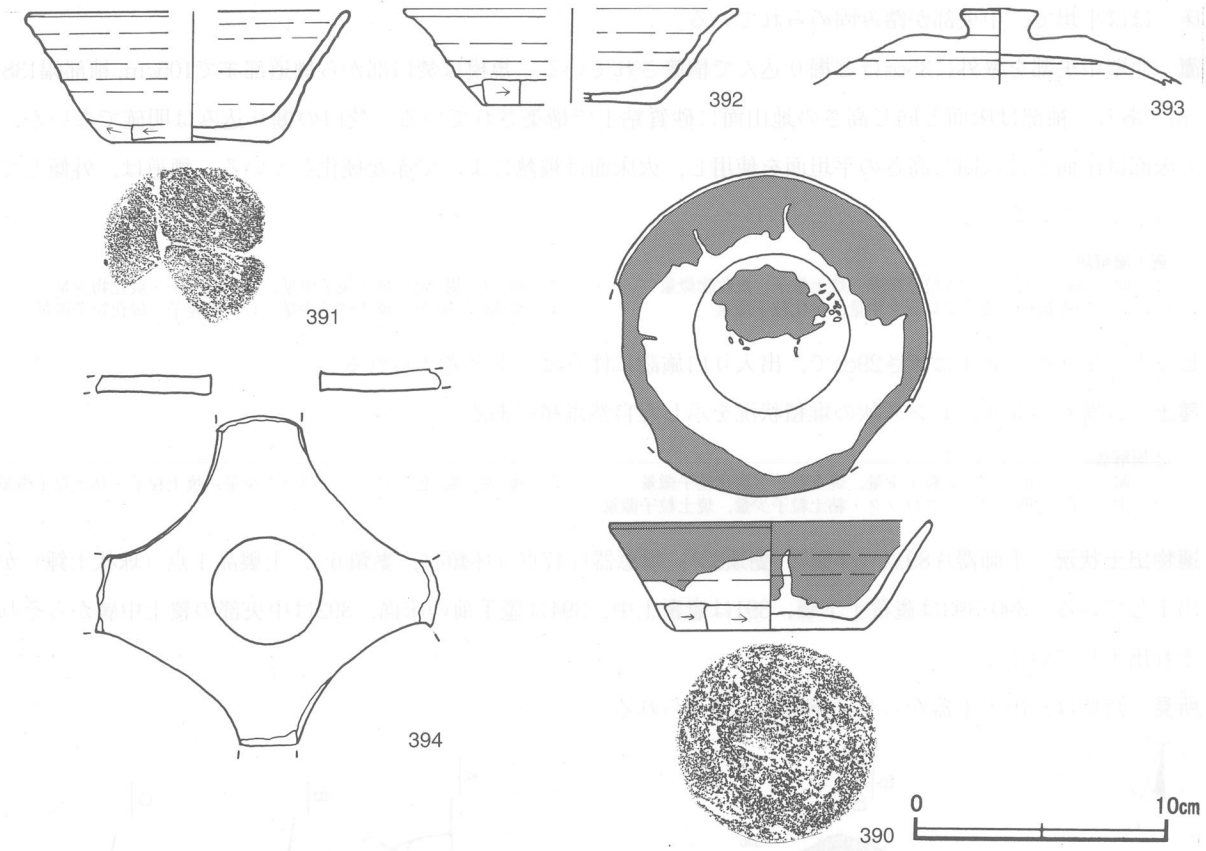
1　暗　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量
3　極 暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片89点（坏類7，甕類82），須恵器片47点（坏類41，甕類6），土製品1点（球状土錘）が出土している。390･393は竈覆土下層，391は竈覆土中，394は竈手前の床面，392は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第144図　第26号住居跡実測図



第145図　第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表（第145図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
390	須恵器	坏	12.6	4.3	7.6	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り，油煙付着	竈	95%　PL41
391	須恵器	坏	[12.1]	5.2	6.2	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	竈覆土中	40%
392	須恵器	坏	[12.8]	3.8	[7.0]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部一方向のヘラ削り	中央部中層	30%
393	須恵器	蓋	－	(3.0)	(14.4)	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り	竈	60%
394	須恵器	甑	－	(0.9)	(13.5)	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	孔ヘラ切り	中央部床面	10%

第28号住居跡（第146・147図）

位置　調査区東部のＤ７j2区，標高20.5～20.8mほどの南西への斜面部に位置している。

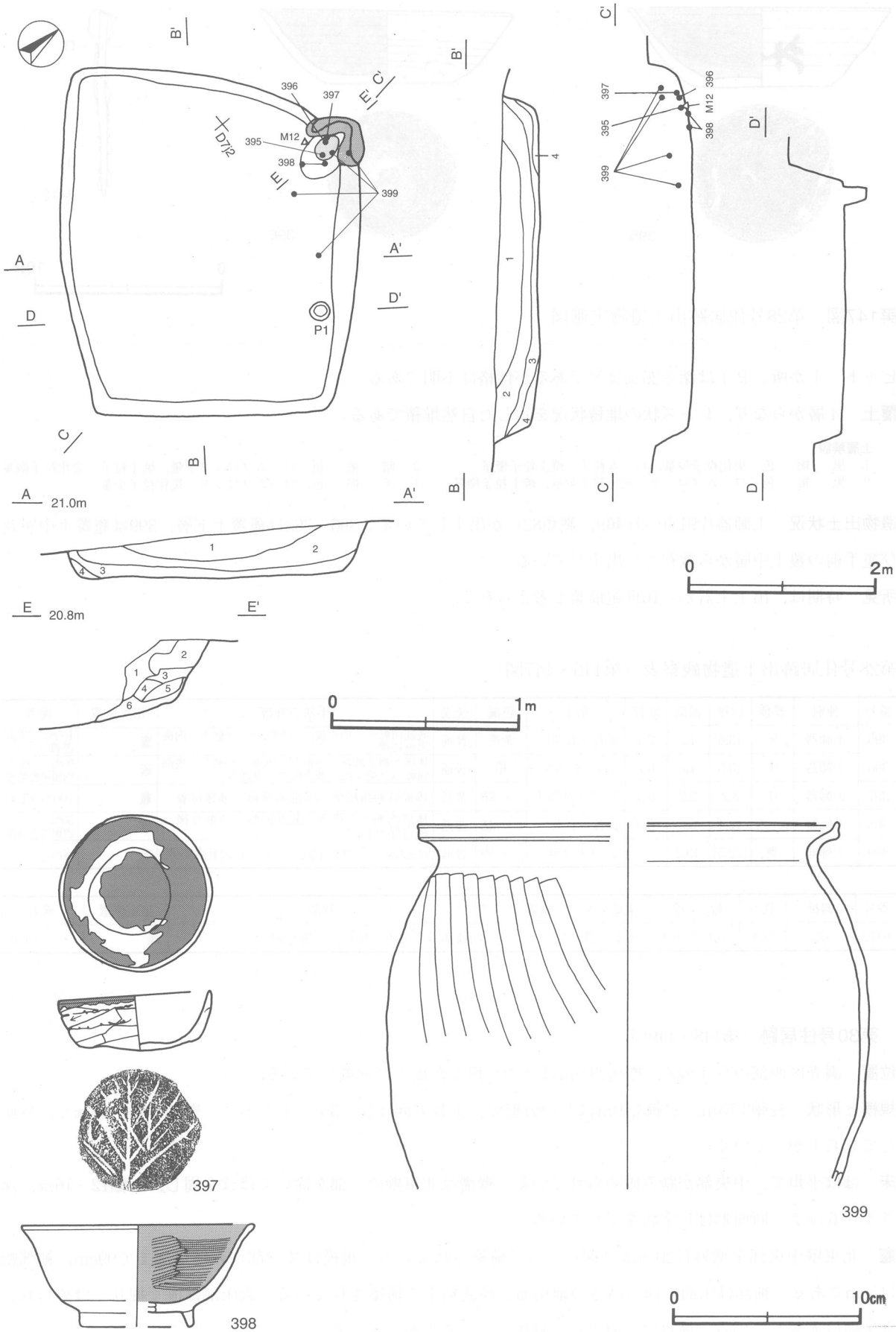
規模と形状　長軸3.70m，短軸3.20mほどの長方形で，主軸方向はＮ－45°－Ｗである。壁高は40cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。ややしまりはあるものの硬化した部分は見られない。

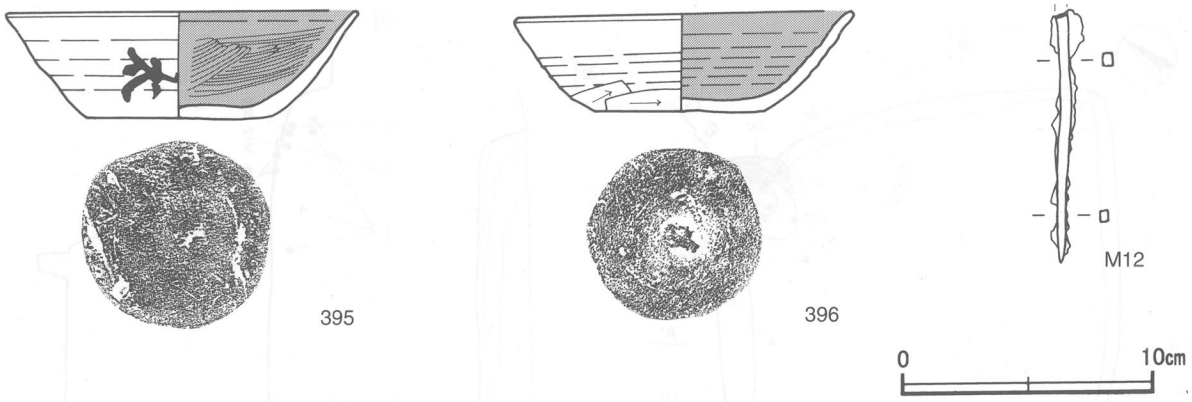
竈　北コーナーに位置し，壁をほとんど掘り込まずに構築されている。規模は焚口部から煙道部まで78cmで，袖部はほとんど遺存していないが，壁側面に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用している。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　灰　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化物微量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子微量



第146図　第28号住居跡・出土遺物実測図



第147図　第28号住居跡出土遺物実測図

ピット　1か所。P1は深さ26cmほどであるが性格は不明である。

覆土　4層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片91点（坏類9，甕類82）が出土している。396～398は竈覆土下層，399は竈覆土中層及び竈手前の覆土中層から散在して出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉と考えられる。

第28号住居跡出土遺物観察表（第146・147図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
395	土師器	坏	13.6	4.2	7.4	長石・石英	黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ磨き，内面黒色処理	竈	100%　PL38 墨書「太」
396	土師器	坏	13.5	4.0	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き，底部回転ヘラ切り後，多方向のヘラ削り	竈	95%　PL37 内面黒色処理
397	土師器	坏	8.2	3.2	6.4	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面輪積痕，底部木葉痕，油煙付着	竈	100%　PL41
398	土師器	高台付椀	12.4	5.5	[6.0]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き，底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	竈	50% 内面黒色処理
399	土師器	甕	[22.5]	(19.2)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面摩耗調整不明	竈	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M12	釘	(9.9)	0.4	0.4	(6.4)	鉄	断面は長方形の棒状，一端が細る	竈	PL46

第30号住居跡（第148・149図）

位置　調査区西部のG4f6区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.75m，短軸3.50mほどの方形で，主軸方向はN－35°－Eである。壁高は25～40cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は北東壁の一部を除いてほぼ全周し，上幅12～16cm，深さ4～6cmで，断面形はU字状を呈している。

竈　北東壁中央部を壁外に20cmほど掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで99cm，袖部幅115cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変している。煙道は，緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

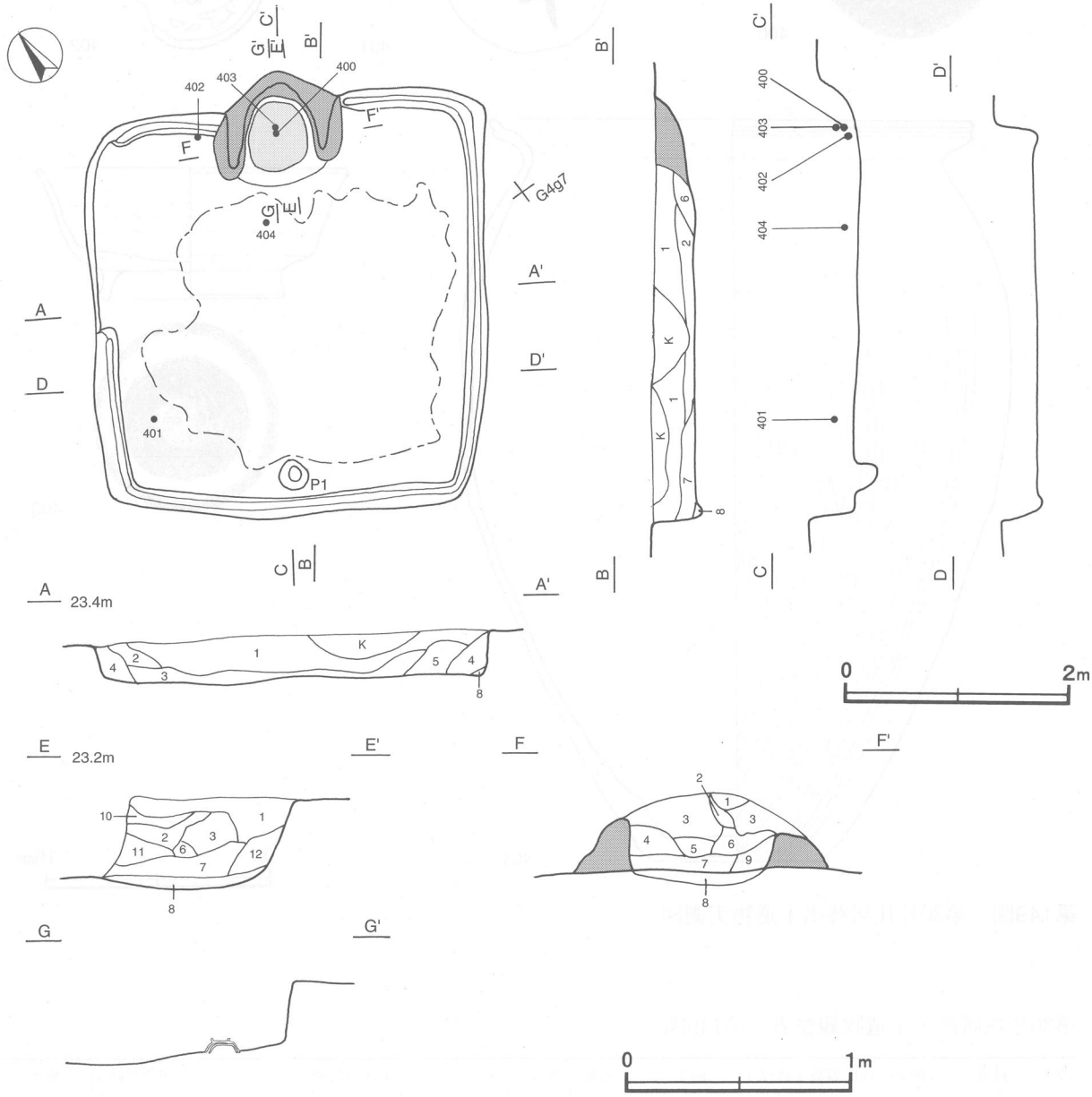
1　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子少量
8　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック少量
9　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化物微量
10　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
11　極 暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
12　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物少量，ローム粒子微量

ピット　1か所。P1は深さ21cmほどで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　8層からなり，下層にロームブロック・炭化物が多く，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

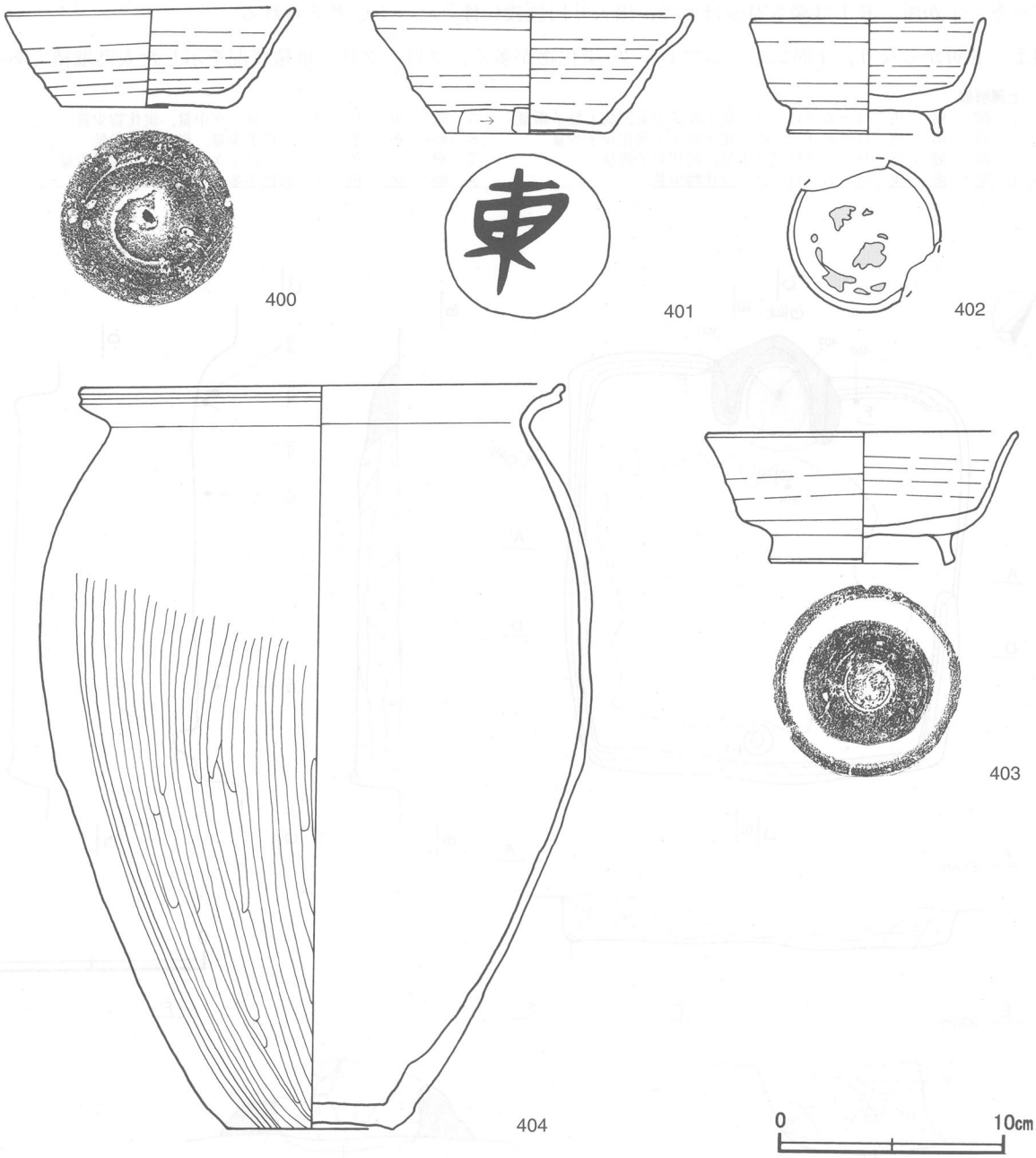
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子多量



第148図　第30号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片61点（甕類），須恵器片32点（坏類17，甕類13，蓋２）が出土している。400･403は竈火床部の上に重ねて伏せられており，支脚として利用されたものである。401は北西壁寄りの覆土中層，402は竈左側の床面，404は竈手前の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。



第149図　第30号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表（第149図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
400	須恵器	坏	12.6	4.4	7.3	長石・雲母・赤色粒子	黄橙	普通	底部回転ヘラ切り	竈	100% PL37
401	須恵器	坏	14.2	5.3	7.3	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	北西壁中層	80% PL38 墨書「東」ヵ

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
402	須恵器	高台付坏	10.4	5.1	6.8	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後,高台貼り付け,朱付着	竈床面	90% PL41
403	須恵器	高台付坏	13.6	5.8	7.8	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	竈	70%
404	土師器	甕	21.2	32.7	7.9	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	体部外面下位ヘラ磨き，内面ナデ	中央部下層	70% PL39

第35号住居跡（第150・151図）

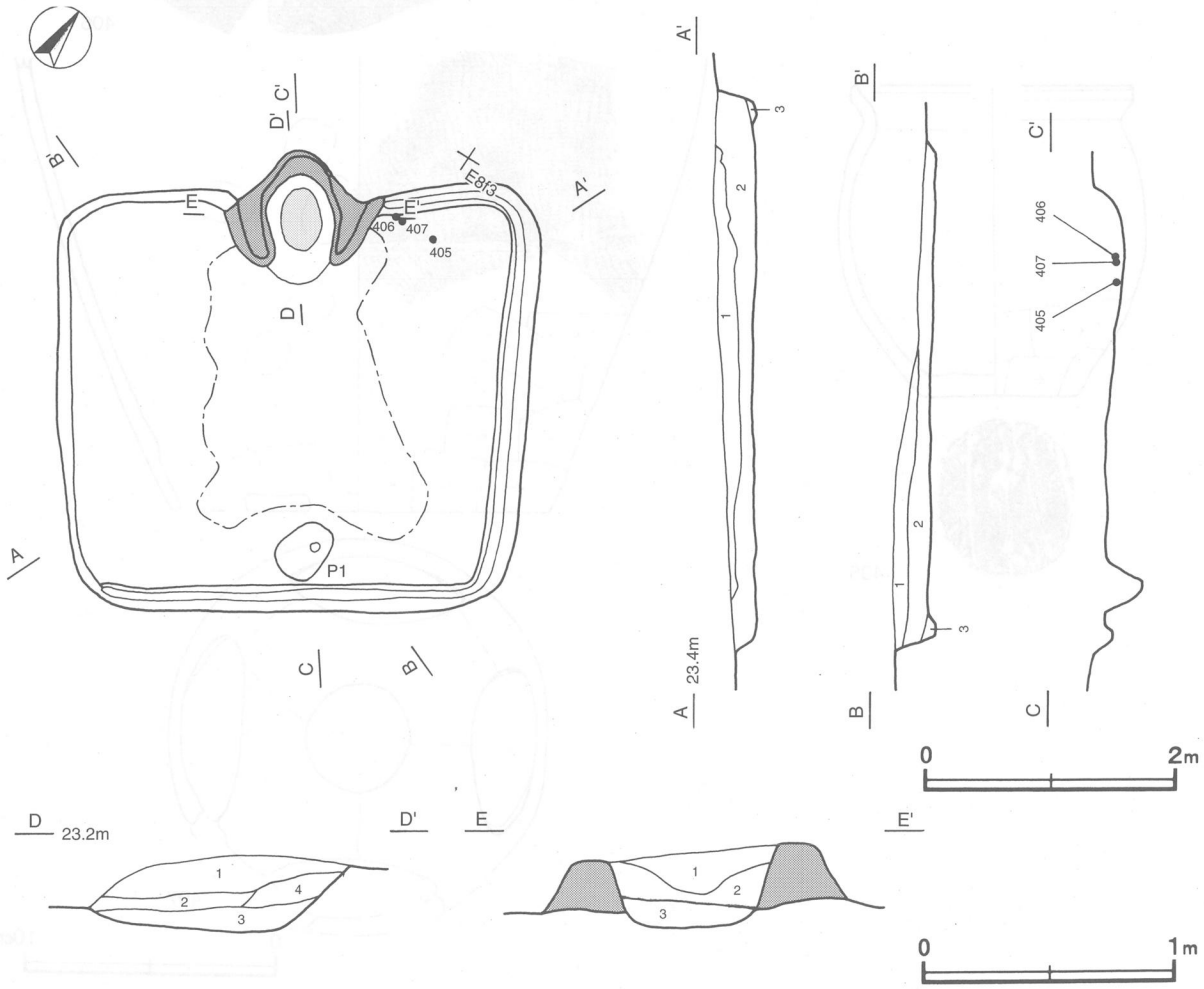
位置　調査区西部のＥ８f2区，標高23.1mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.80m，短軸3.40mほどの長方形で，主軸方向はＮ－35°－Ｗである。壁高は10～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は南西壁の一部を除いてほぼ全周し，上幅12～18cm，深さ６～８cmで，断面形はＵ字状を呈している。

竈　北西壁中央部を壁外に35cmほど掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで100cm，袖部幅110cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変している。煙道は，緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化物微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化物少量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
4　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量



第150図　第35号住居跡実測図

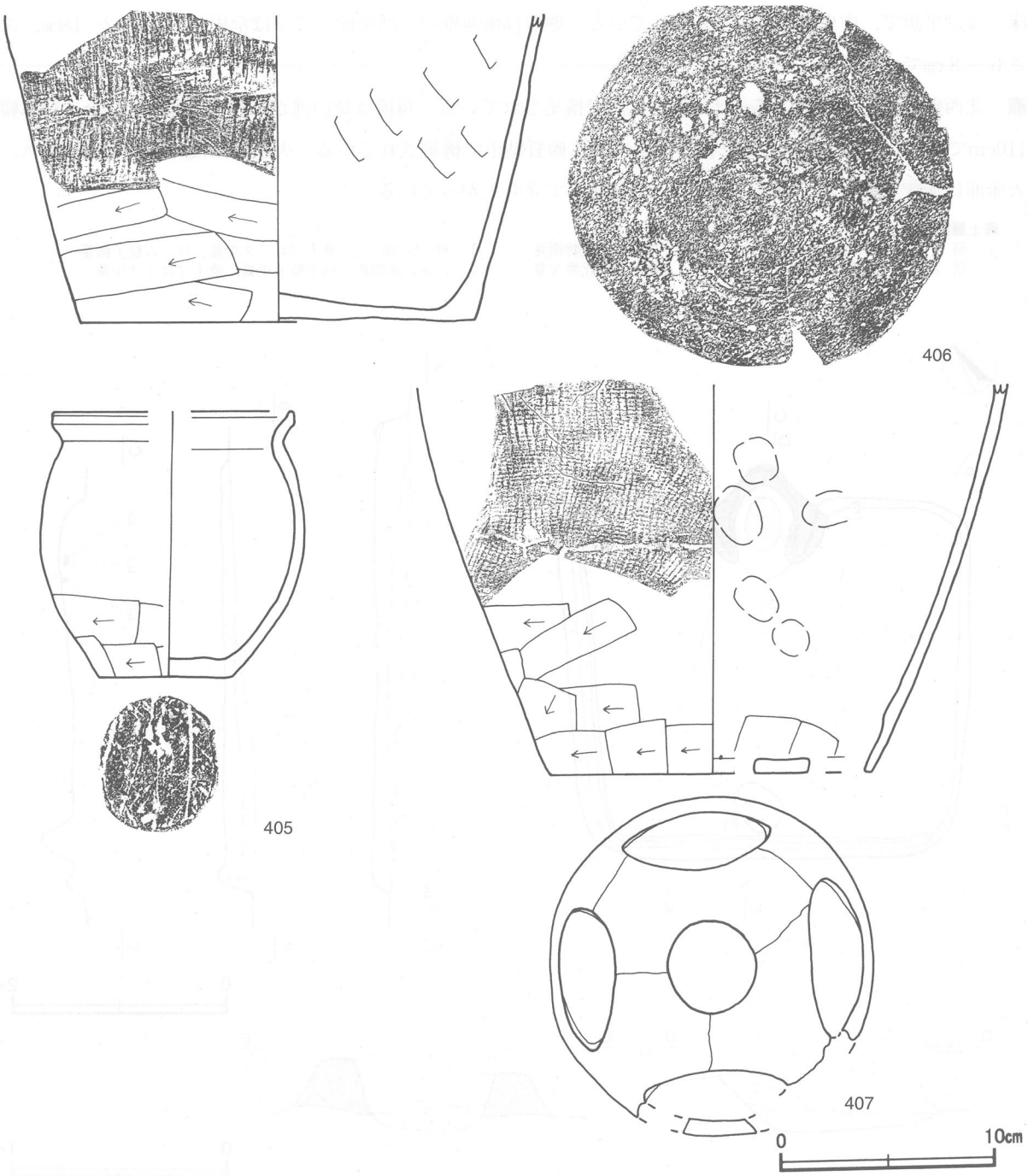
ピット　1か所。P1は深さ30cmほどで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量　3　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片109点（坏類15，甕類94），須恵器片41点（坏類15，甕類26）が出土している。405～407は竈右側付近の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第151図　第35号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
405	土師器	甕	[11.0]	12.3	6.1	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口辺部横ナデ，体部外面下位ヘラ削り，底部木葉痕	北壁床面	60%
406	須恵器	甕	—	(14.3)	18.2	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部外面縦位の平行叩き，下位ヘラ削り	北壁床面	30%
407	須恵器	甑	—	(17.9)	15.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面格子目の平行叩き，下位ヘラ削り，5孔	北壁床面	30% PL40

第51号住居跡（第152・153図）

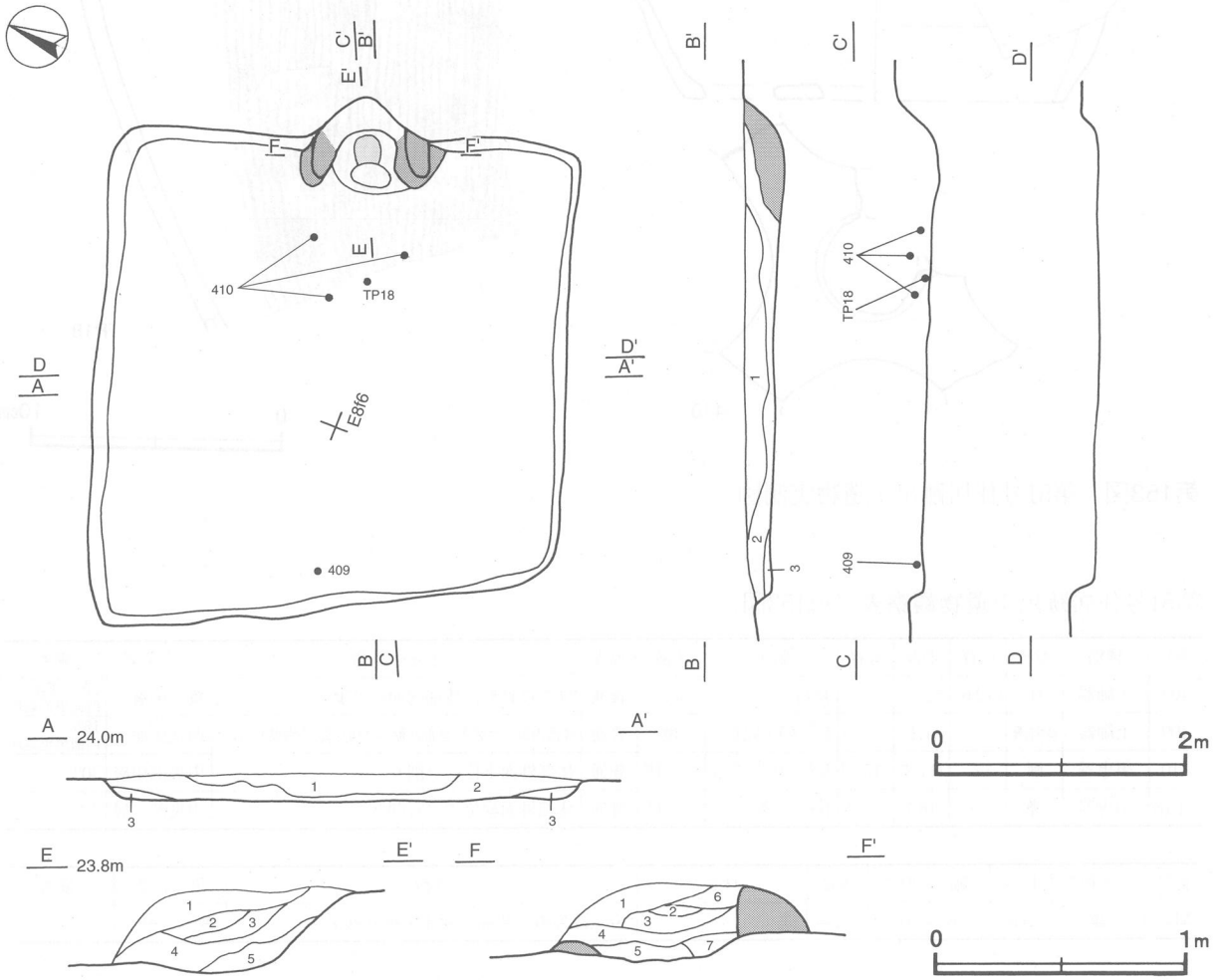
位置　調査区東部のＥ８e6区，標高23.6mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.90m，短軸3.80mほどの方形で，主軸方向はＮ－70°－Ｅである。壁高は12～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。ややしまりはあるものの硬化した部分は見られない。

竈　東壁中央部やや南側を壁外に35cmほど掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで70cm，袖部幅100cmである。袖部はわずかに遺存し，壁側面に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は赤変している。煙道は，緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物少量
4　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量



第152図　第51号住居跡実測図

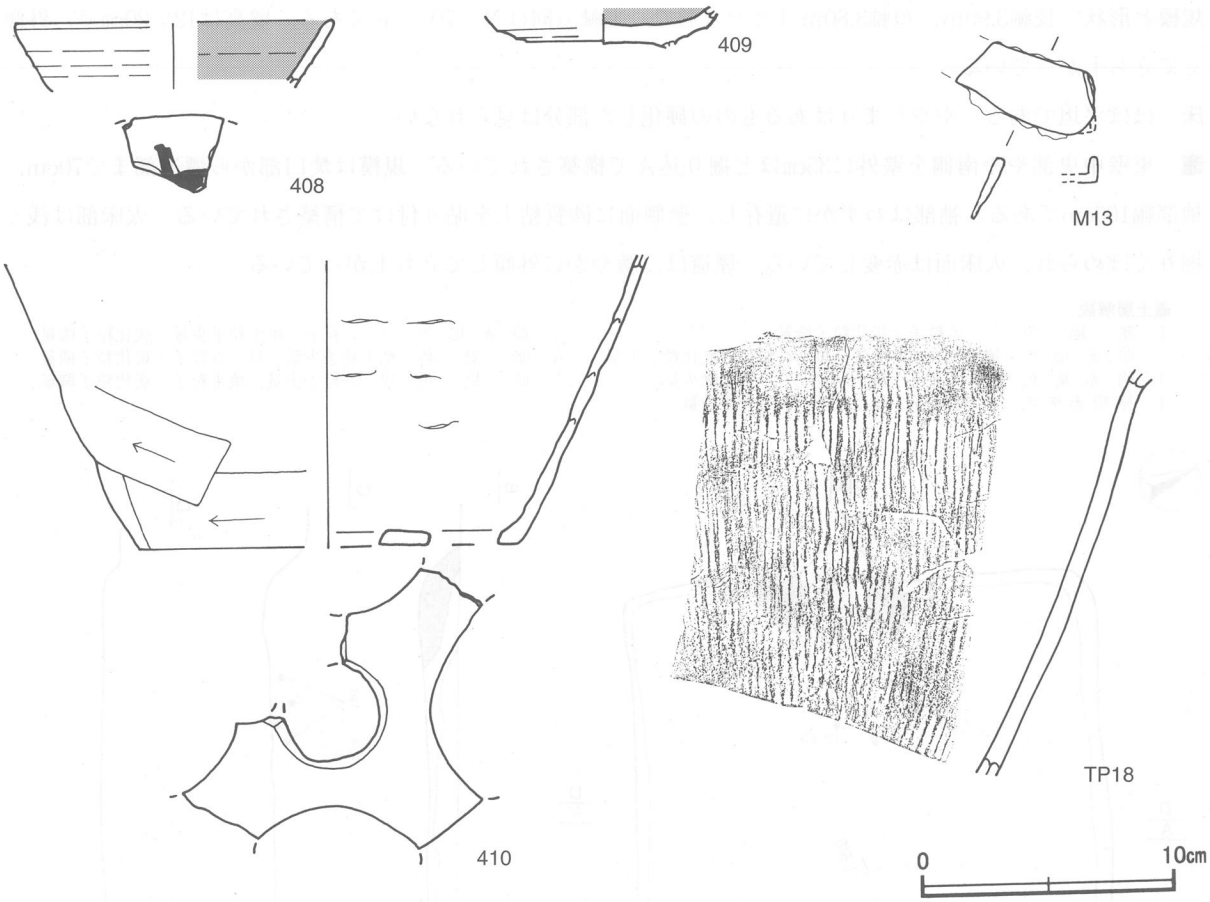
ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

覆土　3層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片185点（坏類25，甕類160），須恵器片41点（坏類2，甕類39），鉄製品1点（鎌）が出土している。409は西壁の床面，TP18は中央部の床面，M13は覆土下層からそれぞれ出土している。また，410は中央部の覆土中層，408は覆土中層から出土しており混入である。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第153図　第51号住居跡出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表（第153図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
408	土師器	坏	[12.6]	(2.7)	－	長石	にぶい橙	普通	ロクロ整形，体部内面ヘラ磨き	覆土中層	10%　墨書[□] 内面黒色処理
409	土師器	高台付椀	－	(1.4)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き，底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	西壁床面	15% 内面黒色処理
410	須恵器	甑	－	(11.3)	[15.2]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面下位ヘラ削り	中央部中層	30%
TP18	須恵器	甕	－	(16.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位の平行叩き	中央部下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M13	鎌	(5.5)	2.6	0.3	(12.4)	鉄	刃先部欠損，基部は全体を折り返す	覆土下層	

(2) 土坑

第28号土坑（第154図）

位置　調査区西部のＧ３h1区，標高19.3～19.5mほどの南西への斜面部に位置している。

重複関係　第16号住居跡の西壁を掘り込んでいる。

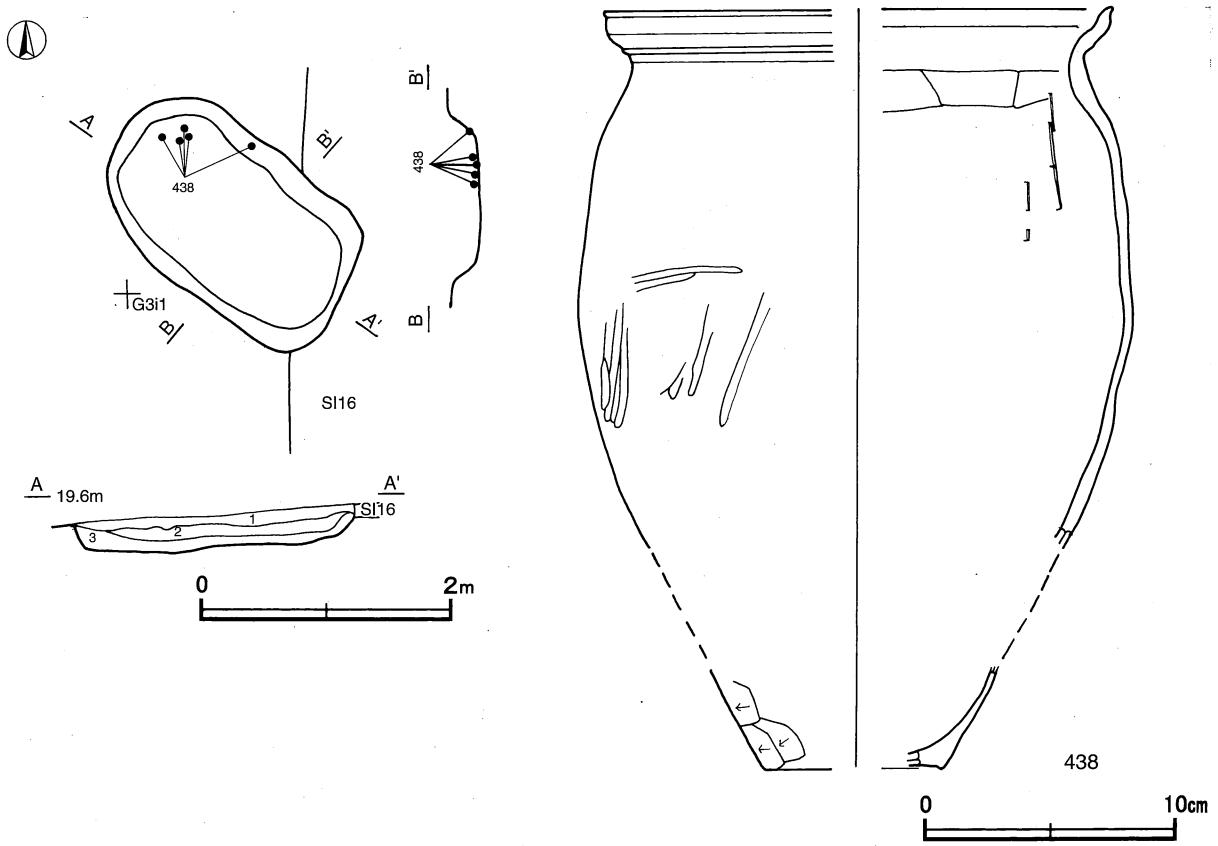
規模と形状　長軸2.20m，短軸1.30mほどの隅丸長方形で，深さは26cmほどである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土　３層からなり，ロームブロックを多く含んだ人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　土師器片15点（坏類１，甕類14），須恵器片12点（坏類6，甕類６）が出土している。ほとんどが細片で，438は北部の底面から散在して出土している。

所見　形状や土質などから墓壙と考えられ，時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。



第154図　第28号土坑・出土遺物実測図

第28号土坑遺物観察表（第154図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
438	土師器	甕	[20.0]	[30.0]	[7.0]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，下位ヘラ削り，内面ヘラナデ	北部底面	40%

5　近代の遺構と遺物

今回の調査で，炭焼き窯跡１基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

第１号炭焼き窯跡（第155図）

位置　調査区西部のＢ14e5区，標高24.4mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径6.25m，短径1.90mほどの不整楕円形で，長径方向はＮ－35°－Ｅである。

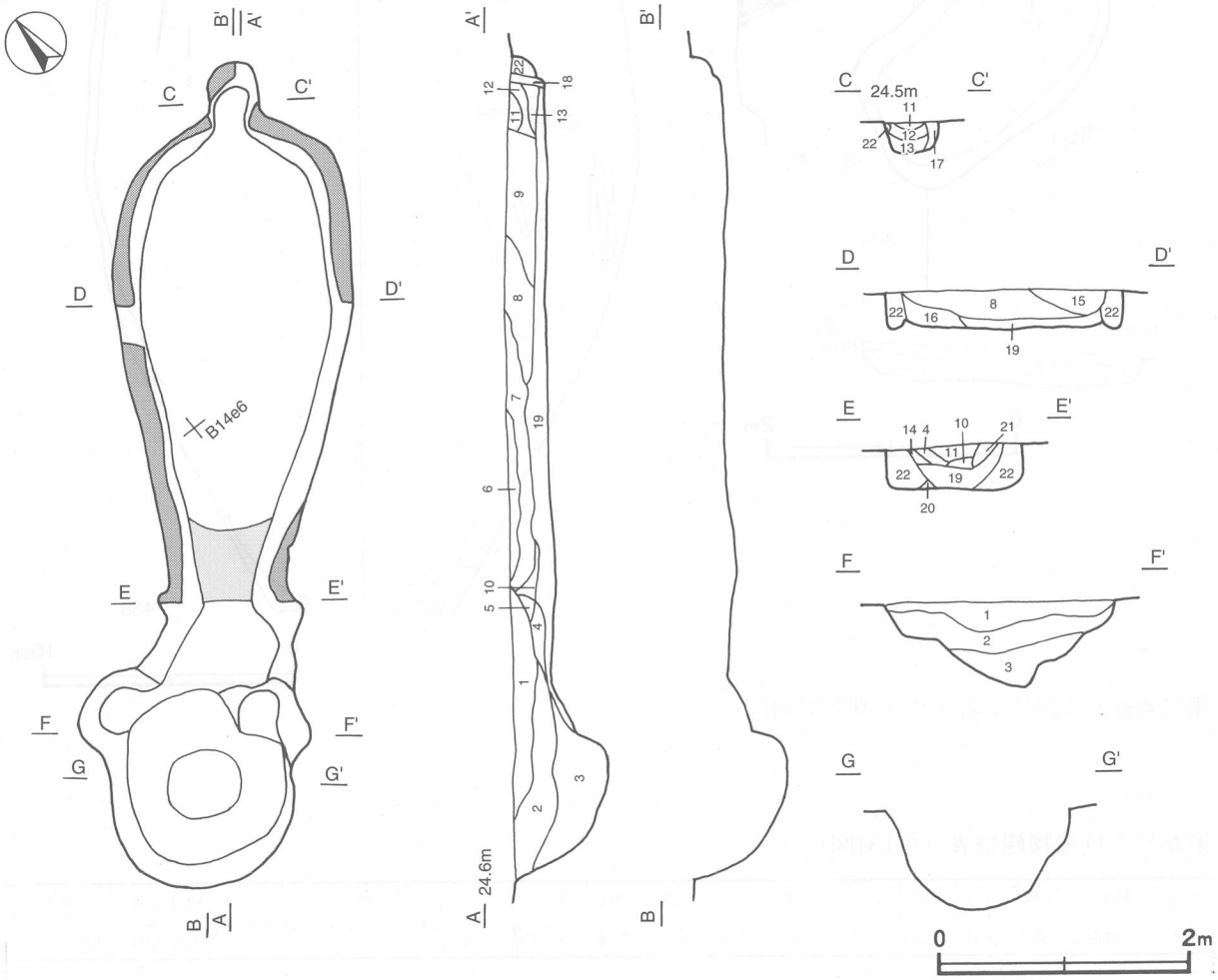
前庭部　長径0.8m，短径0.7mほどの不整円形で，底面は平坦である。

焚口部　径1.5mほどの円形で，底面は皿状である。

炭化室　長径3.70m，短径1.90mほどの楕円形で，底面は平坦である。天井部は崩落しているが，遺存する壁は直立し，高さは30cmほどである。壁は粘土と砂粒で構築されており，厚さは15cmほどである。壁面及び窯底は，被熱により赤変硬化している。

煙道部　奥壁の中央部に位置している。直線的に外傾して立ち上がっている。口径30cm，厚さ３～10cmほどで粘土と砂粒で円筒状に構築している。

覆土　22層からなり，第６～10・15・21層は天井部の崩落した土層，第19層は窯底部の堆積層，第22層は壁の構築材の層である。



第155図　第１号炭焼き窯跡実測図

土層解説

1	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック多量，炭化物中量
2	暗　褐　色	ロームブロック・炭化物中量，焼土ブロック少量
3	暗　褐　色	ロームブロック多量，炭化物中量，焼土ブロック少量
4	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量
5	暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック中量，粘土ブロック微量
6	暗　褐　色	粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
7	にぶい赤褐色	炭化粒子・粘土ブロック多量，ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量
8	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック中量
9	暗赤褐色	ロームブロック・炭化物・粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
10	赤　褐　色	焼土粒子多量，粘土ブロック中量，炭化粒子少量
11	黒　褐　色	粘土粒子多量
12	暗　褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
13	暗　褐　色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物微量
14	黒　褐　色	炭化物中量，ローム粒子・焼土ブロック少量
15	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化物少量
16	黒　　色	炭化物多量
17	極暗赤褐色	粘土粒子多量
18	暗赤褐色	ロームブロック多量，炭化粒子・粘土ブロック中量，焼土ブロック少量
19	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物多量，ローム粒子中量，粘土ブロック少量
20	にぶい赤褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量，焼土粒子少量
21	暗赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
22	にぶい黄橙色	粘土ブロック多量，ロームブロック少量

遺物出土状況　出土していない。

所見　出土遺物がなく，明確な時期判断は困難であるが，形状から判断して近代と考えられる。

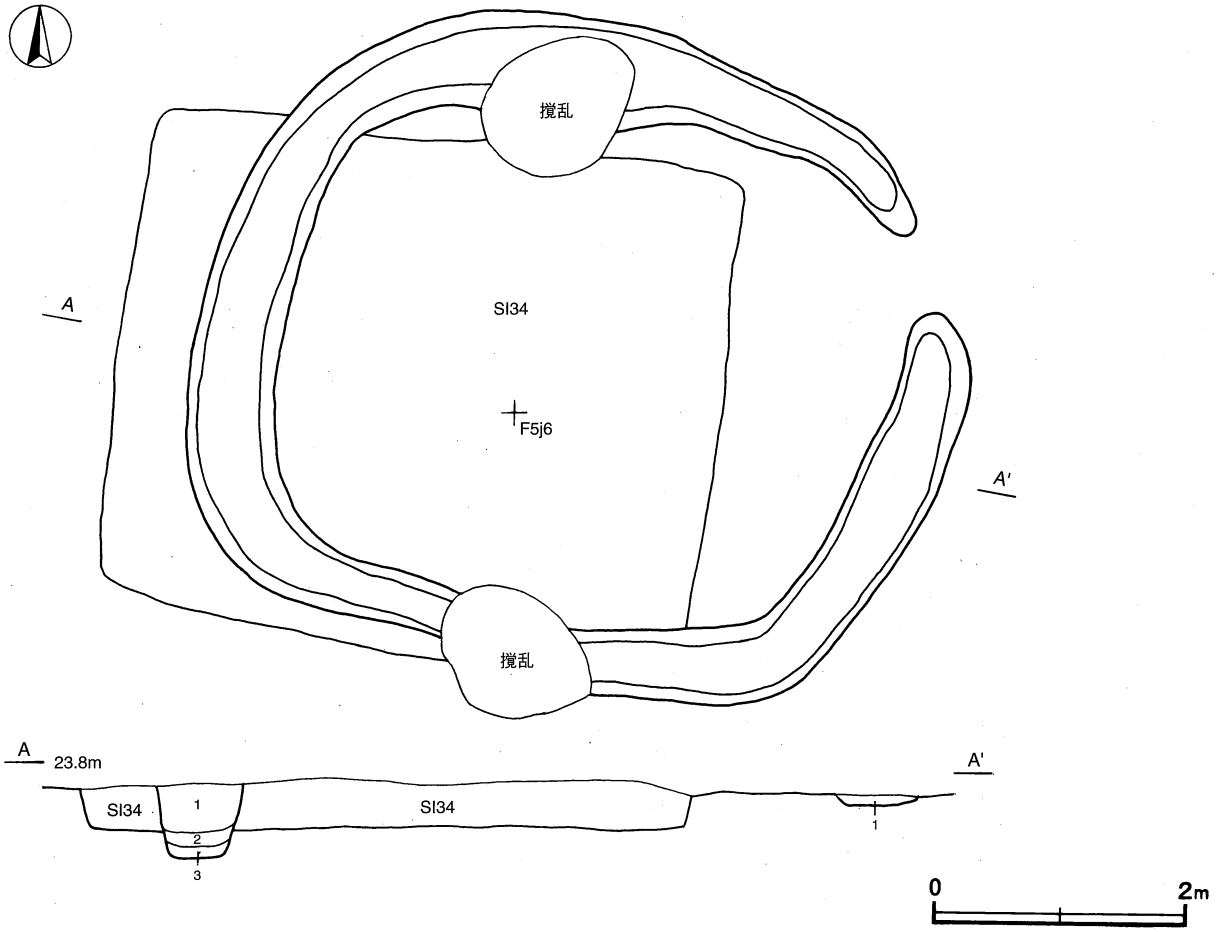
6　その他の遺構と遺物

今回の調査で，時期の明確でない不明遺構１基，溝３条，道路跡１条，井戸跡１基，土坑32基，遺物包含層１か所を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 不明遺構

第１号不明遺構（第156図）

位置　調査区中央部のＦ５i5区，標高23.7mほどの平坦な台地上に位置している。



第156図　第１号不明遺構実測図

重複関係　第34号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長径6.00m，短径5.20mほどの楕円形状に巡る溝で，上幅0.45～0.72m，下幅0.15～0.40m，深さ35～60cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，断面形はU字状を呈している。西部の深さは60cmほどであるが，東部は浅く一部切れている。

覆土　3層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量

遺物出土状況　土師器片51点（坏類17，甕類34）が出土している。ほとんどが細片で，図示できるものはない。

所見　時期は，第34号住居跡を掘り込んでいることから，5世紀後葉以降であるが，出土土器がすべて細片であり，明確な時期判断は困難である。

(2) 溝跡

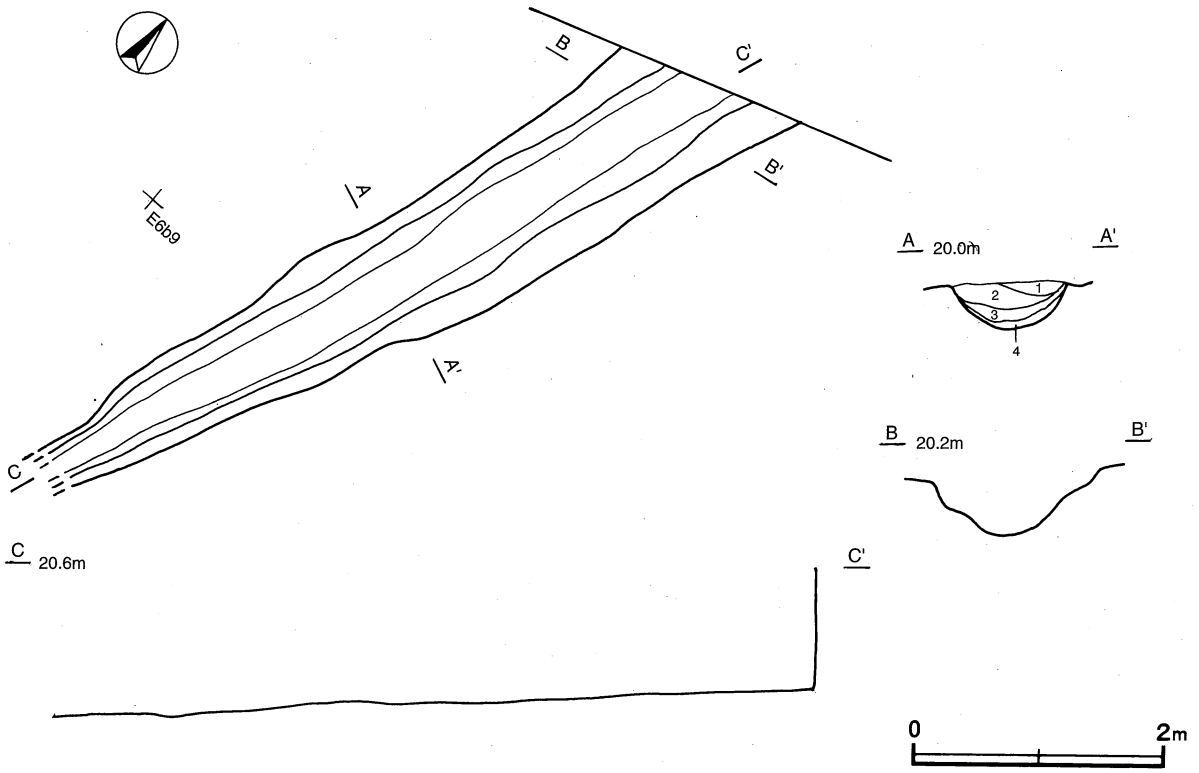
第1号溝跡（第157図）

位置　調査区中央部のE6a9区～E6b9区，標高19.8～20.0mほどの西斜面部に位置している。

規模と形状　E6a9区から南方向（N－20°－E）に直線的に延び，末端は谷に消えている。北方向は調査区域外に延びているため，全体の規模は不明である。確認できた長さは5.90mで，上幅0.40～1.10m，下幅0.10～0.20m，深さ35～42cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，断面形はU字状を呈している。

覆土　3層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　極　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量



第157図　第1号溝跡実測図

遺物出土状況　出土していない。

所見　出土遺物がなく，時期は不明である。

第２号溝跡　（第158図）

位置　調査区中央部のＥ８h3区～Ｅ８i2区，標高22.9mほどの平坦な台地上に位置している。

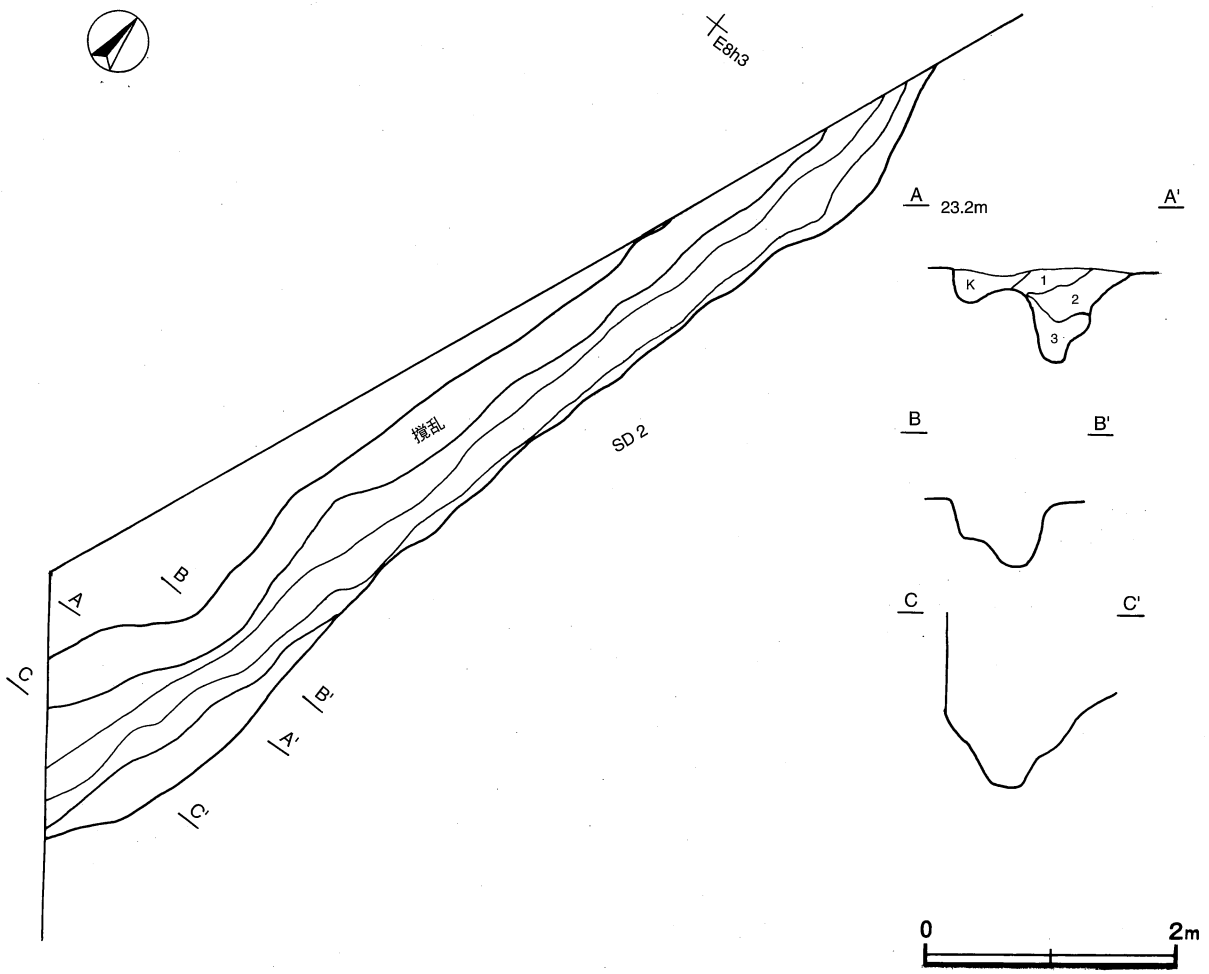
規模と形状　Ｅ８h3区から南方向（Ｎ－15°－Ｅ）に直線的に延び，さらに調査区域外に延びているため，全体の規模は不明である。また，西側壁の一部は溝に並行して走る攪乱によって壊されている。確認できた長さは8.90mで，上幅0.50～0.90m，下幅0.15～0.25m，深さ25～75cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，断面形はＵ字状を呈している。

覆土　３層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　出土していない。

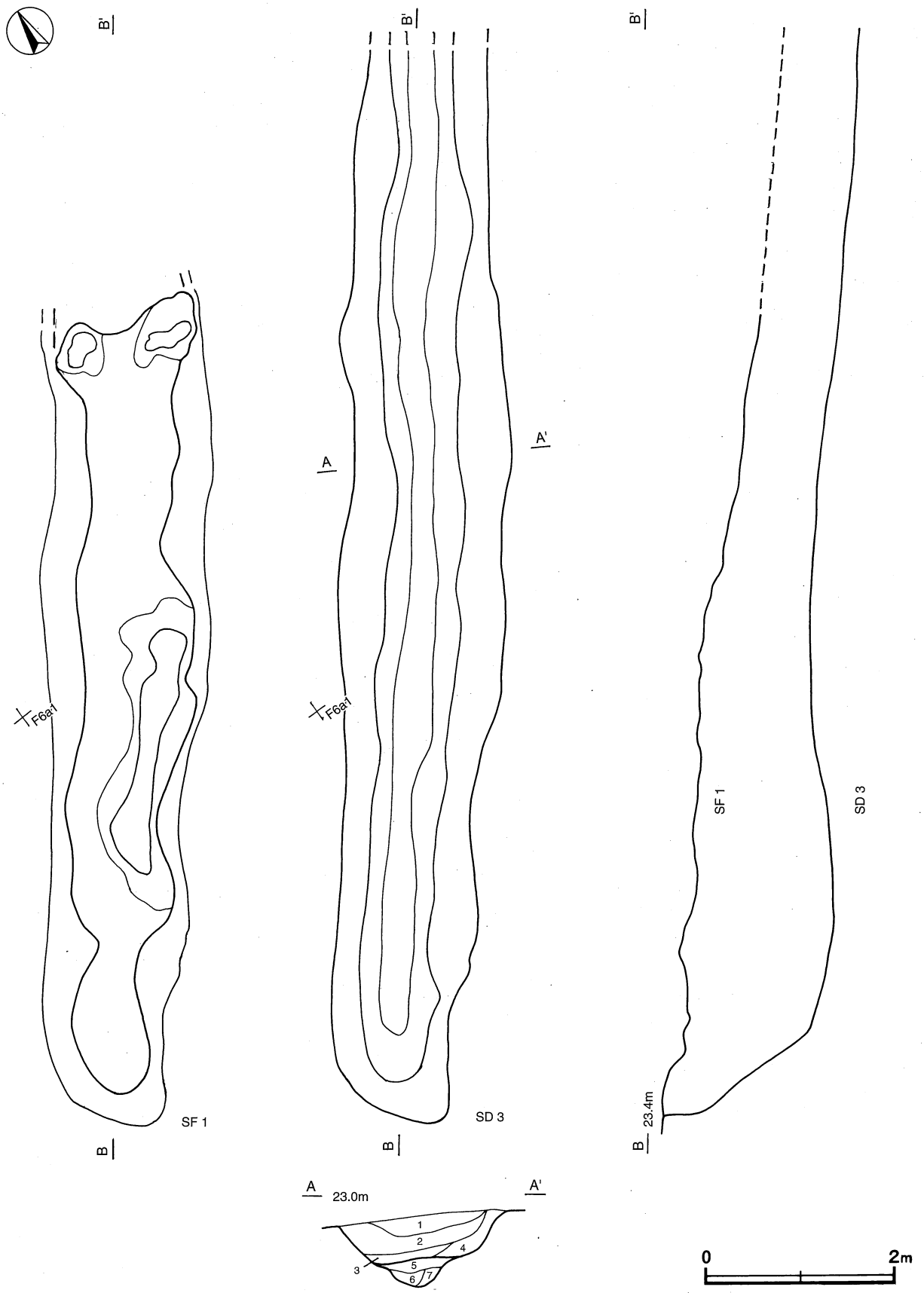
所見　出土遺物がなく，時期は不明である。



第158図　第２号溝跡実測図

第３号溝跡（第159図）

位置　調査区中央部のＥ６h3区～Ｆ５a0区，標高22.2～23.2mほどの北東への斜面部に位置している。



第159図　第３号溝跡・第１号道路跡実測図

重複関係　覆土上層に第１号道路跡が構築されている。

規模と形状　Ｆ５a0区から北東方向（Ｎ－35°－Ｅ）に直線的に延び，北東側は谷に向かって湮滅している。確認できた長さは11.20mで，上幅0.45～0.85m，下幅0.15～0.20m，深さ35～80cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり，断面形はＵ字状を呈している。

覆土　３層からなり，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
5　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　出土していない。

所見　出土遺物がなく，時期は不明である。

(3) 道路跡

第１号道路跡（第159図）

位置　調査区中央部のＥ６i1区～Ｆ５a0区，標高23.2～23.4mほどの北東への斜面部に位置している。

重複関係　第３号溝跡の覆土上層に構築されている。

規模と形状　Ｆ５a0区から北東方向（Ｎ－35°－Ｅ）に直線的に延びているが，撹乱のため湮滅している。確認できた長さは4.10m，幅0.40～0.60m，深さ40cmほどである。断面は緩やかな皿状である。

覆土　４層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第３・４層の下層に当たる第３号溝の第５層の上面が硬化している。

土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片16点，土師器片12点（坏類5，甕類７），須恵器片３点（甕類）が出土している。いずれも細片で図示できるものはない。また，覆土中・上層から出土しており，埋没時に流れ込んだものと考えられる。

所見　土層観察から人為的に構築された様子は認められないが，自然堆積した極暗褐色土が人の往来とともに踏み固められ，硬化したものと考えられる。付近には古墳時代中期後葉から後期前葉の住居が所在し，谷に降りる道路として利用されたと想定されるが，明確でない。

(4) 井戸跡

第１号井戸跡（第160図）

位置　調査区東部のＣ12h2区，標高24.0mほどの平坦な台地上に位置している。

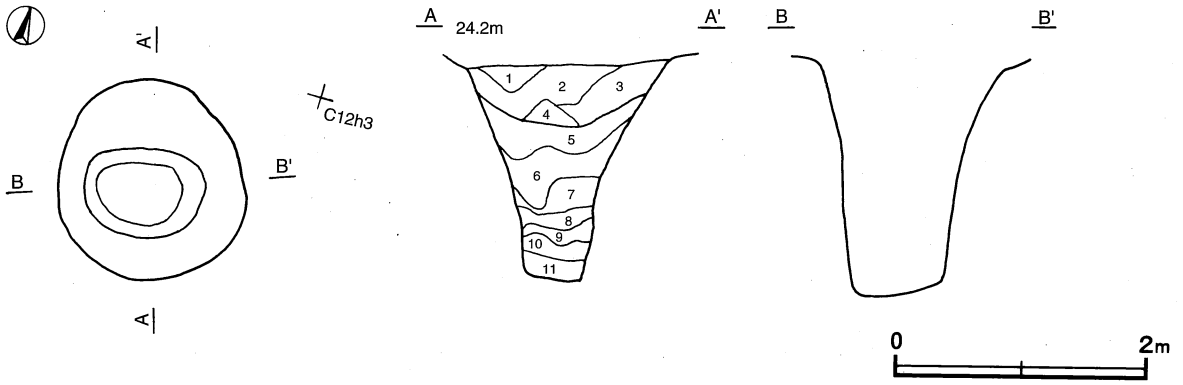
規模と形状　長径1.60m，短径1.44mほどの楕円形で，深さは166cmほどである。底面は平坦で，壁は外傾し，上部は漏斗状である。

覆土　11層からなり，ロームブロックを多く含み，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物中量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
6　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子少量
8　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
11　にぶい黄褐色　ロームブロック・粘土ブロック中量

遺物出土状況　出土していない。

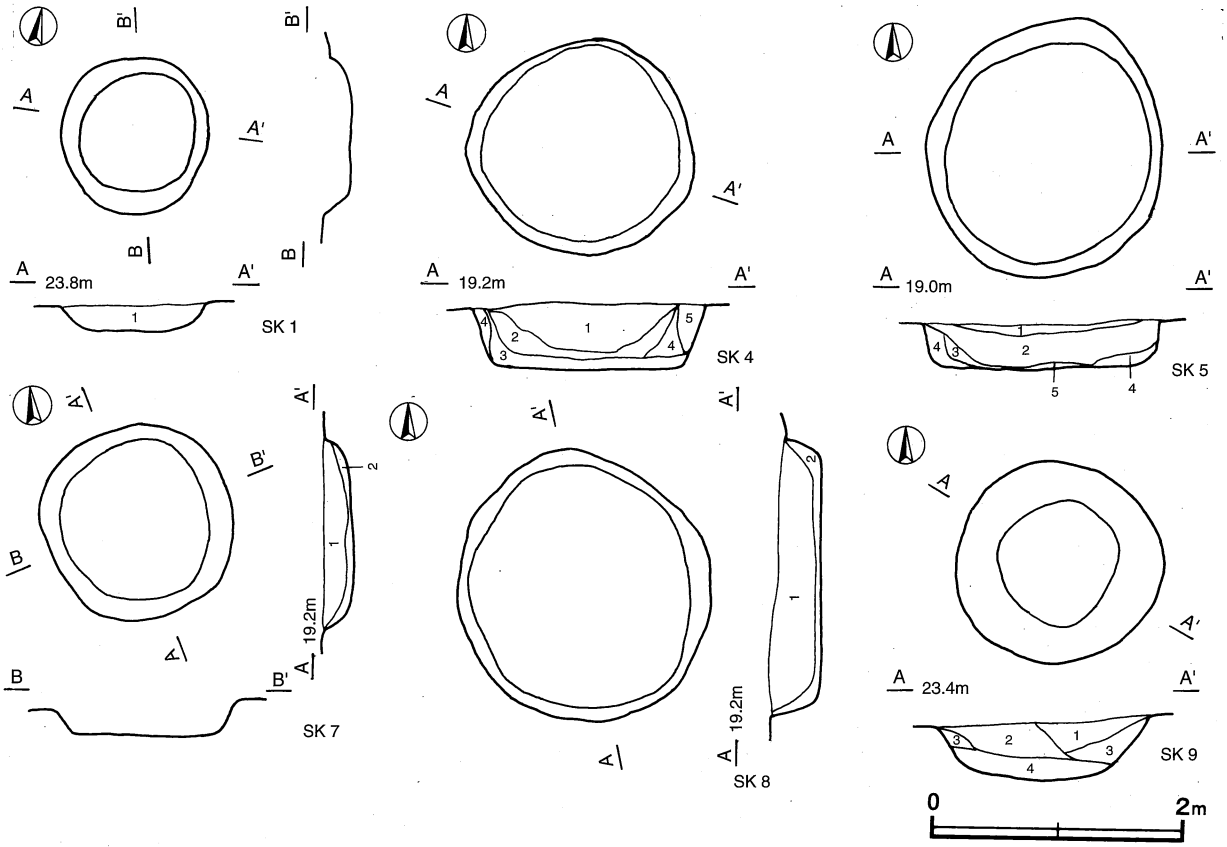
所見　出土遺物がなく，時期は不明である。



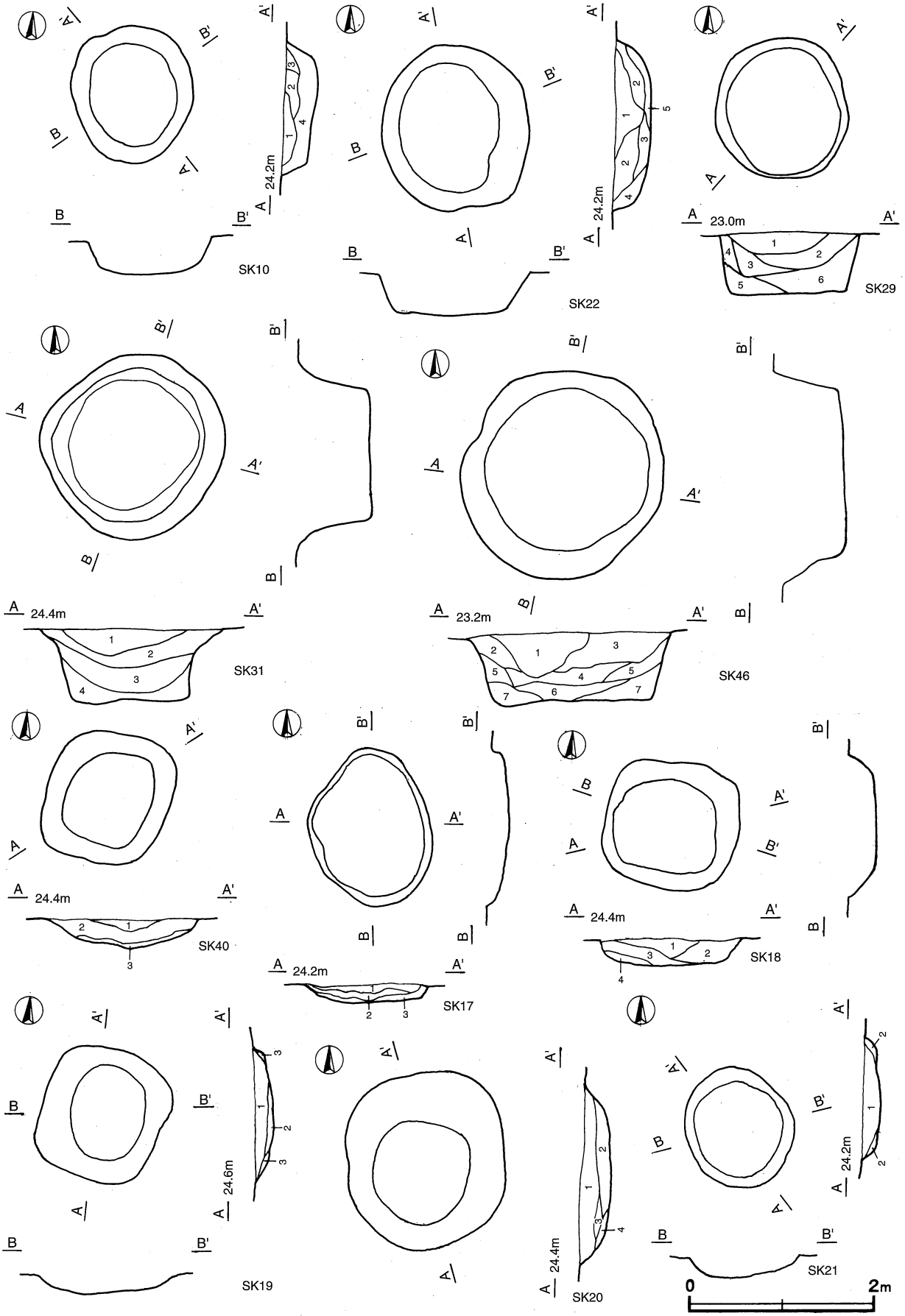
第160図　第１号井戸跡実測図

(5) 土坑（第161～164図）

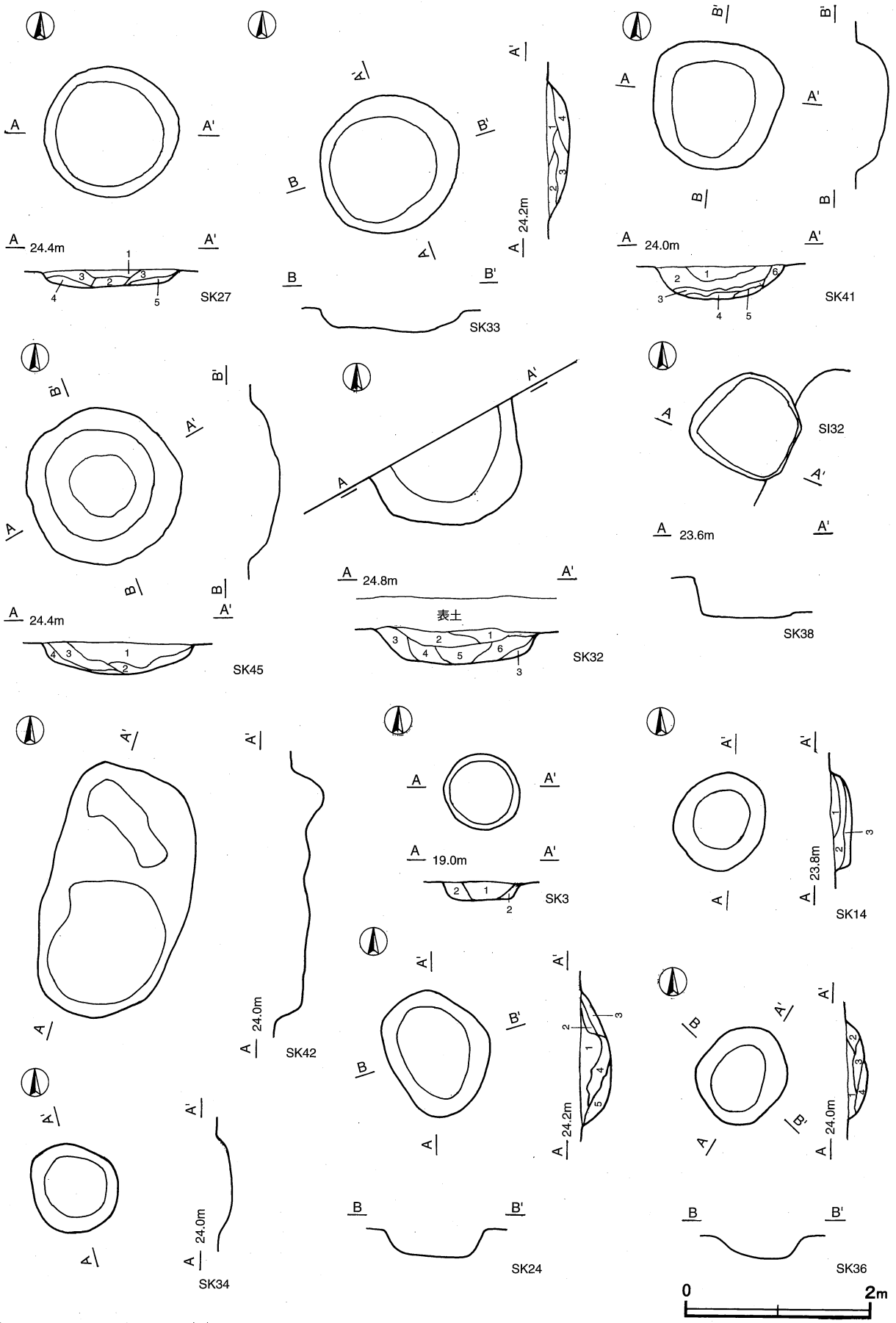
ここでは，時期及び性格が不明な32基の土坑について一覧表にて紹介し，あわせて実測図と土層解説を記載する。



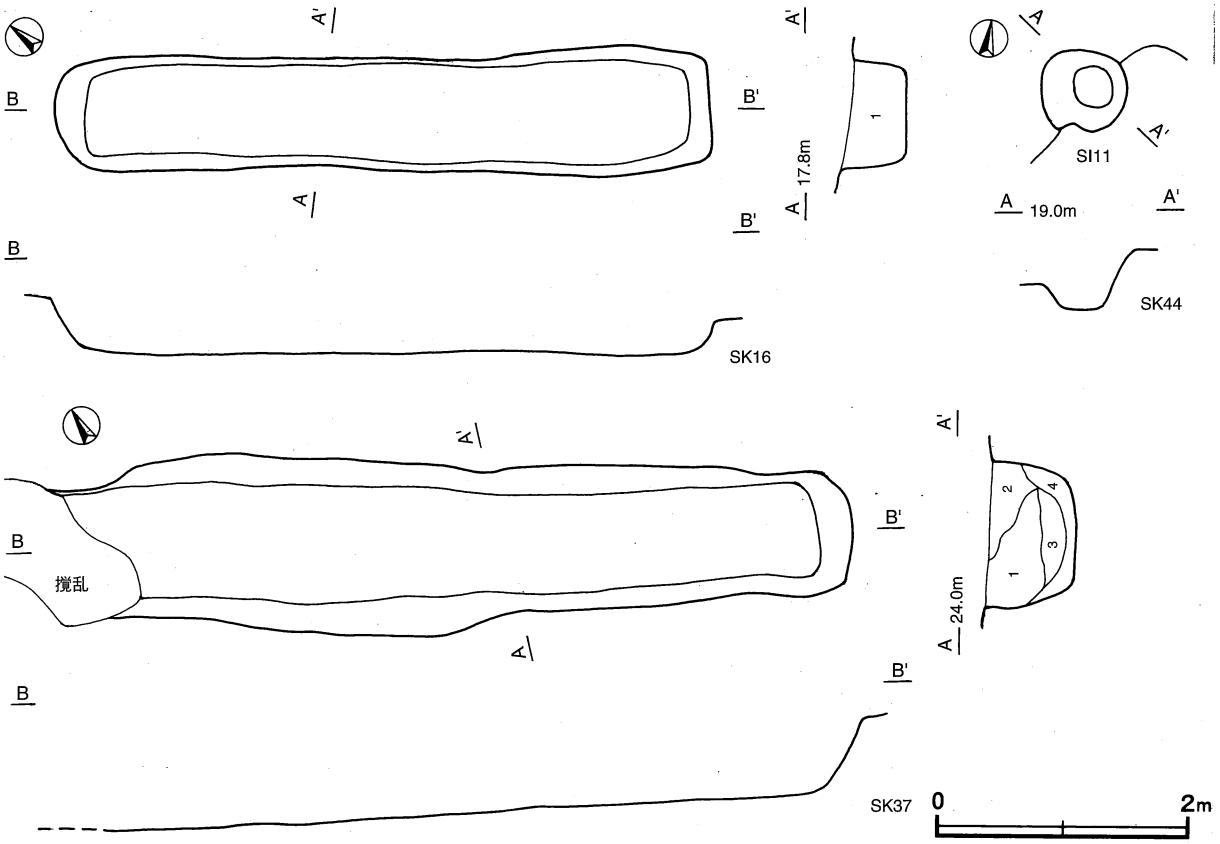
第161図　土坑実測図（1）



第162図　土坑実測図（2）



第163図　土坑実測図（3）



第164図　土坑実測図（4）

第１号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子･炭化粒子少量,焼土粒子微量

第３号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子･炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量,炭化物少量

第４号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量,炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量,炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量
4　暗　褐　色　ローム粒子･炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量

第５号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量,炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子･炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量

第７号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量,炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量,炭化粒子微量

第８号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック･炭化粒子少量,焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量,炭化粒子微量

第９号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子･炭化粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子中量,ローム粒子･焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量,焼土粒子微量
4　黒　褐　色　炭化粒子多量,ローム粒子少量,焼土粒子微量

第10号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量,炭化粒子少量,焼土粒子微量
2　黒　褐　色　炭化物多量,ロームブロック･焼土粒子少量
3　黒　褐　色　炭化物中量,ロームブロック･焼土粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量

第14号土坑土層解説
1　暗　褐　色　炭化物少量,ローム粒子･炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック･焼土粒子･炭化物少量
3　黒　褐　色　炭化物中量,ロームブロック･焼土粒子少量

第16号土坑土層解説
1　黒　　色　炭化物多量,焼土粒子少量

第17号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化物中量,ローム粒子･焼土粒子微量
2　黒　　色　炭化物多量,ローム粒子･焼土粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック多量,炭化粒子微量

第18号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック･炭化物少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量,炭化物微量
3　黒　褐　色　ロームブロック･炭化物少量
4　黒　　色　炭化物多量,ロームブロック少量

第19号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　炭化物中量，ローム粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック多量

第20号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック多量
4　褐　　色　ロームブロック多量，炭化物少量

第21号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
2　褐　　色　ロームブロック多量

第22号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
2　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子微量
4　明　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　黒　　色　炭化物多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量

第24号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化物微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量

第27号土坑土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
4　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック多量

第29号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量

第31号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量

第32号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第33号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　炭化物少量，ローム粒子微量
4　黒　褐　色　炭化物中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第36号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量

第37号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物粒子微量
3　褐　　色　炭化物多量，ローム粒子・焼土粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量

第40号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化物多量，焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量

第41号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　褐　　色　炭化粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　炭化物中量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子少量

第45号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
2　黒　褐　色　炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量

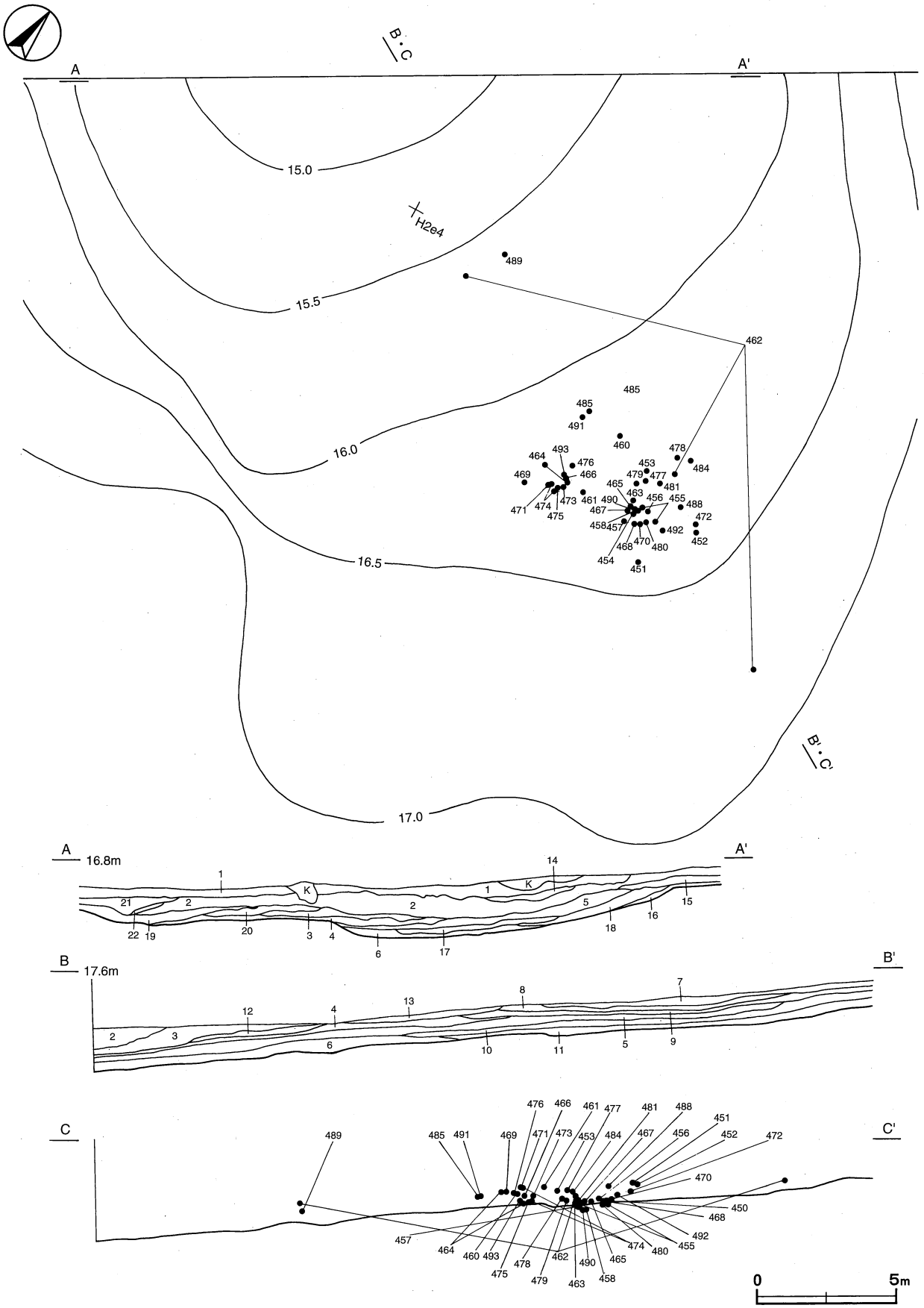
第46号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック多量

(7) 遺物包含層

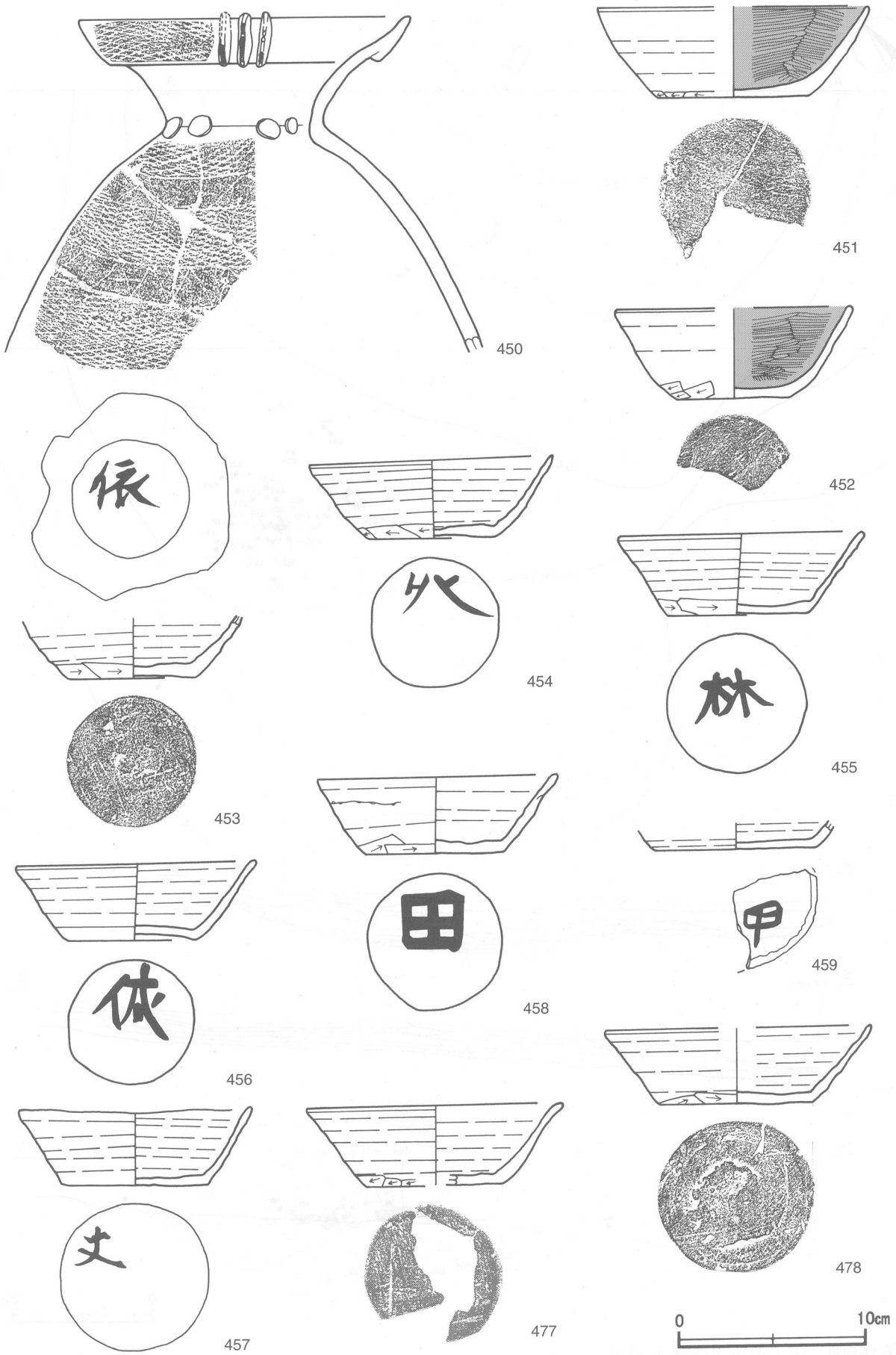
第１遺物包含層（第165～169図）

位置　調査区西部のＨ２d1区～Ｈ３j1区，標高15.6～18.2mほどの谷津部である。

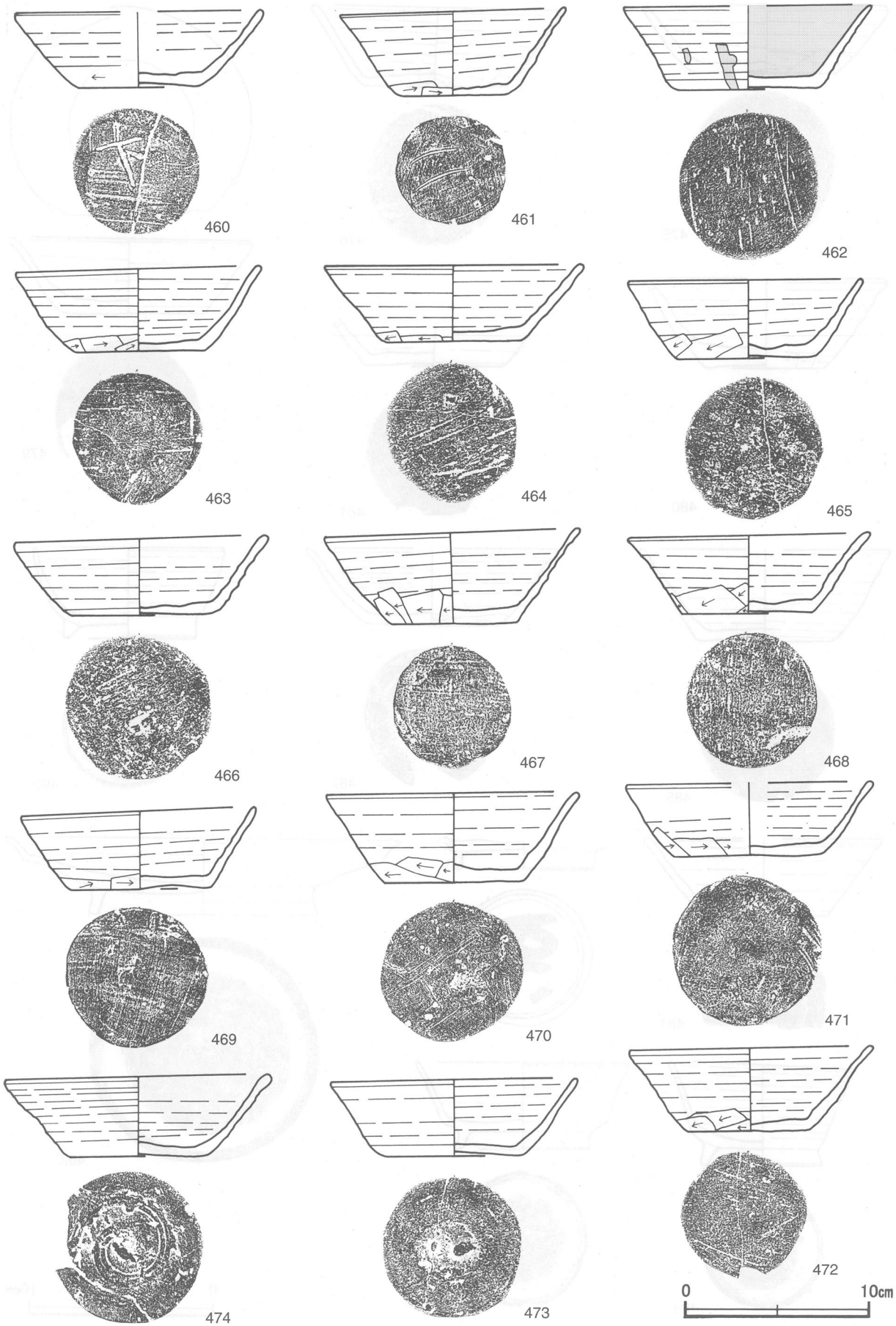
規模と形状　調査区西部の北に向かう谷津部であり，調査した範囲は，東西36m，南北24m，厚さは最大で90cmほどである。



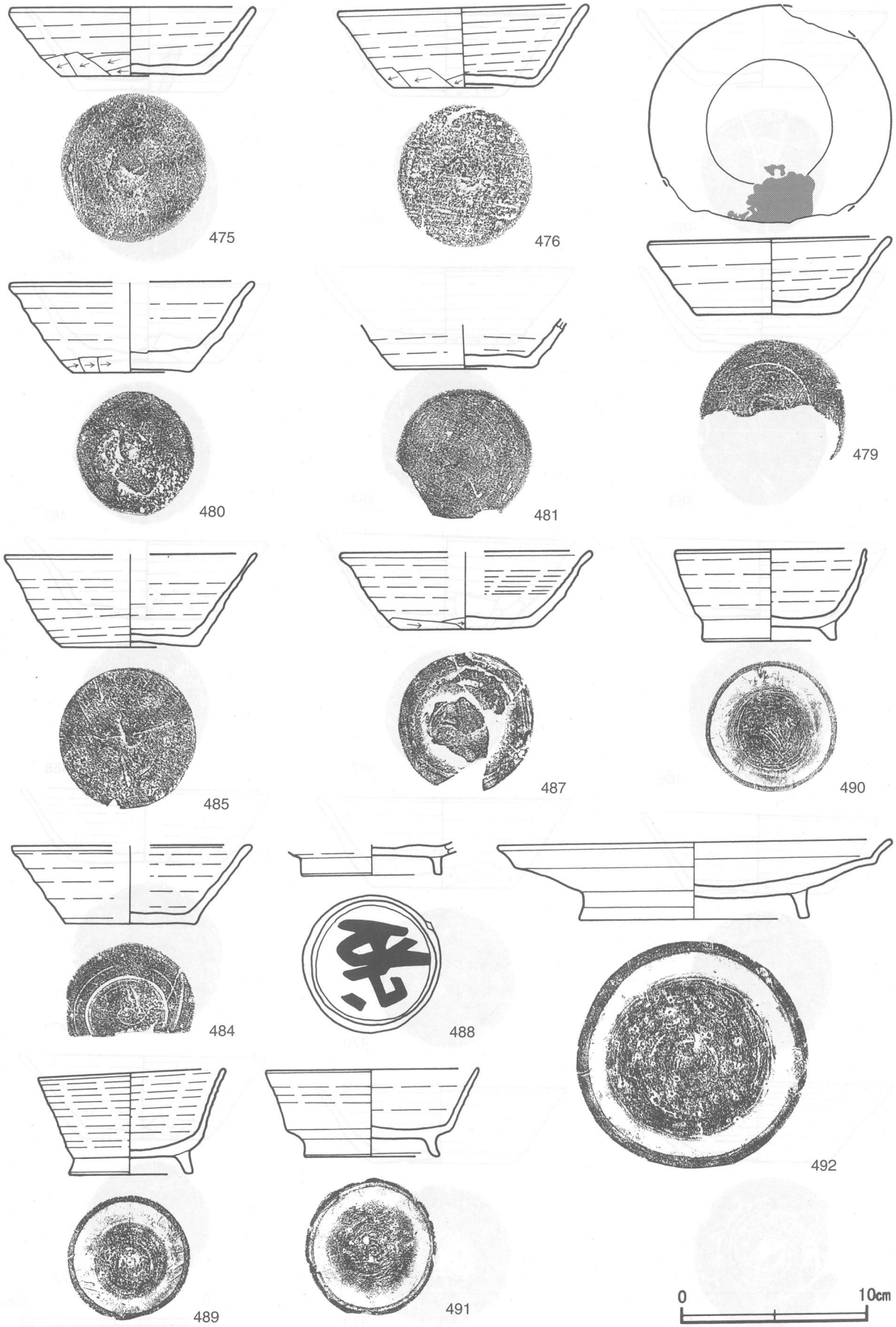
第165図　第１遺物包含層実測図



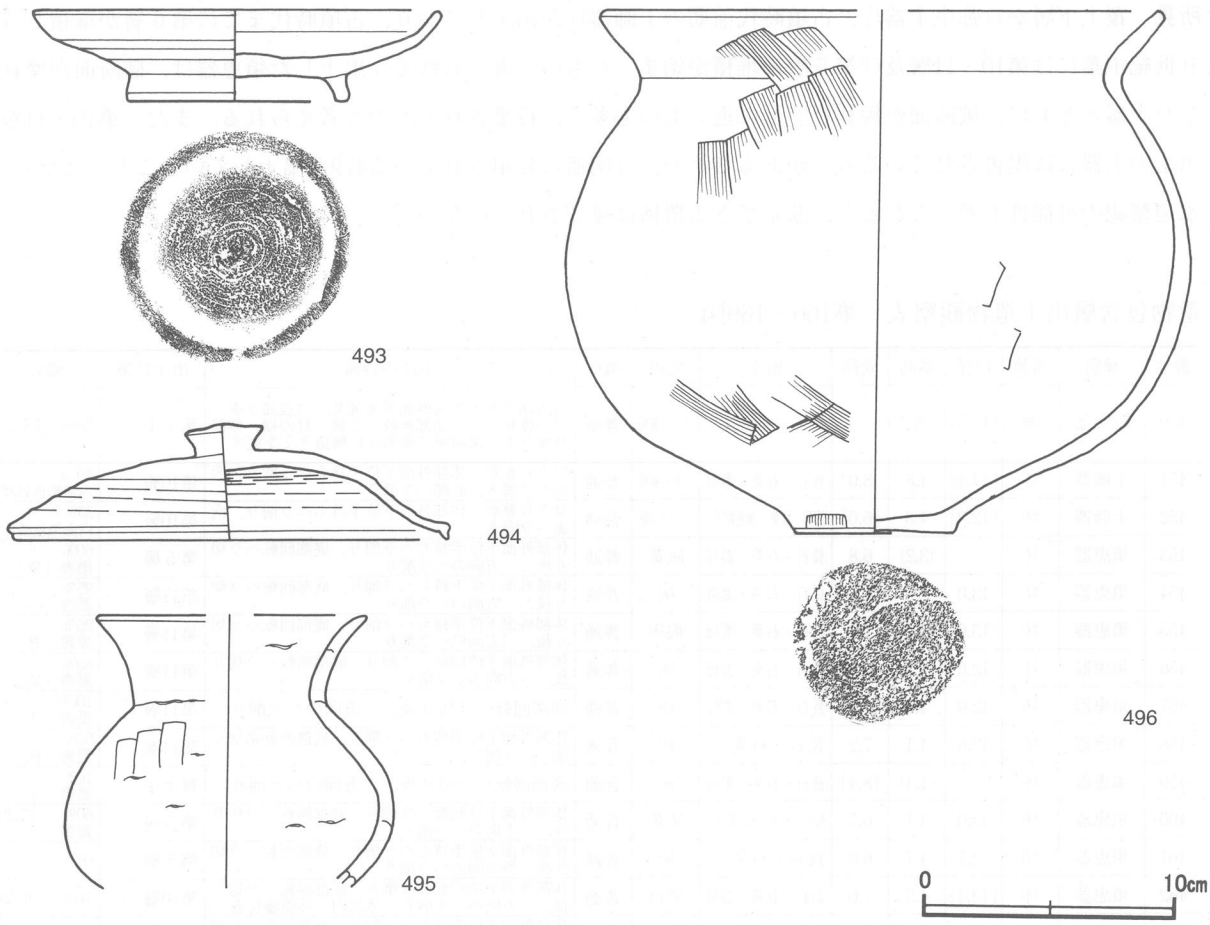
第166図　第１遺物包含層出土遺物実測図（1）



第167図　第１遺物包含層出土遺物実測図（2）



第168図　第１遺物包含層出土遺物実測図（3）



第169図　第１遺物包含層出土遺物実測図（4）

覆土　22層からなり，谷底に向かって自然に流れ込んだ黒褐色土や黒色土の堆積層である。

土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒	褐	色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4	黒		色	ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒		色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒		色	砂粒・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子少量
8	黒	褐	色	ローム粒子少量
9	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
10	黒		色	砂粒中量，粘土粒子少量，ローム粒子微量
11	黒	褐	色	砂粒・粘土粒子少量，炭化粒子微量
12	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子少量
13	黒	褐	色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
14	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子少量
15	黒	褐	色	ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
16	暗	褐	色	ロームブロック多量，粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
17	黒		色	粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
18	黒		色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土ブロック微量
19	黒	褐	色	ロームブロック中量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
20	黒	褐	色	ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子微量
21	黒		色	ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量
22	黒		色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片３点（壺），土師器片140点（坏類25，甕類115），須恵器片1320点（坏類1260，高台付坏26，盤２，甕31，蓋１）が出土している。谷の中央部から平安時代の須恵器坏が集中して出土しており，453・460・461・464・466・469・471～477・484・485・488・489・491は第10層の上面から第５層にかけて出土している。また，451・452・462は第10層，454～458・463・465・467・468・470・478～481・490・492・493は第11層からそれぞれ出土している。弥生土器片・古墳時代前期の甕は覆土下層からの出土であり，位置を特定することはできない。

所見　覆土下層から弥生土器片，古墳時代前期の土師器片が出土しており，古墳時代までに第６層が堆積し，９世紀中葉には第10・11層及び第５層の堆積が始まったものと考えられる。出土した須恵器は，破断面が摩耗した土器とともに，破断面が鋭利な完形に近いものも多く，投棄されたものと考えられる。また，第10・11層出土の土器には墨書されているものがあることや，灯明皿に転用されている479が出土していることなどから，水辺祭祀の可能性も考えられるが，断定できる遺構は確認されていない。

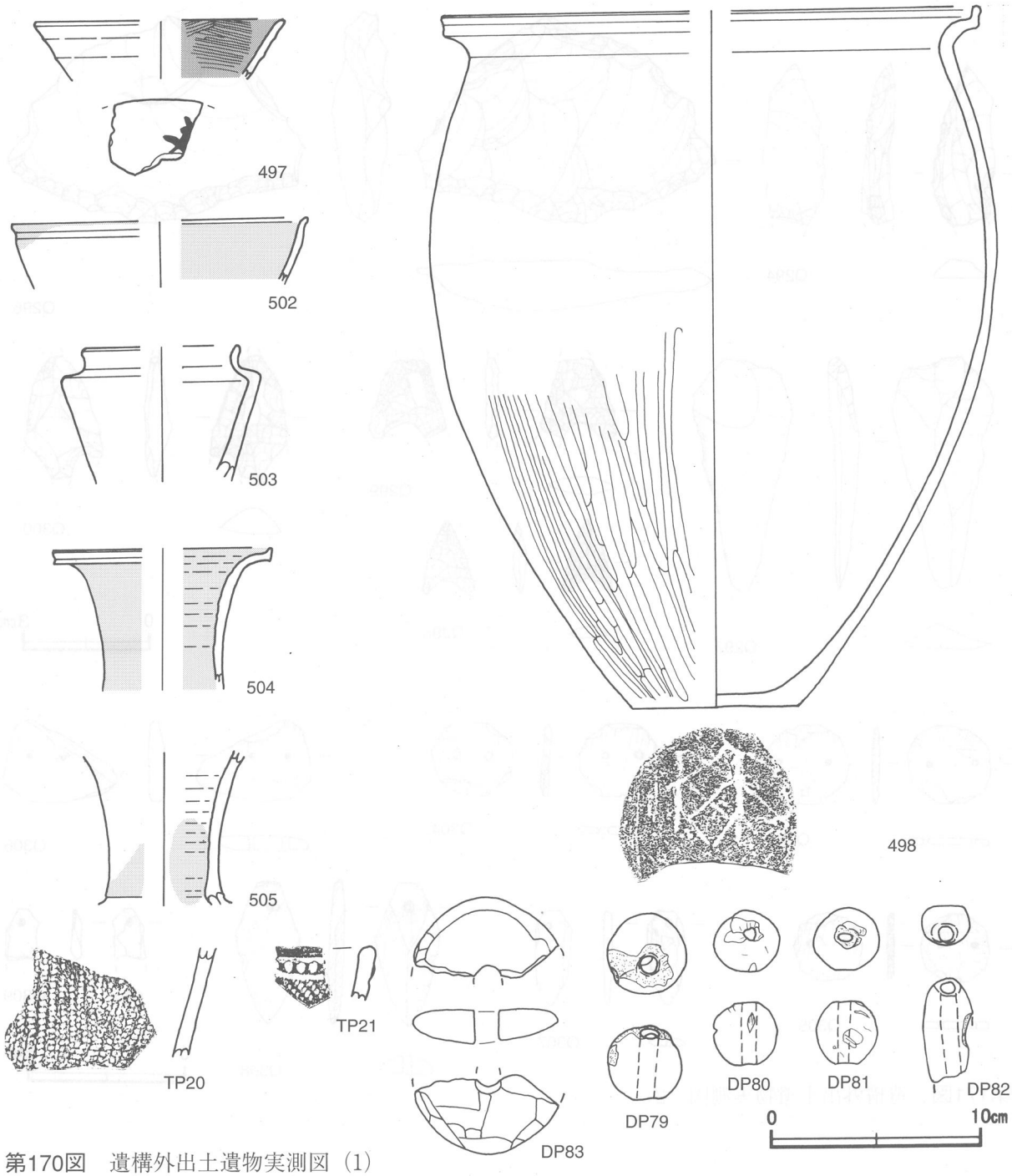
遺物包含層出土遺物観察表（第166～169図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
450	弥生土器	壺	[17.6]	(18.2)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部外面・体部外面単節縄文，口辺部３本一対の棒状浮文，頸部無紋・２個一対の瘤，体部外面２本の沈線間に鋸歯状に櫛描き文を施す	覆土中	30%　PL41
451	土師器	坏	[14.4]	4.8	8.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロ整形，体部外面下位手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き，底部ヘラ削り	第10層	40% 内面黒色処理
452	土師器	坏	[12.2]	4.8	[6.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	ロクロ整形，体部外面下位手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き	第10層	30% 内面黒色処理
453	須恵器	坏	－	(3.2)	6.8	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第５層	60% 墨書「依」
454	須恵器	坏	13.0	4.2	6.8	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第11層	95% 墨書「□」
455	須恵器	坏	13.0	4.4	7.4	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，二方向のヘラ削り	第11層	95% 墨書「林」
456	須恵器	坏	12.6	4.2	6.6	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面下位回転ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第11層	80% 墨書「依」
457	須恵器	坏	12.0	4.2	7.8	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第11層	100% 墨書「丈」
458	須恵器	坏	12.6	4.1	7.2	長石・石英	灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転糸切り後，ヘラ削り	第11層	95% 墨書「田」
459	須恵器	坏	－	(1.4)	[8.4]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り後，二方向のヘラ削り	覆土中	10% 墨書「甲」
460	須恵器	坏	[13.0]	4.1	6.7	長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	体部外面下位回転ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，二方向のヘラ削り	第５層	60%　PL39 箆書「下」
461	須恵器	坏	12.1	4.7	6.0	長石・石英	灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，多方向のヘラ削り	第５層	95%
462	須恵器	坏	[13.4]	4.5	7.6	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面下位回転ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り，体部内・外面漆付着	第10層	70%　PL38
463	須恵器	坏	13.0	4.6	6.9	長石・石英	青灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第11層	80%
464	須恵器	坏	13.8	4.1	7.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第５～10層	90%
465	須恵器	坏	12.5	4.2	7.5	長石・石英・雲母	黒	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第11層	95%
466	須恵器	坏	13.4	4.3	7.5	長石・雲母	オリーブ灰	普通	体部外面下位回転ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，二方向のヘラ削り	第５～10層	80%
467	須恵器	坏	13.4	5.1	6.6	長石・雲母	灰白	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第11層	95%
468	須恵器	坏	13.0	4.3	7.1	長石・石英・白色粒子	灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第11層	90%　PL37
469	須恵器	坏	12.5	4.3	7.6	長石・石英・白色粒子	灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第５層	80%
470	須恵器	坏	13.4	4.2	7.4	長石・石英	褐灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，二方向のヘラ削り	第11層	98%
471	須恵器	坏	[12.8]	3.9	7.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，多方向のヘラ削り	第５層	60%
472	須恵器	坏	13.0	4.5	6.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第５～10層	80%
473	須恵器	坏	13.2	4.1	7.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面下位回転ヘラ削り，底部回転ヘラ削り	第５～10層	80%
474	須恵器	坏	14.1	4.4	7.4	長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第５層	70%
475	須恵器	坏	13.1	3.6	7.8	長石・雲母	灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第５～10層	80%
476	須恵器	坏	13.1	4.4	7.4	長石・雲母	黄灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転糸切り後，一方向のヘラ削り	第５層	80%
477	須恵器	坏	13.4	4.3	[7.2]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第５～10層	80%
478	須恵器	坏	[14.0]	4.0	8.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	第10～11層	70%
479	須恵器	坏	12.9	4.2	7.4	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面下位回転ヘラ削り，油煙付着，灯明皿転用	第11層	80%　PL38
480	須恵器	坏	12.9	4.9	6.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り，内面剥離，底部回転ヘラ切り後，二方向のヘラ削り	第11層	60%
481	須恵器	坏	－	(2.6)	7.2	長石・黒色粒子	灰白	普通	体部外面下位回転ヘラ削り	第11層	40%
484	須恵器	坏	[12.6]	4.2	7.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面下位回転ヘラ削り	第５～10層	50%
485	須恵器	坏	[13.4]	5.0	7.4	長石	灰	普通	体部外面下位回転ヘラ削り	第５層	60%
487	須恵器	坏	[13.4]	4.2	7.0	長石・雲母	灰	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り	覆土中	70%
488	土師器	高台付椀	－	(1.7)	7.4	長石・石英	浅黄橙	普通	内面ヘラ磨き，底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，内面黒色処理	第５層	10%　PL39 墨書「□」
489	須恵器	高台付坏	10.0	5.6	6.6	長石・石英	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ，底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	第５層	95%　PL41
490	須恵器	高台付坏	10.2	4.9	7.1	石英・雲母	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ，底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	第11層	100%

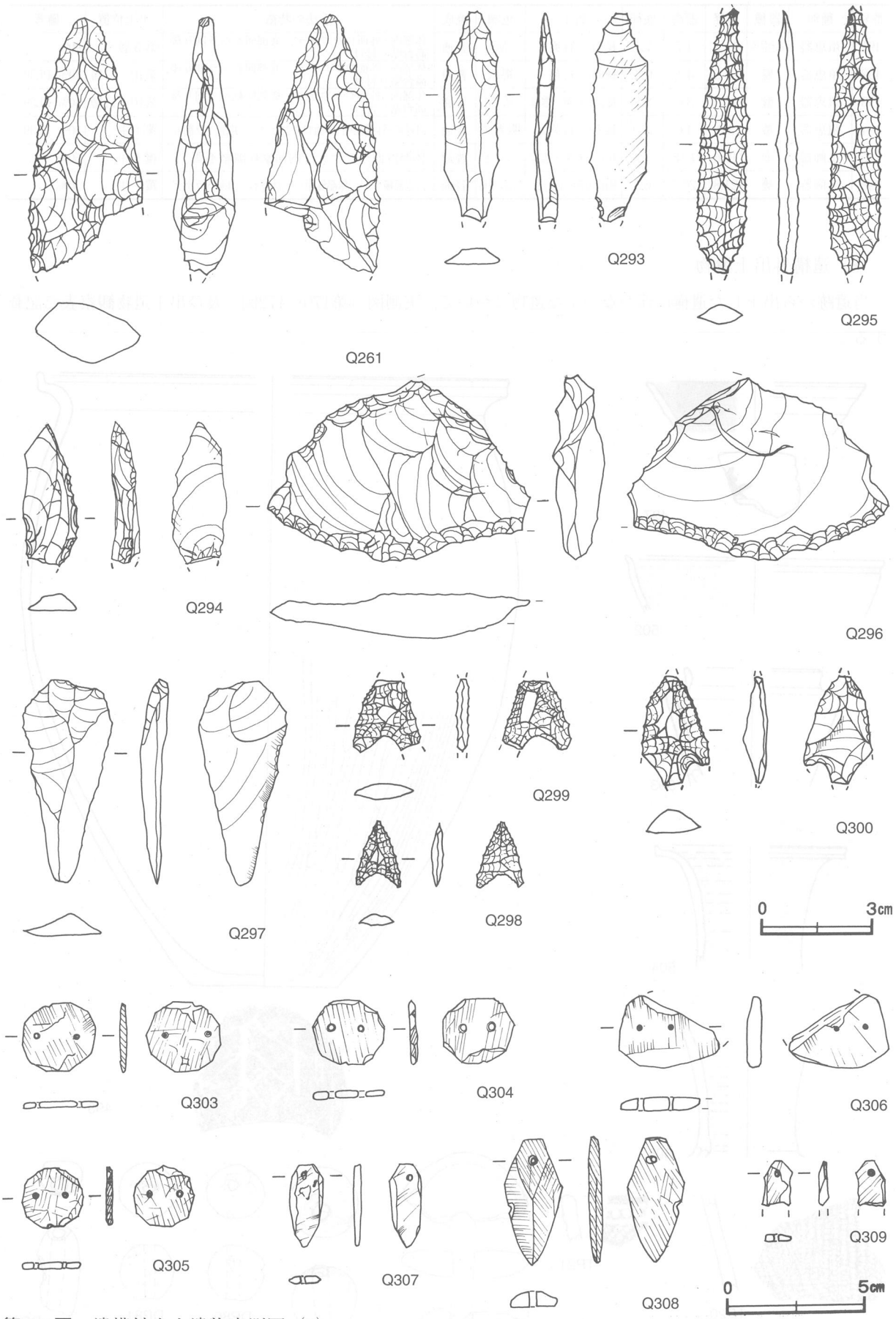
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
491	須恵器	高台付坏	11.2	4.7	7.1	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ，底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	第５層	90%
492	須恵器	盤	21.2	4.1	12.2	長石・石英	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ，底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	第10～11層	70% PL39
493	須恵器	盤	16.0	3.6	8.8	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ，底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	第10～11層	80% PL39
494	須恵器	蓋	3.0	4.6	17.1	長石・石英	明青灰	普通	口縁部・外周部内・外面ロクロナデ，天井部ヘラ削り	覆土中	80% PL39
495	土師器	壺	[10.6]	(10.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ，内面摩耗調整不明	覆土中	50%
496	土師器	甕	[21.8]	20.7	6.2	長石・石英・白色粒子	にぶい黄褐	普通	口辺部横ナデ，体部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ	覆土中	30%

(8) 遺構外出土遺物

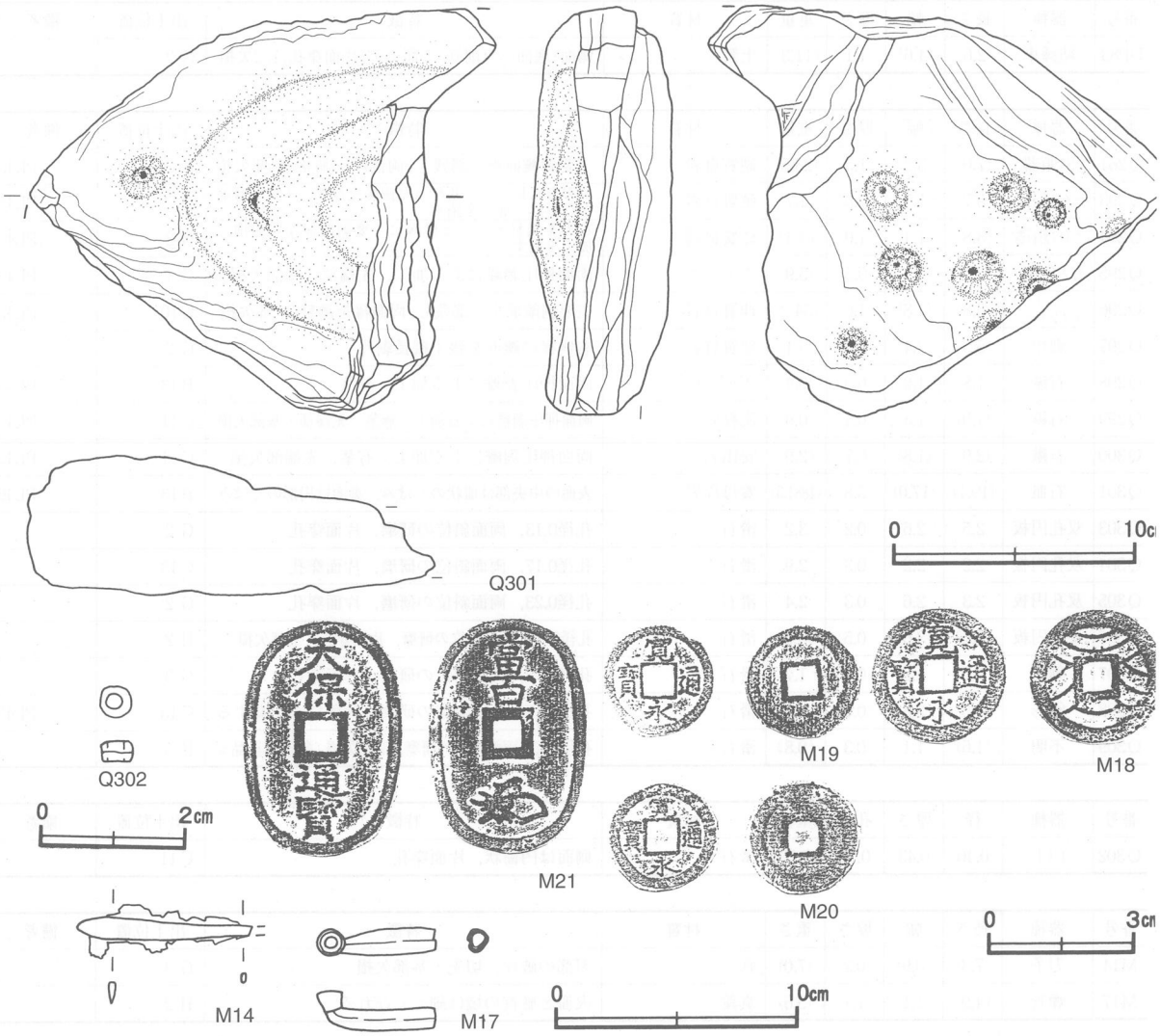
当遺跡から出土した遺構に伴わない主な遺物について，実測図（第170～172図）及び出土遺物観察表で記載する。



第170図　遺構外出土遺物実測図（1）



第171図　遺構外出土遺物実測図（2）



第172図　遺構外出土遺物実測図（3）

遺構外出土遺物観察表（第170～172図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
497	土師器	坏	[11.8]	(2.8)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロ整形，内面ヘラ磨き	G 2	5%　墨書「□」内面黒色処理
498	土師器	甕	[25.6]	33.0	8.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面下位ヘラ磨き，内面摩滅調整不明，底部木葉痕	H 3	70%
502	灰釉陶器	椀	[14.0]	(3.2)	—	緻密	灰白	良好	内・外面ロクロナデ	H 2	5%
503	須恵器	短頸壺	[7.2]	(6.5)	—	長石・石英	灰	普通	内・外面ロクロナデ	F 6	5%
504	灰釉陶器	長頸瓶	[10.4]	(6.6)	—	緻密	灰オリーブ	良好	内・外面ロクロナデ	F 6	5% 黒笹14 ヵ
505	灰釉陶器	長頸瓶	—	(7.3)	—	緻密	灰オリーブ	良好	内・外面ロクロナデ	F 6	5% 黒笹14 ヵ
TP20	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ＲＬ単節縄文を施文	B 13	中期後葉
TP21	縄文土器	深鉢	—	(2.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部平行沈線間に刺突文を施文，口辺部下位単節縄文	F 6	中期後葉

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP79	球状土錘	3.7	3.4	0.8	44.5	土製	ナデ，片面穿孔	B 14	
DP80	球状土錘	3.0	2.9	0.6	26.5	土製	ナデ，片面穿孔	B 12	
DP81	球状土錘	3.0	2.9	0.6	24.9	土製	ナデ，片面穿孔	C 11	
DP82	管状土錘	2.3	(4.9)	0.7	(15.4)	土製	ナデ，片面穿孔，側面・下端欠損	H 2	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP83	紡錘車	(2.6)	(4.6)	1.1	(11.3)	土製	側面・底面ヘラ削り，上面ナデ，片面穿孔，1/2欠損	G 2	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q261	尖頭器	(7.0)	3.2	1.5	(23.5)	硬質頁岩	主要剥離面を一部残し，両側縁を調整，下部欠損	G 2	PL45
Q293	ナイフ形石器	(5.7)	1.5	0.6	(4.7)	硬質頁岩	石刃を素材とし，基部と左側縁先端部に主要剥離面から刃潰し加工を施す	D11	PL45
Q294	ナイフ形石器	(3.8)	1.4	1.0	(3.4)	珪質頁岩	石刃を素材とし，2側縁に主要剥離面から刃潰し加工を施す	G 2	PL45
Q295	有舌尖頭器	(7.1)	1.3	0.5	(5.9)	チャート	両面押圧剥離による加工，先端部・基部欠損	G 4	PL45
Q296	エンドスクレイパー	6.8	(4.8)	1.6	(34.2)	珪質頁岩	主要剥離面を一部残し，両側縁を調整，下部欠損	C10	PL45
Q297	剥片	5.5	2.4	0.6	5.1	珪質頁岩	右側縁に礫面を残す縦長剥片	G 2	
Q298	石鏃	1.8	1.2	0.3	0.4	チャート	両面押圧剥離による加工，無茎	B13	PL45
Q299	石鏃	(1.9)	(1.8)	0.4	(0.9)	流紋岩	両面押圧剥離による加工，無茎，先端部・基部欠損	C11	PL45
Q300	石鏃	(2.9)	(1.8)	0.7	(2.9)	安山岩	両面押圧剥離による加工，有茎，先端部欠損	C11	PL45
Q301	石皿	(19.1)	(17.0)	5.8	(1881.3)	雲母片岩	表面の中央部は皿状のくぼみ，裏面は円形のくぼみ	B13	PL46
Q303	双孔円板	2.5	2.6	0.2	3.2	滑石	孔径0.13，両面斜位の研磨，片面穿孔	G 2	
Q304	双孔円板	2.2	2.2	0.3	2.9	滑石	孔径0.17，両面斜位の研磨，片面穿孔	C13	
Q305	双孔円板	2.3	2.6	0.3	2.4	滑石	孔径0.23，両面斜位の研磨，片面穿孔	G 2	
Q306	双孔円板	(2.6)	(3.6)	0.5	(6.9)	滑石	孔径0.17，両面斜位の研磨，片面穿孔，上部欠損	H 2	
Q307	剣形	3.0	1.2	0.3	1.7	滑石	孔径0.17，両面斜位の研磨，片面穿孔	G 3	
Q308	剣形	4.5	2.6	0.6	6.2	滑石	孔径0.18，両面斜位の研磨，片面に鎬を有する	C13	PL43
Q309	不明	(1.6)	1.1	0.3	(0.8)	滑石	孔径0.15，両面斜位の研磨，下部欠損，剣形模造品ヵ	E 5	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q302	臼玉	0.40	0.43	0.19	0.10	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	C11	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
M14	刀子	(7.3)	0.9	0.2	(7.0)	鉄	刃部の破片，切先・茎部欠損	G 3	
M17	煙管	(4.9)	1.1	1.1	(5.6)	真鍮	火皿と雁首の境は細くくびれる	H 2	

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M18	寛永通宝	28.0	6.2	4.1	1768	真鍮	厚さ0.11，新寛永，背十一波文，四文銭	C13	PL46
M19	寛永通宝	23.6	6.4	3.4	1668	銅	厚さ0.14，新寛永，無背銭，一文銭	E 8	PL46
M20	寛永通宝	22.5	6.2	2.3	1668	銅	厚さ0.12，新寛永，無背銭，一文銭	G 2	PL46
M21	天保通宝	49.2	5.8	20.0	1835	銅	短径22.6，厚さ0.25，広郭	G 4	PL46

表2　古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設						覆土	出土遺物	時代	備考 重複関係（旧→新）
							壁溝	主柱穴	出入口ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
5	H3d8	N－75°－E	長方形	[3.70]×2.65	8～16	平坦	－	－	－	3	炉1	－	不明	土師器	5世紀中葉	
15	G2i8	N－15°－E	方形	6.90×6.80	16～38	平坦	－	4	－	－	竈1	－	自然	土師器	5世紀末葉～6世紀初頭	本跡→SI12・SI23
16	G3h2	N－5°－E	方形	7.20×6.95	20	平坦	－	3	－	7	炉2	－	自然	土師器，砥石	5世紀後葉	本跡→SI17・SK28
21	H2a9	N－105°－W	方形	3.05×2.90	27～50	平坦	－	4	1	1	竈1	1	自然	土師器，双孔円板	5世紀末葉～6世紀初頭	
27	G4h3	N－45°－E	方形	5.60×5.60	38～46	平坦	一部	3	－	－	炉1	1	人為	土師器，球状土錘，双孔円板	5世紀中葉	
29	G4e5	N－80°－E	方形	3.15×2.90	6～16	平坦	－	2	－	－	炉1	1	自然	土師器	5世紀中葉	
31	F5h7	N－10°－E	方形	6.95×6.55	13～43	平坦	－	4	－	－	炉5	2	人為	土師器，球状土錘，臼玉	6世紀前葉	本跡→SK37
32	F5i3	N－75°－W	方形	6.05×5.80	40～57	平坦	－	4	1	－	炉2	1	自然	土師器，球状土錘，石製模造品	5世紀後葉	本跡→SK38

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	時代	備考 重複関係(旧→新)
							壁溝	主柱穴	出入口ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
33	F5g5	N−125°−E	方形	6.45×6.45	40~60	平坦	−	4	−	4	炉4 竈1	1	自然	土師器，須恵器，紡錘車，石製模造品	5世紀末葉~6世紀初頭	
34	F5i5	N−85°−W	長方形	4.80×4.05	26~32	平坦	−	−	−	−	炉1	1	自然	土師器	5世紀後葉	本跡→SX1
36	F5d4	N−115°−E	長方形	4.55×4.00	35~57	平坦	一部	−	−	3	炉2 竈1	1	自然	土師器，石製模造品	5世紀末葉~6世紀初頭	
37	F5c8	N−25°−E	長方形	6.05×5.15	10~30	平坦	−	4	−	4	炉3 竈1	2	自然	土師器,須恵器,土製品,球状土錘,石製模造品	5世紀末葉~6世紀初頭	
38	D7g0	N−35°−E	長方形	6.15×5.20	30~45	平坦	一部	4	1	3	炉5	1	人為	土師器	4世紀後半	
40	F5i0	N−70°−W	長方形	6.85×6.20	36~48	平坦	一部	−	−	2	炉1	−	人為	土師器，石製模造品	5世紀後葉	
41	F6g4	N−40°−E	長方形	6.25×(4.50)	43~50	平坦	−	2	−	−	炉2 竈1	−	自然	土師器，球状土錘	5世紀末葉~6世紀初頭	
42	F6e3	N−10°−E	方形	5.15×5.05	15~35	平坦	−	4	1	2	炉1	1	自然	土師器	5世紀後葉	
43	C11g0	N−65°−W	方形	3.65×3.50	23~33	平坦	ほぼ全周	−	1	1	炉2	1	人為	土師器，須恵器，臼玉	5世紀中葉	
44	B11j9	N−40°−E	長方形	3.45×3.10	25~30	平坦	−	−	1	3	炉2	1	自然	土師器，臼玉，双孔円板	5世紀中葉	
45	H3a2	N−60°−E	長方形	[3.55]×3.00	16	平坦	−	−	−	3	炉1	−	自然	土師器	5世紀後葉	
46	G5d1	N−80°−W	長方形	4.05×3.20	10~24	平坦	−	−	−	4	炉2	1	自然	土師器，石製模造品	5世紀後葉	
47	G2d5	N−50°−E	長方形	4.10×3.30	10~24	平坦	−	2	−	1	−	2	自然	土師器	5世紀後葉	本跡→SI11
48	B12j2	N−55°−W	長方形	6.50×5.90	20~30	平坦	−	−	−	−	炉3	−	人為·自然	土師器	4世紀	
49	B12g4	N−40°−E	[長方形]	7.50×(6.00)	33~45	平坦	−	2	1	−	−	−	人為·自然	土師器	4世紀前半	
50	B13g6	N−35°−W	方形	6.15×6.15	24~38	平坦	−	−	−	4	炉1 竈1	1	人為	土師器	6世紀前葉	
52	C13a5	N−40°−W	方形	5.60×5.50	16~23	平坦	−	4	−	−	炉2	−	自然	土師器，浮子	4世紀後半	
53	C12f3	N−50°−W	長方形	3.50×2.75	15	平坦	−	−	1	−	炉1	1	人為	土師器	5世紀中葉	
54	D9e4	N−25°−W	方形	7.40×7.20	35	平坦	−	4	−	−	炉1	1	自然	土師器，管状土錘	4世紀後半	
55	C12e4	N−40°−E	方形	3.30×3.20	18~32	平坦	−	−	1	25	炉2	1	人為	土師器，砥石	5世紀中葉	
56	D10h1	N−65°−E	長方形	5.30×4.50	12~27	平坦	−	4	−	−	炉1	1	人為	土師器	4世紀前半	
57	D10b1	N−80°−W	[長方形]	11.50×(9.00)	60~72	平坦	−	5	−	−	炉3	2	人為	土師器，球状土錘，石製模造品，ガラス小玉	5世紀後葉	
58	D11d3	N−45°−E	長方形	3.45×3.10	14~20	平坦	−	−	1	−	炉1	−	自然	土師器	5世紀中葉	
59	C11h1	N−15°−E	長方形	3.90×3.00	6~10	平坦	−	−	−	−	炉1	−	人為	土師器，石製模造品	5世紀中葉	
60	C11f1	N−50°−W	方形	6.00×6.00	68~75	平坦	ほぼ全周	4	1	39	炉3	1	人為	土師器，須恵器，球状土錘，石製模造品	5世紀中葉	
61	B13c4	N−35°−E	[長方形]	3.30×(3.00)	37~45	平坦	−	−	−	−	炉1	1	人為	土師器	5世紀後葉	
62	C11d7	N−20°−E	方形	2.50×2.50	5~10	平坦	−	−	−	−	炉1	−	不明	土師器	4世紀後半	SI67→本跡
63	C11a7	N−35°−W	方形	5.20×5.20	40~53	平坦	ほぼ全周	4	1	−	炉1	1	自然	土師器，滑石	5世紀中葉	
64	B13c7	N−50°−W	方形	5.20×5.20	24~29	平坦	−	−	−	17	炉2	1	人為	土師器	5世紀中葉	
65	B14d1	N−40°−W	方形	6.65×6.65	25~40	平坦	全周	4	−	−	炉1	1	自然	土師器，球状土錘，支脚，石製模造品	5世紀後葉	
66	B13a9	N−35°−E	方形	5.50×5.20	20~40	平坦	ほぼ全周	−	−	2	炉1	1	人為	土師器	4世紀前半	
67	C11d8	N−20°−E	方形	2.50×[2.50]	5	平坦	−	−	−	−	炉1	−	不明	土師器	4世紀	本跡→SI62
68	B14h3	N−60°−E	長方形	5.15×4.25	12	平坦	−	4	1	3	炉2	−	自然	土師器	4世紀後半	
69	C13c3	N−75°−E	長方形	4.55×3.70	60~66	平坦	−	−	1	−	炉1	1	自然	土師器	5世紀中葉	
70	A14i4	N−65°−E	長方形	5.00×4.50	45~55	平坦	ほぼ全周	4	−	−	炉2	1	人為	土師器	4世紀前半	
71	B14f9	N−5°−E	方形	6.00×6.00	25~35	平坦	全周	4	1	−	炉1	1	人為	土師器，球状土錘，石製模造品	5世紀後葉	
72	B12i9	N−25°−E	長方形	3.90×3.30	15~20	平坦	一部	−	−	−	炉2	−	人為	土師器，球状土錘，臼玉	5世紀中葉	
73	D8c5	N−55°−E	[長方形]	3.40×(2.80)	38~45	平坦	−	−	−	−	炉1	−	人為	土師器	4世紀	
74	C12e9	N−40°−W	方形	6.20×6.20	35~50	平坦	−	3	−	1	炉2	−	人為	土師器	5世紀	

表3　平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	時代	備考 重複関係(旧→新)
							壁溝	主柱穴	出入口ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
1	I1d6	N−15°−W	方形	4.65×4.60	10~47	平坦	ほぼ全周	4	1	−	竈1	−	自然	土師器，須恵器	9世紀後葉	SI2·3→本跡
2	I1e7	N−20°−W	方形	3.60×3.60	5~30	平坦	−	3	1	−	竈1	−	自然	土師器，須恵器	9世紀前葉	本跡→SI1
3	I1d7	N−20°−W	方形	3.30×3.10	15~30	平坦	ほぼ全周	−	1	−	竈1	−	自然	土師器，須恵器，灰釉陶器	9世紀前葉	本跡→SI1

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設						覆土	出土遺物	時代	備考 重複関係（旧→新）
							壁溝	主柱穴	出入口ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
4	I1c6	N−25°−W	方形	4.40×4.10	20~57	平坦	ほぼ全周	4	−	−	竈1	−	自然	土師器，須恵器	8世紀中葉	
6	H1i5	N−135°−W	方形	3.00×2.85	25~30	平坦	−	−	−	1	竈1	−	自然	土師器，須恵器	9世紀前葉	
7	G2e7	N−30°−W	方形	4.00×3.85	35~50	平坦	一部	3	−	1	竈1	−	人為	土師器，須恵器，灰釉陶器	9世紀後葉	SI 8・9→本跡
8	G2f7	N−45°−W	方形	4.80×4.60	30~50	平坦	ほぼ全周	2	−	−	−	−	自然	土師器，須恵器	8世紀後葉	本跡→SI 7
9	G2e6	N−45°−E	長方形	3.70×3.30	50	平坦	ほぼ全周	−	−	−	竈2	−	人為	土師器，須恵器	9世紀前葉	本跡→SI 7
10	G2g6	N−45°−E	長方形	3.90×3.30	30~35	平坦	全周	−	1	2	竈2	−	人為	土師器，須恵器，砥石	9世紀前葉	
11	G2e5	N−50°−E	方形	3.00×2.85	15~28	平坦	一部	−	−	−	竈1	−	自然	土師器，須恵器，砥石	9世紀中葉	
12	G2i7	N−70°−E	方形	3.40×3.30	15~40	平坦	−	−	−	1	竈1	−	自然	土師器，須恵器，刀子	9世紀後葉	
13	G2e4	N−60°−W	長方形	4.30×3.90	25~38	平坦	−	−	1	1	竈2	−	自然	土師器，須恵器	9世紀中葉	
14	G2i0	N−10°−E	方形	3.70×3.60	25~45	平坦	一部	−	1	−	竈1	−	自然	土師器，須恵器	9世紀中葉	
17	G3i2	N−10°−E	方形	2.80×2.70	22~50	平坦	ほぼ全周	−	−	−	竈1	−	自然	土師器，須恵器	9世紀中葉	
18	G2f0	N−50°−W	長方形	3.60×2.90	35×40	平坦	ほぼ全周	−	1	2	竈1	−	自然	土師器，須恵器	9世紀前葉	
19	G3f1	N−40°−E	方形	4.40×4.20	35~45	平坦	ほぼ全周	2	1	1	竈1	−	人為	土師器，須恵器，紡錘車	9世紀中葉	
20	G2g0	N−30°−W	方形	3.80×3.60	45~50	平坦	一部	2	1	−	竈1	−	自然	土師器，須恵器，刀子	9世紀前葉	
22	H3f3	N−10°−W	方形	3.80×3.60	20~50	平坦	−	−	1	−	竈1	−	自然	土師器，須恵器	9世紀中葉	
23	G2i6	N−30°−E	方形	3.60×3.30	15~25	平坦	ほぼ全周	−	−	−	竈1	−	人為	土師器，須恵器	9世紀前葉	
24	G3i6	N−60°−W	方形	2.80×2.70	12~35	平坦	ほぼ全周	−	−	−	竈1	−	自然	土師器，須恵器	8世紀後葉	
25	G3h6	N−40°−W	方形	3.40×3.40	45	平坦	ほぼ全周	−	−	−	竈1	−	自然	土師器，須恵器	8世紀後葉	
26	G4h1	N−15°−E	方形	3.90×3.60	30~50	平坦	−	−	1	−	竈1	−	自然	土師器，須恵器，球状土錘	9世紀前葉	
28	D7j2	N−45°−W	長方形	3.70×3.20	40	平坦	−	−	−	1	竈1	−	自然	土師器	10世紀前葉	
30	G4f6	N−35°−E	方形	3.75×3.50	25~40	平坦	ほぼ全周	−	1	−	竈1	−	人為	土師器，須恵器	9世紀前葉	
35	E8f2	N−35°−W	長方形	3.80×3.40	10~30	平坦	ほぼ全周	−	1	−	竈1	−	自然	土師器，須恵器	9世紀中葉	
51	E8e6	N−70°−E	方形	3.90×3.80	12~20	平坦	−	−	−	−	竈1	−	自然	土師器，須恵器，鎌	10世紀前葉	

表4　古墳時代の土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 重複関係（旧→新）
				長径×短径（m）	深さ						
6	G2d9	N−30°−W	不整楕円形	3.00×2.70	85	垂直	平坦	自然	土師器	5世紀後葉	
11	F5b7	N−40°−E	楕円形	2.50×2.20	32	外傾	平坦	自然	土師器	5世紀末葉から6世紀初頭	
12	F5d7	—	円形	1.90×1.90	75	外傾	平坦	人為	土師器	5世紀後葉	
13	F5d8	—	円形	1.90×1.90	72	外傾	平坦	人為	土師器，臼玉，土製品	5世紀後葉	
23	G3i3	N−15°−W	楕円形	2.50×2.10	11～25	緩斜	平坦	自然	土師器，須恵器，石製品	5世紀後葉	
25	F5e6	—	円形	2.20×2.20	85	外傾	平坦	人為	土師器，土製品	5世紀後葉	
26	F5d5	N−25°−E	不整楕円形	1.75×1.40	45	緩斜	皿状	人為	土師器	5世紀後葉	
30	F5b0	—	円形	1.95×1.95	95	垂直	平坦	人為	土師器	5世紀後葉	
35	F5j1	—	円形	3.10×2.90	108	垂直	平坦	自然	土師器，剣形模造品	5世紀後葉	
39	D10i1	N−40°−W	楕円形	2.20×1.90	25～40	外傾	平坦	自然	土師器	4世紀前半	
47	B14h2	—	円形	1.80×1.70	25～40	外傾	平坦	自然	土師器	4世紀後半	（旧SK107）

表5　その他の土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 重複関係（旧→新）
				長径×短径（m）	深さ						
1	B14h2	—	円形	1.80×1.70	40	外傾	平坦	自然	土師器	不明	（旧SK101）
3	G2g7	—	円形	0.84×0.84	20	外傾	平坦	自然	土師器	不明	

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 重複関係 (旧→新)
				長径×短径（m）	深さ						
4	G2f8	—	円形	1.72×1.70	52	外傾	平坦	自然	土師器	不明	
5	G2h6	—	円形	2.04×1.90	36	外傾	平坦	自然	土師器	不明	
7	G2i9	—	円形	1.53×1.48	22	外傾	平坦	自然		不明	
8	G2j9	—	円形	2.14×2.00	38	外傾	平坦	自然	土師器	不明	
9	F5b9	—	円形	1.60×1.50	44	外傾	平坦	人為	土師器	不明	
10	C12c9	N−25°−W	楕円形	1.50×1.32	36	外傾	平坦	人為		不明	(旧SK113)
14	F6d6	—	円形	1.04×0.96	22	外傾	平坦	自然	土師器	不明	
16	H2i2	N−30°−W	隅丸長方形	5.15×0.80	48	外傾	平坦	人為		不明	
17	C12e4	N−0°	不整楕円形	1.70×1.24	20	緩斜	皿状	自然	土師器	不明	(旧SK114)
18	C11e8	N−5°−E	不整方形	1.40×1.38	34	緩斜	皿状	人為	土師器	不明	(旧SK112)
19	B14f4	N−5°−E	不整方形	1.42×1.30	18	緩斜	皿状	人為	土師器	不明	
20	C11b4	—	円形	1.80×1.70	30	緩斜	皿状	人為		不明	(旧SK111)
21	C11c2	—	円形	1.30×1.20	20	緩斜	皿状	人為		不明	(旧SK108)
22	C10f8	N−20°−W	楕円形	1.78×1.58	38	外傾	平坦	人為		不明	(旧SK104)
24	C10f7	N−15°−W	不整楕円形	1.38×1.10	34	緩斜	皿状	人為		不明	(旧SK105)
27	C11e5	—	円形	1.40×1.40	18	緩斜	皿状	人為		不明	(旧SK109)
29	F5c6	—	円形	1.56×1.50	66	緩斜	平坦	人為	土師器	不明	
31	C13c2	—	円形	1.90×1.84	88	外傾	平坦	自然	土師器	不明	
32	B12h1	—	[円形]	1.70×（1.00）	34	外傾	皿状	人為		不明	
33	D11e1	—	円形	1.50×1.50	24	緩斜	皿状	人為	土師器	不明	
34	D10e3	—	円形	1.00×0.94	16	緩斜	皿状	人為		不明	
36	D10c3	—	円形	1.00×0.96	22	緩斜	皿状	人為	土師器	不明	
37	F5g9	N−70°−W	隅丸長方形	（6.30）×1.34	60	外傾	平坦	人為	土師器	不明	本跡→SI31
38	F5h2	—	不整円形	1.10×1.10	44	外傾	平坦	不明	土師器	不明	本跡→SI32
40	B12i3	N−5°−E	不整方形	1.40×1.30	30	緩斜	皿状	自然	土師器	不明	
41	C12a7	—	不整円形	1.40×1.40	34	緩斜	皿状	人為	土師器	不明	
42	D10a2	N−5°−E	不整楕円形	2.70×1.50	36	外傾	凸凹	自然	土師器	不明	
44	G2c5	—	円形	0.70×0.68	50	緩斜	皿状	不明		不明	本跡→SI11
45	C11g5	—	円形	1.68×1.64	32	緩斜	皿状	自然	土師器	不明	(旧SK110)
46	E8h3	—	円形	2.32×2.20	74	外傾	平坦	人為		不明	(旧SK102)

表6　陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 重複関係 (旧→新)
				長径×短径（m）	深さ						
1	C12a0	N−65°−W	楕円形	3.10×2.20	265	外傾	平坦	人為・自然		縄文時代	(SK15)
2	B11i8	N−50°−W	[楕円形]	（2.00）×2.40	250	外傾	平坦	人為・自然	縄文土器	縄文時代早期	(SK43)

表7　溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面形	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 重複関係 (旧→新)
				長さ	上幅	下幅	深さ							
1	E6a9	N−20°−E	直線	(9.6)	0.40~1.10	0.10~0.20	35~42	U字状	外傾	平坦	自然		不明	
2	E8h3	N−15°−E	直線	(8.9)	0.50~0.90	0.15~0.25	25~75	U字状	外傾	平坦	自然		不明	
3	E6h3	N−35°−E	直線	(11.2)	0.45~0.85	0.15~0.20	35~80	U字状	外傾	平坦	自然		不明	本跡→SF1

第4節　まとめ

調査の結果，竪穴住居跡74軒，土坑44基，溝3条，陥し穴2基などを確認した。

旧石器時代は，エンドスクレイパーや尖頭器をはじめとする石器類が20点ほど出土しているが，ほとんどが耕作による攪乱などによって出土したものである。縄文時代は，陥し穴を2基確認し，早期の土器片が5片出土しているほか，遺構外では後期の土器片が出土している。弥生時代は，後期後葉の竪穴住居跡を1軒確認した。また，古墳時代前期の竪穴住居跡12軒，土坑2基，古墳時代中期の竪穴住居跡33軒，土坑9基，古墳時代後期の竪穴住居跡2軒，平安時代の竪穴住居跡26軒，土坑1基，近代の炭焼き窯跡1基，時期不明の土坑32基，溝跡3条，道路跡1条，井戸跡1基，その他平安時代を主体とした遺物包含層1か所を確認した。

ここでは，当遺跡の主体である古墳時代に焦点をあて，集落の変遷を周辺遺跡との関係でとらえた上で，いくつかの考察を加えてまとめとしたい。

古墳時代の時期区分と集落の変遷について

時期区分については出土土器を基準として，各遺構を第1期から第6期まで区分し，以下各時代の遺構や遺物の特徴について述べる[1)]。出土遺物が極めて少なく時期区分が困難な第48・67・73・74号住居跡は前期・中期と比定はしたが，細分からは除いた。また，住居の規模は，床面積50m²以上のものを大形住居，20～50m²のものを中形住居，20m²未満のものを小形住居とした[2)]。

1期

本期の遺構は，第49・56・66・70号住居跡の4軒が該当する。この時期の住居は，調査区中央部に位置する谷の東側台地上に点在する。第56号住居跡が中央部にあるが，他の3軒は調査区東部の狭い範囲内で確認した。第49号住居跡以外は中形住居である。第49号住居跡は全体の2分の1ほどしか確認できなかったため明確ではないが，長軸方向に7.5mほど確認しており，大形住居である。主軸方向は第49・66号住居跡がN－35°～40°－E，第56・70号住居跡がN－65°－Eであり，全体を確認できない第49号住居跡を除く3軒はいずれも共通して貯蔵穴が南東壁際，炉が中央部やや北東寄りに設置されている。また，4軒はいずれも床面から焼土塊や炭化材が検出された焼失住居であり，第56号住居跡の南側2mほどのところに位置する第39号土坑は，出土遺物から第56号住居跡との関連が想定される。これらの遺構から出土した土器は，坏部が小形で，脚部が外反する高坏や平底で胴部下位がややすぼまる形の甕などである。以上のことから本期を4世紀前半としたい。

2期

本期の遺構は，第38・52・54・62・68号住居跡の5軒が該当する。調査区中央部の台地に位置する第54号住居跡は大形住居，第38号住居跡は中形住居である。主軸方向は第38号住居跡がN－35°－E，第54号住居跡がN－25°－Wであるが，いずれも共通して4か所の支柱穴を有し，貯蔵穴は南東壁際に位置している。第38号住居跡からは，小形の高坏，器台などが中央部の床面から出土しており，祭祀に関わる遺構の可能性もある。第38・54号住居跡の周囲では遺構がほとんど確認されなかったが，耕作による攪乱が広く入っていることから湮滅している可能性が高く，台地が南側に続いていることなどから本期の集落は南に広がっていたと想定される。また，調査区東部には，第52・62・68号住居跡が位置し，規模は中形住居が2軒，小形住居が1軒である。住居の主軸方向は第52号住居跡がN－40°－W，第62号住居跡がN－20°－E，第68号住居跡がN－60°－Eであるが，

第52・68号住居跡の南北軸はN－30°～40°－Wであり，３軒ともほぼ北西に軸が振れている。中央部の住居跡とは内部構造がだいぶ異なり，微妙に時期が前後していることも考えられる。これらの遺構から出土した土器は，やや脚部が長くなっている器台，球形で口縁部が「く」の字状に外反する甕，折り返し口縁を持つ単孔の鉢形甑などである。以上のことから本期を４世紀後半としたい。

３期

本期の遺構は，第５・27・29・43・44・53・55・58～60・63・64・69・72号住居跡の14軒が該当する。第５・27・29号住居跡は，調査区西部に位置し，他の11軒は調査区東部に位置している。中形の第27・60号住居跡以外は，小形住居である。主軸方向は第５・29号住居跡がN－75°～80°－E，第27・44・55・58号住居跡がN－40°～45°－E，第43・53・60・63・64・72号住居跡がN－35°～65°－Wであるが，いずれも南北軸は北西方向である。また，第59号住居跡はN－15°－E，第69号住居跡はN－75°－Eである。

第27・60・63号住居跡はコーナー部に貯蔵穴を有し，４か所の主柱穴をもつ住居跡であり，第43・44・53・55号住居跡はコーナー部に貯蔵穴を有し，出入り口ピットと貯蔵穴の間に高まりのある硬化面をもつ住居跡である。これらの遺構から出土した土器は，坏部が内彎気味に立ち上がり，外面下位に段を持ち，脚部がやや短くなる高坏や体部が楕円形で口縁部が直線的に立ち上がり，外面にヘラ磨きが施される小形坩，平底または丸底で口縁部が強く外反するものと内彎するものとが認められる坏などである。以上のことから本期を５世紀中葉としたい。

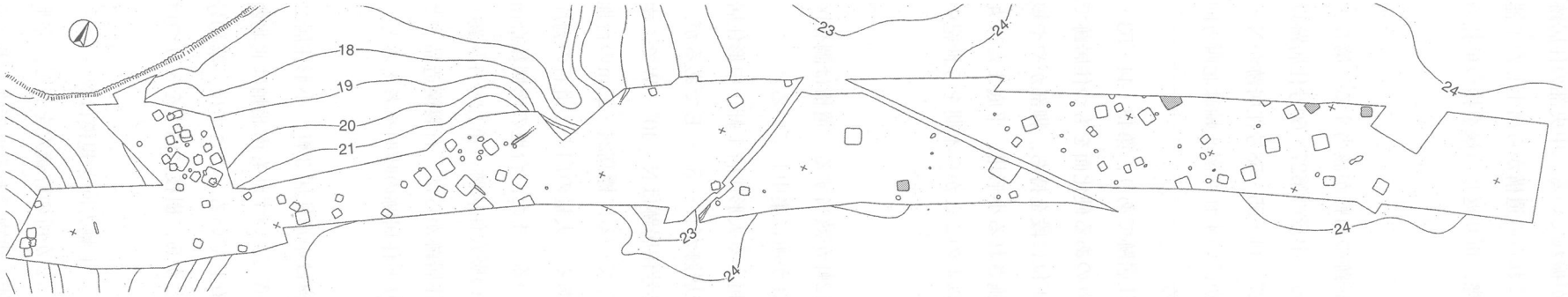
４期

本期の遺構は，第16・32・34・40・42・45～47・57・61・65・71号住居跡の12軒が該当する。遺構は調査区東部，中央に位置する谷の西側の台地，さらに西側の谷に落ちる台地縁辺部の３か所に集中している。

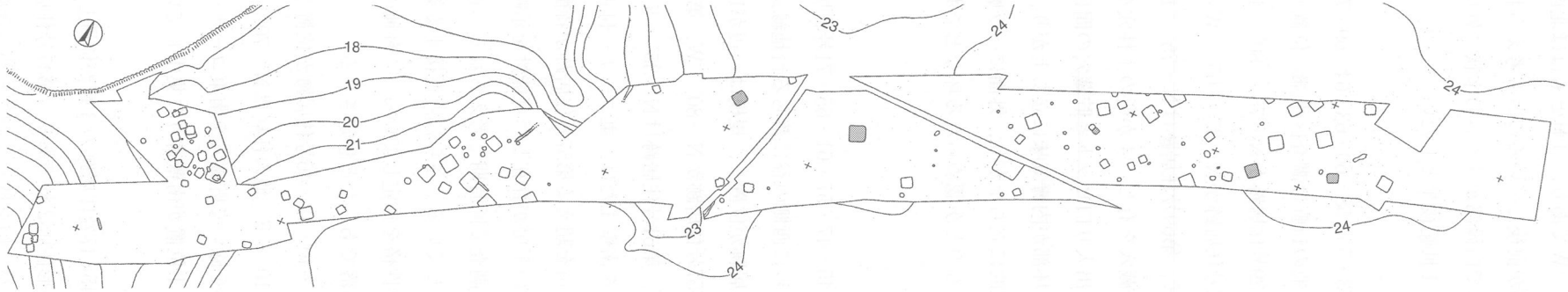
調査区東部には，第57・61・65・71号住居跡が位置し，規模は一辺が11mを超える大形住居１軒，中形住居２軒，小形住居１軒である。主軸方向は第57号住居跡がN－80°－W，第71号住居跡がN－５°－Eであるが，南北軸はどちらもほぼ北北東である。また，第61号住居跡はN－35°－E，第65号住居跡はN－40°－Wで，南北軸は北西である。いずれの住居も貯蔵穴を南壁または，東コーナー付近に有している。標高24～25mの台地に位置している東部の集落では，一辺が11mを超える第57号住居跡が特徴的である。大量の臼玉と滑石の剥片が出土しており，本跡または周辺に石製品の工房が存在した可能性を示唆している。また，台地の南側数百mに近接する下小池東遺跡では，昭和55年の調査で同時期と考えられる一辺9.7mの竪穴住居跡（第12号住居跡）が確認され，集会所的性格を有すると推定している。さらに，近接する第13号住居跡からは，石製模造品とともに滑石の原石が出土しており，工房的な性格を推定している[3)]。台地の広がりと住居跡の時期を考えると，東部の集落は下小池東遺跡へと続く一大集落であったと想定される。

調査区中央部の谷の西側には，第32・34・40・42・46号住居跡が位置し，規模は中形住居３軒，小形住居２軒である。主軸方向は第42号住居跡がN－10°－E，他の住居はN－70°～85°－Wで，いずれも南北軸は北北西で，全体を確認できなかった第40号住居跡を除いて貯蔵穴を南東コーナー部に有している。ここでは，第40号住居跡から大量の臼玉を検出している。出土位置が南壁寄りに集中していることから，樹枝に臼玉をとりつけた「習俗的祭祀」であると考えられる[4)]。

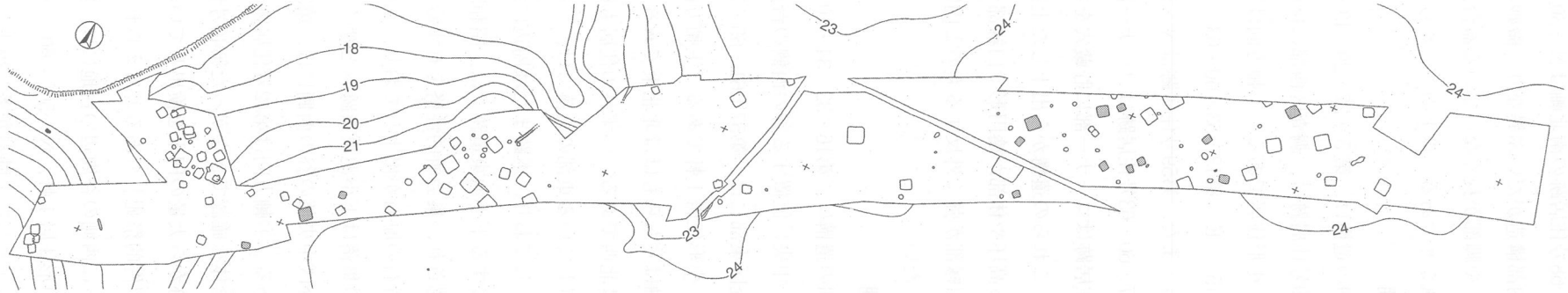
さらに西側の谷周辺の台地には，第16・45・47号住居跡の３軒が位置している。主軸方向と規模はN－５°－Eの中形住居１軒，N－50°～60°－Eの小形住居２軒である。第47号住居跡は，２か所の貯蔵穴を有し，完形の甕を主とした土師器が多く出土しているが，炉を持たないことから倉庫的機能の建物である可能性も考えられる[5)]。これらの遺構から出土した土器は，平底または丸底で体部と口縁部に稜を持ち，口縁部が外反するも



1期

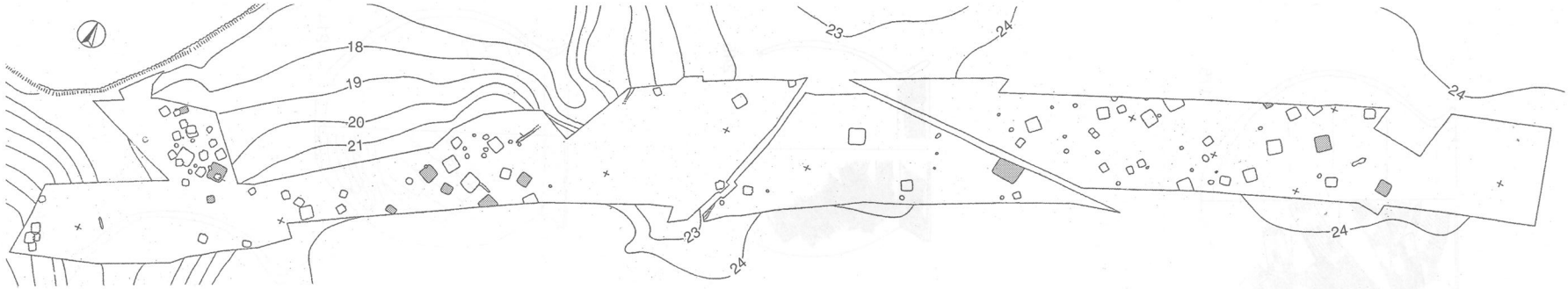


2期

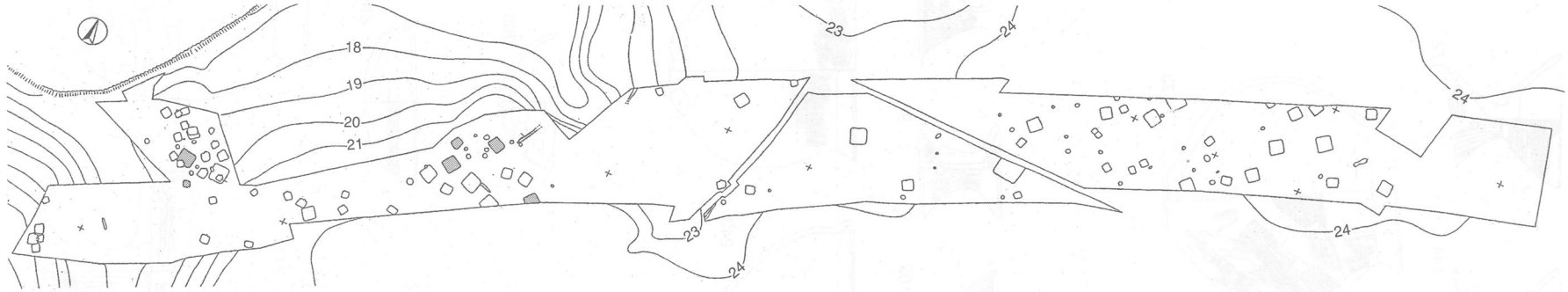


3期

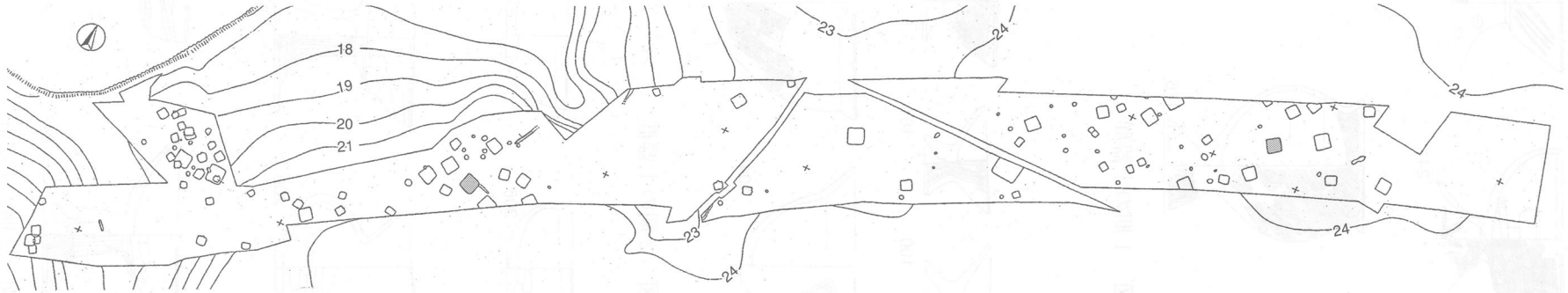
第173図　下小池遺跡集落変遷図（1）



4期

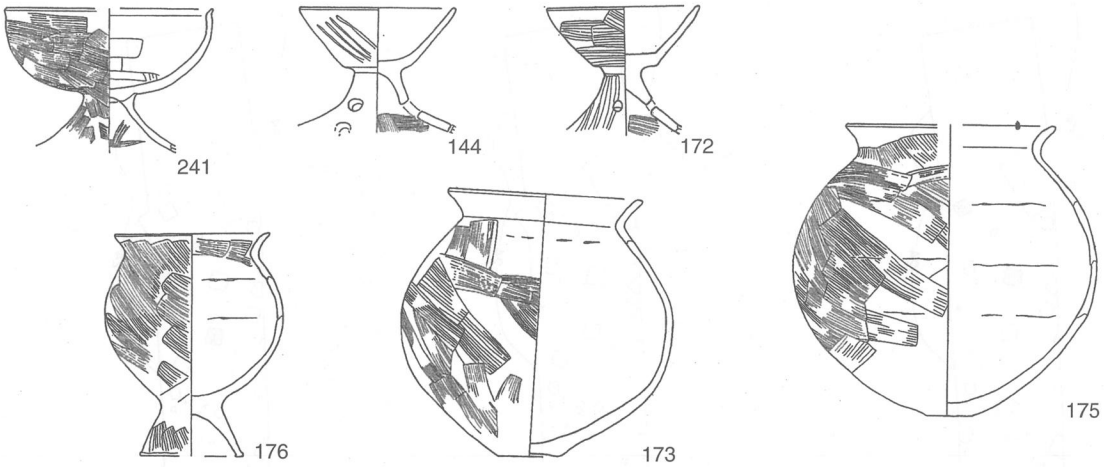


5期

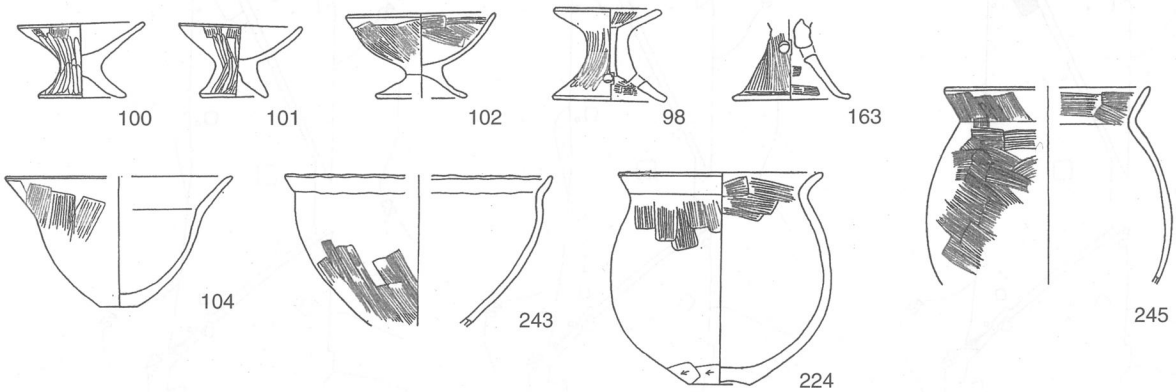


6期

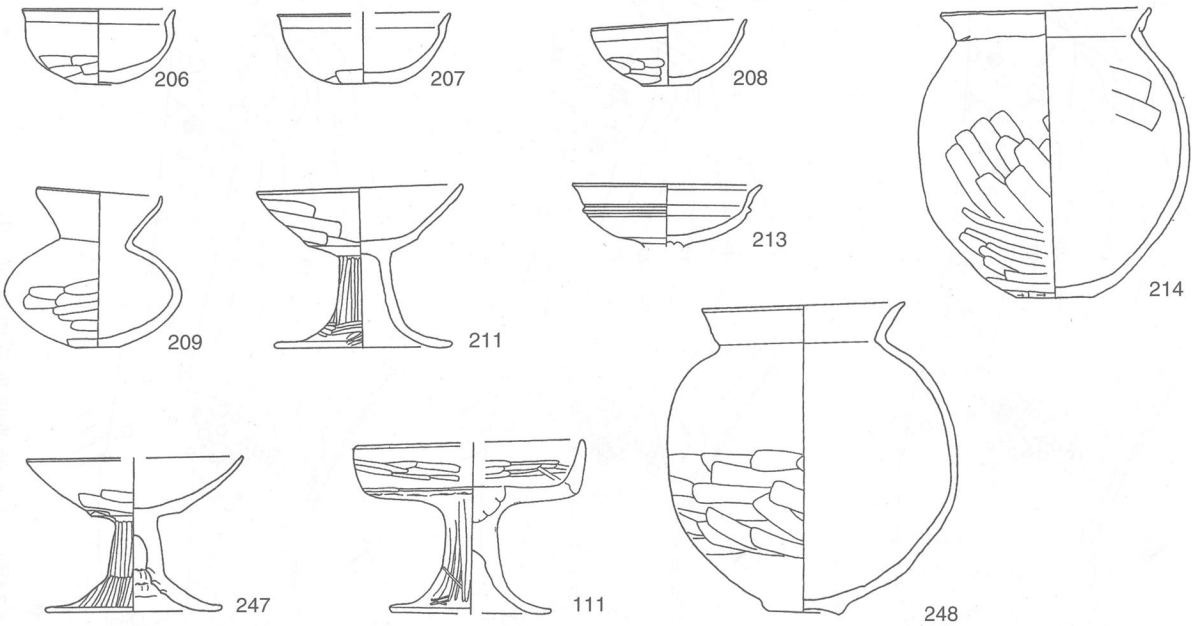
第174図　下小池遺跡集落変遷図（2）



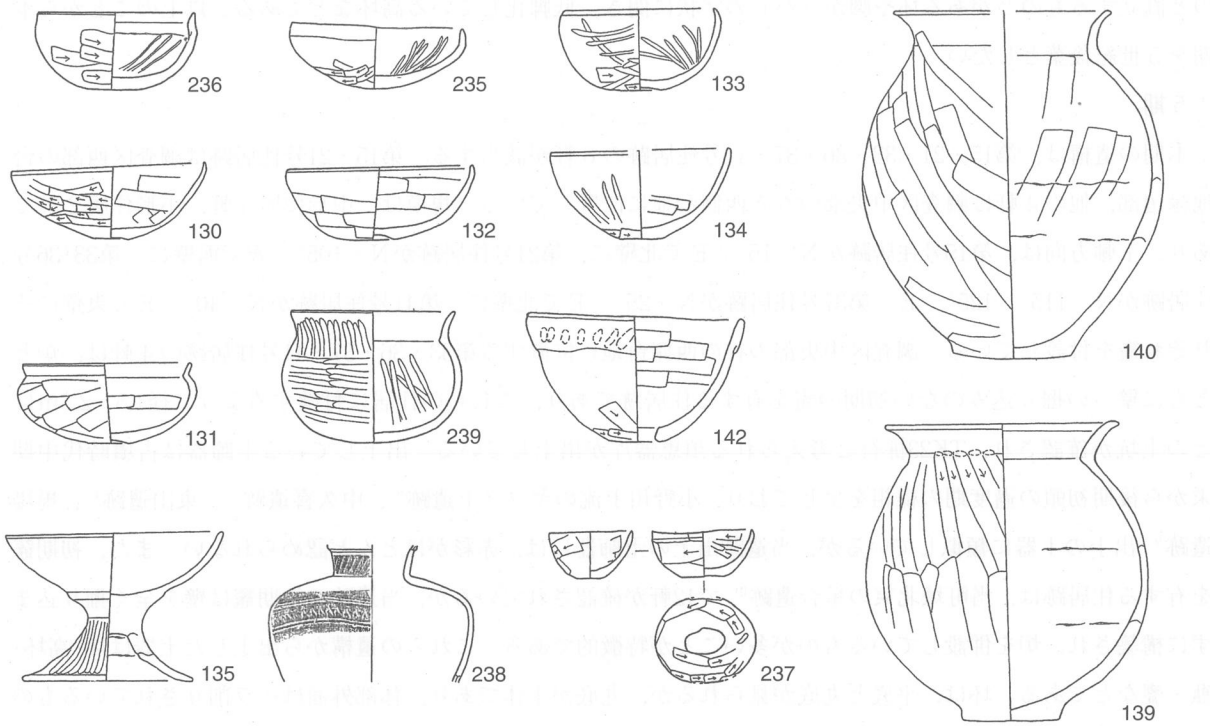
第175図　1期の土器群



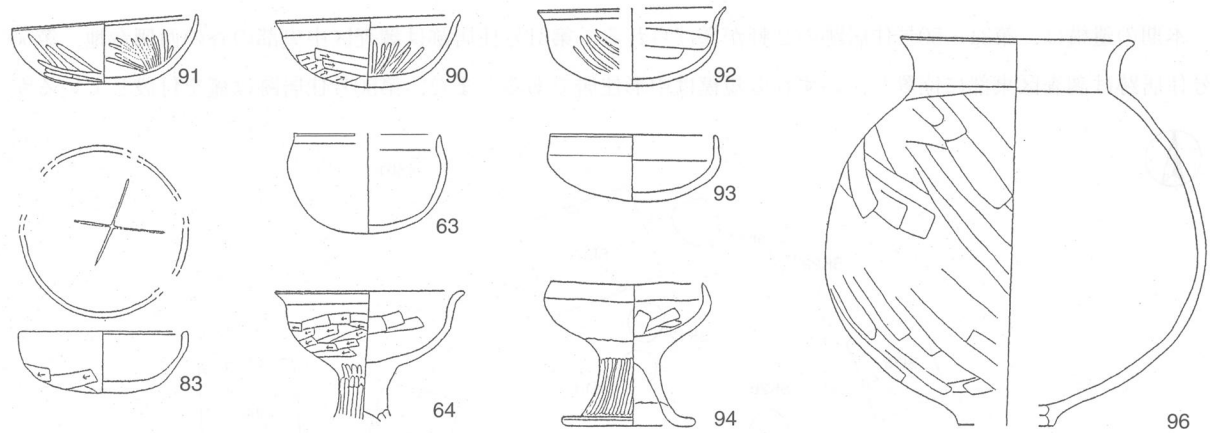
第176図　2期の土器群



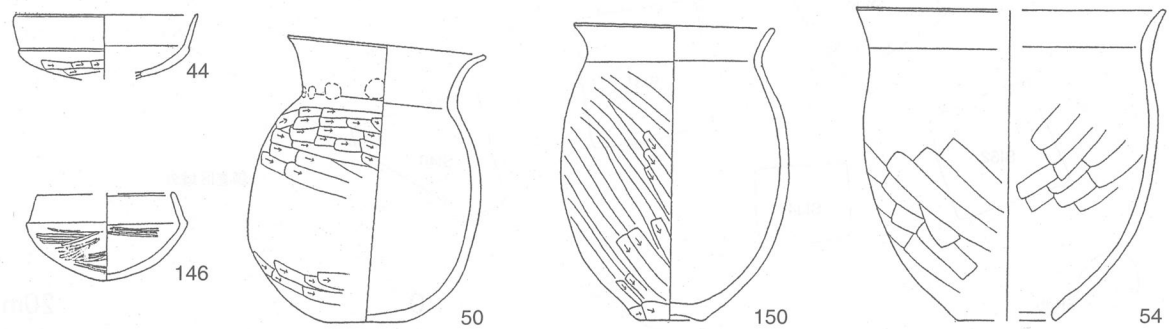
第177図　3期の土器群



第178図　4期の土器群



第179図　5期の土器群



第180図　6期の土器群

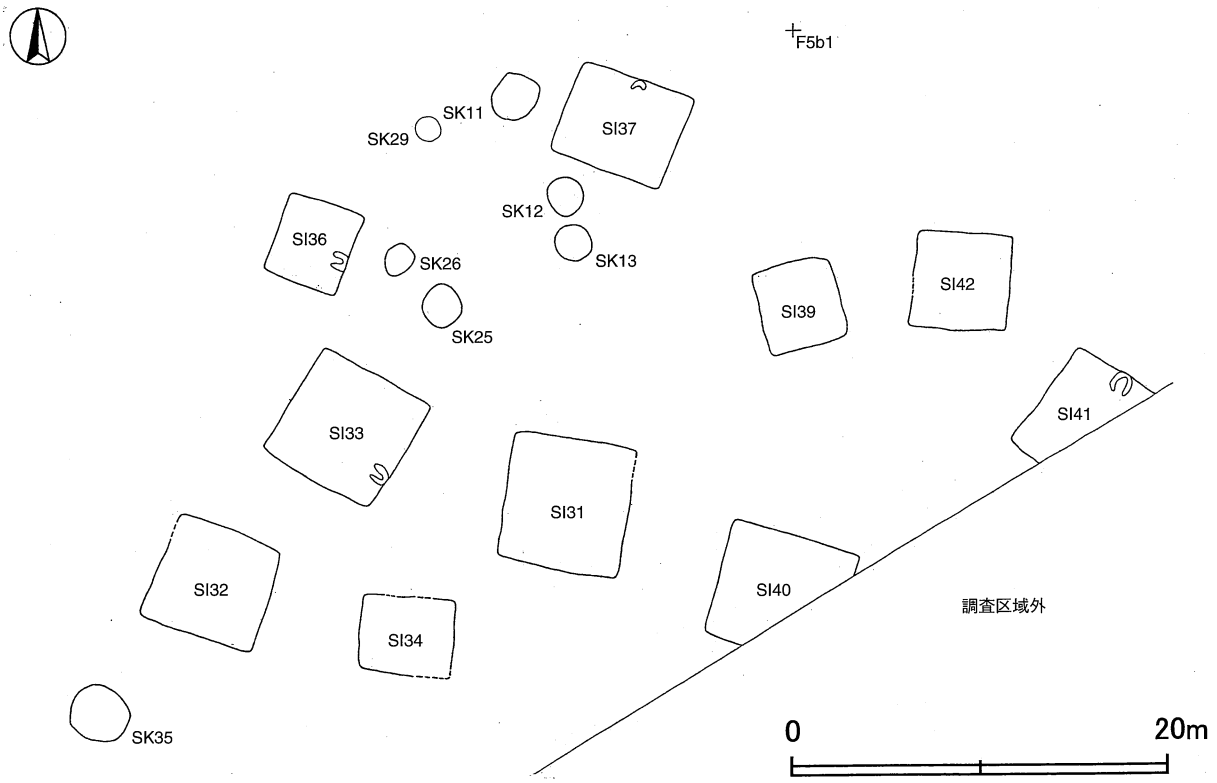
のと直立するものとがある坏や脚が「ハ」の字状に開き，低脚化している高坏などである。以上のことから本期を５世紀後葉としたい。

５期

本期の遺構は，第15・21・33・36・37・41号住居跡の６軒が該当する。第15・21号住居跡は調査区西部の台地縁辺部，他の４軒は調査区中央部の谷の西側台地に位置している。規模は，中形住居４軒，小形住居２軒であり，主軸方向は，第15号住居跡がN－15°－Eで北壁に，第21号住居跡がN－105°－Wで西壁に，第33･36号住居跡がN－115°～125°－E，第37号住居跡がN－25°－Eで北壁に，第41号住居跡がN－40°－Eで東壁にそれぞれ竈を付設している。調査区中央部の谷の西側台地に位置する第33・36・37・41号住居跡の４軒は，炉とともに壁への掘り込みのない初期の竈を有する住居跡であり，これらの住居に付随するように径1.5～2.5mほどの土坑が確認され，TK23併行と考えられる須恵器片が出土している。出土している土師器は古墳時代中期末から後期初頭の過度期の様相を呈しており，小野川上流のヤツノ上遺跡[6]，中久喜遺跡[7]，東山遺跡[8]，馬場遺跡[9] 出土の土器に類似しているが，当遺跡出土の土師器には，赤彩がほとんど認められない。また，初期竈を有する住居跡は，当町域北東の星合遺跡[10] で12軒が確認されているが，当遺跡の初期竈は壁を全く掘り込まずに構築され，炉を併設しているものが多いことが特徴的である。これらの遺構から出土した土器は坏･高坏･甑・甕などである。坏は，平底と丸底が見られるが，丸底が主体であり，体部外面はヘラ削りされているものが多い。高坏は，後期の特徴的な坏に短脚がついたような形状のものがみられる。以上のことから本期を５世紀末葉から６世紀初頭としたい。

６期

本期の遺構は，第31・50号住居跡の２軒が挙げられる。第31号住居跡は調査区中央部の谷の西側台地，第50号住居跡は調査区東部に位置し，いずれも規模は中形住居である。また，第50号住居跡は竈を付設しているが



第181図　下小池遺跡中央部遺構配置図

第31号住居跡には確認されなかった。出土土器は，丸底の須恵器坏身模倣の坏がみられ，甑は，口縁部と胴部の区別がつかない砲弾型のものとなり，甕は胴部が長くなる。以上のことから本期を６世紀前葉としたい。

以上のように集落は，弥生時代後期後葉の第39号住居跡の後，４世紀初めに出現し，５世紀中から６世紀初頭にかけて盛栄した後，平安時代（８世紀中葉）に第４号住居跡が出現するまで断絶する。なお，当遺跡の南側を流れる乙戸川沿いの北西約２kmには，ほぼ同時期の実穀寺子古墳群，実穀寺子遺跡[11]が位置している。さらに上流の対岸にはヤツノ上遺跡，中久喜遺跡が所在しているが，当遺跡と同様の推移をしており，乙戸川流域及び小野川流域の各集落は相互に関連していたことが予測される。

註

1）古墳時代の年代観については，樫村宣行氏の編年に基づいた。
樫村宣行他「茨城県における５世紀の動向」『東国土器研究』５号　1999年５月
樫村宣行「和泉式土器編年考－茨城県を中心として」『研究ノート』第５号　茨城県教育財団　1996年６月

2）菊地芳朗氏は竪穴住居跡の面積が50㎡以上を「大形住居」20～50㎡を「中形住居」20㎡未満を「小形住居」に分類している。
菊地芳朗「東北地方の古墳時代集落－その構造と特質」『考古学研究』第47巻４号　2001年３月
荒井保雄「ヤツノ上遺跡における単位集団の構造」『領域の研究－阿久津久先生還暦記念論集』 2003年４月

3）阿見町教育委員会『下小池東遺跡第12号第13号住居址発掘調査報告書』 1981年１月

4）篠原祐一「臼玉研究私論」『研究紀要』第３号　栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1995年３月

5）註２）に同じ

6）小高五十二「牛久市北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）　ヤツノ上遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第81集　1993年３月

7）荒井保雄「牛久市北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅱ）　中久喜遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第86集　1993年３月

8）松浦敏「牛久市北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）　東山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第101集　1995年９月

9）白田正子「牛久市北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）　馬場遺跡・行人田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第106集 1996年３月

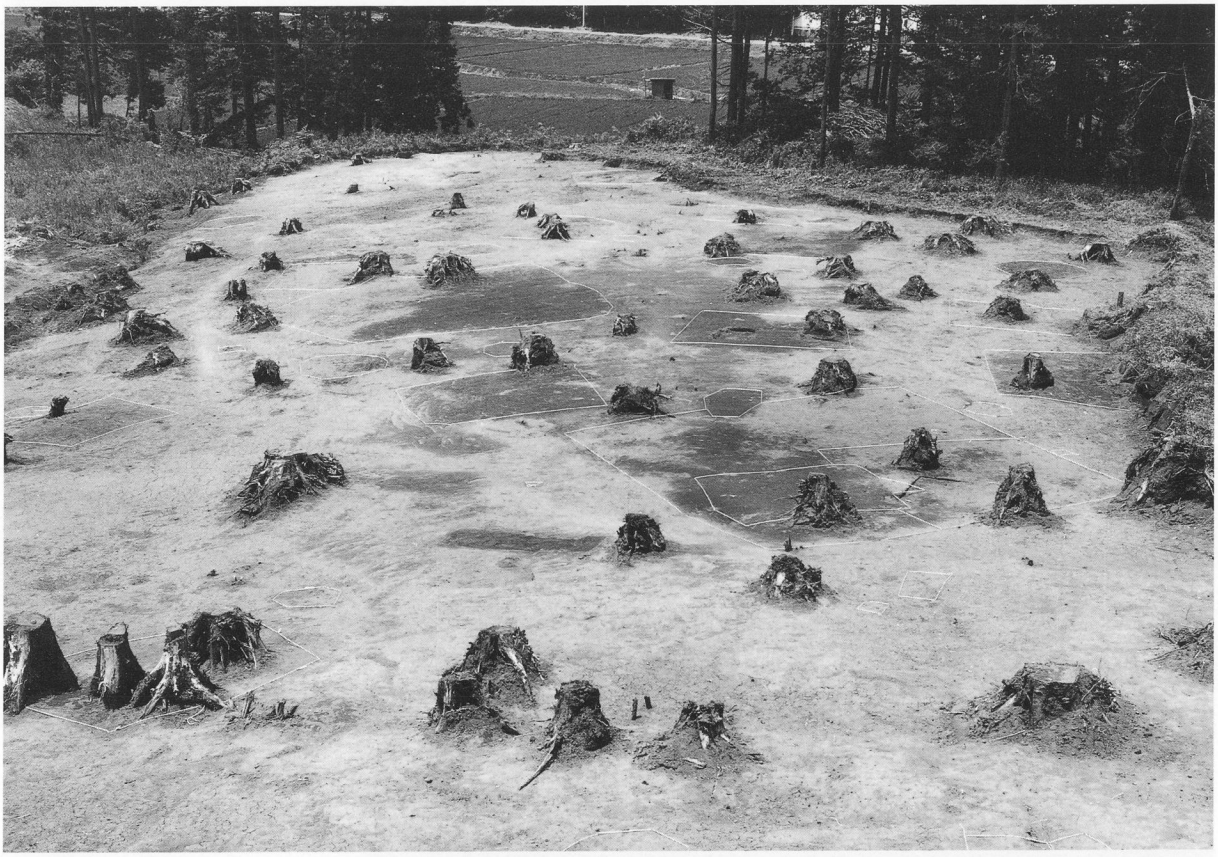
10）矢ノ倉正男　寺門千勝「阿見東部工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書　星合遺跡・中ノ台遺跡」『茨城県教財団文化財調査報告』第137集　1997年９月

11）浅野和久「荒川本郷地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）　実穀古墳群･実穀寺子遺跡１」『茨城県教育財団文化財調査報告』第144集　1999年３月

参考文献

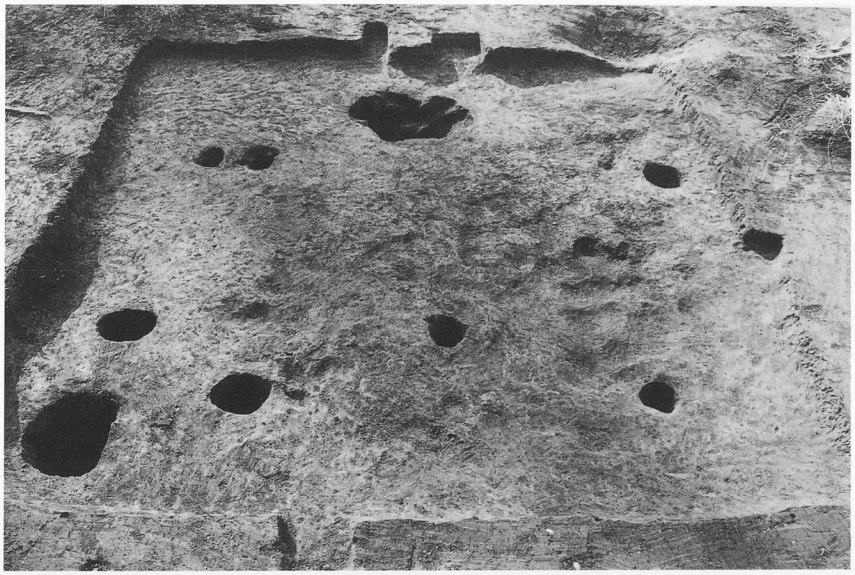
・樫村宣行「茨城県の概要」『古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物－〈第Ⅱ分冊－東関東編－関東地方〉』 東日本埋蔵文化財研究会　1993年３月
・篠原祐一「栃木県古墳時代祭祀総攬」『研究紀要』第５号　栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1997年３月
・篠原祐一「祭祀考古学の基礎的研究再論」『研究紀要』第９号 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001年３月
・浅井哲也「茨城県における古墳時代前期の土器」『領域の研究－阿久津久先生還暦記念論集』　2003年４月
・加藤修司「房総地方における前期古墳の展開－重要遺跡確認調査の成果と課題４－土器編年案」『研究紀要21』　千葉県文化財センター　2000年９月

写　真　図　版



北西部遺構確認状況

北西部完掘状況



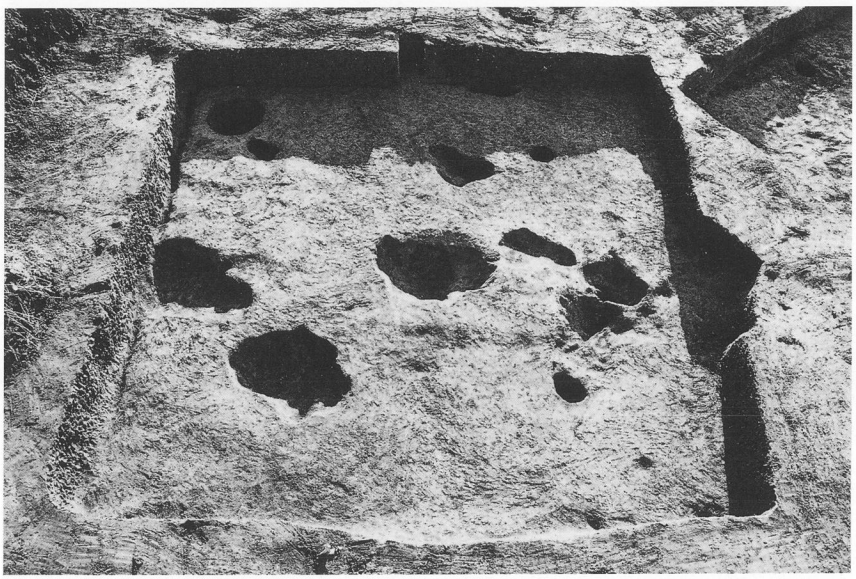
第３９号住居跡
完　掘　状　況

第３９号住居跡
遺物出土状況

第１５号住居跡竈
遺物出土状況

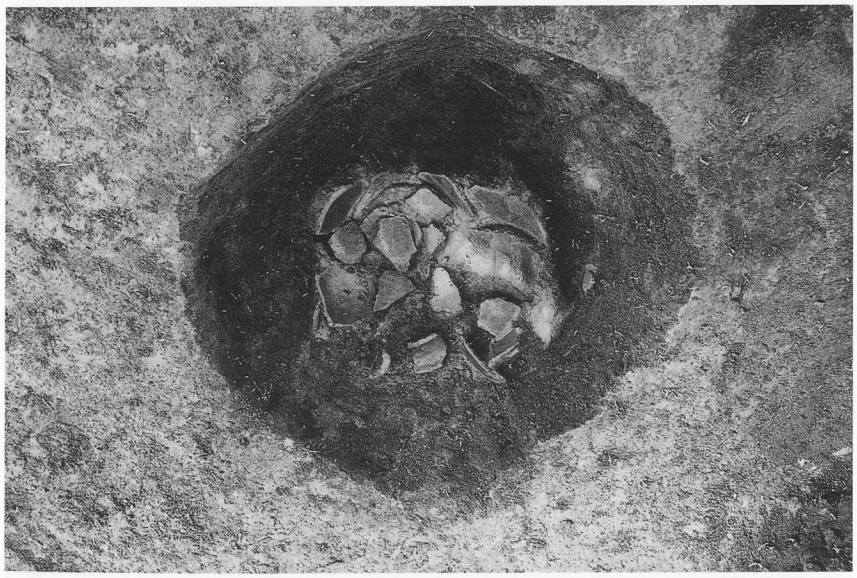
第16・17号住居跡
完　掘　状　況

第21号住居跡竈
遺物出土状況

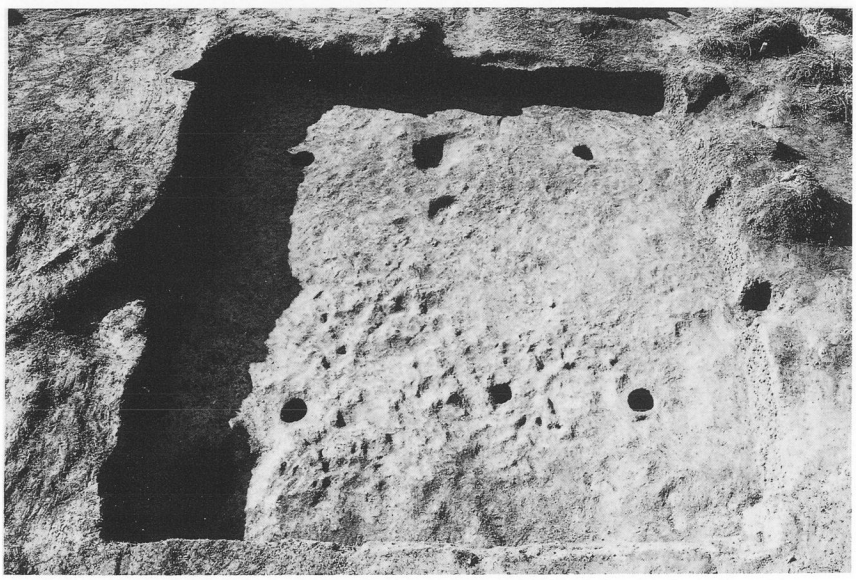


第27号住居跡
完　掘　状　況

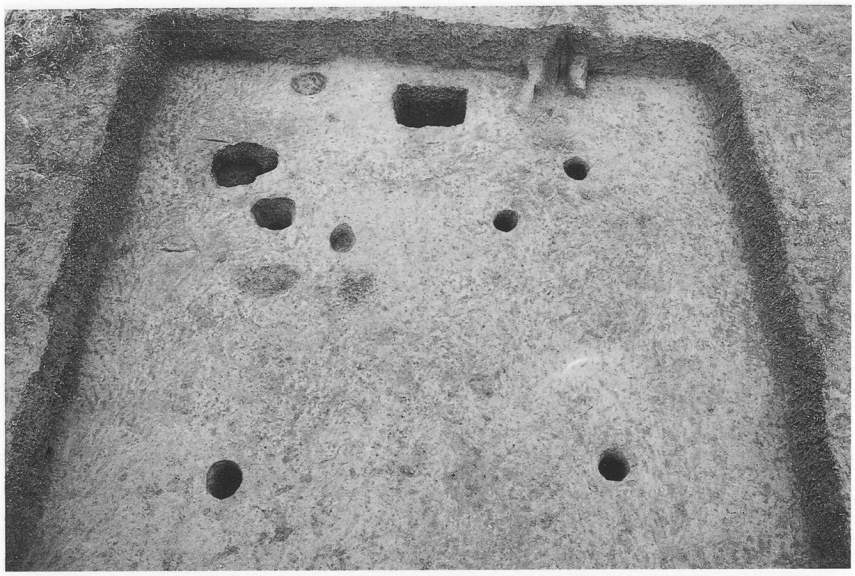
第２９号住居跡
完　掘　状　況



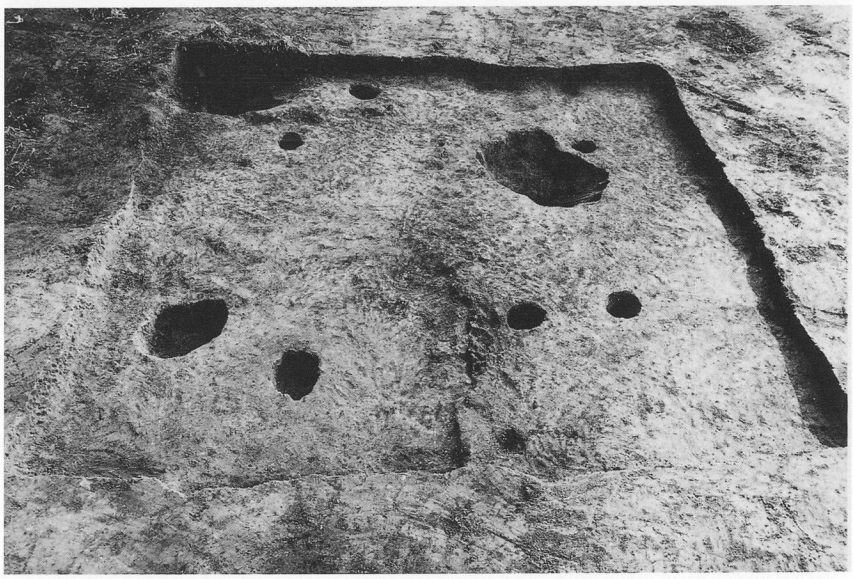
第31号住居跡貯蔵穴
遺物出土状況



第３２号住居跡
完　掘　状　況

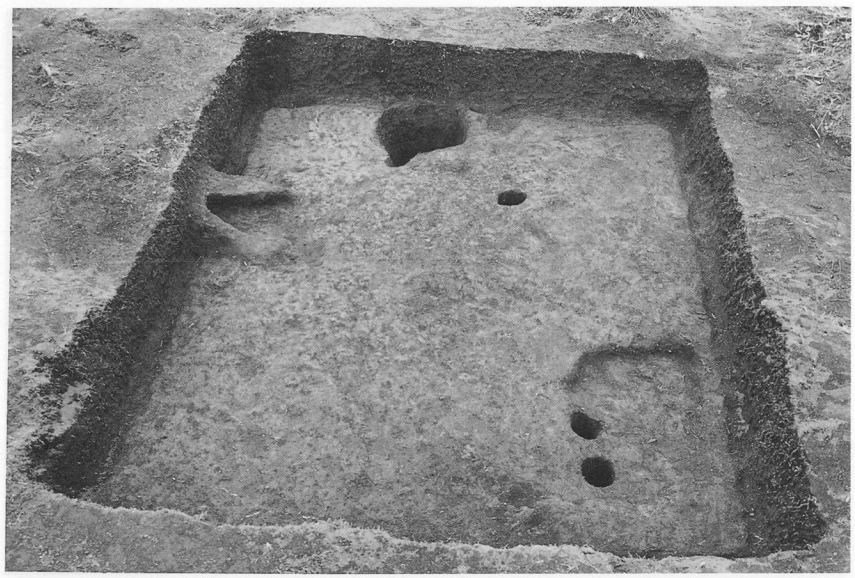


第３３号住居跡
完　掘　状　況



第４２号住居跡
完　掘　状　況

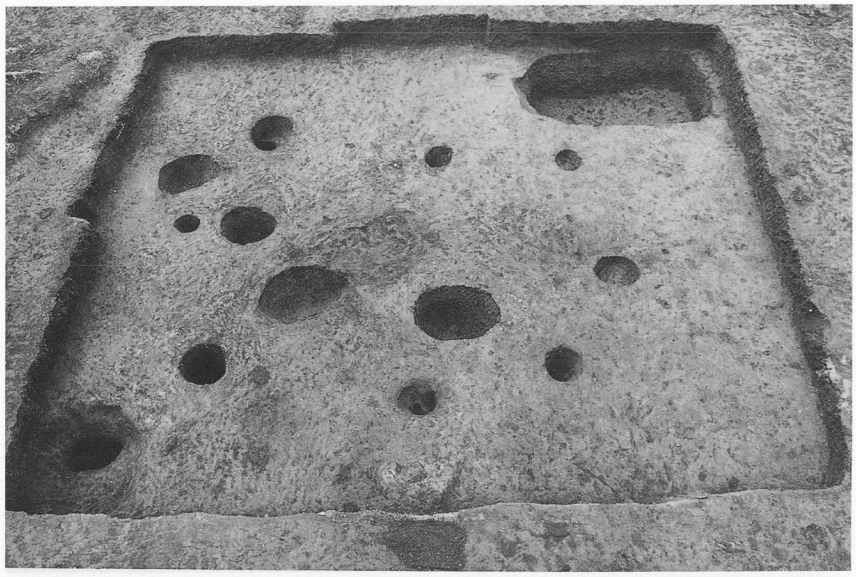
第４３号住居跡
遺物出土状況



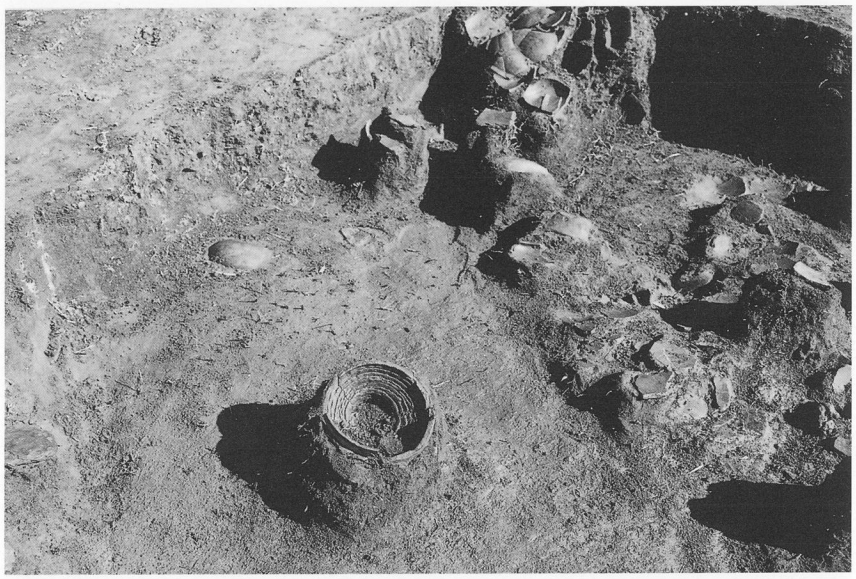
第３６号住居跡
完　掘　状　況

第36号住居跡竈
遺物出土状況

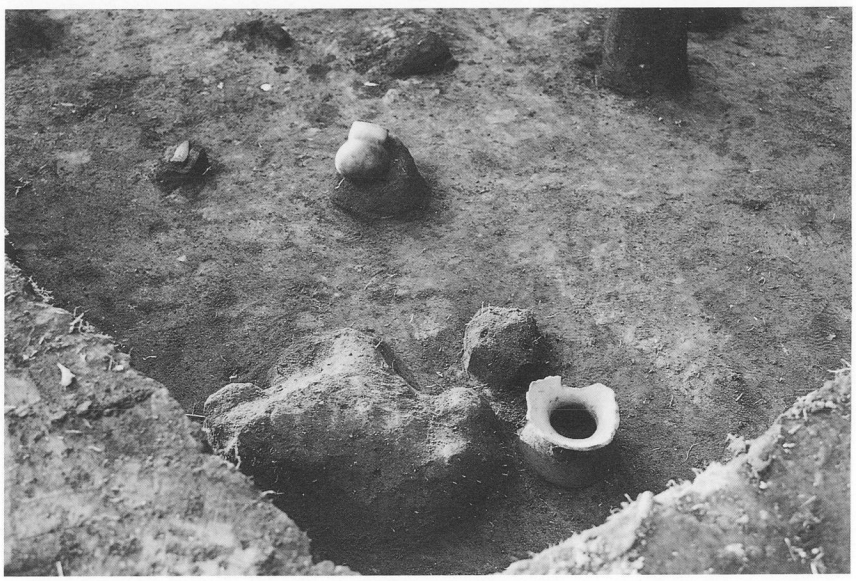
第３６号住居跡
遺物出土状況



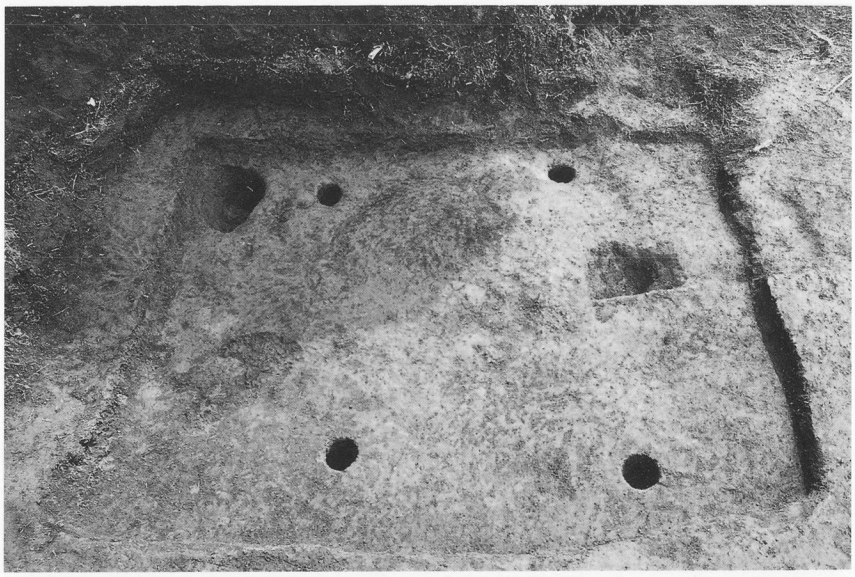
第３７号住居跡
完　掘　状　況



第３７号住居跡
遺物出土状況



第４４号住居跡
遺物出土状況



第４６号住居跡
完　掘　状　況

第46号住居跡貯蔵穴
遺物出土状況

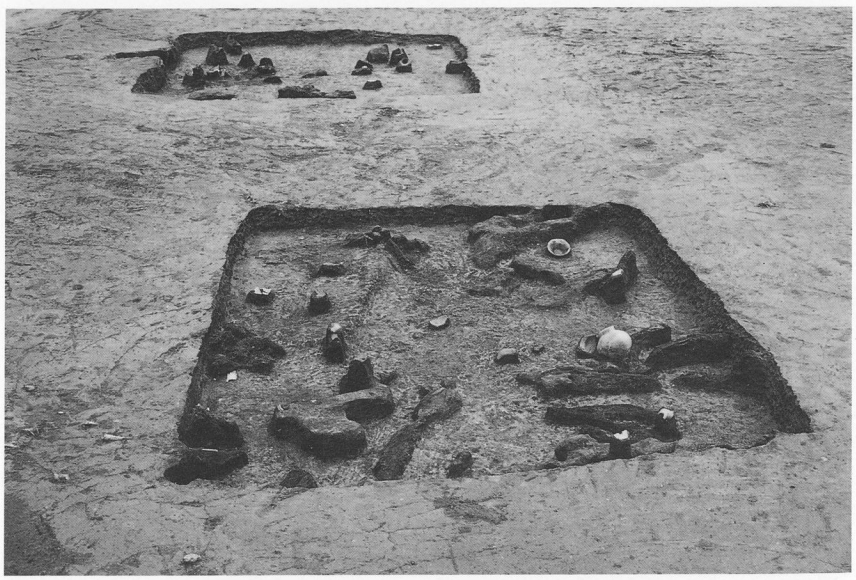
第４９号住居跡
完　掘　状　況

第４７号住居跡
遺物出土状況

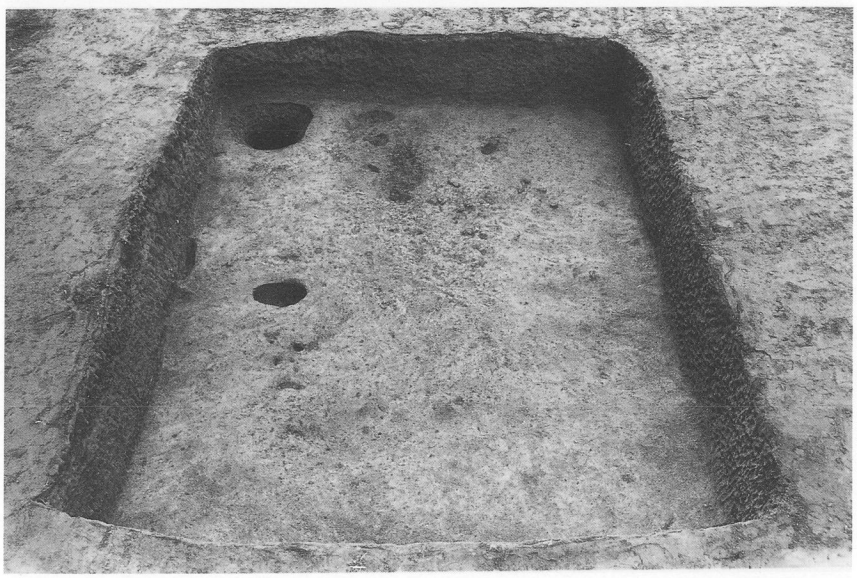
第47号住居跡貯蔵穴
遺物出土状況

第５０号住居跡
完掘状況

第５５号住居跡
完　掘　状　況



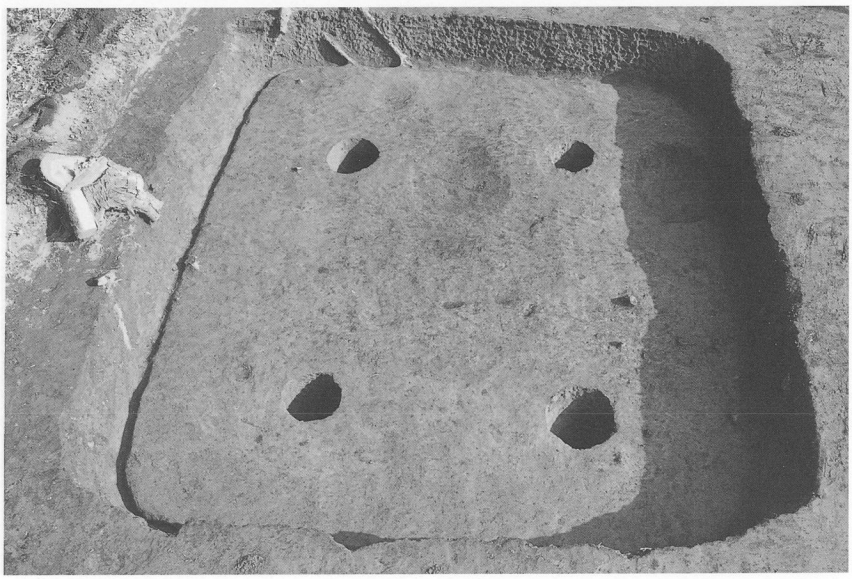
第53・55号住居跡
遺物出土状況



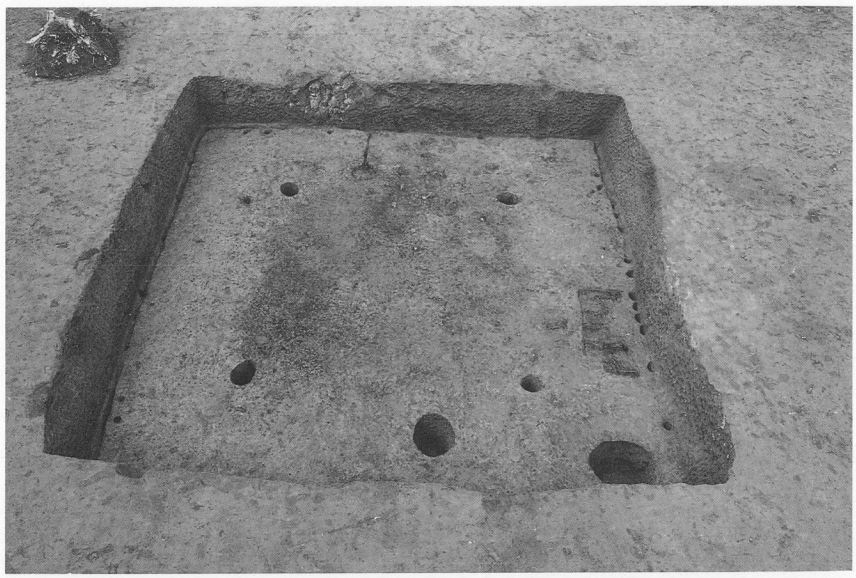
第６９号住居跡
完　掘　状　況

第５７号住居跡
完　掘　状　況

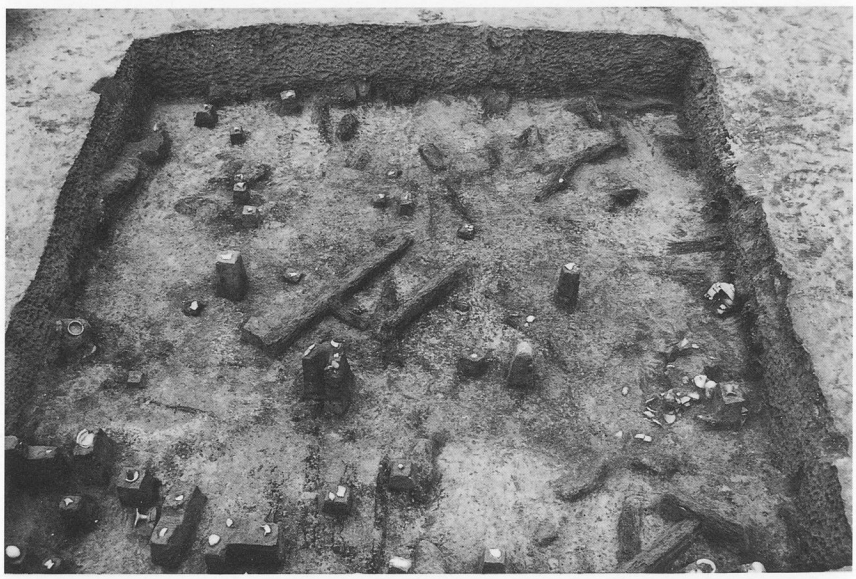
第５７号住居跡
遺物出土状況



第７０号住居跡
完　掘　状　況

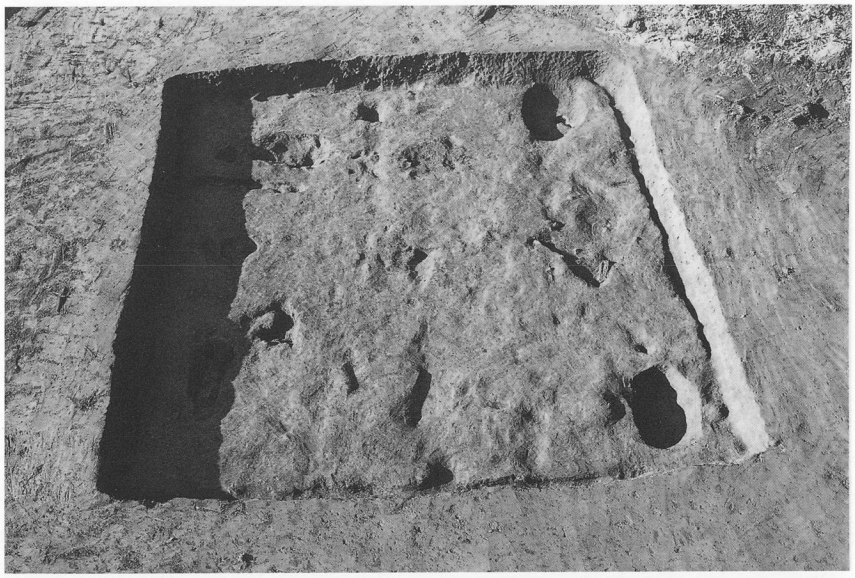


第60号住居跡
完　掘　状　況



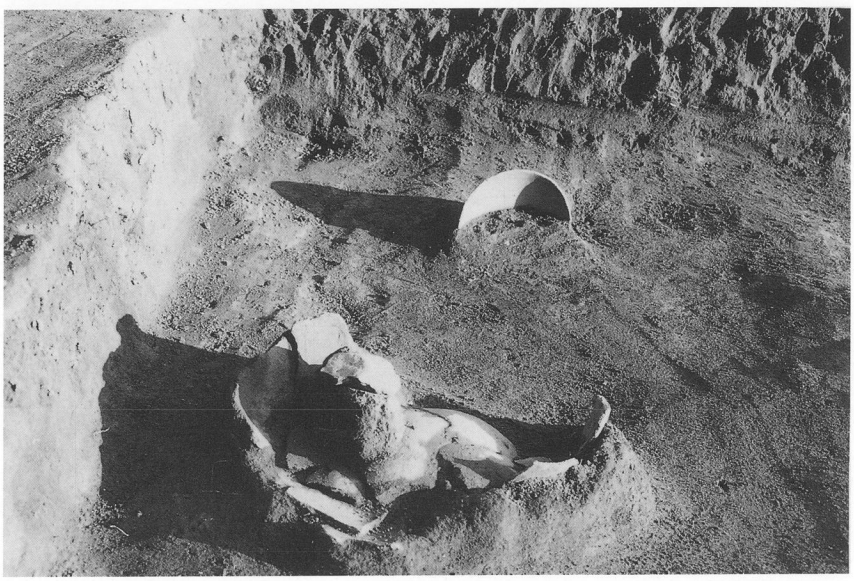
第60号住居跡
遺物出土状況

第60号住居跡
遺物出土状況



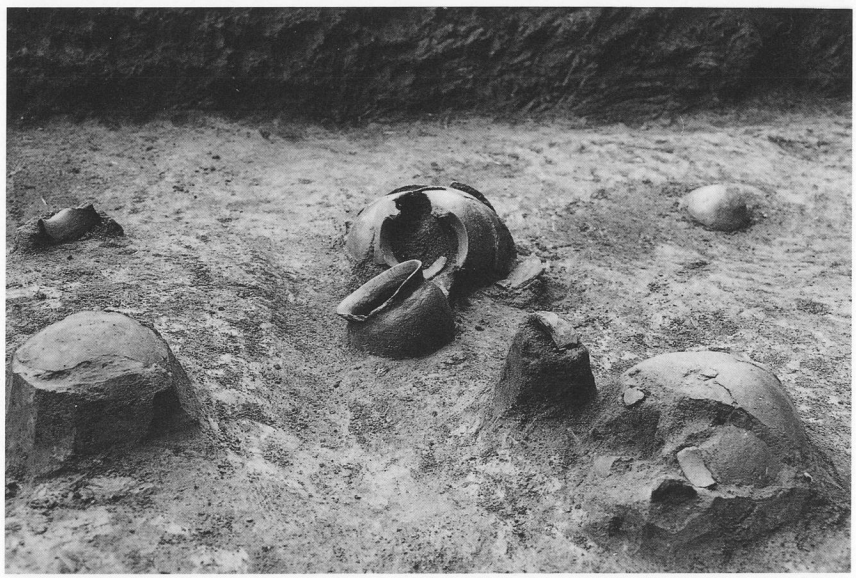
第64号住居跡
完　掘　状　況

第64号住居跡
遺物出土状況

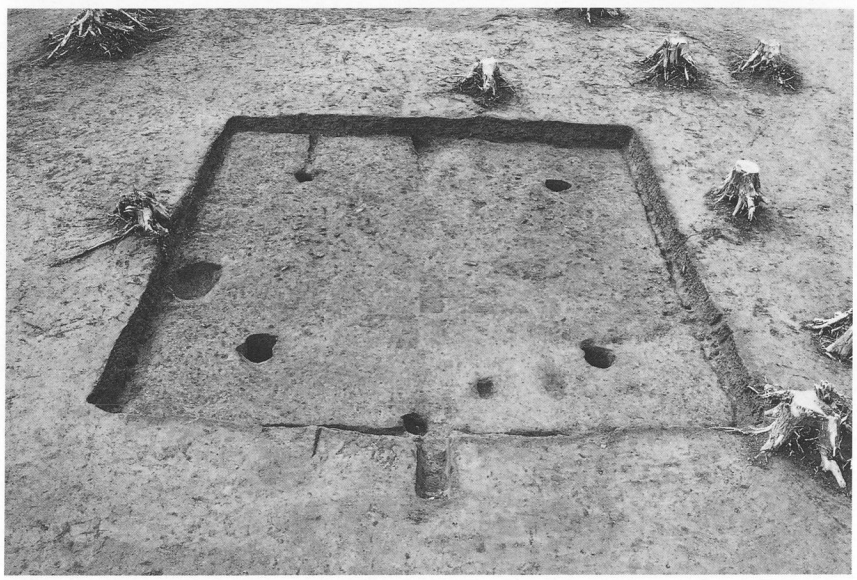


第64号住居跡
遺物出土状況

第６１号住居跡
完　掘　状　況

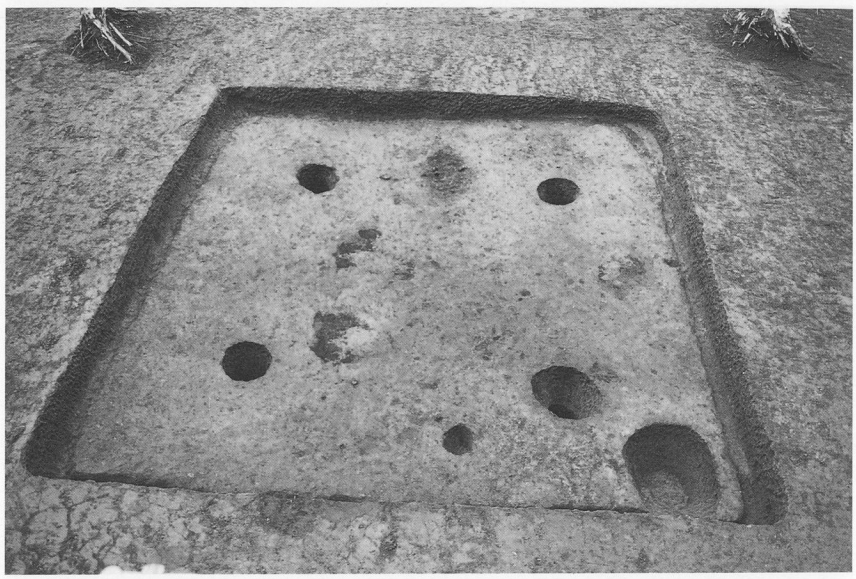


第６１号住居跡
遺物出土状況

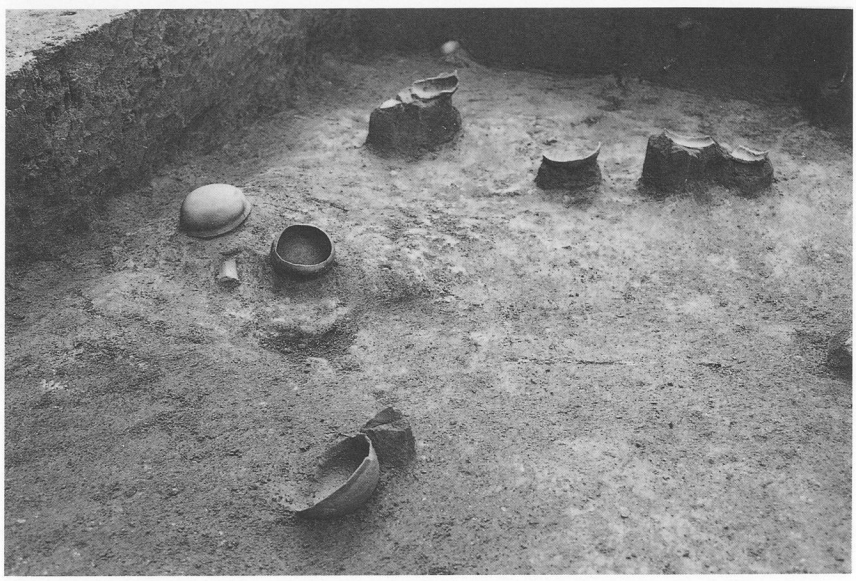


第６５号住居跡
完　掘　状　況

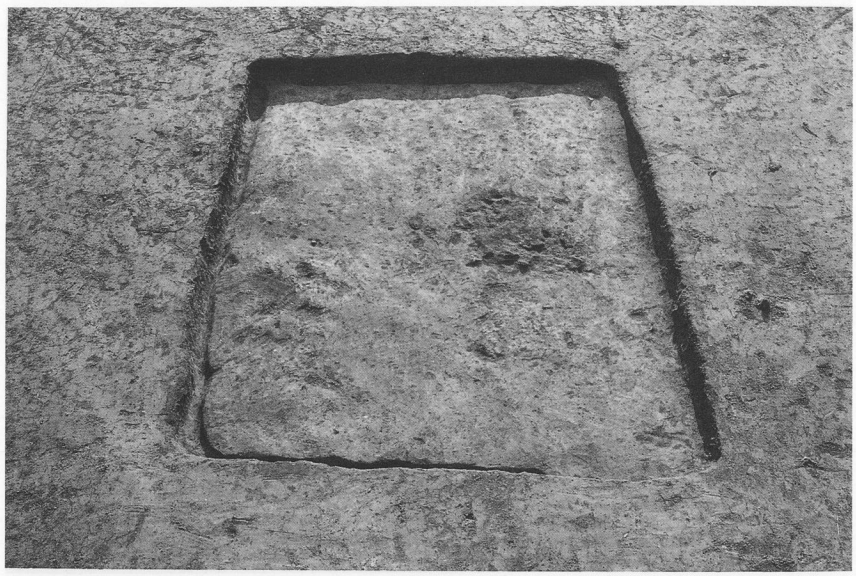
第65号住居跡
遺物出土状況



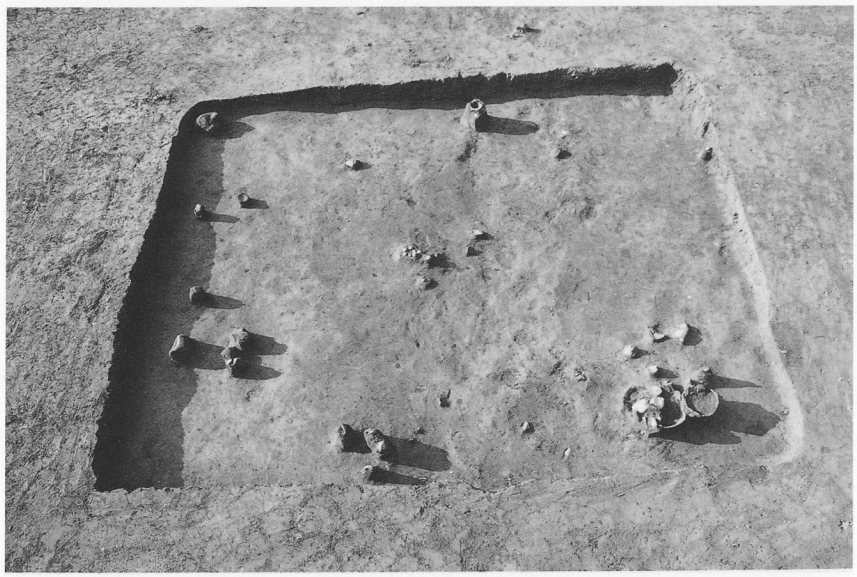
第71号住居跡
完掘状況



第71号住居跡
遺物出土状況



第72号住居跡
完　掘　状　況



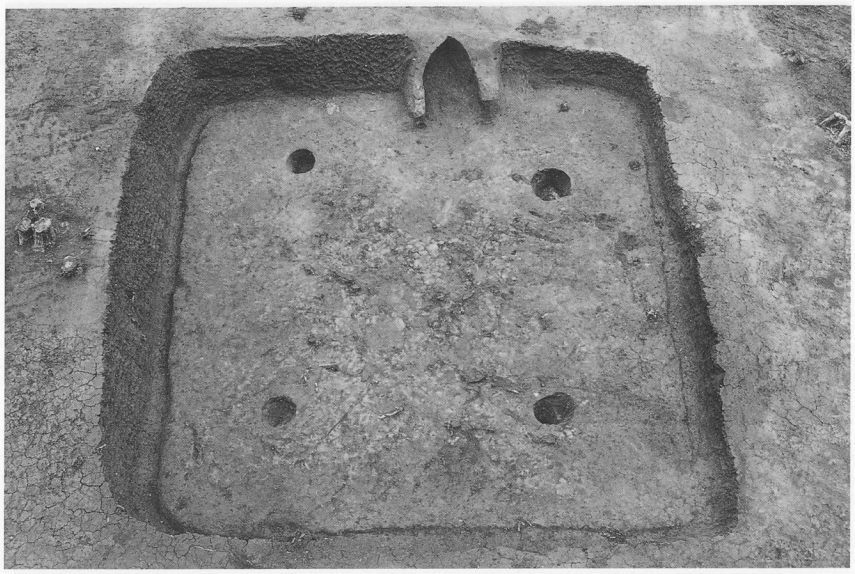
第72号住居跡
遺物出土状況

第72号住居跡
遺物出土状況

第1・3号住居跡
完　掘　状　況

第2号住居跡
完　掘　状　況

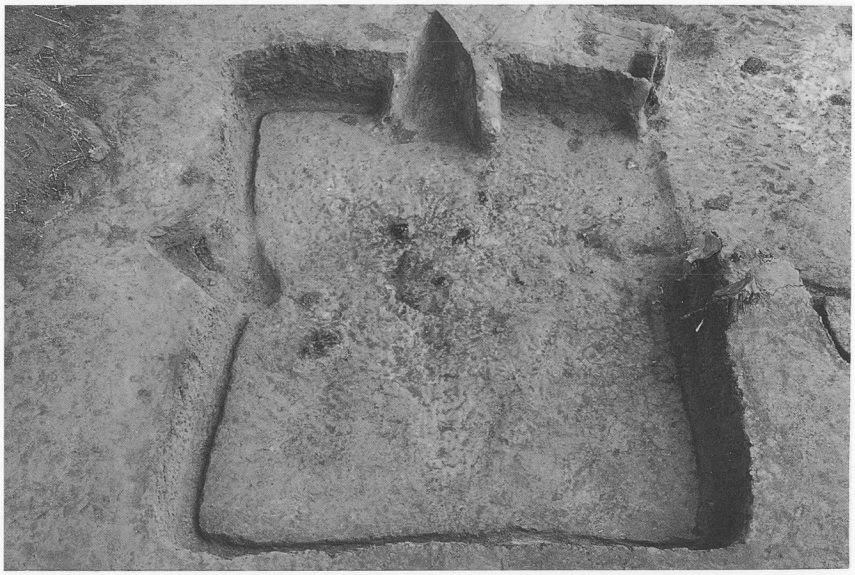
第6号住居跡
完　掘　状　況



第４号住居跡
完　掘　状　況

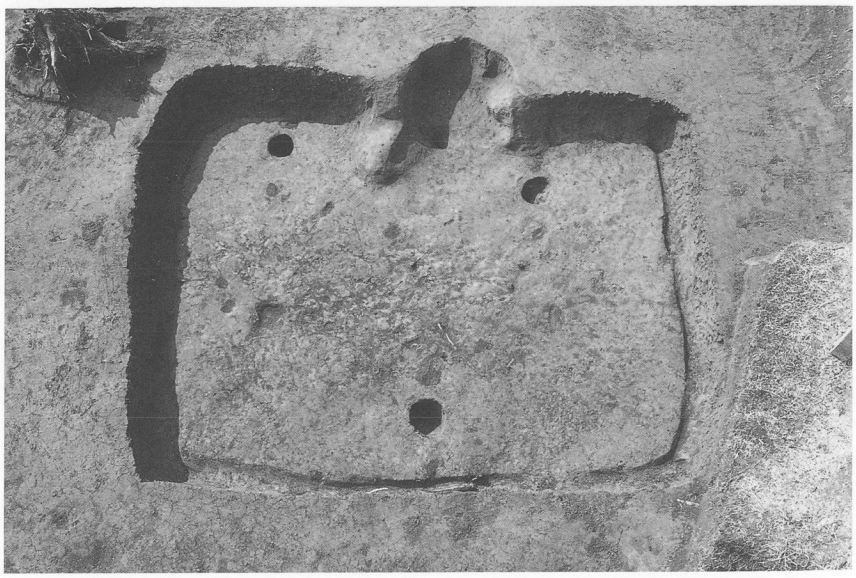
第４号住居跡竈
遺物出土状況

第７号住居跡
完　掘　状　況



第９号住居跡
完　掘　状　況

第12号住居跡竈
遺物出土状況



第１８号住居跡
完　掘　状　況

第19号住居跡竈
完　掘　状　況

第20号住居跡
遺物出土状況

第24号住居跡
完　掘　状　況

第２５号住居跡
完　掘　状　況

第２８号住居跡
完　掘　状　況

第28号住居跡竈
遺物出土状況

第26号住居跡竈
遺物出土状況

第30号住居跡竈
遺物出土状況

第35号住居跡竈
完掘状況

第 6 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

第 1 1 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

第 2 3 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

SI 16-17

SI 36-77

SI 21-20

SI 36-74

SI 36-80

SI 33-62

SI 37-91

SI 65-235

SI 36-81

SI 33-58

SI 36-71

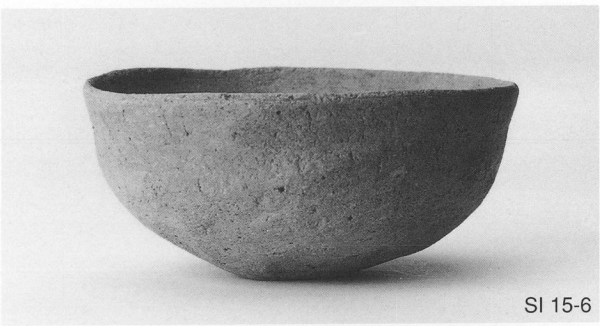
SI 33-59

第16・21・33・36・37・65号住居跡出土土器

SI 16-18

SI 15-11

SI 37-93

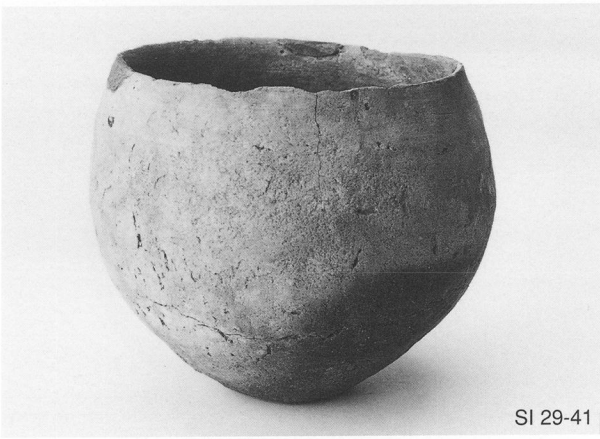

SI 15-6

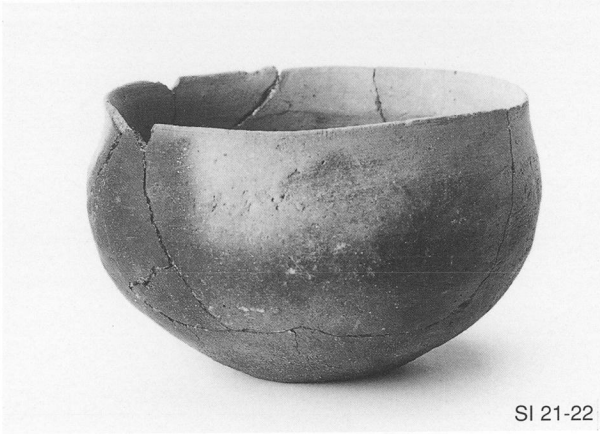
SK 11-412

SK 11-413

SI 36-76

SI 71-255

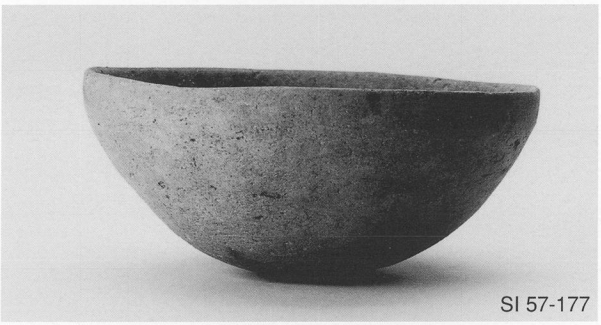

SI 29-41


SI 21-22

第15・16・21・29・36・37・71号住居跡，第11号土坑出土土器

SI 27-29

SI 60-208

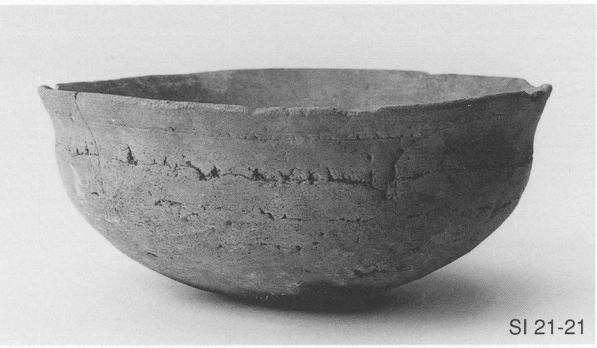

SI 57-177

SI 57-179

SI 50-145

SI 58-191

SI 32-55


SI 21-21

SI 45-124

SI 65-239

第21・27・32・45・50・57・58・60・65号住居跡出土土器

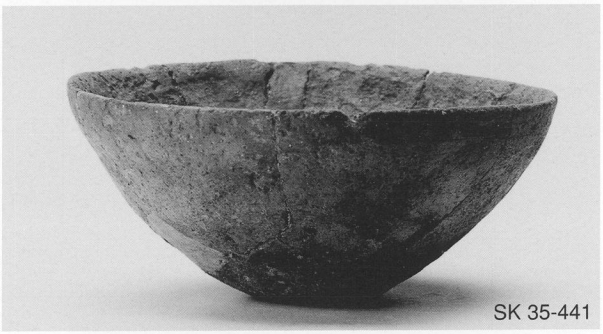
SI 71-259

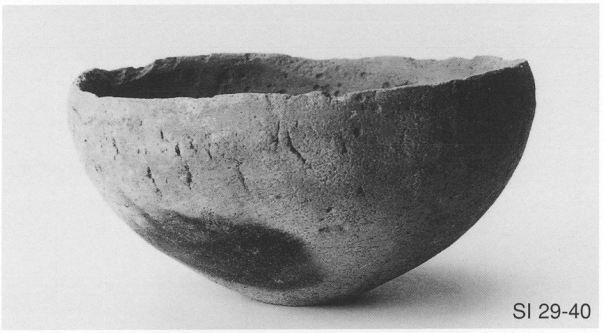
SI 61-218

SI 5-4

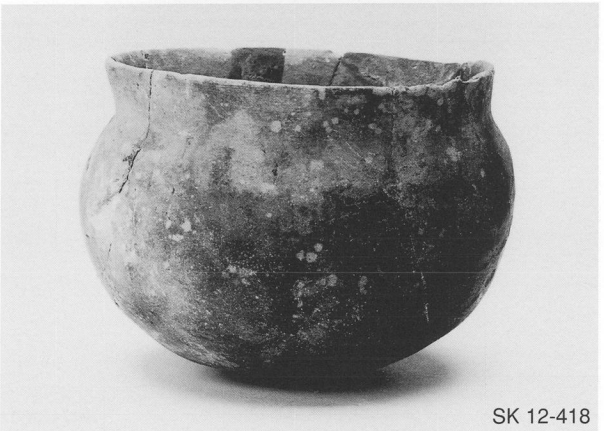
SI 29-39

SI 36-79


SK 35-441


SI 29-40

SI 44-118


SK 12-418

SK 11-415

第5・29・36・44・61・71号住居跡，第11・12・35号土坑出土土器

SI 71-251

SI 43-110

SI 36-78

SI 60-206

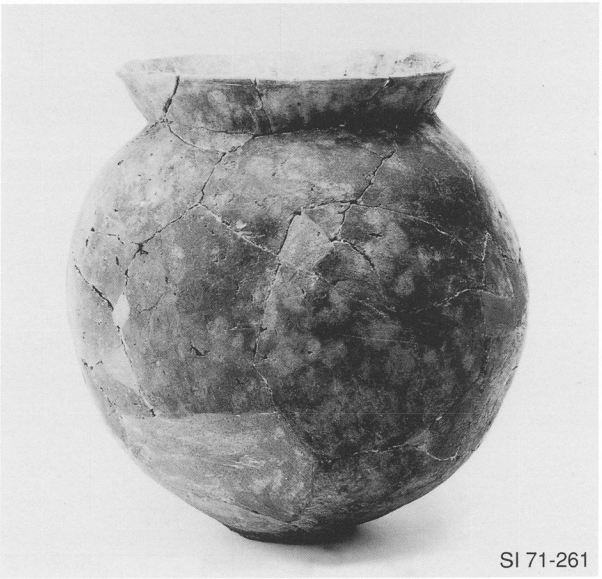
SI 36-83

SI 36-73

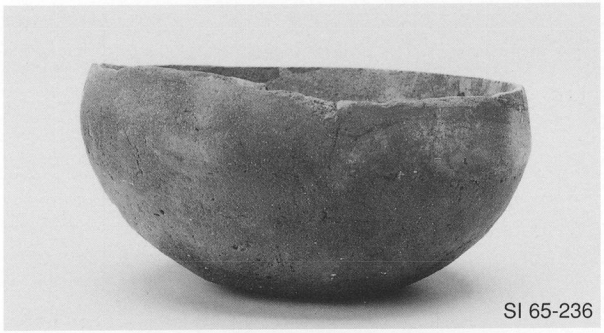
SI 71-252

SI 37-90

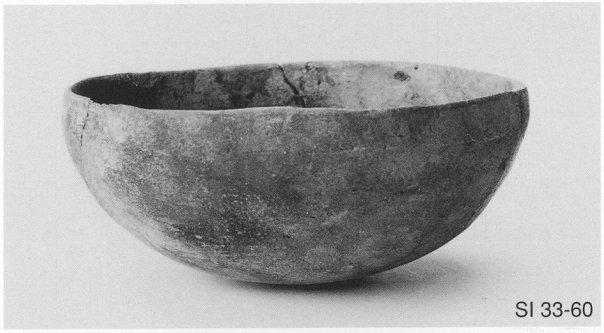
SI 64-233


SI 71-261

第36・37・43・60・64・71号住居跡出土土器


SI 65-236

SI 21-23

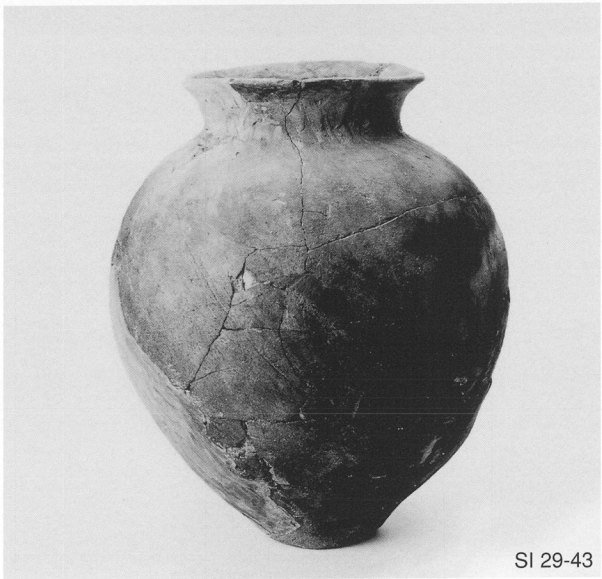

SI 33-60

SI 36-72

SI 47-139

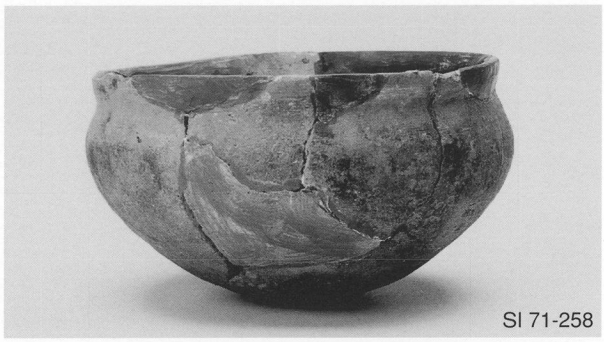
SI 64-234

SI 47-140

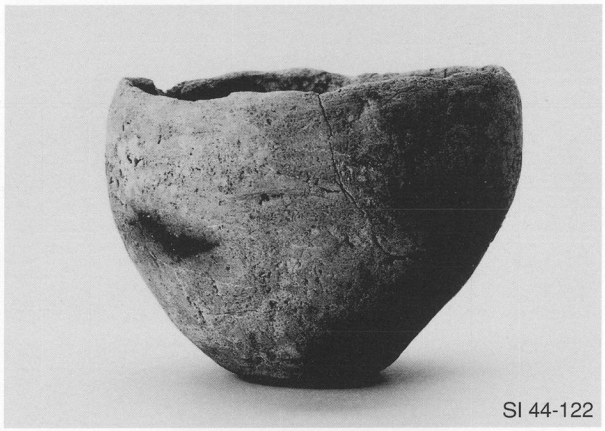

SI 29-43

第21・29・33・36・47・64・65号住居跡出土土器

SI 59-200


SI 71-258

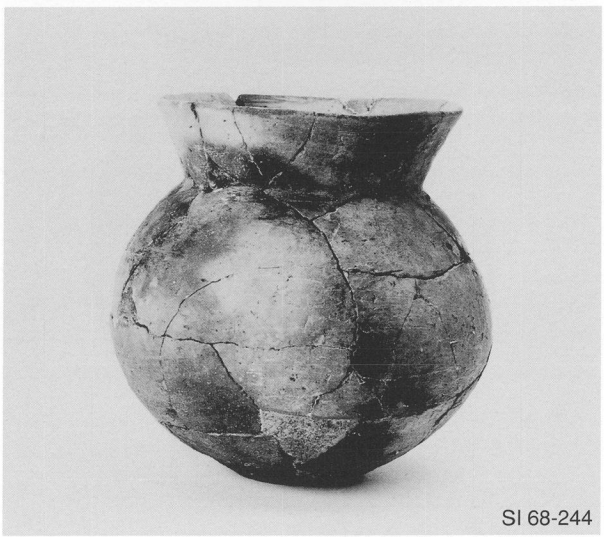
SI 40-106


SI 44-122

SI 36-88

SI 43-117

SI 43-113


SI 68-244

第36・40・43・44・59・68・71号住居跡，第13号出土土器

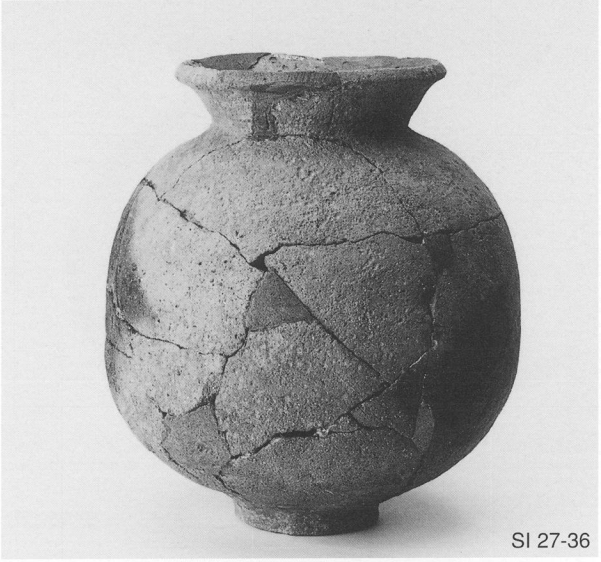
SI 31-44

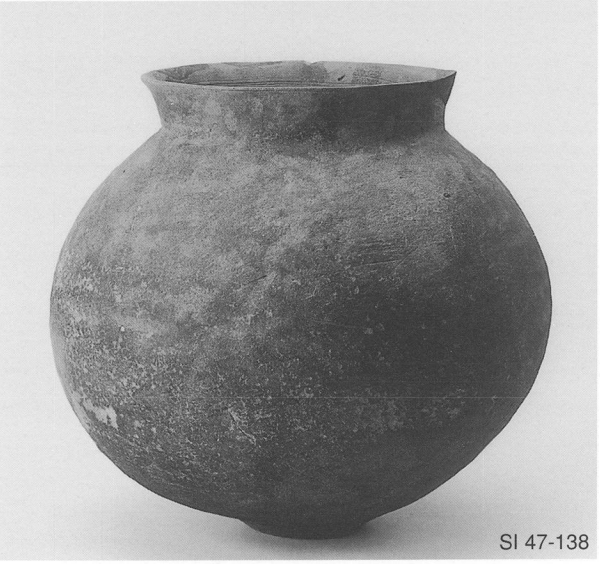
SI 36-82

SI 60-213

SK 13-419

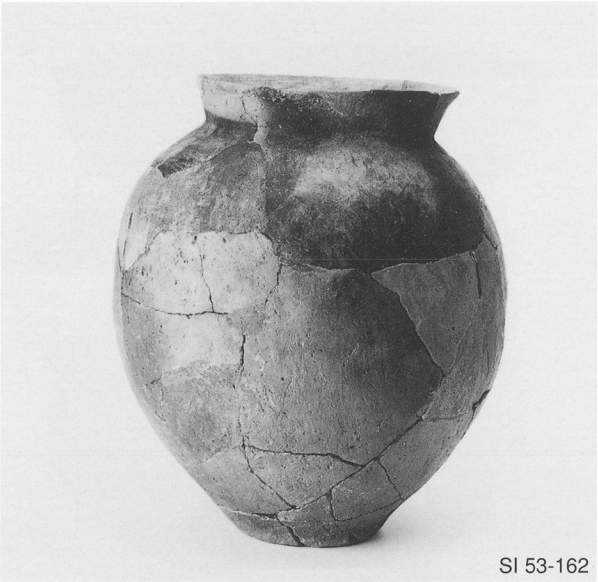
SI 36-87

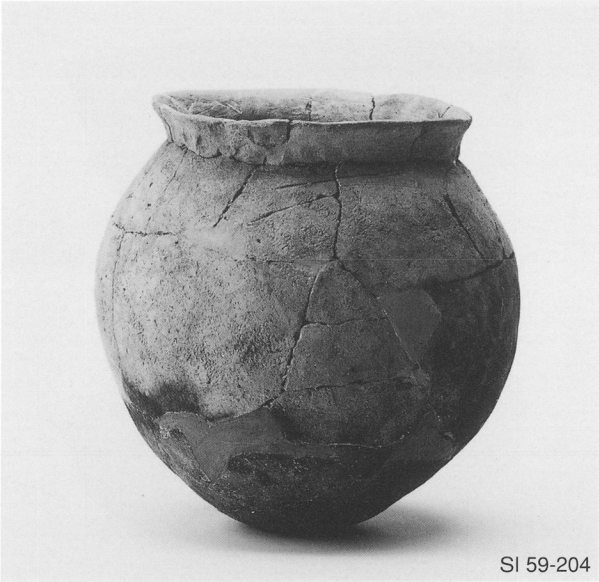

SI 27-36


SI 47-138

SI 64-232

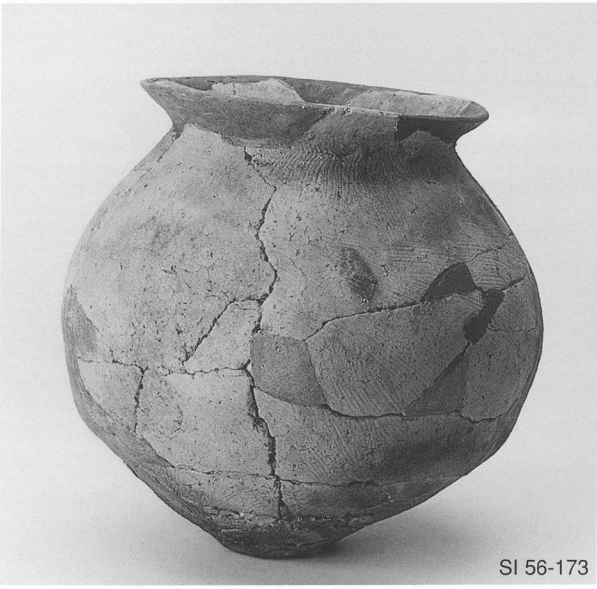
第27・31・36・47・60・64号住居跡，第13号土坑出土土器

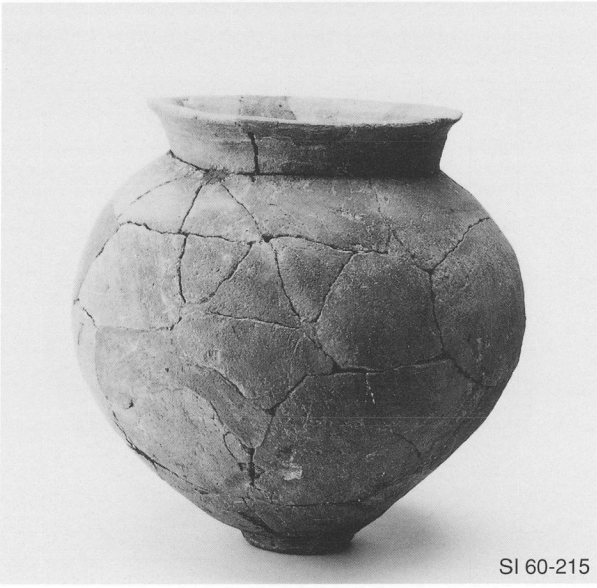

SI 53-162


SI 59-204

SI 55-170

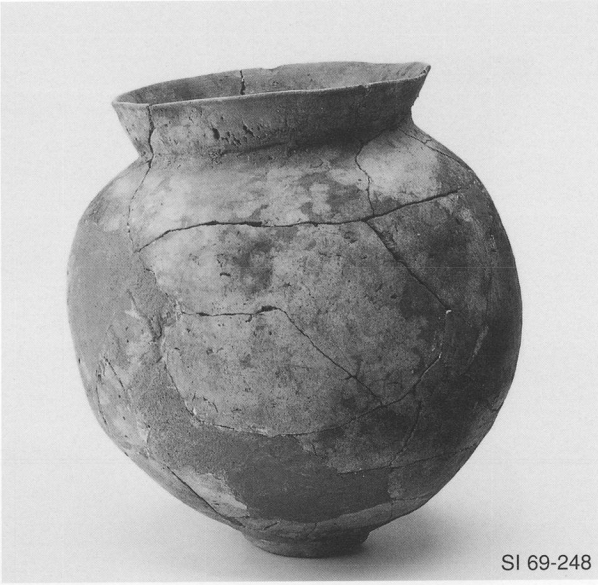
SI 60-214


SI 56-173

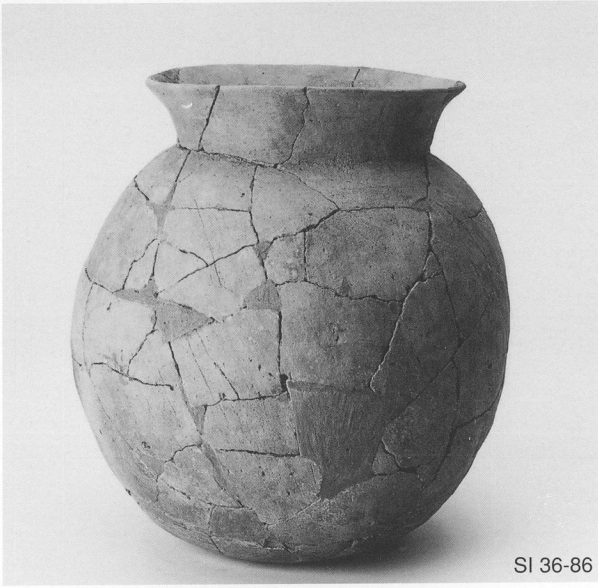

SI 60-215

第53・55・56・59・60号住居跡出土土器

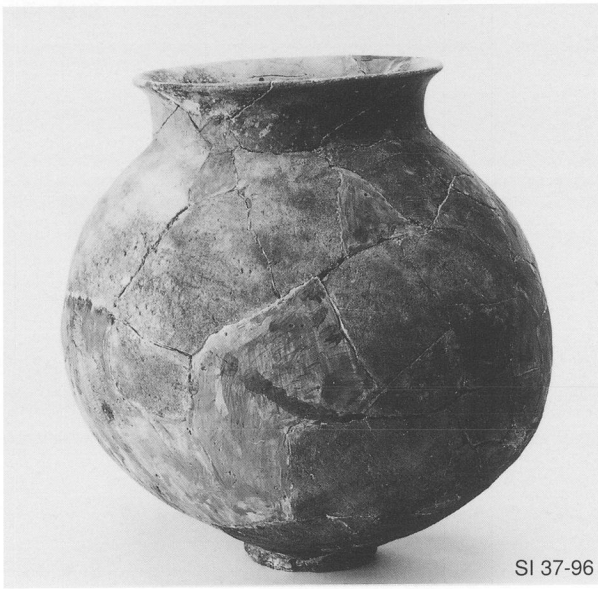
SI 61-219


SI 69-248

SI 36-85


SI 36-86

SI 5-5


SI 37-96

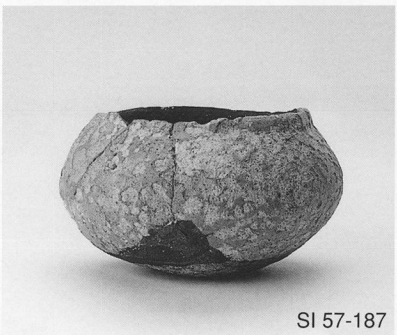
第5・36・37・61・69号住居跡出土土器

SI 54-167

SI 48-143

SK 25-436

SI 72-265


SI 57-187

SI 65-237

SI 58-196

SI 60-211

SI 47-135

SI 43-111

第43・47・48・54・57・58・60・65・72号住居跡，第25号土坑出土土器

SI 38-100

SI 38-98

SI 38-102

SI 56-172

SI 66-241

SI 49-144

SK 11-416

SI 37-94

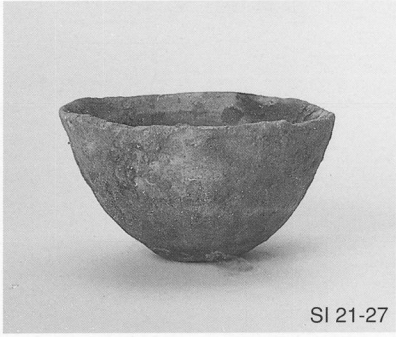
第37・38・49・56・66号住居跡，第11号土坑出土土器

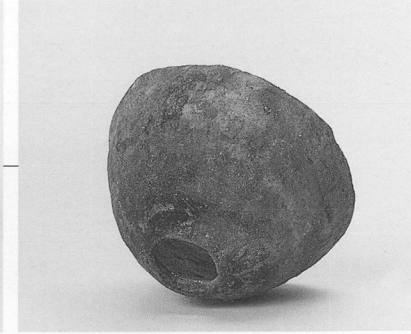
SK 35-442

SI 27-32

SI 16-19

SI 21-26


SI 21-27



SI 21-28

SI 56-176

SI 50-148

第16・21・27・50・56号住居跡，第35号土坑出土土器

SI 1-270

SI 28-396

SI 1-269

SI 7-295

SI 19-360

SI 19-358

SI 22-374

SI 30-400

HG-461

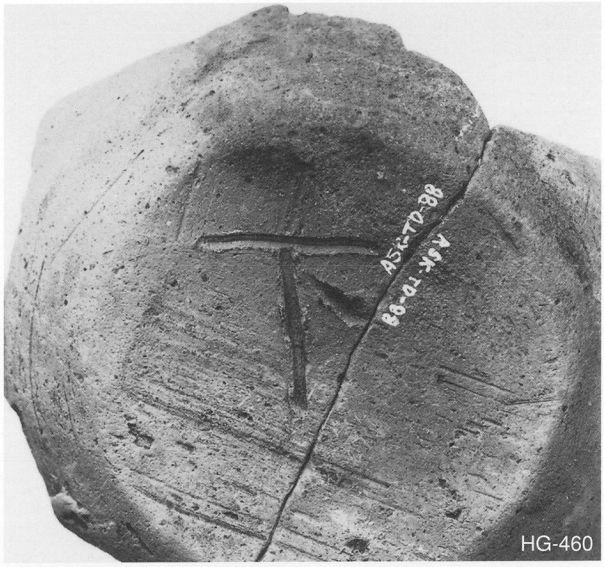
HG-469

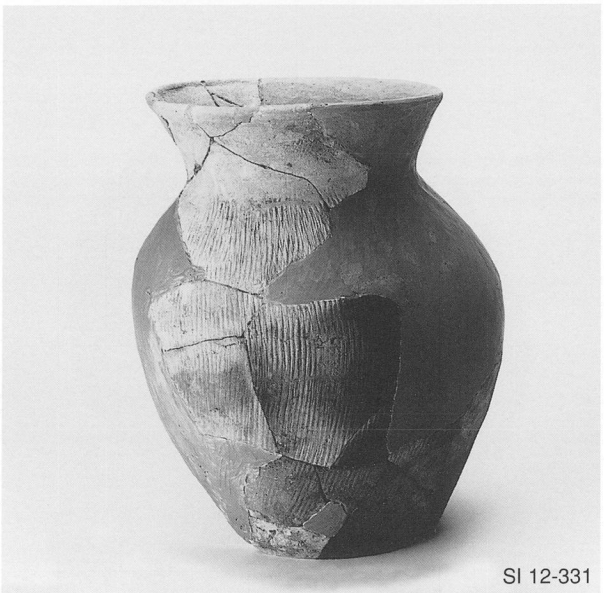
HG-468

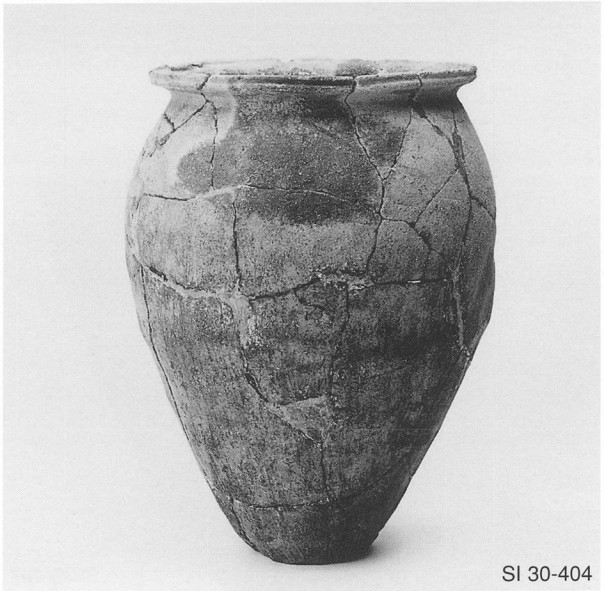
SI 3-283

第１・３・７・19・22・28・30号住居跡，遺物包含層出土土器

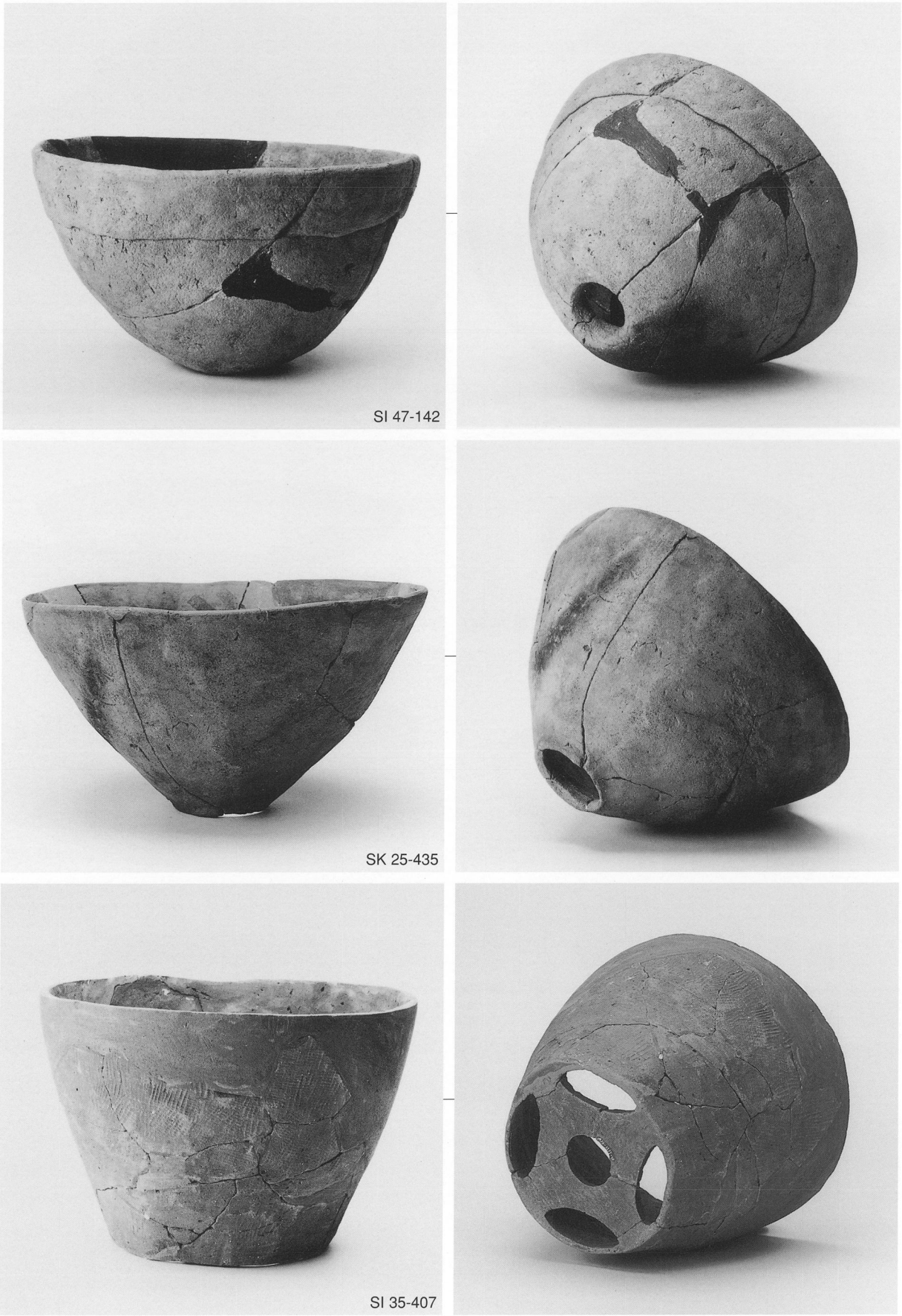
第12・28・30号住居跡，遺物包含層出土土器







第12・14・30号住居跡，遺物包含層出土土器



第35・47号住居跡，第25号土坑出土土器

SI 28-397

SI 26-390

SI 30-402

HG-489

SI 65-238

SI 14-349

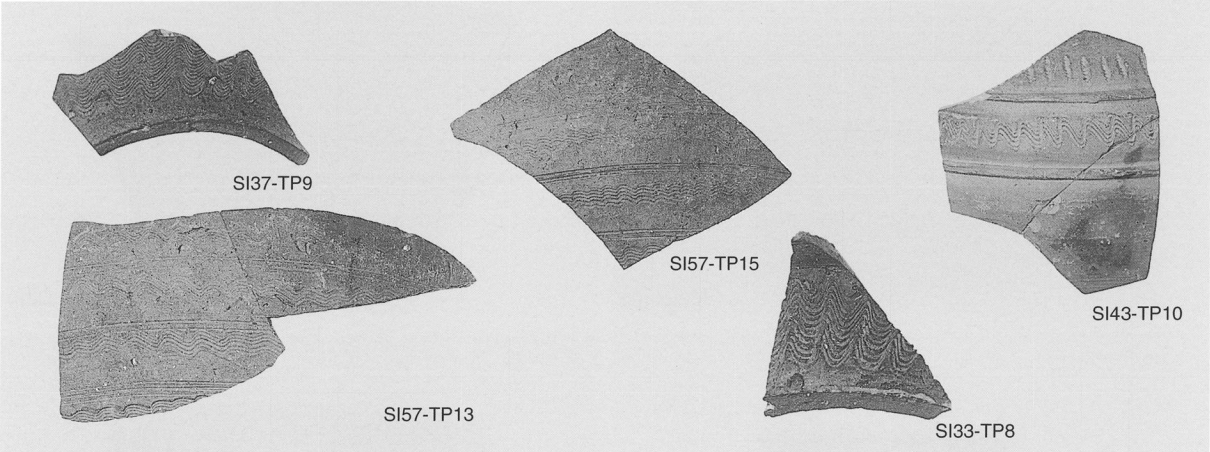
SI 21-25

HG-450

第14・21・26・28・30・65号住居跡，遺物包含層出土土器

SI 57-183

SI 60-209



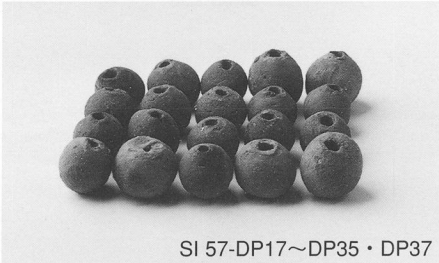
SI 65-DP43

SI 19-DP73

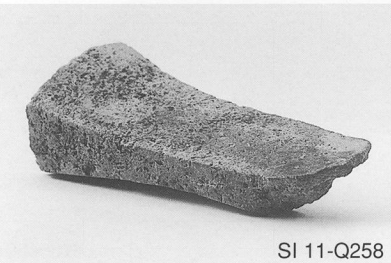
SI 54-DP16

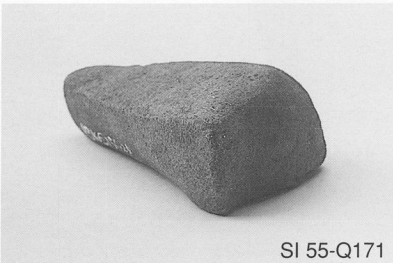
SI 71-DP46

SI 72-DP48～DP67


SI 57-DP17～DP35・DP37

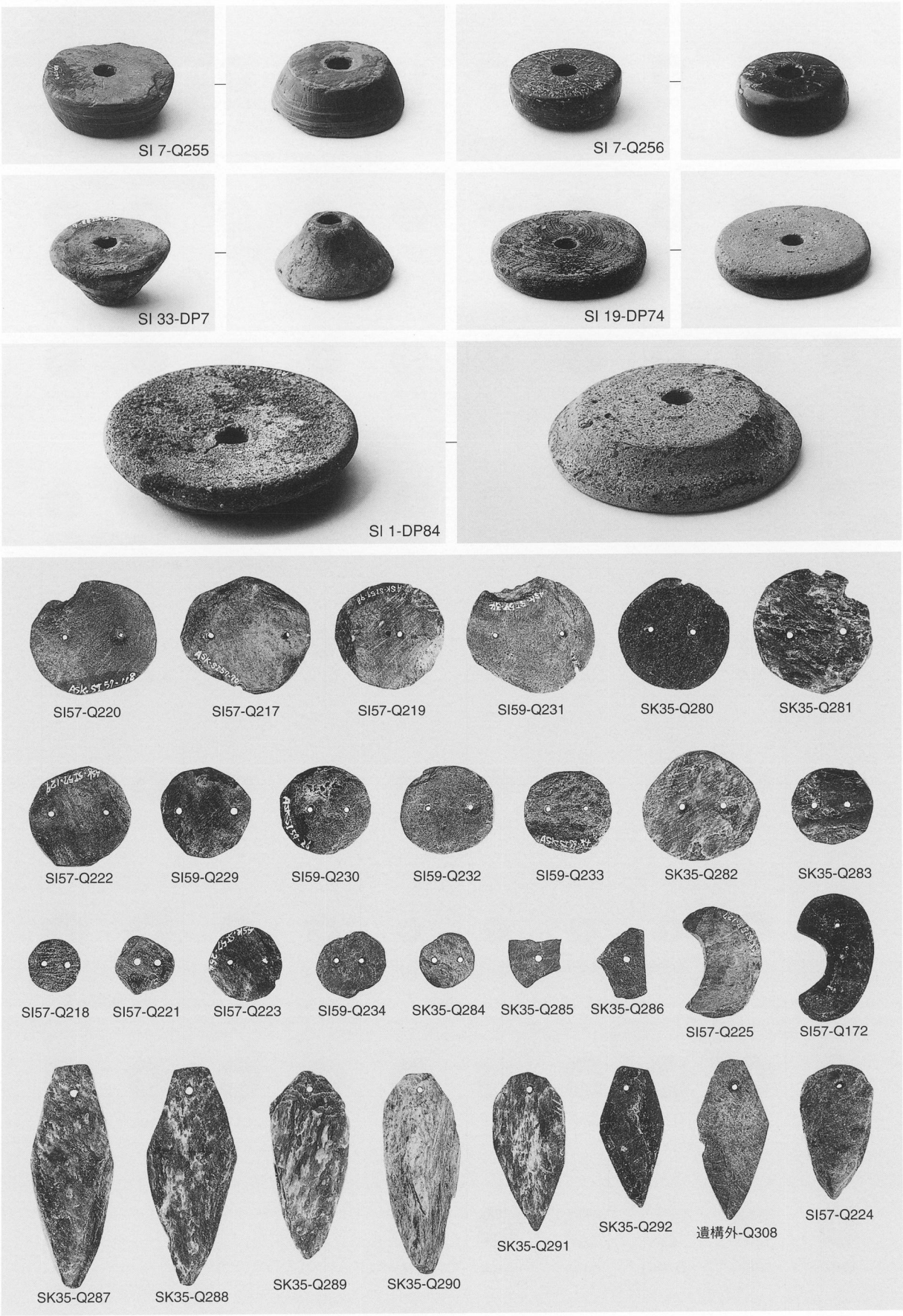
SI 52-Q170


SI 11-Q258


SI 55-Q171

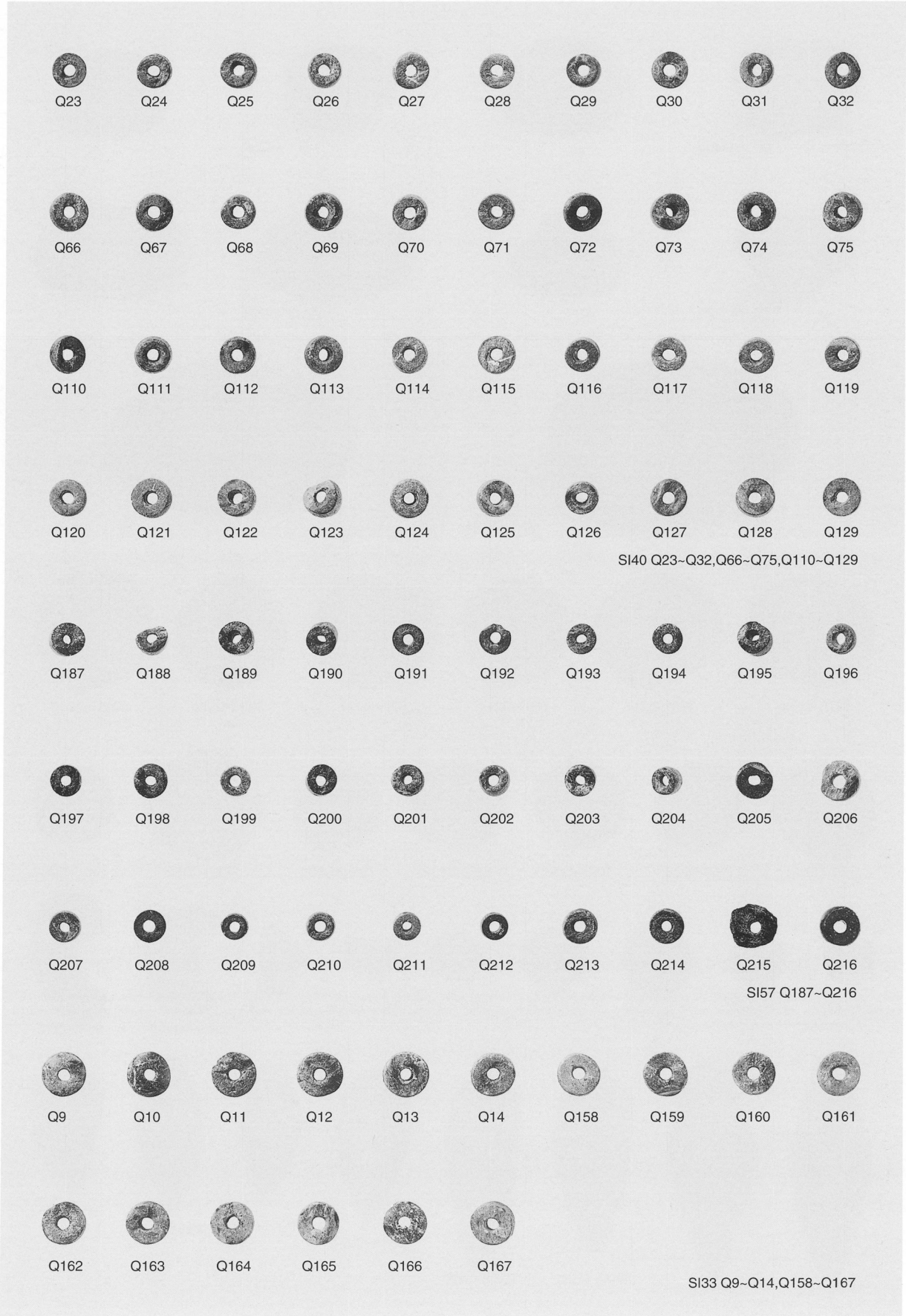
SI 16-Q1

出土土器，土製品（支脚・管状土錘・球状土錘），石製品（浮子・砥石）

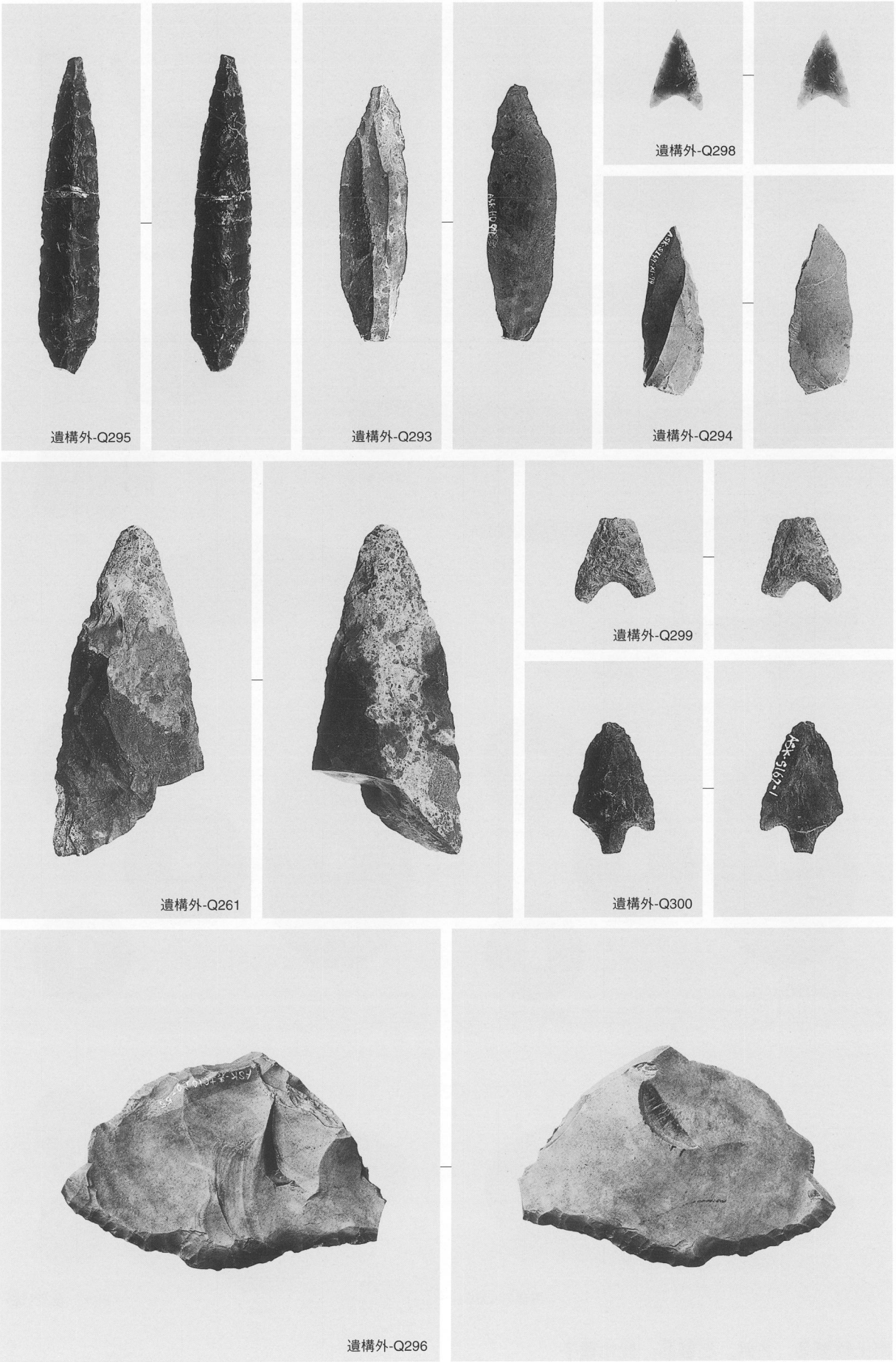


出土土製品（防錘車），石製品（防錘車・双孔円板・勾玉・剣形模造品）

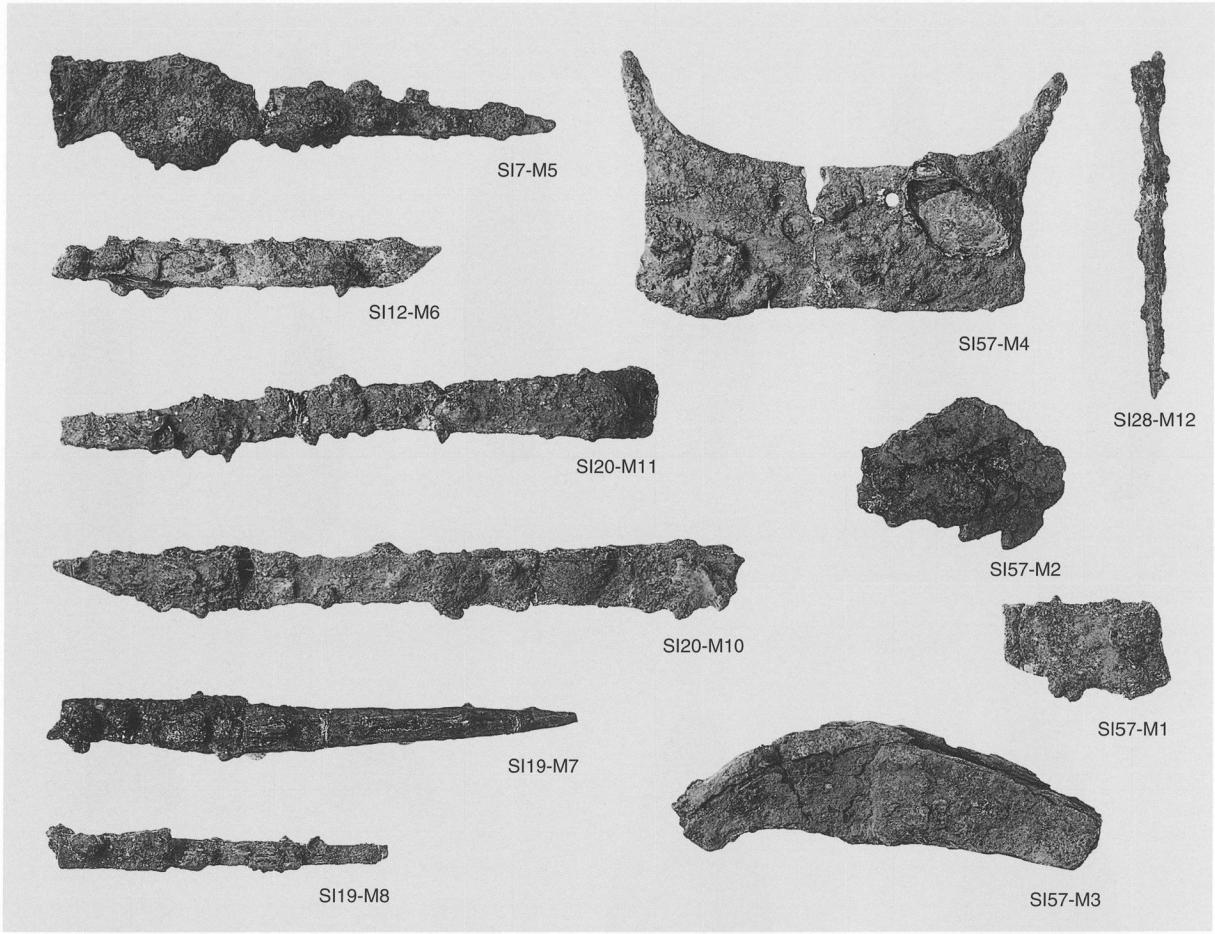
PL44

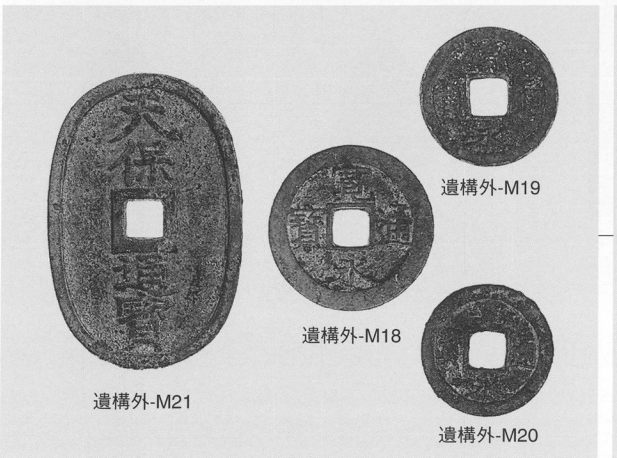


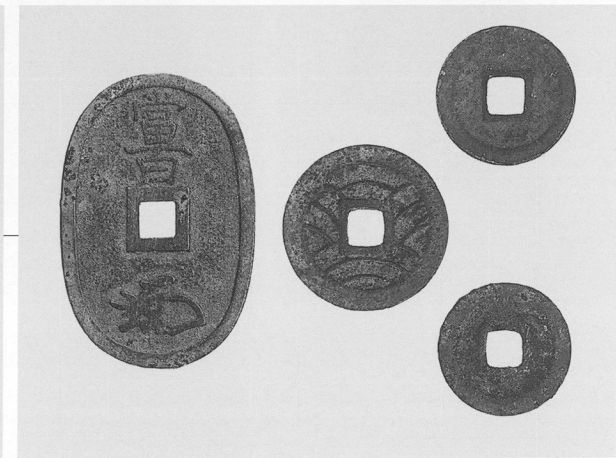
出土石製品（臼玉），ガラス小玉


遺構外-Q295
遺構外-Q293
遺構外-Q298
遺構外-Q294
遺構外-Q261
遺構外-Q299
遺構外-Q300
遺構外-Q296

遺構外出土石製品







出土鉄製品，古銭，石製品，炭化種子

茨城県教育財団文化財調査報告第210集

下　小　池　遺　跡

平成16（2004）年３月24日　印刷
平成16（2004）年３月26日　発行

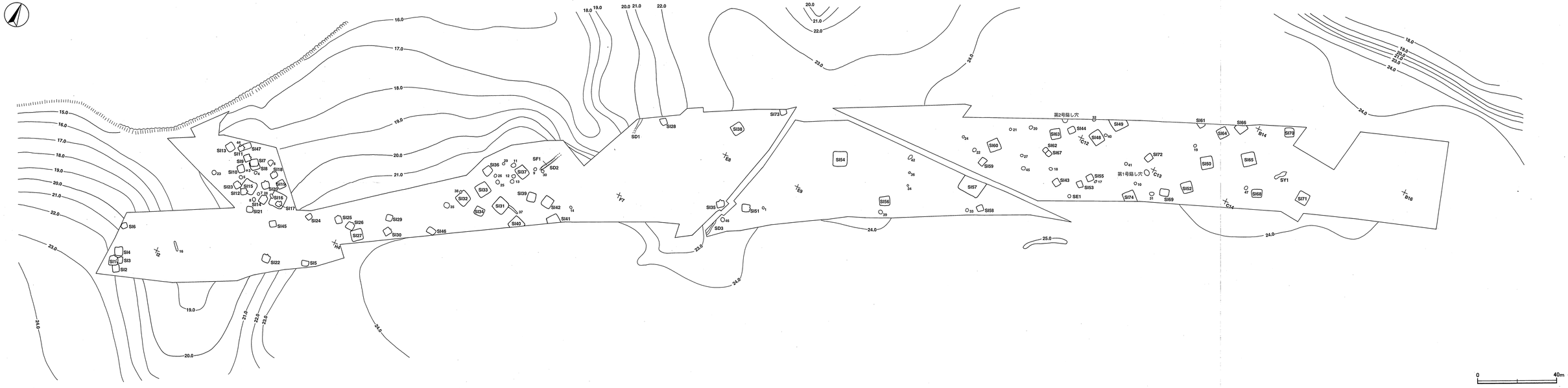
発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310-0911　水戸市見和１丁目356番の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587

印刷　株式会社　エリート印刷
〒300-1211　牛久市柏田町3259
TEL　029－873－2231

付　　図

茨城県教育財団文化財調査報告第210集

下小池遺跡　遺構全体図



付　図　茨城県教育財団文化財調査報告第210集

下小池遺跡遺構全体図